上野原市埋蔵文化財調査報告書第２集

大間々遺跡

上野原市庁舎等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００７

上野原市教育委員会

上野原市埋蔵文化財調査報告書第２集

大間々遺跡

上野原市庁舎等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００７

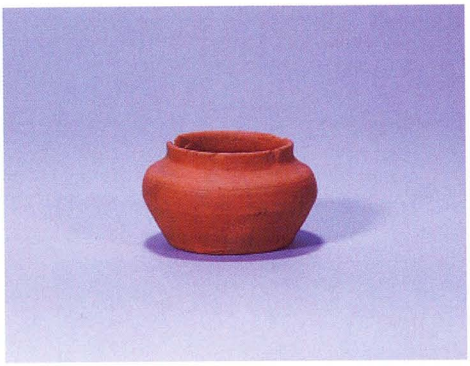
上野原市教育委員会

遺跡航空写真　西から

8号住居址カマドと土器の出土状況

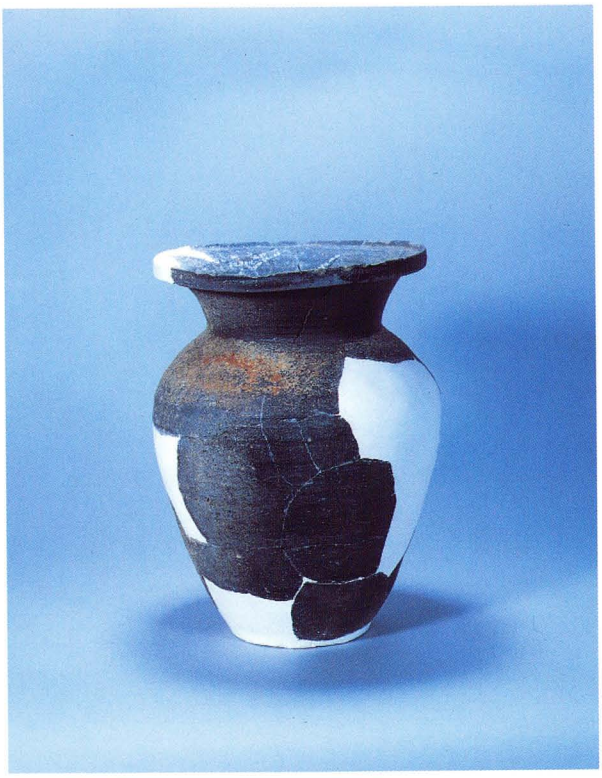
11号住居址カマド

８号住居址床面出土の土器



小型壷（８号住居址覆土上面）

銅製鉸具（１号住居址）



須恵器甕（７号住居址）

序

本書は、平成13年、現在の上野原市庁舎等の建設工事に伴って実施した大間々遺跡の発掘調査報告書です。

大間々遺跡は上野原市街地の一角に位置し、発掘調査によって初めて存在が明らかとなりました。

本書は、この調査結果をまとめた記録報告書であり、おもに奈良・平安時代の人々が残した大小の住居跡や生活用具の数々が収められています。この中には大きな柱の穴がある建物跡や、当時の貴重品である銅製の帯金具、そして墨で達者な文字が書かれた器も含まれています。

これらの調査成果から、多様な階層社会のもとで、多くの古代人が上野原の台地上に集い、暮らしていたことが分かります。これまで不明確であった郷土の古代史に新たな1頁が加えられることでしょう。

最後に、これまでの調査にあたってご協力いただいた関係者、関係機関並びに調査・整理作業に携われた多くの方々に厚くお礼を申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の調査や保護に市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成19年3月

上野原市教育委員会

教育長　網野清治

例　言

1．本書は、山梨県上野原市上野原地内で実施された大間々遺跡の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、新庁舎等建設工事に伴う事前調査として平成 13 年度に実施された。発掘・整理は旧上野原町教育委員会が実施し、報告書作成は上野原市教育委員会が実施した。調査組織は次頁に記した。
3．本書の執筆・編集は小西直樹（社会教育課社会教育担当）、早勢加菜（文化財主事）が行った。執筆分担は、遺物観察表を早勢が担当し、その他を小西が担当した。
4．遺跡出土品の自然科学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果は付篇に示した。
5．調査から本書の作成までを通して、つぎの機関・諸氏のご指導・ご教示をいただいた。記して感謝申し上げます。（敬称略・順不同）
山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、古代甲斐国官衙研究会、坂本美夫・森原明廣（山梨県埋蔵文化財センター）、平野　修（帝京大学山梨文化財研究所）、奈良泰史（都留市役所）、杉本正文・福田正人（大月市教育委員会）、田尾誠敏（大正大学）、河野喜映（かながわ考古学財団）
6．遺跡の調査成果は、これまでに各種の刊行物他で報告されてきたが、本書をもって最終報告とする。
7．本書にかかわる出土品・記録図面等は、一括して上野原市教育委員会が保管している。

凡　例

1．本書に転載した地図はつぎのとおり。
遺跡位置図：昭和 56 年国土地理院の承認を受けて調整した５千分の１地形図
周辺の遺跡分布図：　国土地理院発行の２万５千分の１地形図
2．遺構・遺物図版
（1）遺構の縮尺は１／60、カマド１／30 を基本とし、図版スケールに明記した。
（2）遺構図の「240m」といった数値は標高を示す。
（3）遺物の縮尺は１／３を基本とし、図版スケールに明記した。
（4）スクリーントーンは統一して用いておらず、用例は各図版で示した。
3．表
（1）表中の法量で（　）内の数値は残存値を示す。
（2）色調の判別には「新版標準土色帖」（日本色彩研究所色票監修　1988）を利用した。
4．遺構番号の一部は整理作業の過程で変更している。新旧の対照表を次頁に付した。

遺構番号の対照表

遺構	報告番号	旧番号	遺構	報告番号	旧番号
掘立柱建物址	1	1	ピット	1	
	2	4		2	
1号掘立柱建物址	P 1	A		3	
	P 2	B		4	
	P 3	C		5	
	P 4	D（東側）		6	
	P 5	D（西側）		7	
	P 6	E		8	
	P 7	F		9	
	P 8	G		10	1
	P 9	H		11	
	P10	I		12	2
	P11	J		13	3
2号掘立柱建物址	P 1	B		14	
	P 2	A		15	4
	P 3	C		16	
	P 4	D		17	1号ピット列A
1号柱穴列	P 1	P 1		18	1号ピット列B
	P 2	P 2		19	1号ピット列C
	P 3	8号土坑		20	2号ピット列B
	P 4	10号土坑		21	5
	P 5	10号土坑		22	6
土　坑	1	1		23	2号ピット列A
	2	2		24	2号ピット列C
	3	3		25	2号ピット列D
	4	4		26	2号ピット列E
	5	5		27	
	6	6		28	
	7	7		29	
	8	9		30	
	9	11		31	
	10	12		32	23号土坑
	11	13		33	7
	12	14		34	2号掘立A
	13	15		35	2号掘立C
	14	19		36	
	15	21		37	3号ピット列
	16	22		38	3号ピット列
	17	24		39	4号ピット列
	18	25		40	4号ピット列
	19	26		41	4号ピット列
	20	27			

※空欄は欠番

調査組織

平成 13 年度（発掘）

調査機関　上野原町教育委員会

事 務 局　教育長　水越偉成、社会教育課長　臼井和文、係長　梅原秀雄

担 当 者　小西直樹

参 加 者　加藤文宣、関口和男、長田貞夫、富田　寔、杉本征男、冨岡ます美、安藤寿恵、和智華子、上條文子、古根村典子、和智瑞江（以上一般）、阿部宗一、清水正幸、高橋君子、小俣フジ子、溝呂木昭治、阿部文雄、東山晴男、小俣　章、熊崎君夫、阿部徳子（以上シルバー人材センター）、河野彰夫（国学院大学）、石塚宇紀、折原　覚、高見哲士（駒澤大学考古学研究会）

平成 14 年度（整理）

調査機関　上野原町教育委員会

事 務 局　教育長　水越偉成、社会教育課長　臼井和文、係長　梅原秀雄

担 当 者　小西直樹

参 加 者　古根村典子、上條文子、和智瑞江、冨岡ます美、小俣美鈴、築地文博

平成 16 年度（整理）

調査機関　上野原町教育委員会

事 務 局　教育長　水越偉成、社会教育課長　酒井信俊、係長　織田隆義

担 当 者　小西直樹

参 加 者　古根村典子、冨岡ます美、草間正彦（帝京大学考古学研究会）

平成 18 年度（報告書作成）

調査機関　上野原市教育委員会

事 務 局　教育長　網野清治、社会教育課長　小笠原徳喜、担当リーダー　尾形　篤

担 当 者　小西直樹、早勢加菜

参 加 者　古根村典子

目　次

序　　例言　　凡例

第Ⅰ章　遺跡の位置と周辺の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第Ⅱ章　調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第１節　調査にいたる経緯と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第２節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第３節　遺跡の層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第Ⅲ章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第１節　竪穴住居址・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第２節　掘立柱建物址・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第３節　柱穴列・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第４節　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第５節　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第６節　溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

第Ⅳ章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第１節　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第２節　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第３節　炭化種子について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第４節　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

付篇　大間々遺跡における自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103

挿図目次

第１図　遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・１
第２図　周辺の遺跡分布図・・・・・・・・・・・・２
第３図　調査区配置図・・・・・・・・・・・・・・４
第４図　調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・５
第５図　１号住居址、カマド・・・・・・・・・・27
第６図　１号住居址遺物分布図、接合図－１－　28
第７図　１号住居址遺物接合図－２－・・・・・・29
第８図　１号住居址出土遺物・・・・・・・・・・30
第９図　２号住居址（新）・・・・・・・・・・・・31
第10図　２号住居址（新）出土遺物・・・・・・・32
第11図　２号住居址（旧）・・・・・・・・・・・33
第12図　２号住居址（旧）カマド、炉・土坑・・34
第13図　２号住居址（旧）掘り方・・・・・・・・35
第14図　２号住居址（旧）遺物分布図・・・・・・36
第15図　２号住居址（旧）遺物接合図－坏類－　37
第16図　２号住居址（旧）遺物接合図－甕類－　38
第17図　２号住居址（旧）出土遺物－１－・・・・39
第18図　２号住居址（旧）出土遺物－２－・・・・40
第19図　２号住居址（旧）出土遺物－３－・・・・41
第20図　２号住居址（旧）出土遺物－４－・・・・42
第21図　２号住居址（旧）出土遺物－５－・・・・43
第22図　３号住居址、遺物分布図・・・・・・・・44
第23図　３号住居址出土遺物・・・・・・・・・・45
第24図　４号住居址、遺物分布・接合図・・・・46
第25図　４号住居址出土遺物・・・・・・・・・・47
第26図　５号住居址、カマド、出土遺物・・・・48
第27図　６号住居址、カマド・・・・・・・・・・49
第28図　６号住居址出土遺物－１－・・・・・・・50
第29図　６号住居址出土遺物－２－・・・・・・・51
第30図　７号住居址・・・・・・・・・・・・・・52
第31図　７号住居址カマド・・・・・・・・・・・53
第32図　７号住居址遺物分布図、接合図・・・・54
第33図　７号住居址出土遺物－１－・・・・・・・55
第34図　７号住居址出土遺物－２－・・・・・・・56
第35図　７号住居址出土遺物－３－・・・・・・・57
第36図　８号住居址・・・・・・・・・・・・・・58
第37図　８号住居址カマド・・・・・・・・・・・59
第38図　８号住居址遺物分布図・・・・・・・・・60
第39図　８号住居址炭化材、焼土分布図・・・・61
第40図　８号住居址出土遺物－１－・・・・・・・62
第41図　８号住居址出土遺物－２－・・・・・・・63
第42図　９号住居址、東カマド・・・・・・・・・64
第43図　９号住居址北カマド・・・・・・・・・・65
第44図　９号住居址遺物接合図、出土遺物・・・66
第45図　10号住居址、遺物分布図・・・・・・・・67
第46図　10号住居址出土遺物・・・・・・・・・・68
第47図　11号住居址・・・・・・・・・・・・・・69
第48図　11号住居址カマド・・・・・・・・・・・70
第49図　11号住居址遺物分布図、出土遺物・・・71
第50図　12号住居址、カマド、炉・・・・・・・・72
第51図　12号住居址掘り方、遺物接合図・・・・73
第52図　12号住居址出土遺物・・・・・・・・・・74
第53図　13号住居址・・・・・・・・・・・・・・75
第54図　13号住居址カマド・・・・・・・・・・・76
第55図　13号住居址遺物分布・接合図・・・・・77
第56図　13号住居址出土遺物－１－・・・・・・・78
第57図　13号住居址出土遺物－２－・・・・・・・79
第58図　13号住居址出土遺物－３－・・・・・・・80
第59図　１号掘立柱建物址・・・・・・・・・・・81
第60図　２号掘立柱建物址・・・・・・・・・・・83
第61図　１号柱穴列・・・・・・・・・・・・・・84
第62図　１号柱穴列出土遺物・・・・・・・・・・86
第63図　ピット－１－・・・・・・・・・・・・・86
第64図　ピット－２－・・・・・・・・・・・・・87
第65図　ピット－３－・・・・・・・・・・・・・88
第66図　ピット－４－・・・・・・・・・・・・・89
第67図　土坑－１－・・・・・・・・・・・・・・90
第68図　土坑－２－、出土遺物・・・・・・・・・91
第69図　溝状遺構－１－・・・・・・・・・・・・93
第70図　溝状遺構－２－・・・・・・・・・・・・94

表目次

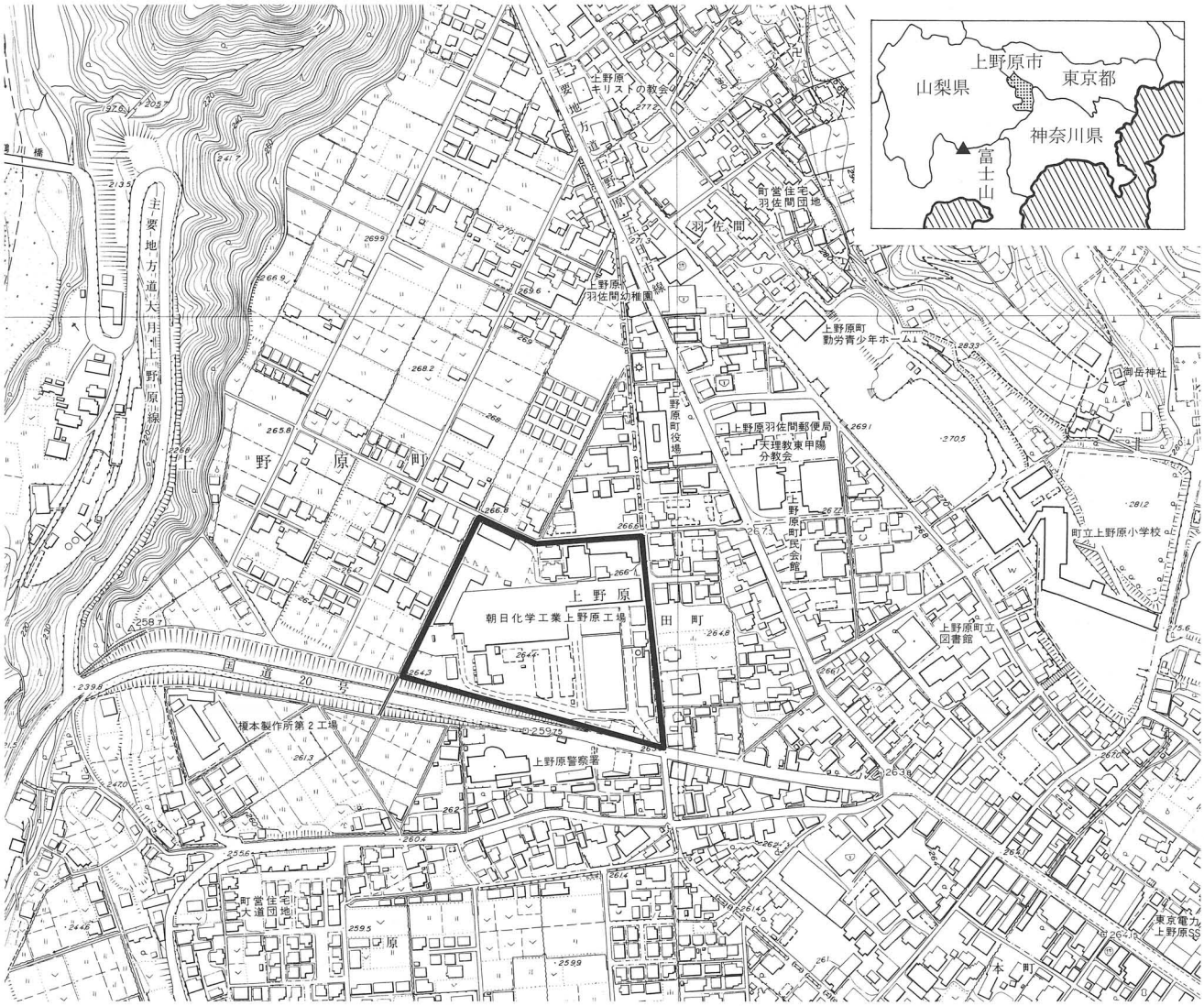
第１表　２号住居址（新）出土土器分類表・・・７
第２表　２号住居址（旧）出土土器分類表・・・８
第３表　３号住居址出土土器分類表・・・・・・９
第４表　４号住居址出土土器分類表・・・・・・９
第５表　５号住居址出土土器分類表・・・・・・10
第６表　６号住居址出土土器分類表・・・・・・10
第７表　７号住居址出土土器分類表・・・・・・11
第８表　８号住居址出土土器分類表・・・・・・12
第９表　９号住居址出土土器分類表・・・・・・13
第10表　10号住居址出土土器分類表・・・・・・13
第11表　11号住居址出土土器分類表・・・・・・14
第12表　12号住居址出土土器分類表・・・・・・15
第13表　13号住居址出土土器分類表・・・・・・15
第14表　遺構出土遺物観察表・・・・・・・・・95

写真目次

写真１　遺跡遠景、調査前近景
写真２　調査区全景
写真３　１号住居址
写真４　２号住居址
写真５　２号住居址（旧）遺物出土状況
写真６　調査区南端の遺構検出状況、３号住居址
写真７　４号住居址
写真８　５号住居址、６号住居址
写真９　６号住居址カマド
写真 10　７号住居址
写真 11　７号住居址カマド
写真 12　８号住居址
写真 13　８号住居址カマド
写真 14　８号住居址遺物出土状況
写真 15　８号住居址遺物、炭化材出土状況
写真 16　９号住居址、北カマド
写真 17　10 号住居址、調査区北端の遺構検出状況
写真 18　11 号住居址、カマド
写真 19　12 号住居址、13 号住居址
写真 20　13 号住居址カマド、１号掘立柱建物址
写真 21　１号掘立柱建物址柱穴、２号掘立柱建物址
写真 22　１号柱穴列
写真 23　１号柱穴列、ピット（Ｐ２～Ｐ４）
写真 24　ピット（Ｐ５～Ｐ８）、P36 断面
写真 25　１号土坑、２号土坑
写真 26　４号土坑断面、５号土坑
写真 27　６号土坑、７号土坑断面
写真 28　11・12、13、14、15、20 号土坑
写真 29　２、３、５、７・８号溝
写真 30　調査風景
写真 31　１号、２号住居址（新）出土遺物
写真 32　２号住居址（新）、（旧）出土遺物
写真 33　２号（旧）、３号～５号住居址出土遺物
写真 34　６号、７号住居址出土遺物
写真 35　７号、８号住居址出土遺物
写真 36　８号、10 号、11 号住居址出土遺物
写真 37　12 号、13 号住居址出土遺物

第Ⅰ章　遺跡の位置と周辺の環境

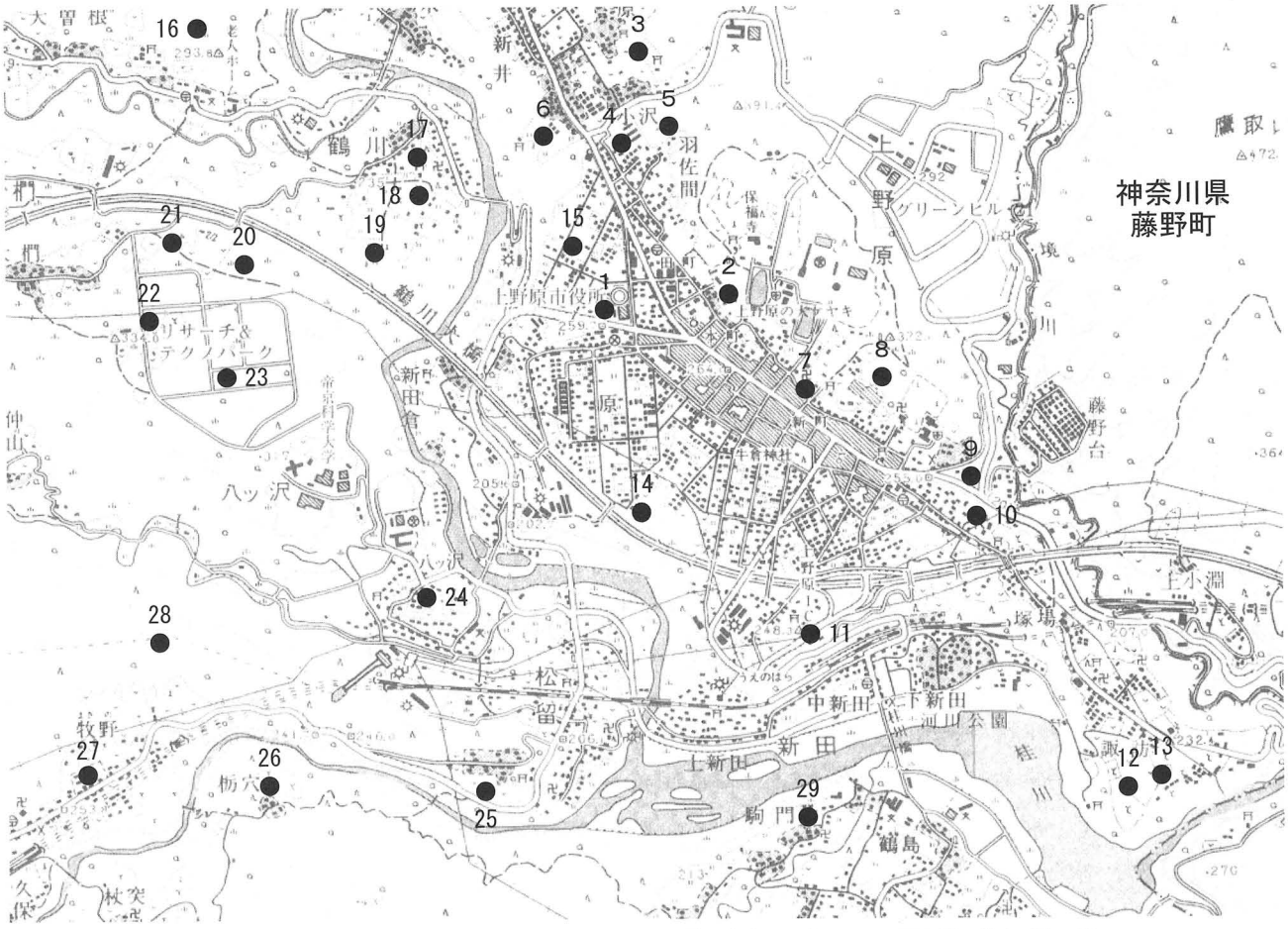
大間々遺跡は山梨県上野原市に位置する。上野原市は山梨県東端の県境に位置し、市域は関東山地や丹沢山塊に囲まれ、面積の約８割が山林で占められる。市の中央部を桂川（相模川）が流れ、支流の鶴川・秋山川の沿岸に狭小な河岸段丘地形が点在する。東京都・神奈川県に接する地理的要因から、古来より関東地方との関係が強い。近世には江戸・甲府・信州を結ぶ甲州街道の宿場が４宿置かれ、桂川の水運とともに東西交通の要衝地として栄えた。大間々遺跡は桂川と鶴川の合流地点に張り出した市内最大の段丘面にあり、周辺は旧甲州街道の上野原宿を中心に市街地化されている。調査地は、明治末から大正初期の大規模な耕地整理による開田以降、製糸工場や合成皮革工場が建設された場所である。



第１図　遺跡位置図（1/5000）

市内の遺跡は河川沿いの段丘面や緩斜面地に多く分布し、現在までに162ヵ所が確認されている。遺跡の時期は縄文時代が最も多く、弥生時代は極めて少ないが、続く古墳～奈良・平安時代にかけて多く見られる。

大間々遺跡の周辺では、段丘背後の丘陵斜面部に遺跡が点在する。このうち上野原小学校遺跡（2）で縄文時代中期～後期の遺物包含層や古墳後期～奈良時代の竪穴住居址3軒、大堀Ⅰ遺跡（4）で平安時代の竪穴住居址2軒、大堀Ⅱ遺跡（5）で縄文時代中期の竪穴住居址2軒が発掘調査された。一方、段丘平坦面の遺跡分布は希薄だが、大間々遺跡（1）で奈良・平安時代の竪穴住居址などが多数発見されたことにより、古代の集落址が段丘平坦面に広がる可能性が強くなった。



1 **大間々** 縄文、古墳、奈良、平安　2 **上野原小学校** 縄文（早･中･後）、古墳、奈良、平安　3 **西シ原** 縄文（早・前）

4 **大堀Ⅰ** 縄文（中）、平安　5 **大堀Ⅱ** 縄文（早・中）、古墳、平安　6 **新井** 縄文（早・中）、平安　7 **新町** 縄文（中）

8 **根本山** 縄文（中・後）、平安　9 **桜ヶ丘** 縄文、古墳、平安　10 **塚場古墳群** 古墳　11 **関山** 縄文（早・中）、平安

12 **狐原Ⅰ** 縄文（早～後）・弥生・古墳・奈良・平安　13 **狐原Ⅱ** 縄文（早～後）・弥生・古墳・奈良・平安　14 **内城館址** 中世

15 **寺畑** 縄文（中）　16 **大曽根** 縄文（前・中）　17 **上野山Ⅰ** 縄文（後）　18 **上野山古墳** 古墳　19 **上野山Ⅱ** 縄文（中・後）、弥生

20 **大浜** 縄文（早・中・後）、平安　21 **南大浜** 縄文（中）、弥生　22 **大椚Ⅰ** 縄文（早・中・後）、平安　23 **大椚Ⅱ** 縄文（早・中）、平安

24 **八ッ沢** 縄文（中）　25 **松留** 縄文（後）　26 **栃穴** 縄文（中）　27 **牧野** 縄文、平安　28 **牧野砦** 中世　29 **駒門** 縄文（中）、弥生

第2図　周辺の遺跡分布図（1/25000）

第Ⅱ章　調査の経緯

第１節　調査にいたる経緯と経過

調査地は上野原市上野原字大間々3832－１、3832－９、3832－10で、朝日化学工業(株)上野原工場の跡地である。ここに、旧上野原町の庁舎（現在の上野原市役所）が建設されることになり、遺跡を確認するための試掘調査を平成12年（2000）10月30日～11月６日まで行った。この結果、平安時代の竪穴住居址や遺物が確認され、本調査の実施が必要と判断された(1)。遺跡は字名から大間々遺跡とした。

発掘調査は、平成13年（2001）８月29日～12月27日まで行った。調査地は高低差１ｍ程度の石積みで２段に分けられたことから、南側下段から調査を開始し、11月から北側上段の遺構確認と検出を併行して行った。12月に航空写真撮影や遺跡見学会を行った。調査は12月末に終了し、翌年１月に残務整理を行って現場作業を完了した。

（1）『山梨県上野原市市内遺跡発掘調査報告書』2006　上野原市教育委員会

第２節　調査の方法

発掘調査は、工事予定区域19,220㎡のうち約3,000㎡で実施した。表土（整地層）を重機で掘削した後、磁北を基準に５ｍ方眼の区画（グリット）を設定した。表土直下で遺構確認面（第Ⅲ層上面）が検出されたが、第Ⅱ層が残る範囲は人力で掘り下げて遺構確認に努めた。遺構の番号は確認された順番で付けた。竪穴住居址の調査は、基本的に土層観察用の土手を十字に残して掘り下げた。カマド内や周辺の土壌はサンプルとして採取し、炭化種子等の選別作業を行った。遺物は原則として出土位置の平面・標高を計測して取り上げた。

第３節　遺跡の層序

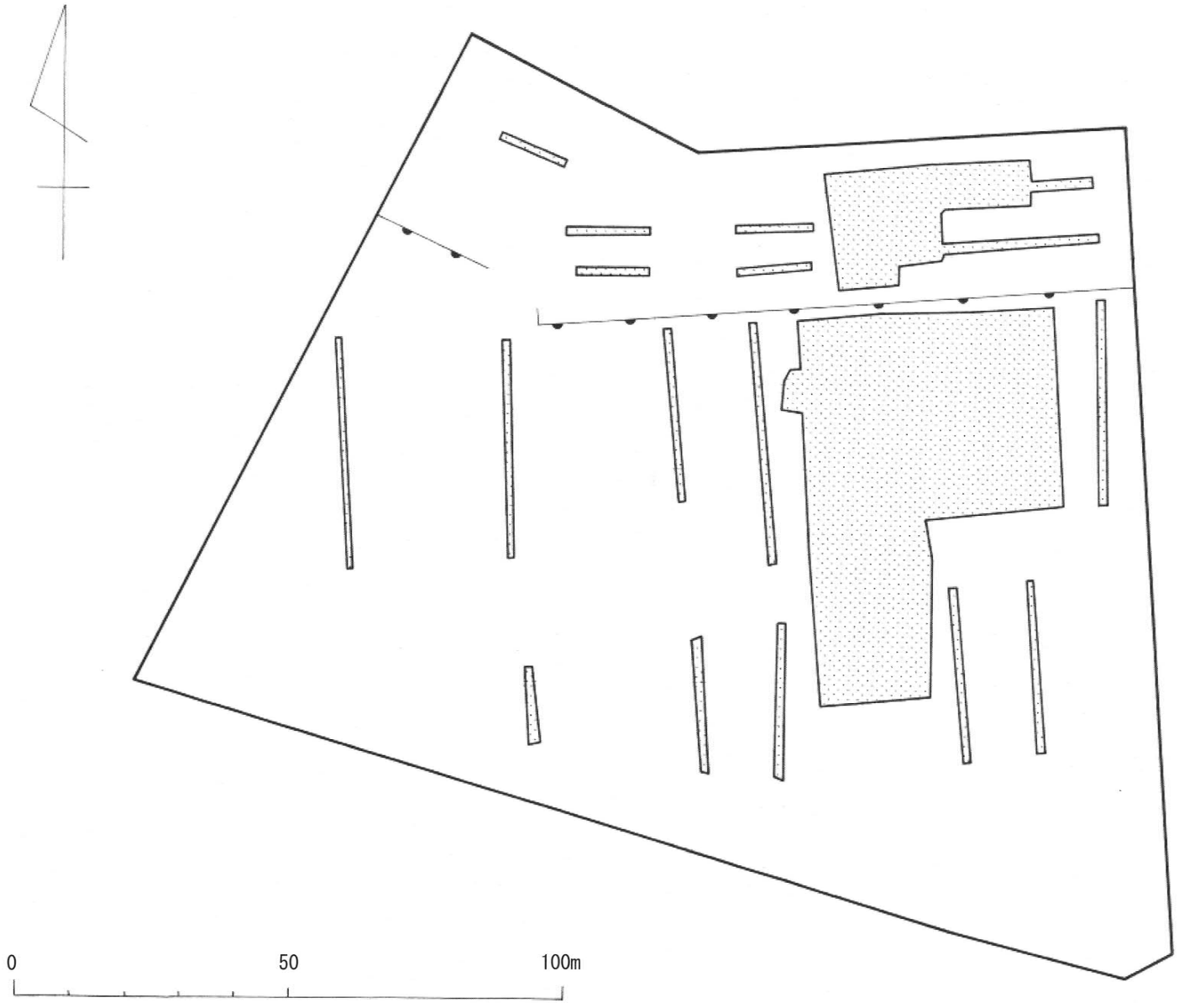
調査地は高低差１ｍ程度の石積みで２段に分けられ、各面とも平坦であった。旧建物による撹乱が広範囲に及び、基礎コンクリートの一部が地山のローム層まで達するなど、土層の旧状をとどめた場所は少ない。

第Ⅰ層　コンクリートや砂利を含む整地層。層厚は20cm～100cm。

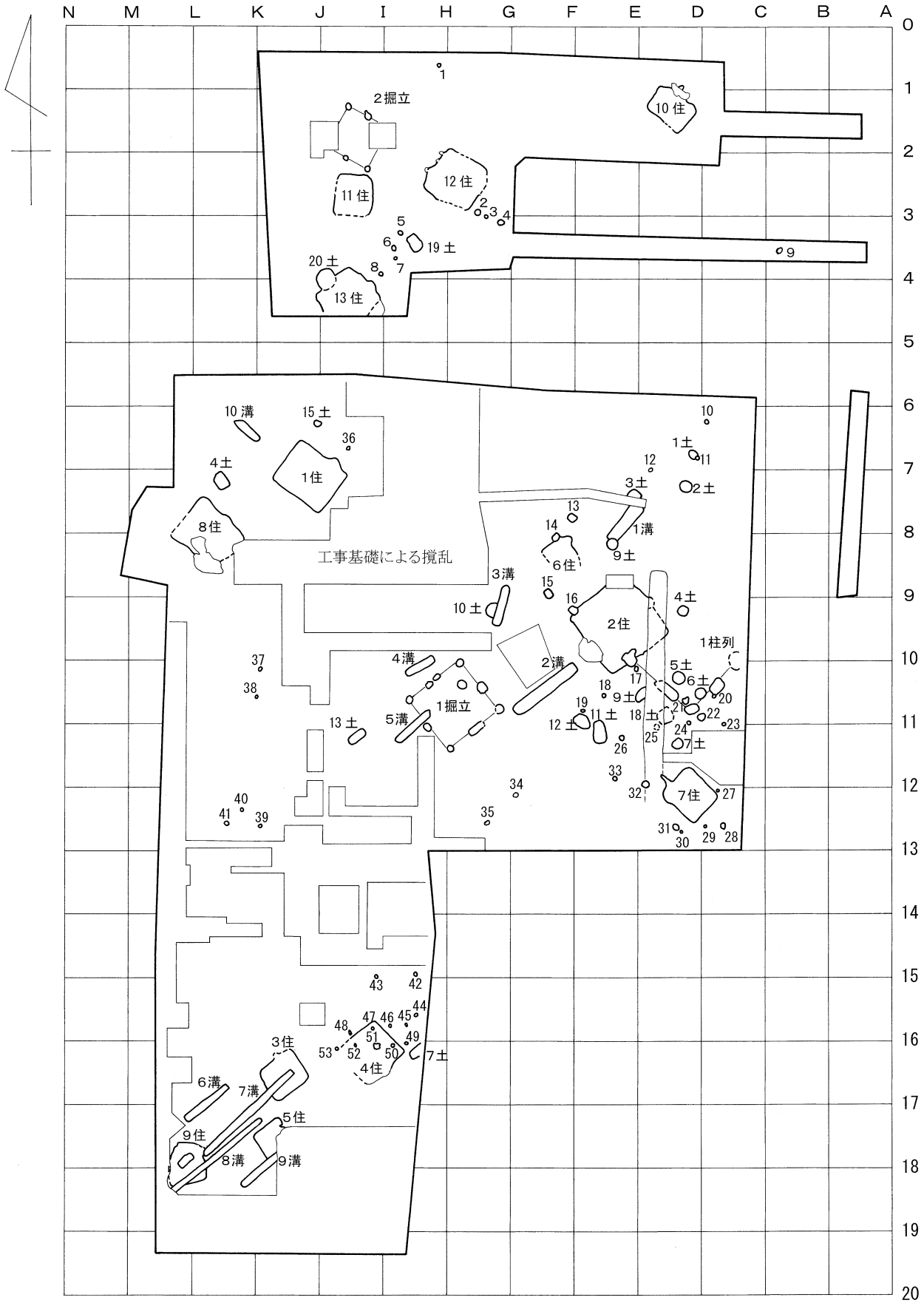
第Ⅱ層　黒褐色土　黒色スコリア（粒径５㎜以下）を含む。土師器の細片を含み、古代の遺構覆土は本層を基調とする。全般に遺存状況は悪い。層厚は20cm以下。

第Ⅲ層　にぶい褐色土　粘性・締まりやや強い。橙色スコリア（粒径３㎜以下）を多く含む。遺物は含まない。本層上面が古代の遺構確認面である。層厚は50cm前後。

第Ⅳ層　橙色土　粘性・締まり強い。ローム層に相当する。橙色スコリア（粒径５㎜以下）を多く含む。



第３図　調査区配置図



住：竪穴住居址　　掘立：掘立柱建物址　　土：土坑　　番号のみ：ピット

0　10m

第４図　調査区全体図

第Ⅲ章　発見された遺構と遺物

竪穴住居址13軒、掘立柱建物址２軒、柱穴列１基、ピット53基、土坑20基、溝状遺構10基が発見された。全般に土木工事の撹乱が激しかったため本調査の範囲は限定されたが、遺構の分布範囲はさらに広がっていた可能性がある。住居は７世紀代の住居を最古とし、奈良・平安時代（８世紀～10 世紀前半代）に中心がある。掘立柱建物址は平安時代の住居と同時期である可能性が強い。柱穴列、ピット、土坑の時期は不明確だが、覆土の状況や住居との重複関係から平安時代の住居と同時期か、以降の所産と推定される。溝状遺構は住居や土坑を切って分布することから平安時代以降に推定される。

遺物は、遺構内を中心に土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品（土錘）・石製品（砥石）金属製品（鉄製刀子・銅製鋲具）、及び炭化種子が出土した。この他、遺構は発見されなかったが、縄文時代中期、及び古墳時代前期の遺物がわずかに出土している。なお、本稿における土器の年代観は『甲斐型土器―その編年と年代―』山梨県考古学協会1992に拠り、相模型の土器については宮久保編年（長谷川1990）を援用した。

第１節　竪穴住居址

竪穴住居址13軒が発見された。東側に最大規模の住居（２号）と小型２軒（６・７号）から成る一群があり、これらを中心に空閑地を挟んで分布域が分かれ、北から西側に小型（10・11 号）、及び比較的大型（１・８・12・13号）が散在し、南側に小型４軒（３・４・５・９号）がかたまって分布する。

1号住居址（第５図～第８図、写真３・31）

位置　調査区西側のⅠ－６・７、Ｊ－６・７区に位置し、南西５ｍに８号住居址がある。

形状・規模　平面は長方形で、長軸4.5m、短軸3.8mである。カマドを持つ。主軸方位はN―15°―E。遺存状況は良く、壁は最高50cmである。

床　全般に堅く締まっている。貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　北東壁の東寄りにある。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井や袖部は遺存しなかった。火床部から急傾斜で立ち上がり、先端にテラス状の短い煙道が付く。火床部は床面を約25cm掘り込んで構築される。

覆土　暗褐色土が主体で、壁際では褐色土塊を含む土層が流入する。

遺物　出土遺物の大半は、カマド崩壊土とその周辺の覆土に含まれる。すべて土師器の甕で、相模型に属する（総点数73点・総重量2,750g）。小型甕（１）、長胴甕（２～５）、胴張甕（６・７）と複数の個体があるが、完形に復元できたものはない。甕の一部は住居北東側にあるＰ36内の土器と接合する。この他、特筆される遺物として銅製の鉸具（８）が床面の西側で出土したが、他に関連する遺物がないため、銙帯、馬具のいずれの付属品であるのかは不明である。

時期　宮久保編年（長谷川 1990）に拠れば、長胴甕は胴部上位にふくらみを持ち、底径が７cm～８cmを測ることからＣ３類に比定できる。小形甕は肩部に張りがあり、下半へのすぼまりが強くなる傾向が認められ Ｃ２類～Ｃ４類の範疇に比定される。このことから、時期区分を宮久保編年Ⅳ期～Ⅴ期に対比し、本住居の時期を８世紀中葉から後半に推定しておきたい。

2号住居址

調査区中央東側のD－８・９、E－８・９区に位置し、１号柱穴列、16号ピットに切られる。近隣に６号・７号住居址、１号掘立柱建物址の他、多数のピット・土坑が散在している。この住居は、建て替えによる拡張のため新旧２段階に分けられる。

2号住居址（新段階）（第９図～第10図、写真４・31・32）

形状・規模　平面方形で、１辺 5.6mである。カマドは持たず、壁際に柱穴がめぐる。工場の基礎コンクリートや試掘調査時のトレンチで切られ、遺存状況はやや悪い。壁高は30cmである。

床　古段階の住居上に構築され、全般に軟弱である。東側と西側の一部には、ハードローム塊を含む貼り床が認められた。

柱穴・周溝　８基の柱穴（P１～P８）が壁際直下に検出された。柱穴は、撹乱を受けた北隅を除く三隅、及び北東壁と南西壁の中央部に各１基が配される。さらに北西壁は1.9m間隔で２基（P７・P８）配されるが、対応する南東壁は１基（P３）のみで、P２・P３間に柱穴は検出されなかった。各柱穴の最深部は住居壁側に寄り、深さは床面から0.8m～1.1mである。周溝は認められなかった。

カマド　認められなかった。

焼土遺構　床面中央に検出された。平面不整形で、長軸3.0m、短軸1.5m、深さ15cmである。内部に焼土純層、及び多量の炭化種子（アワ・ヒエ等の草木種実、モモ核）が検出された。

覆土　暗褐色土が主体である。

遺物　大半は覆土に含まれる。土師器の坏・皿・甕、須恵器の甕・長頸壷、灰釉陶器の甕、炭化種子がある。土師器は相模型坏（８）を除きすべて甲斐型に属す。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。墨書土器は４点で、判読できるものに「基」（５・11）がある。

器種	土師器			須恵器	灰釉陶器
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	相模型・坏類	甕類	甕類
点数	10	4	1	2	1
重量(g)	269	223	10	100	52
点数比率	55.6	22.2	5.5	11.1	5.6
(%)	77.8		5.5	11.1	5.6

第1表　2号住居址（新）出土土器分類表

時期　甲斐型土器編年のXⅡ期（10世紀前半～中頃）に比定される。

2号住居址（旧段階）（第11図～第21図、写真４・５・32・33）

形状・規模　新段階の住居直下で検出された。平面方形で、１辺4.5mである。カマドを持ち、壁際に柱穴がめぐる。主軸方位はN―55°―Eを測る。工場の基礎コンクリートや試掘調査時のトレンチで切られ、遺存状況はやや悪い。壁高は20cmである。

床　ハードローム塊を含む貼り床が施され、全般に堅く締まっている。掘り方は、北西壁、及び南東壁から南西壁の一部に沿って溝状に検出された。

柱穴・周溝　柱穴３基（P１～P３）が、撹乱を受けた北隅を除く三隅で検出された。深さは床面から10cm～30cmを測る。周溝は認められなかった。

カマド　北東壁の東寄りにある。煙道部は試掘調査時のトレンチで切られている。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井や袖部は遺存しなかった。火床部から煙道部にかけての立ち上がりは

急傾斜である。火床部は床面を20cm掘り込んで構築される。

炉　床面中央付近に1基検出された。平面不整楕円形で、長軸60cm、短軸50cm、深さ10cmである。内部に焼土層、及び炭化物・炭化種子（アワ・ヒエ等の草木種実）が検出された。壁面の一部は焼けて硬化している。

焼土、粘土土坑　床面北側で焼土面が検出された。焼土中には粘土粒・塊、炭化材・粒、土器細片が多く混じる。焼土面下で土坑が検出された。土坑の平面は不整形で、長軸2.0m、短軸1.0m、最深10cmを測る。壁はなだらかである。内部はカマドと同じ白色粘土塊や硬質の焼土が検出された。壁面に焼けた痕跡は認められず、床下粘土土坑の可能性が考えられる。

Ｐ４　カマドに近接して位置する。平面は不整方形で、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.4mである。ピット覆土上層から周囲の住居床面にかけて土師器の細片が多数分布している。１号柱穴列を構成する柱穴の可能性も考えられたが、本住居址に伴うものと判断した。

覆土　褐色土を含む暗褐色土が主体である。

遺物　出土遺物は覆土下層から床面にかけて多量に分布し、土師器の坏・皿・甕（小型・大型）・羽釜、須恵器の坏・甕・長頸壷、灰釉陶器の甕、土錘、砥石、炭化種子（モモ核・クリ）が出土した。土師器の大半は甲斐型に属す。須恵器坏（23）は唯一の完形品で、他の土器はすべて破片であった。土器の多くに接合関係が認められ、小さい範囲でまとまるもの、水平方向に広範囲に及ぶもの、７号住居と接合関係をもつものがある。墨書土器は４点で、「本」（１）、「丈」（２）がある。転用品に灯明皿（11）や内面が研磨された須恵器甕（59）がある。砥石（62）は扁平な素材の両側面及び端部に研磨痕が残る。

器種	土師器								須恵器		灰釉陶器	
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	ロクロ坏	相模型・甕類	武蔵型・甕類	鬼高系・坏類	鬼高系・甕類	不明細片	坏類	甕類	坏類	甕類
点数	264	464	2	61	15	5	15	20	19	27	3	7
重量(g)	1,255	5,169	9	323	180	25	155	45	240	1,579	37	111
点数比率	29.3	51.4	0.2	6.8	1.7	0.6	1.7	2.2	2.1	3.0	0.3	0.7
(%)	80.7		0.2	6.8	1.7	2.3		2.2	5.1		1.0	

第2表　2号住居址(旧)出土土器分類表

時期　甲斐型土器編年のＸⅠ～ＸⅡ期（９世紀末～10世紀中頃）と幅が認められるが、須恵器坏（23）が南多摩窯Ｇ５窯式に比定できることから10世紀前半～中頃が主体となろう。

3号住居址（第22図～第23図、写真６・33）

位置　調査区南側のJ－16区に位置し、南に隣接して５号住居址がある。

形状・規模　平面は不整長方形で、長軸4.0m、短軸3.5mである。カマドを持つ。主軸方位はN—55°—Wである。全般に削平を受け、７号溝に切られるなど遺存状況は悪い。壁高は10cmである。

床　貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　北壁中央のやや東寄りにある。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出された。天井や袖部は遺存せず、袖石と思われる自然石が検出された。火床部は明確に認められなかった。

覆土　黄白色粘土や焼土粒を含む暗褐色土が主体である。

遺物　出土遺物は、カマド崩壊土とその周辺床面で検出された。土師器の坏・甕・置きカマドがあり、武蔵型甕（1）を除き、大半が甲斐型に属する。いずれも破片であった。

時期　出土遺物が少なく不明確だが、本集落の中心時期である9世紀代～10世紀前半に推定される。

器種	土師器			
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	武蔵型・甕類	鬼高系・甕類
点数	3	46	6	1
重量(g)	6	692	41	5
点数比率	5.4	82.1	10.7	1.8
(%)	87.5		10.7	1.8

第3表　3号住居址出土土器分類表

4号住居址（第24図～第25図、写真7・33）

位置　調査区南側のH－15・16、I－15・16区に位置し、西1.5mに3号住居址がある。

形状・規模　平面は不整長方形で、長軸3.3m、短軸2.7mである。南壁の中央部が外側へわずかに張り出す。カマドは認められない。全般に削平を受け、北壁の一部と西壁を欠失するなど遺存状況は悪い。壁高は10cmを測る。

床　貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　認められなかった。

炉　住居の南西側で検出された。平面不整円形で、長軸50cm、短軸35cm、深さ20cmである。内部に焼土層が検出された。

Ｐ２　床面中央の東寄りで検出された。P51と重複するため詳細な形状・規模は不明確だが、深さは5cm程度である。内部に焼土塊や白色粘土が検出され、床下粘土土坑の可能性が考えられる。

覆土　暗褐色土が主体である。白色粘土塊が床面西側で検出された。

遺物　出土遺物は、炉及びＰ２周辺に分布し、大半が床面から数cm上に位置する。土師器の坏・甕（小型・大型）、須恵器の坏がある。土師器は武蔵型甕（7）、相模型甕(11)を除き、大半は甲斐型に属す。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。

器種	土師器				須恵器
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	相模型・甕類	武蔵型・甕類	坏類
点数	7	69	12	1	4
重量(g)	52	1,426	135	15	13
点数比率	7.5	74.2	12.9	1.1	4.3
(%)	81.7		12.9	1.1	4.3

第4表　4号住居址出土土器分類表

時期　甲斐型土器編年のＸⅠ～ＸⅡ期（9世紀末～10世紀中頃）に比定される。

5号住居址（第26図、写真8・33）

位置　調査区南端のJ－17区に位置し、北に隣接して3号住居址がある。

形状・規模　平面は方形を基調とし、北壁は2.3mを測る。カマドを持つ。主軸方位はN―55°―Eを。全般に削平を受け、とくに東から南側は工場基礎の撹乱や9号溝によって床面まで破壊され、遺存状況は悪い。壁高は10cmである。

床　貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　東壁の北寄りにある。工場基礎による撹乱を受け、大半を欠失する。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井や袖部は遺存しなかった。火床部は床面を５cm 掘り込んで構築され、中央付近でピット（深さ５cm）が検出された。

覆土　暗褐色土が主体である。

遺物　出土遺物は、カマド崩壊土及び火床面に分布する。土師器の坏・甕（小型・大型）があり、武蔵型甕（３）を除き大半が甲斐型に属す。いずれも破片であった。墨書土器「仁」（１）がある。

器種	土師器				
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	ロクロ坏	武蔵型・甕類	異系統・甕類
点数	1	19	1	1	1
重量(g)	68	345	49	12	30
点数比率 (%)	4.3	82.8	4.3	4.3	4.3
	87.1		4.3	4.3	4.3

第5表　5号住居址出土土器分類表

時期　甲斐型土器編年のＸⅠ～ＸⅡ期（９世紀末～10 世紀中頃）に比定される。

6号住居址（第 27 図～第 29 図、写真８・９・34）

位置　調査区中央東側のＥ－８、Ｆ－８区に位置し、南に隣接して２号住居址がある。

形状・規模　平面は方形を基調とし、北壁 2.0m、東壁の残存長 2.5mを測る。カマドを持つ。主軸方位はＮ―55°―Ｅ。全般に削平を受け、床面の南半分を欠失するなど遺存状況は悪い。壁高 20cm である。

床　貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　東壁の北寄りにある。焚き口から煙道部先端まで 95cm、両袖部の最大幅 77cm、焚き口の幅は 35cm である。火床部から煙道部にかけて急傾斜で立ち上がる。天井の一部と袖部が遺存し、自然石を主体に黄白色粘土が使われる。左袖の上面に土師器の羽釜片が伏せられていた。火床部は床面を 14cm 掘り込んで構築される。

覆土　暗褐色土が主体である。

遺物　出土遺物は、カマド覆土及び火床面を中心に分布する。土師器の坏・甕（小型・大型）・羽釜、灰釉陶器の甕があり、土師器は甲斐型が主体である。いずれも破片であった。

時期　甲斐型土器編年のＸⅠ～ＸⅡ期（９世紀末～10 世紀中頃）に比定される。

器種	土師器						須恵器	灰釉陶器
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	ロクロ坏	相模型・甕類	武蔵型・甕類	鬼高系・甕類	坏類	甕類
点数	7	29	2	3	3	1	2	3
重量(g)	24	2,262	11	15	25	10	11	85
点数比率 (%)	14.0	58.0	6.0	6.0	6.0	2.0	4.0	6.0
	72.0		6.0	6.0	6.0	2.0	4.0	6.0

第6表　6号住居址出土土器分類表

7号住居址（第30図～第35図、写真10・11・34・35）

位置　調査区東端のC－11・12、D－11・12区に位置し、北５ｍに２号住居址がある。

形状・規模　平面は長方形で、長軸3.5m、短軸3.0mである。カマドを持つ。主軸方位はN―46°―W。遺存状況は良い。壁高は30cmを測る。

床　貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　北西壁の南寄りにある。焚き口から煙道部先端まで1.3m、両袖部の最大幅1.1m、焚き口の幅は40cmである。煙道部は壁を60cm掘り込んで構築され、急傾斜で立ち上がる。袖部が遺存し、黄白色粘土を主体に自然石や石皿が補強材に使われる。右袖の上面に土師器坏（墨書「上」）が伏せられていた。火床部は床面を15cm掘り込んで構築され、自然石の支脚が直立して検出された。

覆土　暗褐色土が主体で、南壁寄りから床面にかけて焼土層が流入する。

遺物　出土遺物は、カマド覆土とその周囲、及び南壁寄りの床面を中心に分布する。覆土の堆積状況や遺物の分布から、遺物の大半が住居廃絶後に廃棄された可能性が考えられる。遺物は、土師器の坏・皿・甕（小型・大型・台付）・鉢・羽釜、須恵器の坏・甕、鉄製の刀子、炭化種実が出土した。土師器は古墳時代鬼高系の坏（１）や、武蔵型甕（19～21）、相模型台付甕（22）がわずかに含まれるが、大半は甲斐型に属する。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。須恵器甕（34）は、多数の破片が南壁の直下でまとまって検出され、さらに住居内の広範囲に拡散する状況であった。墨書土器は２点で、「上」（12）・「基」（14）がある。炭化種子は、覆土の焼土層中でコムギ、及びカマド周囲の床面でモモ核が検出された。転用品に灯明皿の小片（７）がある。

器種	土師器								須恵器	
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	ロクロ甕類	相模型・甕類	武蔵型・甕類	鬼高系・坏類	鬼高系・甕類	不明細片	坏類	甕類
点数	123	100	1	15	18	1	17	12	10	11
重量(g)	519	1,305	39	94	280	9	250	31	93	3,270
点数比率	39.9	32.5	0.3	4.9	5.8	0.3	5.5	3.9	3.3	3.6
(%)	72.4		0.3	4.9	5.8	5.8		3.9	6.9	

第7表　7号住居址出土土器分類表

時期　甲斐型土器編年のＸⅠ～ＸⅡ期（９世紀末～10世紀中頃）に比定される。

8号住居址（第36図～第41図、写真12～15・35・36）

位置　調査区西端のＫ－７・８、Ｌ－７・８区に位置し、北東2.5mに１号住居址がある。

形状・規模　平面は不整長方形で、長軸4.5m、短軸4.0mである。カマドを持つ。主軸方位はN―45°―E。全般に工場基礎の撹乱を受け、南から西側は床面まで破壊されている。壁高は50cmである。

床　貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　柱穴４基（Ｐ１～Ｐ４）が住居内の対角線上に検出された。床面からの深さは、Ｐ４が10cm、他は35cm～40cmである。周溝は西壁沿いで検出されたが、南側が撹乱を受けて欠失している。幅10cm～18cm、深さ５cmである。

カマド　東壁の中央にある。煙道の一部を撹乱によって欠失する。焚き口から煙道部先端まで1.1m、両袖部の最大幅1.2m、焚き口の幅は50cmである。火床部から急傾斜で立ち上がり、先端に石組み

の短い煙道が付く。袖部が遺存し、自然石を主体に黄白色粘土が使われる。袖部前面には、両袖に架け渡した天井石が火床面に落ち込んだ状況で検出され、天井石を取り巻くように土師器甕の破片がまとまって出土した。

覆土　焼土粒・炭粒を多く含む暗褐色土が厚く堆積し、床面は焼土や炭化物層で覆われていた。このことから本遺構は焼失住居で、短期間に埋め戻されたことが想定される。

炭化材　多数の炭化材が壁際から住居中心に向かう方向で検出され、住居中央付近に炭化材の破片（1cm～10cm大）が多量に検出された。炭化材の断面は柱状、ないしは馬蹄状を呈するものが多く、垂木等の建築材と考えられる。また、住居西壁の中央付近では、壁際から床面にかけて板状の炭化材が検出され、壁板等の建築材と考えられる（付篇参照）。

遺物　出土遺物の大半は、カマドとその周囲の床面に分布する。土師器の小型甕・小型球胴甕・長胴甕・胴張甕・小壷、須恵器の甕があるが、坏類は皆無である。土師器は武蔵型甕（2）を除き、大半は相模型に属する。遺存状況の良い土器が多く、甕（1・2）はカマド右側の床面に並置状況で、胴張甕（7）は床面につぶれた状況でそれぞれ検出された。このうち小型球胴甕（2）は破損後の胴下半部を鉢に転用している。小壷（9）は完形で、壁際の覆土上層で検出された。須恵器の甕（8）は内面が研磨され、転用硯の可能性がある。

器種	土師器					須恵器
	相模型・甕類	相模型？甕類	ロクロ壷	武蔵型・甕類	異系統・甕類	甕類
点数	77	8	1	1	4	1
重量(g)	6,229	215	125	340	72	30
点数比率(%)	83.7	8.7	1.1	1.1	4.3	1.1
	92.4		1.1	1.1	4.3	1.1

相模型？甕類・・・・厚手。外面ナデ、内面ハケ目

第8表　8号住居址出土土器分類表

時期　1号住居と同じく宮久保編年Ⅳ期～Ⅴ期に対比されると思われるが、小型甕は底径が9.8cmで大きく、古い様相も認められる。本住居の時期は、8世紀中葉から後半代に推定しておきたい。

9号住居址（第42図～第44図、写真16）

位置　調査区南端のK－17・18、L－17・18区に位置する。

形状・規模　平面は不整台形で、東壁2.6m・西壁3.4m・南壁2.7m・北壁1.6mである。カマド2基を持つ。東カマドと対角の軸方位はN―43°―E、北カマドと対角の軸方位はN―35°―Wである。全般に工場基礎の撹乱を受け、7号・8号溝や16号土坑によって床面まで切られているため遺存状況は悪い。壁は最高40cmである。

床　焼土粒や白色粘土粒を含む貼り床が施される。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　北東隅と北西隅の2ヶ所にある。東カマドは、煙道の一部を7号溝で切られている。天井や袖部は遺存せず、粘土が火床面を覆う状況であった。壁を掘り込んで構築され、火床部は竪穴外に位置する。火床部は床面を18cm掘り込んで構築される。北カマドは、天井と袖部の大半は遺存せず、粘土が火床面を覆う状況であった。左袖は一部遺存し、黄白色粘土を主体に自然石が補強材に使

われる。壁を掘り込んで構築され、火床部から煙道部まで急傾斜で立ち上がる。火床部は床面を10cm掘り込んで構築され、自然石の支脚が直立して検出された。

覆土　暗褐色土が主体で、焼土粒・白色粘土粒を多く含む褐色土が床面の西側を薄く覆う。

遺物　出土遺物の大半は、カマドとその周囲に分布する。土師器の甕・鉢・羽釜、須恵器の坏・甕があり、土師器の大半は甲斐型に属す。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。

器種	土師器				須恵器		灰釉陶器
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	相模型・甕類	異系統・甕類	坏類	甕類	甕類
点数	1	48	1	1	1	3	1
重量(g)	1	722	1	25	1	50	8
点数比率	1.8	85.7	1.8	1.8	1.8	5.3	1.8
(%)	87.5		1.8	1.8	7.1		1.8

第9表　9号住居址出土土器分類表

時期　出土遺物が少なく不明確だが、本集落の中心時期である9世紀代～10世紀前半に推定される。

10号住居址（第45図～第46図、写真17・36）

位置　調査区北東端のD－1区に位置する。

形状・規模　平面は不整長方形で、東壁2.5m・西壁2.1m・南壁3.1m・北壁3.6mである。カマドを持つ。主軸方位はN—39°—Eを。全般に工場基礎の撹乱を受け、遺存状況は悪い。壁は最高10cm。

床　全般に堅く締まっている。貼り床は認められなかった。掘り方は、住居西側の壁沿いに溝状の掘り込みが検出された。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　北壁の中央部にある。大半が工場基礎の撹乱で破壊され、煙道先端部が遺存するのみである。

覆土　暗褐色土が主体である。

遺物　出土遺物はカマドの周囲に分布し、床面及び床面から数cm上に位置する。土師器の坏・長胴甕・胴張甕がある。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。

時期　出土遺物から7世紀代に推定される。

器種	土師器		
	鬼高系・坏類	鬼高系・甕類	甲斐型・坏
点数	3	8	1
重量(g)	135	825	7
点数比率	25.0	66.7	8.3
(%)	91.7		8.3

第10表　10号住居址出土土器分類表

11号住居址（第47図～第49図、写真18・36）

位置　調査区北側のI－2区に位置し、周囲2mの範囲内に12号・13号住居址がある。

形状・規模　平面は不整長方形で、長軸3.2m・短軸2.7mである。カマドを持つ。工場基礎の撹乱により壁の一部が破壊されるが、遺存状況は比較的良い。主軸はほぼ南北にそろう。壁高は90cmである。

床　南半分にハードローム塊を含む貼り床が施される。掘り方は住居南半部で検出された。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　北壁の東寄りにある。焚き口から煙道部先端まで1.0m、両袖部の最大幅0.8m、焚き口の幅は

40cmである。奥壁の石上端に石組みの短い煙道部が付く。袖部は自然石を主体に黄白色粘土が使われる。火床部は床面を15cm掘り込んで構築され、自然石の支脚が直立して検出された。

覆土　暗褐色土が主体で、壁際に褐色土が流入する。炭化物を多く含む層が床面を10cm程度の厚さで覆っており、この層から炭化種子（アワ・ヒエ）が多数検出された。

遺物　出土遺物の大半は、覆土上層から下層にかけて散漫に分布する。遺物は土師器の坏・甕・小壷、須恵器の坏、炭化種子がある。土師器の坏はすべて甲斐型に属するが、甕は甲斐型・相模型に分けられる。土師器の坏（1）は完形に近く、カマド前の床面で出土した。他はすべて破片で、完形に復元できたものはなかった。

器種	土師器							土師質須恵器	須恵器
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	相模型・甕類	武蔵型・甕類	鬼高系・甕類	異系統・甕類	不明細片	壷	坏類
点数	11	17	74	7	3	12	24	1	4
重量(g)	112	137	532	50	33	92	110	4	20
点数比率	7.2	11.1	48.4	4.6	2.0	7.8	15.7	0.6	2.6
(%)	18.3		48.4	4.6	2.0	7.8	15.7	0.6	2.6

異系統・甕類……厚手。外面ハケ目＋磨き、内面ハケ目

第11表　11号住居址出土土器分類表

時期　甲斐型土器編年のⅤⅢ期（9世紀前半）に比定される。

12号住居址（第50図～第52図、写真19・37）

位置　調査区北側のG－2、H－2区に位置し、西2mに11号住居址がある。

形状・規模　平面は不整方形で、一辺3.7mである。カマドを持つ。主軸方位はN—60°—Wo。工場基礎の撹乱により床面の中央部が破壊されるなど、遺存状況は比較的悪い。壁高は60cmである。

床　全般にローム塊を含む貼り床が施され、堅く締まっている。掘り方は、南北壁に沿って溝状、及びピット状に掘り込まれていた。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　西壁の南寄りにある。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井や袖部は遺存しなかった。煙道部は撹乱により失われているが、火床部から急傾斜で立ち上がっていたものと推定される。火床部は床面を10cm掘り込んで構築され、土師器の細片がまとまって出土した。

炉　北壁寄りの床面に1基検出された。平面不整円形で、直径約40cmである。貼り床を掘り込んで構築され、床面からの深さは18cmである。内部に焼土層が堆積し、底面は被熱している。

覆土　暗褐色土が厚く堆積し、壁際から床面に褐色土が流入する。このことから、住居廃絶から一定期間後、短期間に埋め戻されたことが想定される。

遺物　出土遺物は、カマド火床部、及び覆土上層から下層にかけて散漫に分布していた。床面上では、カマド周囲に自然石（10cm～20cm）8点が散在し、炉付近に土師器の細片2点があったのみである。遺物は土師器の坏・坏蓋・甕・鉢・羽釜・小壷、須恵器の坏・甕がある。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。土師器の坏類はすべて甲斐型に属するが、甕類は相模型（15～18）を主体に甲斐型（19・20）が若干数含まれる。墨書土器は1点確認された（3）。

器種	土師器							須恵器		陶器
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	相模型・甕類	武蔵型・甕類	鬼高系・坏類	鬼高系・甕類	不明細片	坏類	甕類	
点数	34	6	94	2	1	3	21	6	1	1
重量(g)	237	175	627	29	12	40	100	190	10	10
点数比率	20.1	3.6	55.6	1.2	0.6	1.7	12.4	3.6	0.6	0.6
(%)	23.7		55.6	1.2	2.3		12.4	4.2		0.6

第 12 表　12 号住居址出土土器分類表

時期　　甲斐型土器編年のＶⅡ期～ＸⅡ期（９世紀初頭～10 世紀代）までの遺物が混在するが、土師器坏からＶⅢ期（９世紀前半）が主体であろう。

13 号住居址（第 53 図～第 58 図、写真 19・20・37）

位置　　調査区北側のⅠ－３、４区に位置し、北 1.5m に 11 号住居址がある。

形状・規模　平面は方形を基調とし、一辺 3.5m である。南側は未調査となっている。カマドを持つ。主軸方位はＮ―52°―Ｅ。工場基礎の撹乱により壁の一部が破壊され、北壁を 20 号土坑で切られているが、遺存状況は比較的良い。壁高は 60cm である。

床　　貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝　認められなかった。

カマド　　東壁の南寄りにある。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井部は遺存しなかった。焚き口から煙道部先端まで 1.0m、両袖部の最大幅 1.2m である。火床部から煙道部にかけて急傾斜で立ち上がり、先端に短い煙道が付く。袖部は黄白色粘土を主体に自然石が補強材に使われる。火床部は床面を 15cm 掘り込んで構築している。

覆土　　暗褐色土が主体である。

遺物　　出土遺物は、カマド崩壊土と火床部、及び覆土下層から床面にかけて分布していた。遺物は土師器の坏・甕（小型・大型）・鉢、須恵器の坏・甕、灰釉陶器の高台坏がある。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。土師器の坏はすべて甲斐型に属するが、甕類は甲斐型を主体に相模型（34～36）が若干数含まれる。

器種	土師器					須恵器		灰釉陶器
	甲斐型・坏類	甲斐型・甕類	相模型・甕類	武蔵型・甕類	不明細片	坏類	甕類	碗
点数	43	145	39	7	7	17	2	1
重量(g)	181	2,825	239	41	65	129	24	68
点数比率	16.5	55.6	14.9	2.7	2.7	6.5	0.8	0.3
(%)	72.1		14.9	2.7	2.7	7.3		0.3

第 13 表　13 号住居址出土土器分類表

時期　　甲斐型土器編年のＸⅠ～ＸⅡ期（９世紀末～10 世紀中頃）に比定される。

第２節　掘立柱建物址

掘立柱建物址２棟が発見された。それぞれ隣接する竪穴住居との併存関係が考えられる。

１号掘立柱建物址（第 59 図、写真 20・21）

位置　　調査区中央付近のＧ－10・11、Ｈ－10・11 区に位置し、北東７ｍに２号住居址がある。５号溝と重複し、南東側は工場基礎の撹乱を受ける。

形状・規模　２間×３間の側柱式建物で、規模は５ｍ四方である。主軸方位は N―55°―E。柱間は 2.0ｍ～2.4ｍであるが、北西側、及び南東側の中央間が 1.0ｍと狭く、Ｐ４・Ｐ５間は幅約 50cm の溝でつながっている。柱穴の平面は不整円形と方形の２種類があり、長軸 50cm～75cm、深さは 35cm～55cm である。Ｐ２は重複が見られる。P11 は規模や覆土が類似するため本遺構に加えた。

覆土　　柱痕跡は認められなかった。

遺物　　Ｐ３の覆土上層より甲斐型坏の小片１点、炭化種子（モモ核）３点が出土した。

時期　　位置関係や形状・規模等から２号住居と同時期、あるいは近い時期に想定される。

２号掘立柱建物址（第 60 図、写真 21）

位置　　調査区北端のＩ－１・２区に位置し、南に隣接して 11 号住居址、南東５ｍに 12 号住居址がある。工場基礎の撹乱を受け、柱穴の一部を欠く。

形状・規模　２間×２間の側柱式建物で、規模は 3.6ｍ四方と推定される。主軸方位は N―60°―W。柱間は 1.8ｍである。柱穴の平面は不整円形で、長軸 50cm～75cm、深さは 30cm～40cm である。

覆土　　柱痕跡は認められなかった。

遺物　　Ｐ３の覆土中から土師器甕の小片２点、Ｐ４の覆土中から土師器の微細な破片１点が出土した。

時期　　位置関係や形状・規模等から 12 号住居と同時期、あるいは近い時期に想定される。

第３節　柱穴列

規模・形態等が類似するピットが一列に並ぶものを柱穴列としたが、掘立柱建物址の可能性もある。

１号柱穴列（第 61 図～第 62 図、写真 22・23）

位置　　調査区中央東側のＣ－９・10、Ｄ－10 区に位置し、東端の柱穴（Ｐ１）は一部調査区外にかかる。Ｐ６は２号住居址（新段階）を切って構築されている。

形状・規模　Ｌ字状に柱穴が配置され、北東から南西に２間（5.6ｍ）、南東から北西に３間（６ｍ）である。北東から南西の軸方位は N―42°―E、南東から北西の軸方位は N―50°―W である。柱間は 2.0ｍ～3.0ｍだが、Ｐ４・Ｐ５間は 1.0ｍと狭く、幅 70cm の溝でつながっている。柱穴の平面は不整楕円形と方形の２種類があり、長軸 0.9ｍ～1.5ｍ、深さは 0.5ｍ～0.9ｍである。Ｐ１・Ｐ３は柱穴列の軸に対し斜めに配置される。なお、南隅Ｐ３の対角線上に位置する４号土坑がピット状を呈するため、全体で掘立柱建物址となる可能性もある。

覆土　　Ｐ１、Ｐ２で柱痕跡が認められた。また、Ｐ４・Ｐ５の覆土中から溝底面にかけての同一レベルで

硬化面が認められた。

遺物　　Ｐ３の覆土より土師器甕の小片３点が出土した。Ｐ４・Ｐ５と溝は発掘調査時に１基の土坑として扱っていたが、これらの覆土より甲斐型甕の小片４点、須恵器甕の小片１点が出土した。

時期　　２号住居址（新段階）を切っていることから、平安時代以降に推定される。

第４節　ピット

53 基を検出した（第 63 図～第 66 図、写真 23・24）。

広範囲に分布し、規模から大小２種類に分類できる。小型ピットは平面円形・楕円形を呈し、長軸 20cm～30cm を中心に最大 40cm、深さは 15cm～30cm を中心に最深 40cm を測る。大型ピットは平面円形・楕円形・不整方形を呈し、長軸 50cm 前後を中心に最大 60cm、深さは 35cm～65cm を測る。２種類のピットは混在して分布し、柱穴列の可能性があるものも含まれる。切り合い関係は、P14 が６号住居址、P16 が２号住居址（新段階）、P47、P50～P52 が４号住居址をそれぞれ切っている。この他、前後関係は不明だが、P20 が１号柱穴列、P11 が１号土坑と重複する。出土遺物は、P36 で１号住居址と接合関係を持つ土師器片が出土したのみである。時期は不明確だが、住居と近い時期か以降に推定される。

第５節　土坑

20 基を検出した。広範囲に分布する。平面形態は円形、方形、長楕円形の３種類に区分できる。出土遺物は土師器の小片が大半で、状況から周囲の流れ込みが多いものと思われる。時期は不明確だが、出土遺物や覆土の状況、及び住居や溝状遺構との切り合い関係から、平安時代以降に推定される。

１号土坑（第 67 図、写真 25）

位置　　Ｄ－６区に位置し、11 号ピットと重複するが、新旧関係は不明。

形状・規模　平面円形で、径 75cm・深さ 16cm。

覆土　　暗褐色土の単層。

遺物　　覆土中から土師器甕の小片４点（古墳時代の鬼高系、平安時代の甲斐型を含む。）が出土した。

２号土坑（第 67 図、写真 25）

位置　　Ｄ－７区。

形状・規模　平面円形で、径 100cm・深さ８cm。

覆土　　暗褐色土の単層。

遺物　　覆土中から土師器６点、灰釉陶器２点が出土した。いずれも小片。

３号土坑（第 67 図）

位置　　Ｄ－７、Ｅ－７区。

形状・規模　平面方形と思われるが、南半分が工場基礎の撹乱を受けている。北東壁の長さ約 90cm・深さ 20cm。

覆土　　暗褐色土の単層。
遺物　　覆土中から土師器小型甕（甲斐型）の破片２点が出土した。

4号土坑（第67図、写真26）
位置　　Ｄ－９区。
形状・規模　平面円形で、径90cm・深さ35cm。北側がピット状に深くなっている。
覆土　　暗褐色土が主体で、壁際に褐色土が塊状に混じる。
遺物　　覆土中から土師器坏１点（甲斐型）・甕３点（古墳時代の鬼高系）が出土した。いずれも小片。

5号土坑（第67図、写真26）
位置　　Ｄ－10区。
形状・規模　平面円形で、径100cm・深さ５cm。
覆土　　暗褐色土の単層。
遺物　　底面で自然石１点（90g）が出土した。

6号土坑（第67図、写真27）
位置　　Ｃ－10区。
形状・規模　平面円形で、径85cm・深さ20cm。
覆土　　暗褐色土の単層。
遺物　　覆土上層の壁際から土師器甕の小片２点が出土した。

7号土坑（第67図、写真27）
位置　　Ｄ－11区。
形状・規模　平面は不整円形で、長軸88cm・短軸80cm、深さ40cm。
覆土　　暗褐色土の単層。
遺物　　覆土中から土師器坏３点（甲斐型）・甕７点（甲斐型３・相模型４）、自然石１点（15g）が出土。いずれも小片である。

8号土坑（第67図）
位置　　Ｄ－10区。
形状・規模　平面が長方形と思われるが、北東側が試掘溝で切られている。北西壁の残存長110cm、深さ５cm。
覆土　　暗褐色土の単層。
遺物　　覆土中から土師器坏の小片１点（甲斐型）が出土した。

9号土坑（第67図）
位置　　Ｅ－８区。
形状・規模　平面は不整楕円形で、北側を１号溝で切られる。長軸は推定約100cm・短軸88cm、深さ60cm。
覆土　　暗褐色土が主体で、褐色土粒・塊を多く含む。
遺物　　覆土中から土師器甕の小片２点が出土した。

10 号土坑（第 67 図）

位置　　G－9 区。

形状・規模　平面は円形と思われるが、東側を 3 号溝で切られている。南北 120cm、深さ 20cm。

覆土　　暗褐色土が主体で、炭粒や白色粘土粒が混じる。

遺物　　覆土中から土師器甕の小片 3 点（甲斐型 2 点、相模型 1 点）が出土した。

11 号土坑（第 67 図、写真 28）

位置　　E－11 区。

形状・規模　平面は長楕円形で、隅丸方形の土坑にテラス状の張り出し部が付く。長軸 1.85m・短軸 1.0m、深さ 30cm。

覆土　　暗褐色土が主体である。

遺物　　覆土中・上層の壁際を中心に、土師器坏 3 点（甲斐型 2）、甕 4 点（すべて甲斐型）の小片、焼成粘土塊 1 点、一部が黒く煤けた自然石 1 点（285g）が出土した。

12 号土坑（第 67 図、写真 28）

位置　　E－10、11 区。

形状・規模　形状は 11 号土坑に類似する。長軸 1.55m・短軸 1.0m、深さ 20cm。

覆土　　暗褐色土が主体である。

遺物　　覆土上層の壁際を中心に、土師器坏 1 点（甲斐型）、甕 6 点（甲斐型 5・鬼高系 1）の小片。

13 号土坑（第 68 図、写真 28）

位置　　I－11 区。

形状・規模　平面は長方形で、長軸 1.5m・短軸 0.55m～0.8m、深さ 25cm。

覆土　　暗褐色土が主体で、下層に褐色土が多く混じる。

遺物　　覆土中から、土師器坏 1 点（甲斐型）、甕 1 点の小片が出土した。

14 号土坑（第 68 図、写真 28）

位置　　K－7 区。

形状・規模　平面は台形状で、長軸 1.3m・短軸 1.0m、深さ 8 cm。

覆土　　暗褐色土の単層、炭粒・焼土粒を多く含む。

遺物　　覆土の壁際で、土師器甕 1 点（甲斐型）の小片が出土した。

15 号土坑（第 68 図、写真 28）

位置　　J－6 区。

形状・規模　平面楕円形で、長軸 76cm・短軸 70cm、深さ 10cm。

覆土　　暗褐色土の単層。

遺物　　なし。

16号土坑（第68図）

位置　　K・L－17区。９号住居址を切って構築されている。

形状・規模　平面は長方形で、長軸1.35m・短軸0.5m～0.6m、深さ50cm。

覆土　　暗褐色土が主体で、焼土粒・白色粘土粒が混じる。

遺物　　覆土上層の壁際から土師器甕８点（鬼高系）、最下層の壁際から須恵器甕１点の破片が出土した。

17号土坑（第68図）

位置　　H－16区。北東側が調査区外にかかる。

形状・規模　平面は長方形、あるいは溝状と思われ、北壁の残存長1.1m・西壁0.68m、深さ５cm。

覆土　　暗褐色土の単層。

遺物　　なし。

18号土坑（第68図）

位置　　D－10区。

形状・規模　平面は台形状と思われるが、全般に壁が削平され、西側が試掘溝で切られるなど遺存状況は悪い。長軸1.3m・短軸1.0m～1.2m、深さ５cm以下。

覆土　　暗褐色土の単層。

遺物　　覆土中から土師器坏２点（甲斐型１）・甕３点（甲斐型２）・破損した自然石１点（995g）、底面で須恵器の甕片１点が出土した。

19号土坑（第68図）

位置　　H－３区。

形状・規模　平面は長方形で、長軸1.28m・短軸0.75m～0.85m、深さ25cm。

覆土　　暗褐色土が主体である。

遺物　　覆土中から土師器坏１点（甲斐型で内面に暗文）、甕４点（相模型を含む）の小片が出土した。

20号土坑（第68図、写真28）

位置　　Ｉ・J－４区。

形状・規模　平面は不整円形で、直径約1.5m、深さ38cm。南東側を13号住居址と重複する。

覆土　　暗褐色土が主体で、下層から壁際に褐色土が堆積する。

遺物　　覆土中から土師器甕４点（甲斐型、相模型を含む）の破片・小片が出土した。

第６節　溝状遺構

10条を検出し、概ね北東から南西方向に軸が揃っている。主な分布域は２号住居周辺と調査区南端の２ヶ所に分けられる。２号住居周辺では５条が散在し、全長は2.3m～6.0mまで様々である。長軸方向の両端の壁が斜めに立ち上がるのに対し、短軸方向の断面形は袋状を呈する特徴がある。一方、調査区南端では４条が集中して検出され、9.5mが最長である。壁は垂直気味に立ち上がるが、７号溝の北東端の壁は斜めに立ち上がる。

覆土は、基本土層第Ⅱ層に由来する暗褐色土に褐色土粒・塊を含み、流水の痕跡は認められなかった。出土遺物は土師器・須恵器・陶磁器・縄文土器・自然石（小石～拳大）などがあり、状況から周囲の流れ込みと思われる。時期は不明確だが、遺構との切り合い関係から、大半が平安時代の住居より新しいものと想定される。

1号溝（第69図）

位置　　D－7、E－7、E－8区。

形状・規模　全長3.6m、幅0.8m～1.0m、深さ40cm。長軸方向N―36°―E。北東端は工場基礎の撹乱を受け、南西端は9号土坑を切っている。短軸方向の断面形は箱型を呈するが、壁の一部はオーバーハング気味に立ち上がる。

覆土　　暗褐色土（粘性やや強く、締まり弱い）が主体となる。

遺物　　覆土中から土師器坏5点・甕28点（甲斐型を主体に相模型・鬼高系が混じる）、焼成粘土塊2点、自然石15点（総重量450g・破損率40%、2点は被熱により赤化）が出土した。

2号溝（第69図、写真29）

位置　　E・F－10区。

形状・規模　全長6.0m、幅0.7m、深さ50cm。長軸方向N―51°―E。短軸方向の断面形は袋状を呈し、長軸方向の両端の壁は斜めに立ち上がる。

覆土　　暗褐色土の単層（粘性やや強く、締まり弱い）で、炭粒・焼土粒を多く含む。

遺物　　覆土中から土師器坏20点・甕57点（甲斐型を主体に相模型・鬼高系が混じる）、須恵器坏4点・甕2点、縄文土器2点、自然石53点（総重量2250g・破損率21%、2点は被熱により赤化や煤け）が出土した。

3号溝（第69図、写真29）

位置　　G－8・9区。

形状・規模　全長3.3m、幅0.6m～0.7m、深さ75cm。長軸方向N―16°―E。10号土坑を切っている。短軸方向の断面形は袋状を呈し、長軸方向の両端の壁は斜めに立ち上がる。

覆土　　暗褐色土（粘性やや強く、締まり弱い）を主体に4層に分けられる。

遺物　　覆土中から土師器甕15点（甲斐型・鬼高系）、須恵器坏4点・甕2点、自然石24点（総重量505g・破損率50%、1点は被熱により赤化や煤け）が出土した。

4号溝（第69図）

位置　　H－10区。

形状・規模　全長2.5m、幅0.6m、深さ8cm。長軸方向N―60°―E。

覆土　　暗褐色土（粘性やや強く、締まり弱い）。

遺物　　覆土中から土師器の小片4点（甲斐型・相模型）が出土した。

5号溝（第69図、写真29）

位置　　H－10・11区。

形状・規模　全長3.6m、幅0.6m～0.7m、深さ30cm。長軸方向N―46°―E。短軸方向の断面形は袋状を呈

し、長軸方向の両端の壁は斜めに立ち上がる。
覆土　暗褐色土（粘性やや強く、締まり弱い）を主体とする。
遺物　覆土中から土師器坏３点・甕７点（甲斐型を主体に相模型が混じる）、自然石４点（総重量 170g・すべて破損）が出土した。

6号溝（第 70 図）
位置　K－16・17 区。南西側が工場基礎の撹乱で失われている。
形状・規模　現存長 4.3m、幅 0.4m～0.6m、深さ 35cm。長軸方向 N―50° ―E。断面形は箱型。
覆土　暗褐色土（粘性、締まり弱い）の単層。
遺物　覆土中から土師器甕８点（甲斐型・鬼高系）、須恵器坏２点、自然石３点（総重量 20g・すべて破損）が出土した。

7号溝（第 70 図、写真 29）
位置　J－16・17、K－17 区。３号住居・９号住居を切る。
形状・規模　全長 9.5m、幅 0.5m～0.65m、深さ 58cm。長軸方向 N―47° ―E。断面形は箱型。
覆土　暗褐色土（粘性、締まり弱い）の単層。
遺物　覆土中から土師器坏２点・甕２点（甲斐型が主体）、須恵器坏１点、灰釉陶器埦１点、陶器擂鉢２点、自然石２点（総重量 20g・すべて破損）が出土した。いずれも小片である。

8号溝（第 70 図、写真 29）
位置　J・K－17、K・L－18 区。７号溝に近接し、南西端は調査区外にかかる。９号住居を切る。
形状・規模　現存長 8.8m、幅 0.5m～0.55m、深さ 45cm。長軸方向 N―53° ―E。断面形は箱型。
覆土　暗褐色土（粘性、締まり弱い）を主体とする。
遺物　覆土中から土師器甕 10 点（甲斐型などが混在）、磁器埦２点、自然石 31 点（総重量 715g・破損率 58%）が出土した。

9号溝（第 70 図）
位置　J－17、J・K－18 区。南西端は調査区外にかかる。北東側は工場基礎の撹乱を受け、失われている。５号住居を切る。
形状・規模　現存長 4.0m、幅 0.55m、深さ 18cm。長軸方向 N―48° ―E。
覆土　暗褐色土（粘性、締まり弱い）の単層。
遺物　なし。

10 号溝（第 69 図）
位置　J・K－６区。
形状・規模　全長 2.4m、幅 0.65m、深さ 15cm。長軸方向 N―50° ―W。
覆土　暗褐色土（粘性弱く、締まり強い）の単層。
遺物　覆土中から縄文土器２点、打製石斧１点（165g・破損）が出土した。

第Ⅳ章　まとめ

第１節　遺物

（１）出土土器について

住居址の出土土器から概ね４時期に区分し、これをもとに編年的な位置付けを考えてみたい。

第１期

10 号住居址。土師器坏・長胴甕・胴張甕、甕の下半部を鉢に転用したものがある。調整にヘラ削りが多用される。７世紀代に比定。

第２期

１号、８号住居址。土師器小型甕・小型球胴甕・長胴甕・胴張甕が出土し、坏類を伴わない。８号住居では土師器小型短頸壷、須恵器甕（転用硯）も出土している。土師器甕類の大半は内外面をナデ仕上げした相模型で占められる。長胴甕は宮久保編年（長谷川 1990）のＣ３類に相当すると思われる。小形甕はＣ２類～Ｃ４類の範疇で捉えることができるが、８号住居址の小型甕（第 40 図１）は底径が 9.8cm と大きく、より古い様相も認められる。現段階では時期区分を宮久保編年Ⅳ期～Ⅴ期に対比する。８号住居址の小型球胴甕（第 40 図２）は横・斜めのヘラ削りが多用された薄手の作りで、いわゆる武蔵型である。鉢に転用されている。小型短頸壷（第 41 図９）はロクロ成形で、底部に回転糸切り痕を残す。精選された胎土や焼成の良さは甲斐型坏に類似する。

第２期の年代は８世紀中葉から８世紀後半代に推定しておきたい。

第３期

11 号、12 号住居址。土師器坏・坏蓋・小形甕・甕・鉢・羽釜、須恵質土師器の小型短頸壷、須恵器坏・甕が出土した。土師器坏類はすべて甲斐型に属す。11 号住居床面出土の坏（第 49 図１）は口径 10.0cm、器高 4.2cm、底径 5.3cm で、他の遺存状況の良い坏も同様の数値を示す。ロクロ成形で、器面調整は体部内面に放射状暗文、底部外周から体部下半をヘラ削りすることから、甲斐型土器編年のⅧ期に相当する。なお、ヘラ削りには体部下半を斜めに削るものと、底部との境を横方向に不規則に削るものとがある。土師器甕類は甲斐型・相模型・武蔵型が見られるが、量的に相模型が主体を占めている。相模型甕は内外面ナデ調整を基本とし、内面に細かなハケ目が残るものもある。甲斐型甕のうち 11 号住居床面出土の小型甕（第 49 図６）は口径 16.8cm と推定され、口縁部は薄く作られる。他の口縁肥厚の鉢や羽釜は混入の可能性が高い。小型短頸壷（第 49 図 11、第 52 図 14）は小片で、焼成は不良である。須恵器坏は推定口径 12.3cm と 15.7cm があるが、いずれも覆土中の出土で混入の可能性が高い（第 52 図 10、11）。墨書土器は１点（第 52 図３）だが、判読不能である。

第３期の年代は９世紀前半代と推定される。

第４期

２号（新・旧）、４号～７号、13 号住居址。この他、３号、９号住居址も本期に該当する可能性がある。土師器坏・皿・小形甕・甕・鉢・羽釜、須恵器坏・甕・壷、灰釉陶器高台碗・甕・壷が出土した。土師器坏類・甕類共に甲斐型が圧倒的に多数を占める。坏はロクロ成形で、器面調整は底部から体部下半をヘラ削りし、口縁部は肥厚する。口径は概ね 12cm～15cm の範囲に収まるが、13cm 前後のものが多い。このことから甲斐型土器編年のＸⅠ期～ＸⅡ期に比定できる。皿は底部の回転糸切り痕の一部が未調整のまま残るものが多い。口径は概ね 12cm～13cm の範囲に収まる。甕は肥厚口縁で、内外面にハケ目調整が残る。２号住居（旧）の床面資料である須恵器坏（第 18 図 23）は口径 13.3cm、器高 4.2cm、底径 5.0cm で、底部に回転糸切り痕を残す。南多

摩窯Ｇ５窯式に比定できる。墨書土器は多く、判読できたもので「作」？・「基」（２号新）、「本」・「丈」（２号旧）、「仁」（５号）、「上」・「基」（７号）がある。

第４期の年代は９世紀末～10 世紀中頃と推定される。

以上、７世紀～10 世紀中頃までの土器変遷を確認したが、８世紀前半代と９世紀後半代は資料が乏しく様相が不明確である。土師器の変遷を見ると、坏類は第２期の様相が不明だが、第３期から第４期に甲斐型が主流を占めた。相模型坏は各期を通じ破片１点のみであった。これに対し、甕類は第２期で相模型が主流を占め、その傾向は第３期まで続くが第４期には甲斐型で占められる。武蔵型甕は各期を通し数が少なく客体的存在である。このように、第２期から第４期（８世紀後半代～10 世紀中頃）にかけて相模型土器から甲斐型土器への転換が見られ、甲斐型坏が甕に先行して主流を占める第３期（９世紀前半代）が転換の画期と捉えられる。

（２）銅製鉸具について

８号住居址の床面から１点出土した。帯金具のバックル部分に当たるが、単体での出土で他に関連する遺物はないため銙帯、馬装のいずれに伴うものかは不明である。同種の遺物は山梨県東部地域（古代甲斐国都留郡）で初めての出土である。刺金が横軸と一体となってＴ字形になる形態であるが、このような銅製鉸具は山梨県外の各地で確認され、いずれも同形同大であることや、大半が集落跡や建物群から単体で出土していることが指摘されている(1)。鉸具の時期については、製品として本来の機能を有した時期から住居内に遺棄あるいは遺失された時点に時間差が想定されることから、８号住居址の出土土器で想定した８世紀後半代よりさかのぼる可能性もあろう。

上野原市域では古墳時代から奈良・平安時代の遺跡が多く確認されている。とくに上野原台地とその近隣では、塚場の古墳群や、古墳時代の鉄製直刀３点の出土例が報告されている他(2)、狐原遺跡で古墳時代前期から後期にかけての集落址が発見されるなど、古墳時代に一定の権力基盤が存在していたことを想定させる。一方、上野原市を含めた山梨県東部地域は古代の行政区画で甲斐国都留郡に属し、桂川沿いに複数の郷が点在していたことが知られている。大間々遺跡の所在する上野原台地は古郡郷の比定地とされ、その郷名は都留郡衙の移転に伴う初期郡衙の遺称と考えられているが、これを立証する考古学的知見は得られていない。

このように古墳時代から律令期にかけて、大間々遺跡周辺は桂川流域で重要な拠点地域だったことが考えられる。銅製鉸具の発見は、在地首長層あるいは律令官人の存在を想起させる遺物として注目されるが、この他に官衙との関連を示す遺構・遺物は確認されていない。

（１）冨永里菜「馬具の帯金具」『銙帯をめぐる諸問題』奈良文化財研究所 2002

（２）塚場の古墳群は上野原台地西方に位置するが、現在宅地化され詳細は不明。鉄製直刀は上野原台地と桂川に挟まれた新田地区の無名墳で出土したとされているが、詳細な出土地は特定できていない（『山梨県史』資料編２　原始・古代２考古（遺構・遺物）1999）。

第２節　遺構

（１）竪穴住居址について

先の時期区分から竪穴住居址の特徴を概述する。住居址は 13 軒だが、さらに周囲に広がるものと思われる。

第１期

１軒のみである（10 号）。平面長方形（一辺２ｍ～３ｍ）で小型。主軸は北東方向。カマドを持つ。

第２期

２軒が隣接して立地する（１、８号）。いずれも平面長方形（一辺４ｍ～4.5ｍ）で比較的大型。主軸は北東

方向。カマドは石組・粘土に土器を補強材として用いる（８号)。出土遺物は銅製の鈸具（１号)、仏鉢状の土器や小型短頸壷（８号）があり特異性が見られる。

第３期

２軒が隣接して立地する（11、12 号)。11 号住居址は平面長方形（一辺３m前後）の小型で主軸は北方向である。12 号住居址は平面方形（一辺 3.7m）の中型で、カマドと炉が付設される。主軸は北西方向で、隣接する２号掘立柱建物址を伴う可能性がある。両住居は規模や位置関係から造営時期に時間差が考えられる。カマドは石組（11 号）がある。

第４期

８軒が該当し（２号新・旧、３号～７号、９号、13 号)、最も多い。規模別に大・中・小に分類できる。

大型は２号住居址が該当する。本住居は建て替えによる拡張が見られ、旧段階で一辺 4.5m、新段階で一辺 5.6mを測る。平面方形で主軸は北東方向である。遺構は壁柱穴が巡り、他の住居に見られない特異な構造であった。新段階では７号住居に面した南東壁に柱穴のない空間があり、ここを出入口と想定できる。旧段階ではカマド・炉・床下粘土土坑を伴うが、新段階では大きな焼土遺構が見られるのみとなる。

中型は５軒（３号、４号、７号、13 号）が該当する。平面は長方形・方形で一辺３m～４mを測る。主軸は北西か北東方向である。カマドは石・粘土造りが多い。４号住居址は炉を伴う。

小型は２軒（５号、６号、９号）が該当する。平面は方形基調・不整台形で一辺２m～３mを測る。主軸は北西か北東方向である。カマドは石・粘土造りで、９号住居址は２基のカマドを伴う。

住居の分布は主に調査区東側と南側に偏在し、各規模の住居が混在して一群を形成する。大型の２号住居址を除き、重複なく分布する。東側の一群は大・中・小型の住居からなり、大型の掘立柱建物を含めて相互に関連性がある。南側の一群は中・小型の住居からなる。この他、中型の住居１軒が調査区北側に位置する。

（２）８号住居址について

この住居は第２期に属し、焼失住居である。床面に残された土器はすべて甕類（小型甕、転用鉢、長胴甕、胴張甕）で、他に須恵器甕の転用硯がある。坏・皿といった食膳具はない。転用鉢は小型球胴甕の中位以下を用いたもので、短く内湾する上端部や尖り気味の底部など形態的な特徴は仏鉢に類似する。住居は覆土の状況から焼失後に短期間で埋め戻された可能性が強く、覆土上面で検出された土師器の小型短頸壷は住居廃棄に伴う儀礼的行為に用いられた可能性も考えられる。他住居にない４本柱穴構造や竪穴の廃棄過程、偏った器種構成は住人の特異性を反映したものとも考えられ、仏教関連遺物（仏鉢状の土器や小型短頸壷）や転用硯から僧の関わりも想定できる。

（３）２号住居址を中心とした建物群について

第４期の２号住居址、７号住居址、１号掘立柱建物址は調査区東側で一群を形成し、相互に関連性が指摘できる。２号住居址と７号住居址は出土遺物に接合関係が認められることや、墨書土器に同一文字「基」が使われること、モモ核が１号掘立柱建物址とともに出土していることが挙げられる。さらに２号住居址と１号掘立柱建物址は規模や位置関係で関連が強い。このことから、大型の竪穴住居と掘立柱建物に中（小）型の竪穴住居が付随する建物構成であった可能性が指摘でき、周囲に遺構の乏しい空白域が存在することから、他の住居と一定距離を保って構築された、一般農民層と異なる有力者の居宅であった可能性も考えられる。

つぎに各遺構の機能について考えてみたい。２号住居址は、カマドと炉を併設する空間から大きな焼土遺構を持つ広い空間に改築されていて、炉を中心とした何らかの作業機能が拡充されたことを想定させる(1)。そ

して、改築によって失われた居住及びカマドによる炊事機能を補完するため、大型の掘立柱建物や、カマドを持つ中（小）型の竪穴住居が構築されたと考えられないだろうか。すなわち、住居と作業場を兼ねた竪穴建物から、住居（掘立柱建物）、作業場（大型竪穴）、炊事場（中型竪穴）に機能分化したことが想定される(2)。

２号住居址の廃絶後、これに一部重複して１号柱穴列が構築される。１号柱穴列は柱間の一部が溝でつながる点で１号掘立柱建物址と同じ系譜で捉えられ、２号住居址の廃絶後は掘立柱構造を主体とした建物群に移行したものと思われる。

以上、説明に強引さは否めず、さらに分析が必要だろう。先学諸氏のご批判・ご指導を賜われば幸いである。

（１）炉を伴う竪穴住居址は大間々遺跡で第３期・第４期に３軒確認されている。こうした建物の機能については、炉を必要とする種々の生産活動が行われていたものと推測されているが（2005 加藤他）、大間々遺跡では物証が少なく不明確である。

（２）類例に、大間々遺跡の下流約５ｋｍに位置する神奈川県嵯峨遺跡がある。平安時代の集落址で、10 世紀前半の作業場（壁柱穴構造の竪穴）と住居（カマドを持つ竪穴）が２軒１単位として報告されている（1987 滝澤他）。

第３節　炭化種子について

遺構の覆土を水洗選別した結果、食用とされる炭化種子が第３期・第４期（９世紀前半～10 世紀中頃）の竪穴住居址から多数検出された（種子の分析結果は付篇参照）。

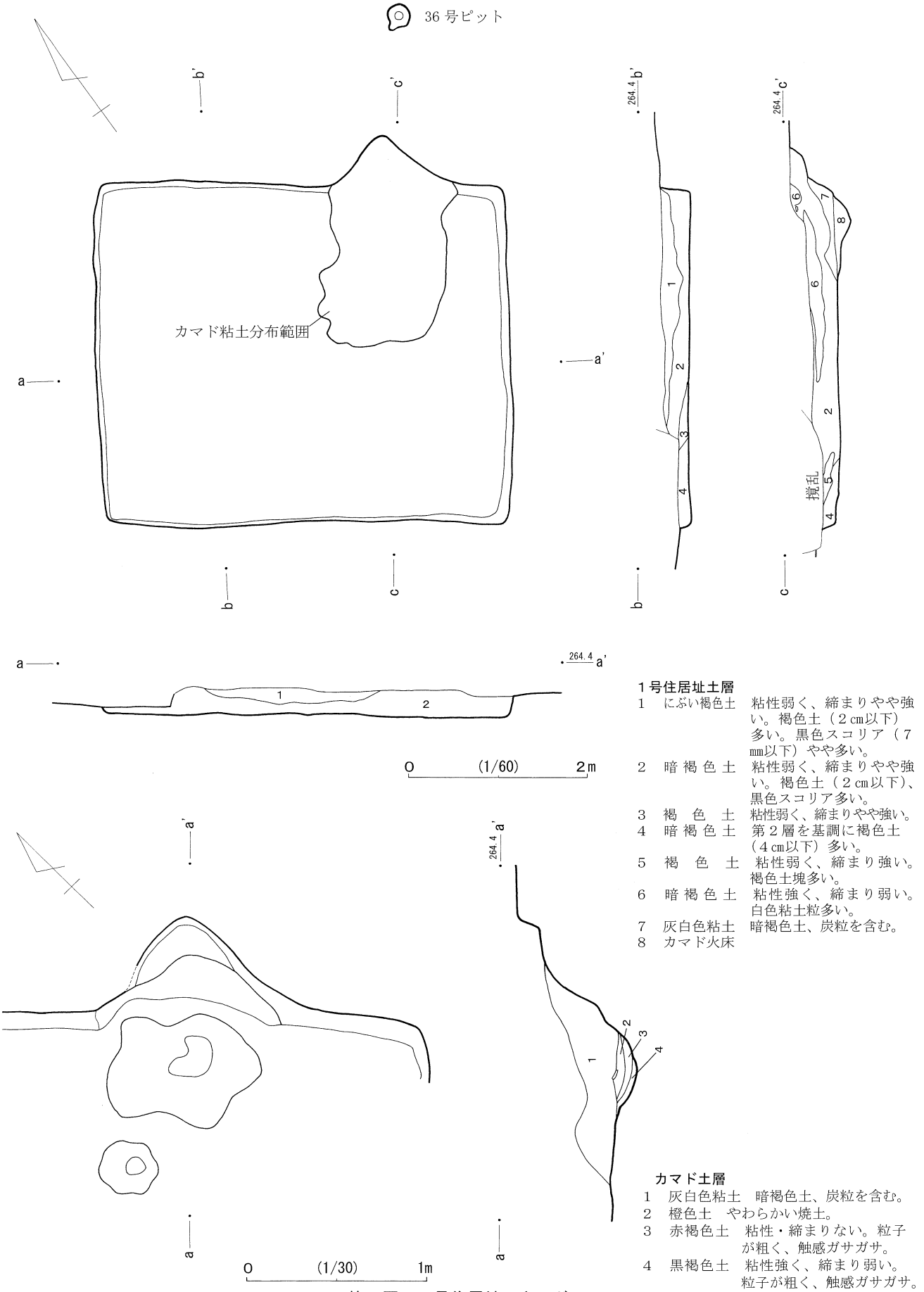
特に多いのがアワ・ヒエといった雑穀類で、次いでコムギ等のムギ類が見られる。イネはごくわずかであった。これらは主にカマドや炉の内部から検出されていて、２号住居址（旧）の床焼土面から多量に検出されたアワ・ヒエは、カマドの清掃あるいは解体処理に伴い集積された可能性が高い。水田の少ない山間地において、雑穀類やムギ類が主要な栽培植物であったことをうかがわせる。

モモは、第４期の２号・７号住居址及び１号掘立柱建物址から出土した。住居ではカマド周囲や炉の内部、掘立柱建物では柱穴の内部から検出されている。大間々遺跡におけるモモの用途は不明であるが、大型建物群に限定した出土で雑穀やイネ類とは対照的な有り方を示すことから、一般的な食糧というよりは、一定以上の地位の者が入手できた稀少品（食用・薬用等）、あるいはモモに古来より邪気を払う呪力があるとする考えがあることから祭祀的行為に用いられた可能性は想定できよう。

第４節　まとめ

大間々遺跡の所在する上野原台地は、古代都留郡の古郡郷、そして都留郡衙の移転に伴った初期郡衙が所在した地域とも考えられていた。また、延暦 16 年（797）の甲相国境論争と深い関わりが指摘される地域でもあった。しかし遺跡発掘調査の事例が少なく、考古学的な立証が永い間困難な状況が続いている。このような中で行われた大間々遺跡の発掘調査で、台地における古代集落址の様相がわずかながら明らかになってきた。

大間々遺跡では、９世紀前半頃を境に相模型から甲斐型へ土器の転換が認められ、当地における甲斐国の影響力が強まっていく過程を示している。また、８世紀代に律令官人や僧など特異な階層の存在が想定される他、９世紀末から 10 世紀前半頃に比較的大規模な建物群が出現するなど、一般農民層だけにとどまらない多様な階層社会が当地に形成されていたことをうかがわせる。周辺の調査事例の蓄積が望まれるところである。



1号住居址土層

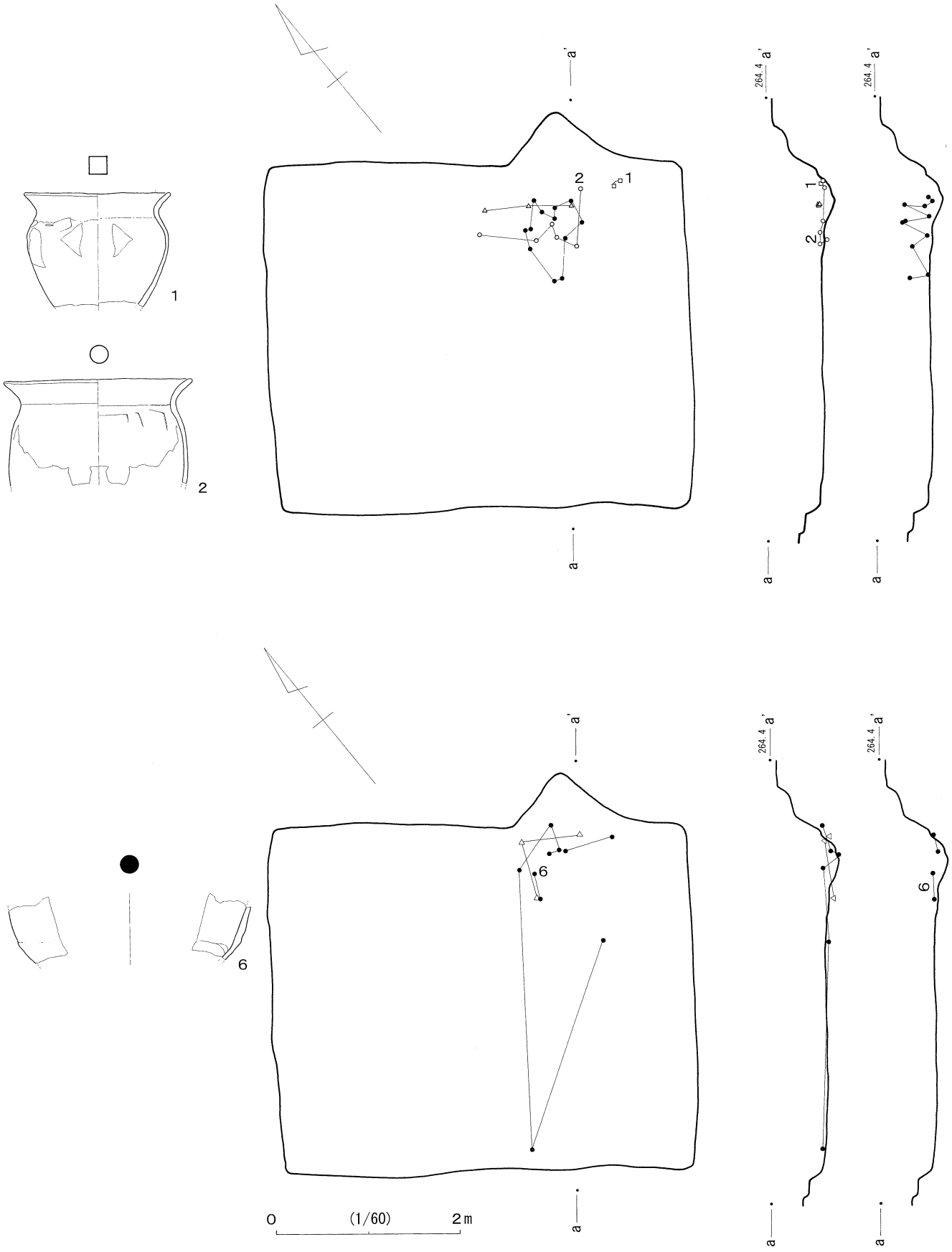
1 にぶい褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。褐色土（2㎝以下）多い。黒色スコリア（7㎜以下）やや多い。
2 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。褐色土（2㎝以下）、黒色スコリア多い。
3 褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。
4 暗褐色土 第2層を基調に褐色土（4㎝以下）多い。
5 褐色土 粘性弱く、締まり強い。褐色土塊多い。
6 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。白色粘土粒多い。
7 灰白色粘土 暗褐色土、炭粒を含む。
8 カマド火床

カマド土層

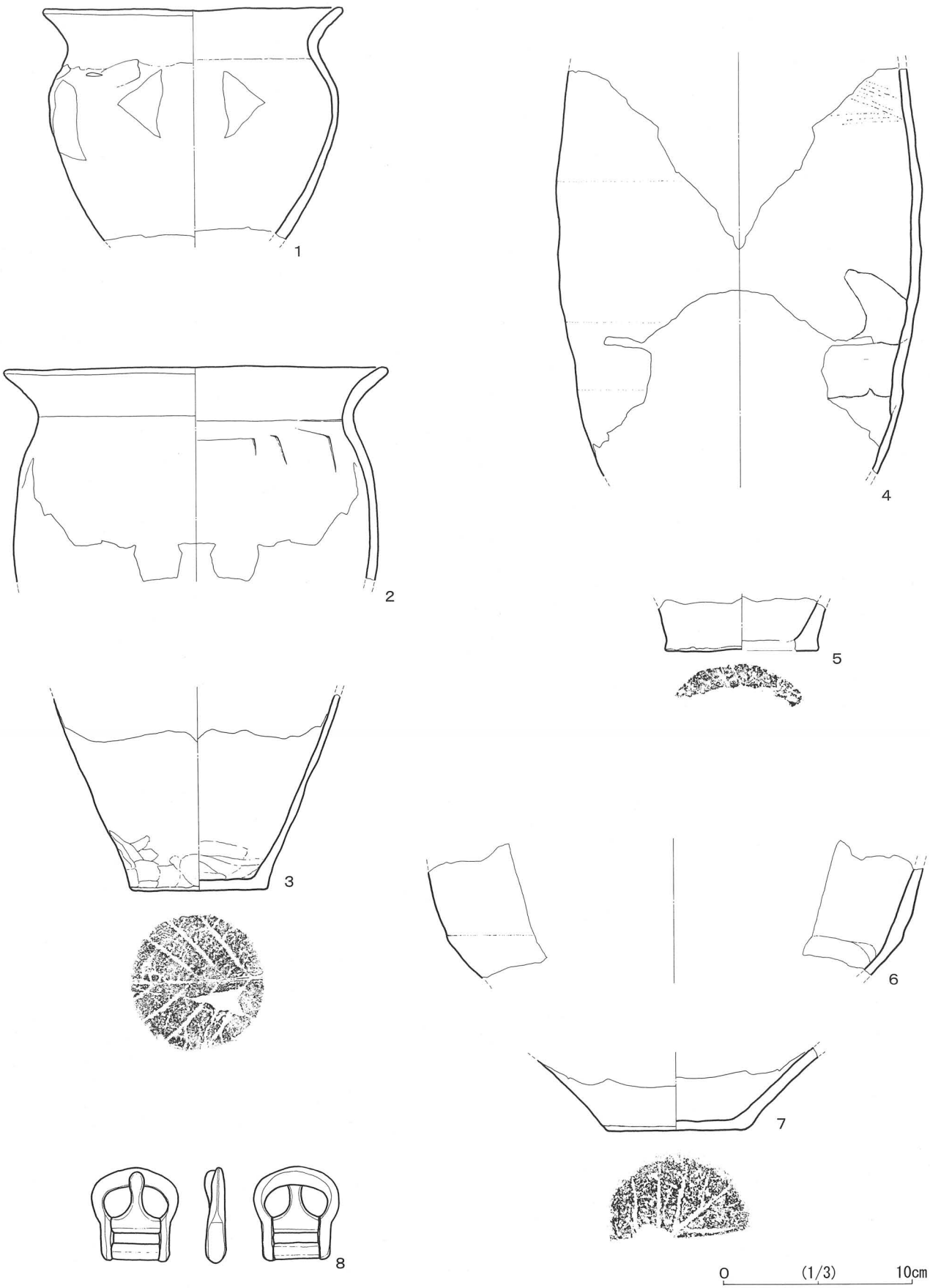
1 灰白色粘土 暗褐色土、炭粒を含む。
2 橙色土 やわらかい焼土。
3 赤褐色土 粘性・締まりない。粒子が粗く、触感ガサガサ。
4 黒褐色土 粘性強く、締まり弱い。粒子が粗く、触感ガサガサ。

第5図 1号住居址，カマド

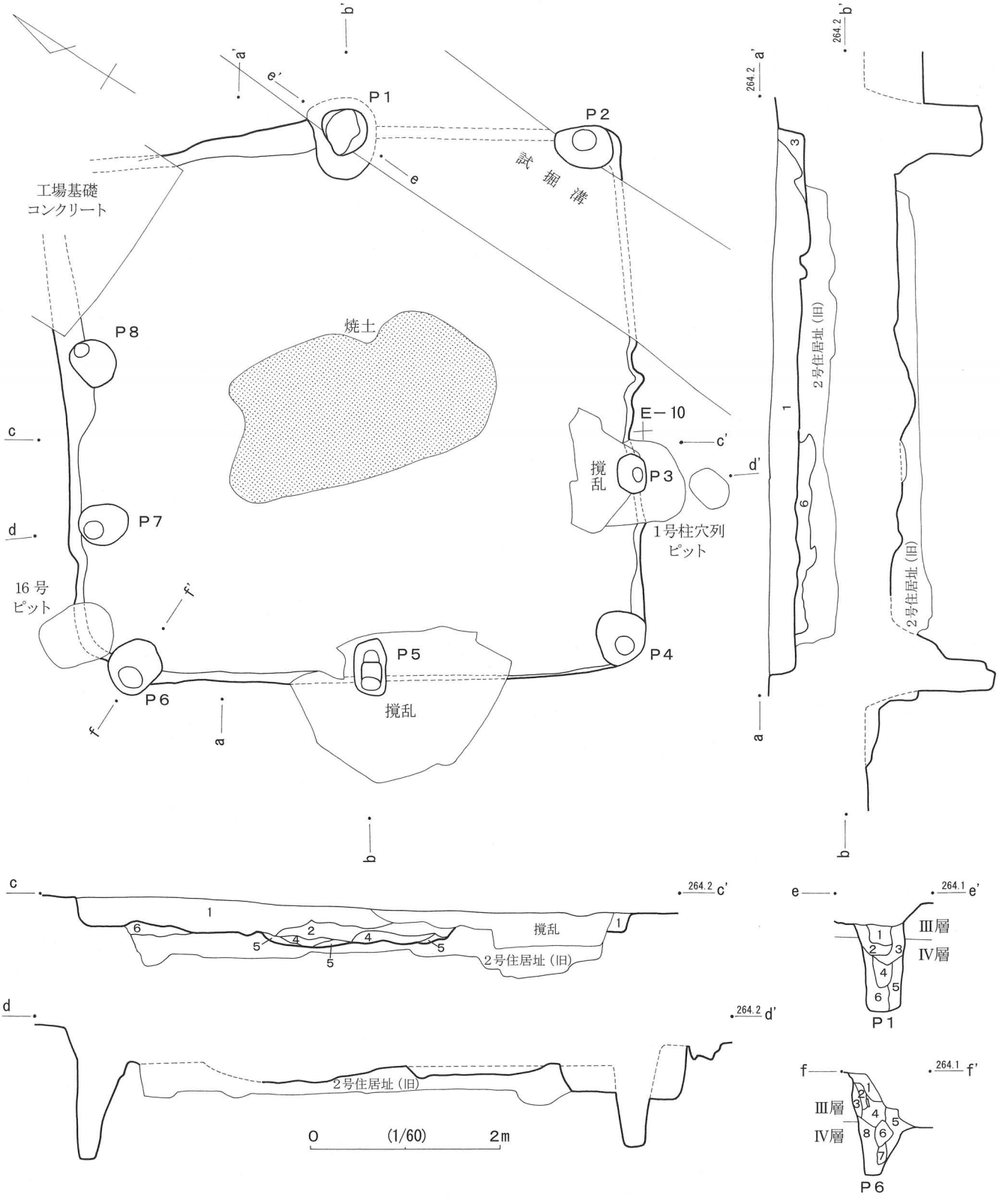
第６図　１号住居址　遺物分布図，接合図－１－



第７図　１号住居址　遺物接合図－２－



第８図　１号住居址　出土遺物



2号住居址（新）土層

1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒・炭粒・褐色土粒やや多い。黒色スコリア多い。
2　暗褐色土　第1層を基調に焼土粒多い。
3　褐色土
4　橙色土　焼土。
5　暗褐色土　粘性強く、締まりやや強い。触感ざらつく。焼土粒・炭粒・黒色スコリア・灰白色土粒やや多い。
6　褐色土　黄褐色土多い。貼り床。

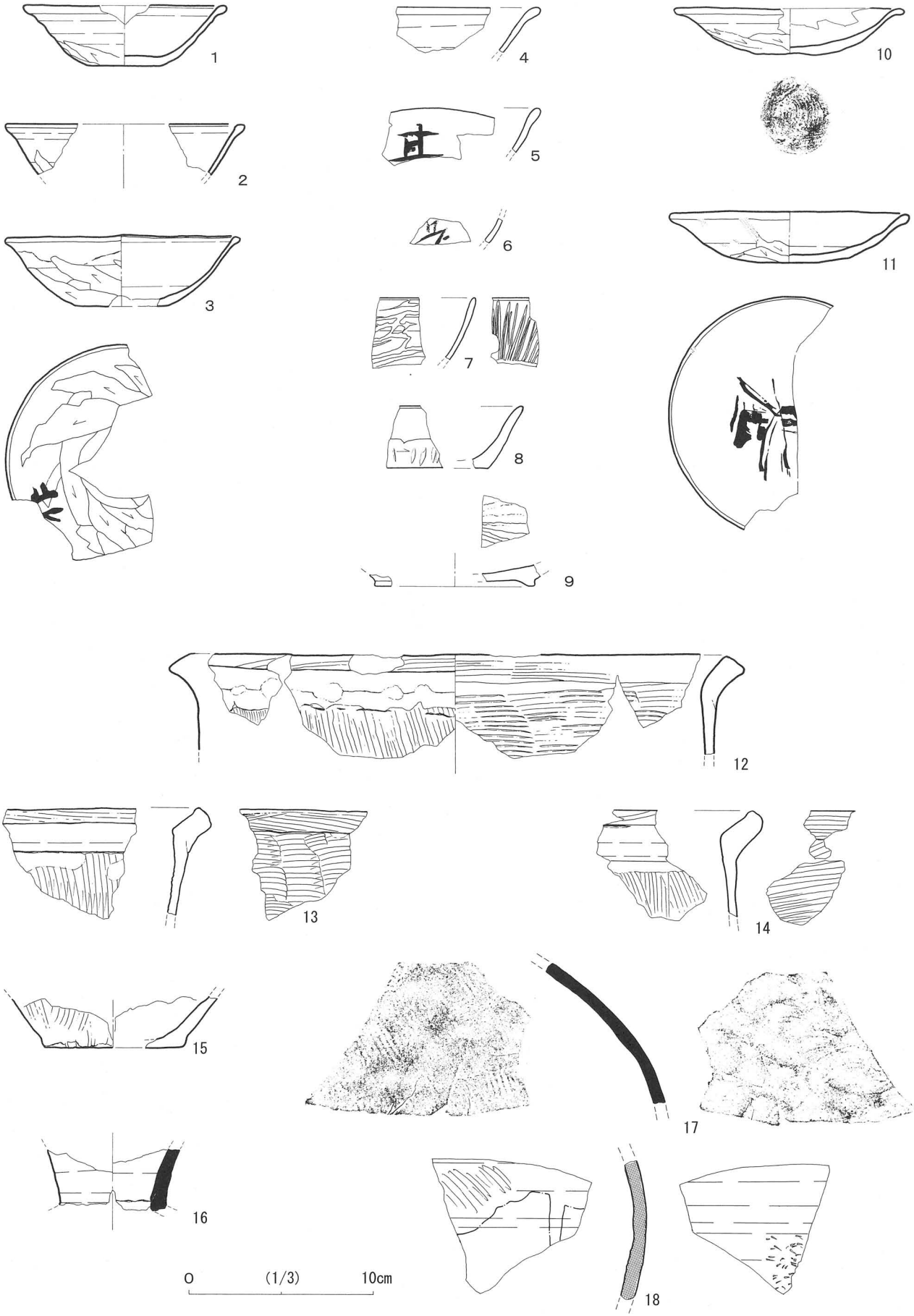
P1土層

1　黒褐色土　粘性、締まりやや強い。炭粒（1cm以下）多い。褐色土粒・白色粘土粒やや多い。
2　黒褐色土　第1層と同質だが、炭粒を含まない。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。白色粘土粒多い。
4　灰黄褐色土　締まり弱い。触感パサパサ。白色粘土粒多い。
5　灰黄褐色土　第4層を基調に硬質ローム塊（2～3cm）含む。
6　灰黄褐色土　締まり弱い。触感パサパサ。

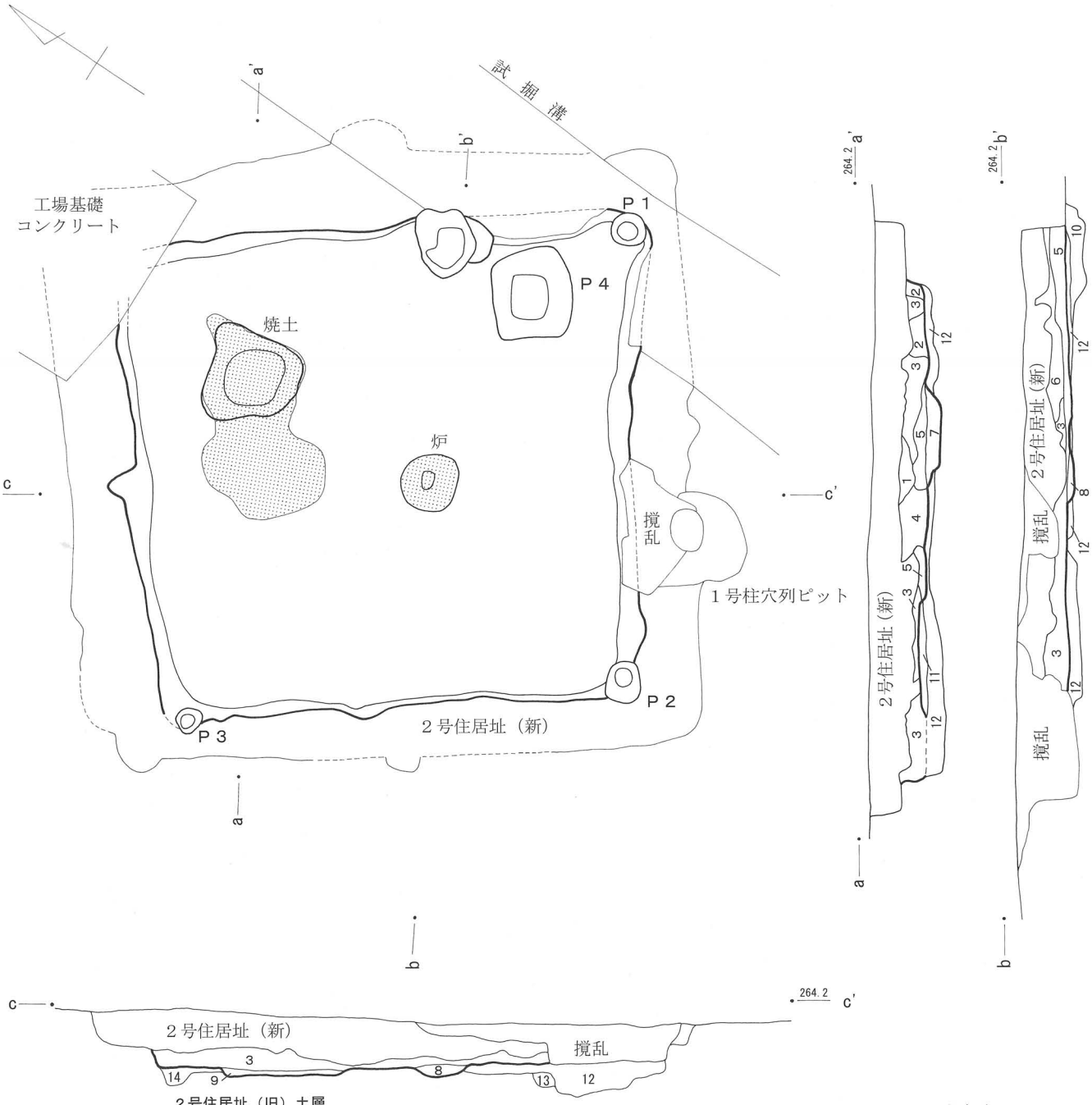
P6土層

1　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。炭粒少量。
2　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。焼土粒少量。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。触感パサパサ。
4　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。触感パサパサ。
5　褐色土　粘性強く、締まりやや強い。ローム塊（2cm以下）多い。
6　褐色土　粘性強く、締まりやや強い。ローム塊（2cm以下）多い。
7　褐色土　硬質ローム塊。
8　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。触感パサパサ。

第9図　2号住居址（新）



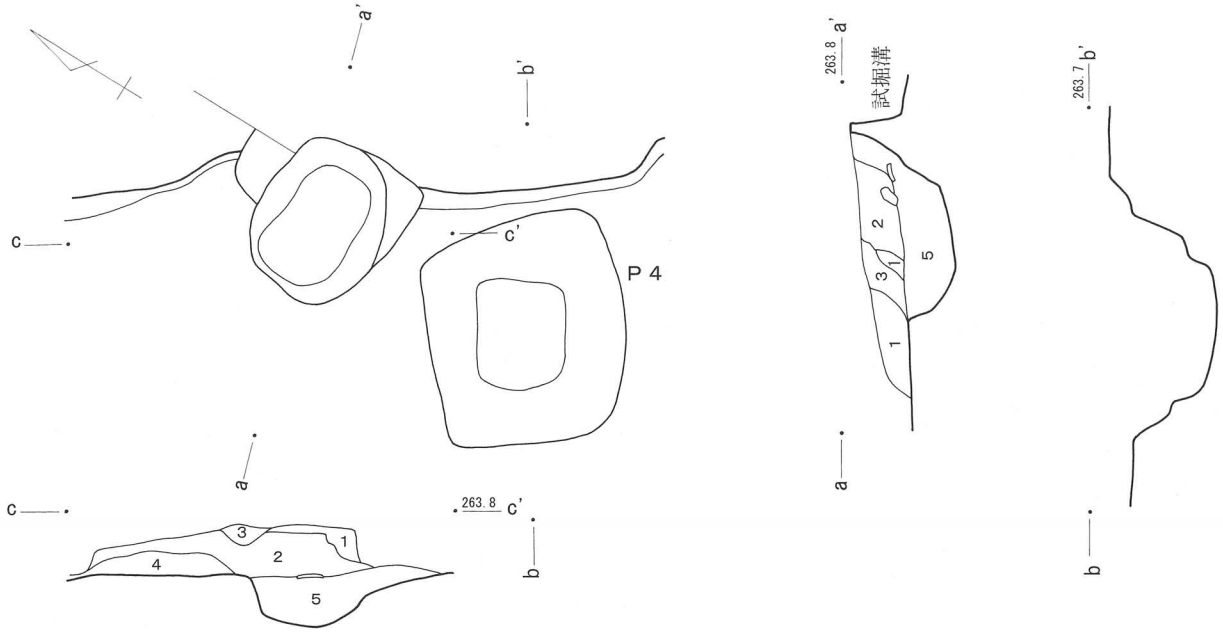
第 10 図　２号住居址（新）出土遺物



2号住居址（旧）土層

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・灰白色土粒多い。
2　褐　色　土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土・黄褐色粘土粒多い。
3　褐　色　土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土多く、黄褐色粘土粒やや多い。
4　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒多い。
5　にぶい褐色土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒、及び黄褐色粘土粒・塊（2cm以下）多い。土器細片多い。
6　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒・炭粒・黒色スコリアやや多い。灰白色土粒多い。
7　土坑覆土
8　炉　覆　土
9　にぶい褐色土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒、及び黄褐色粘土粒・塊（2cm以下）多い。
10　黒褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒少量。
11　褐　色　土　粘性、締まり強い。貼り床。
12　暗褐色土　粘性、締まりやや強く、上面は硬質。褐色土・ローム塊多い。貼り床。
13　褐　色　土　粘性弱く、締まり強い。焼土粒・白色粘土粒・暗褐色土粒多い。
14　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。炭粒・白色粘土粒少量。

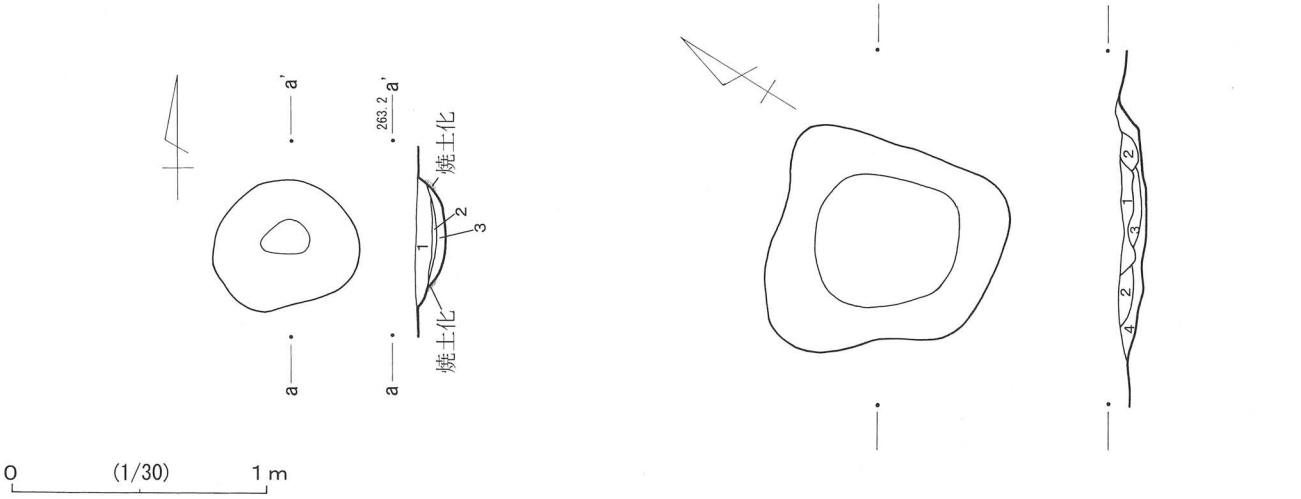
第11図　2号住居址（旧）



カマド土層

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。白色粘土粒・塊（2cm以下）多い。焼土粒・炭粒やや多い。
2　灰褐色土　粘性強く、締まり弱い。白色粘土粒、及び暗褐色土粒・塊（2cm以下）多い。焼土粒・炭粒少量。
3　橙褐色土　粘性強く、締まり弱い。第1層を基調に、軟質ローム塊多く混じる。
4　灰褐色土　締まりやや強い。第2層を基調にローム塊・小石やや多く混じる。
5　橙 色 土　粘性強く、締まり弱い。焼土。

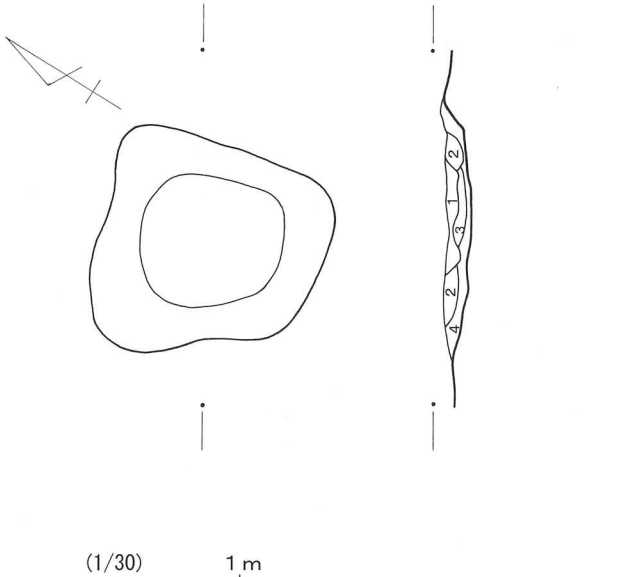
カマド，P４



炉土層

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。軟質、及び硬質のローム塊（2cm以下）が多く混在する。炭粒やや多い。
2　橙 色 土　第3層上面が焼土化。
3　褐 色 土　粘性、締まり弱い。粒子が粗く、触感ガサガサ。炭粒やや多い。

炉

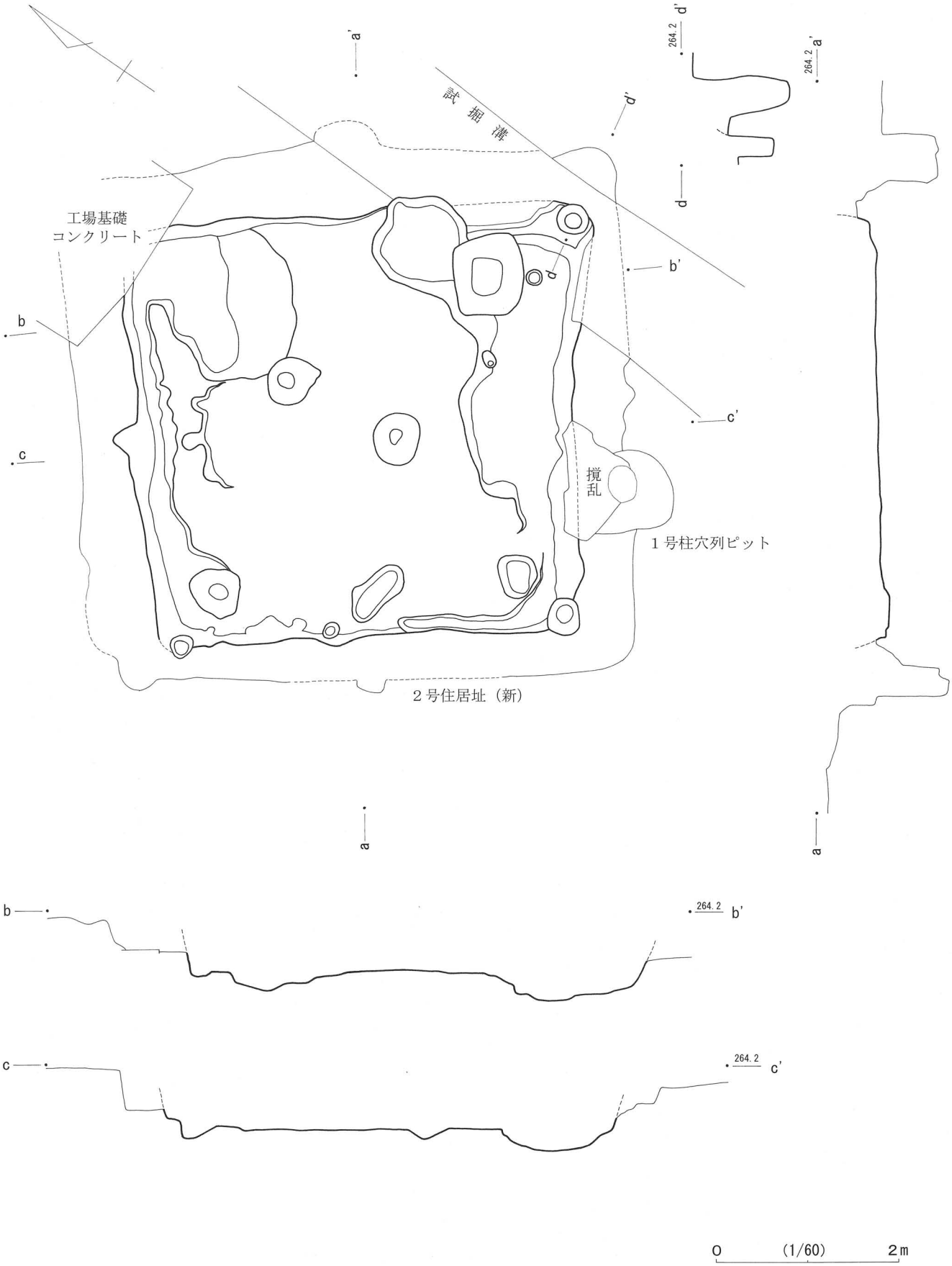


土坑土層

1　黄白色粘土
2　灰黄褐色土　粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土、焼土、褐色土が混在する。
3　橙 色 土　硬質の焼土。
4　黒 褐 色 土　粘性弱く、締まりやや強い。褐色土粒を含む。触感ざらつく。

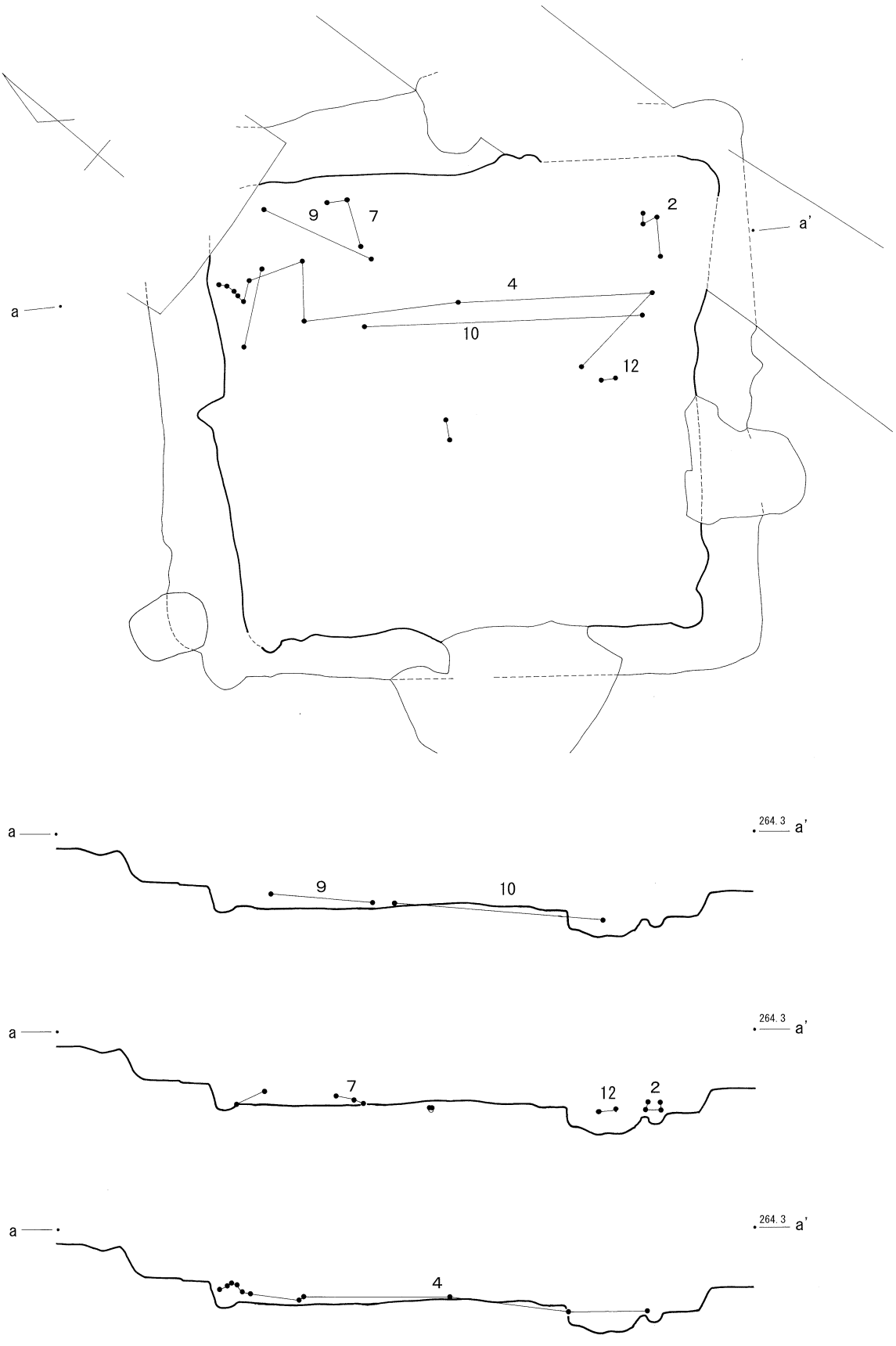
土坑

第12図　２号住居址（旧）カマド，炉，土坑

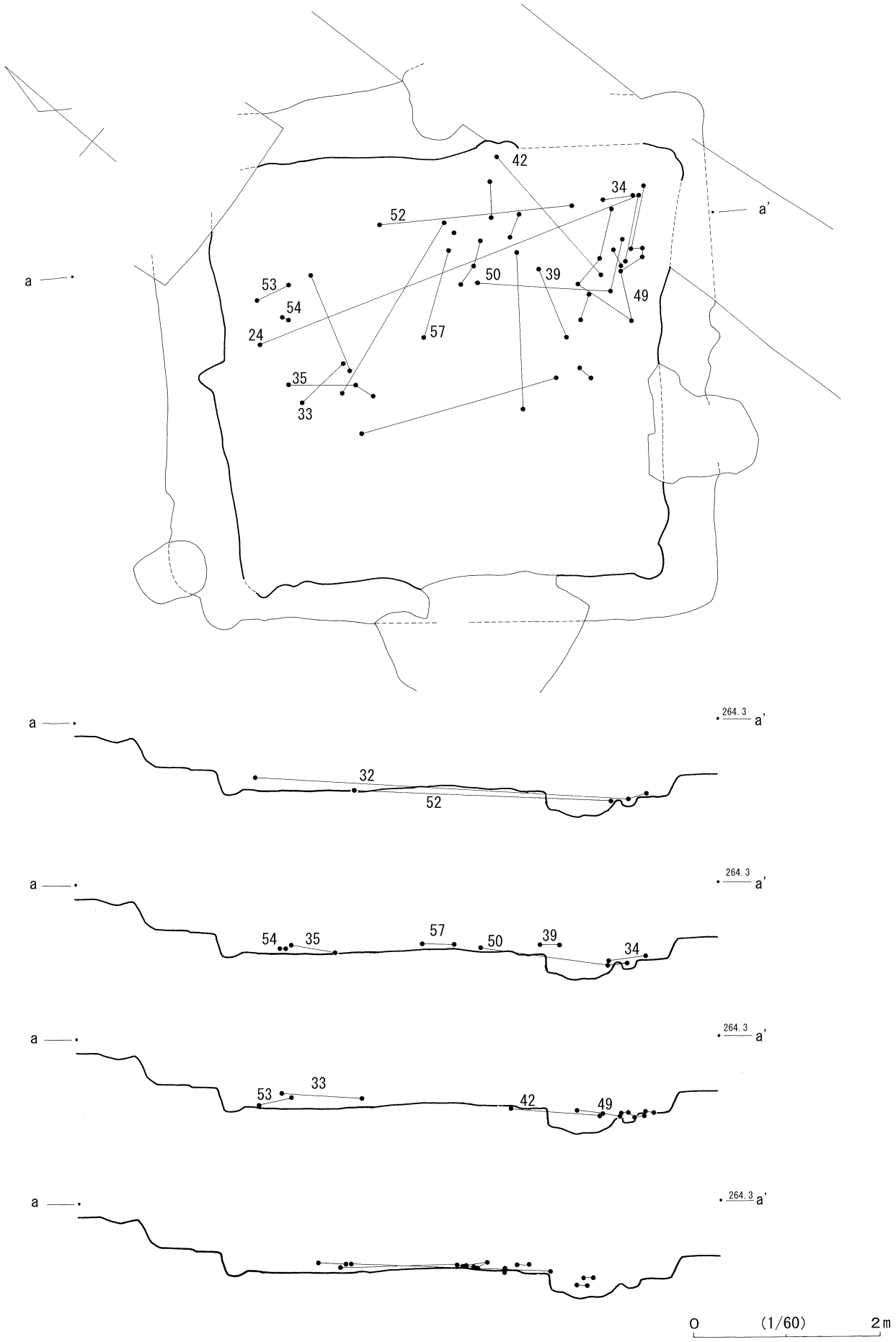


第13図　2号住居址（旧）掘り方

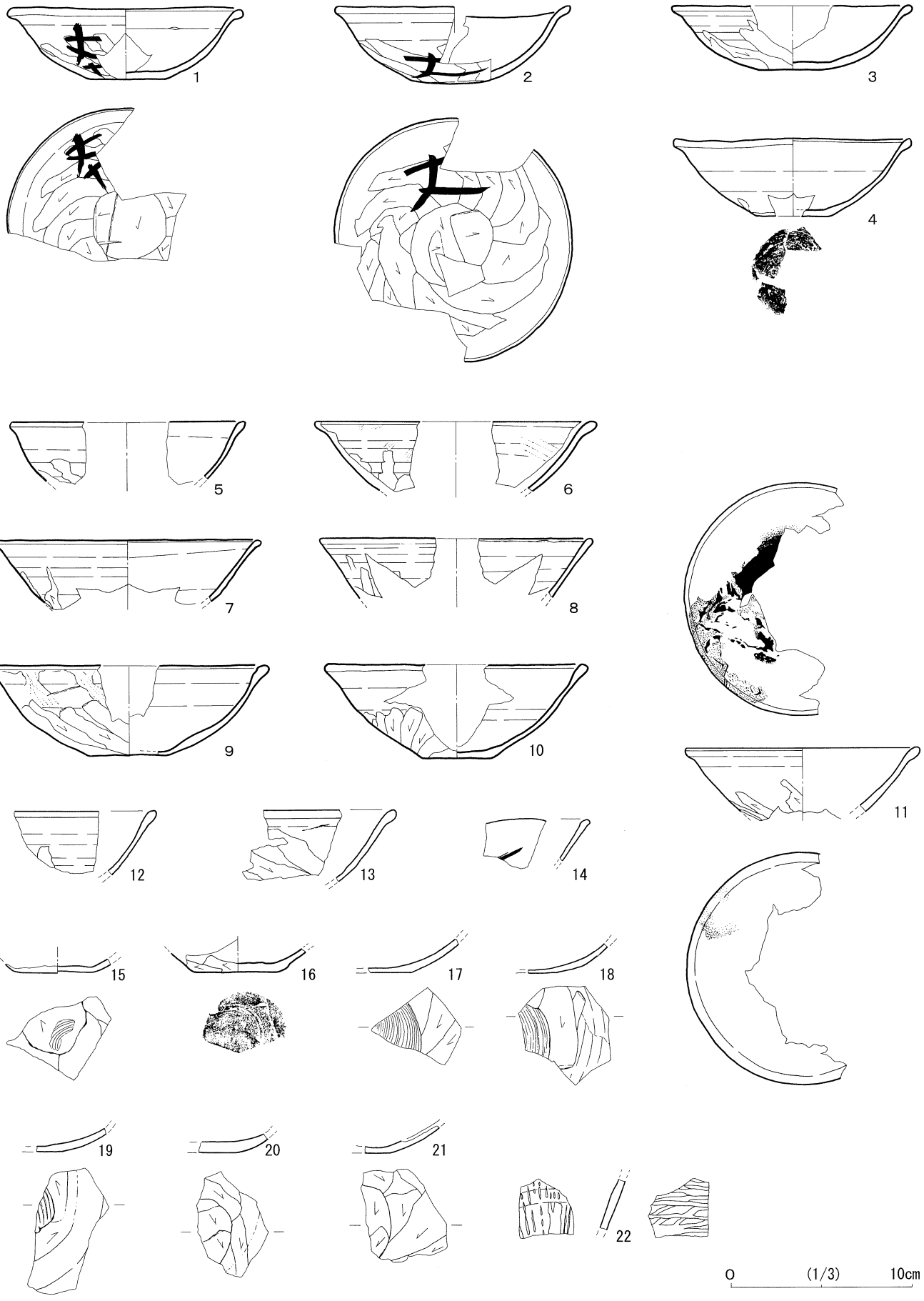
第 14 図　２号住居址（旧）遺物分布図



第 15 図　２号住居址（旧）遺物接合図－坏類－　　0　(1/60)　2m

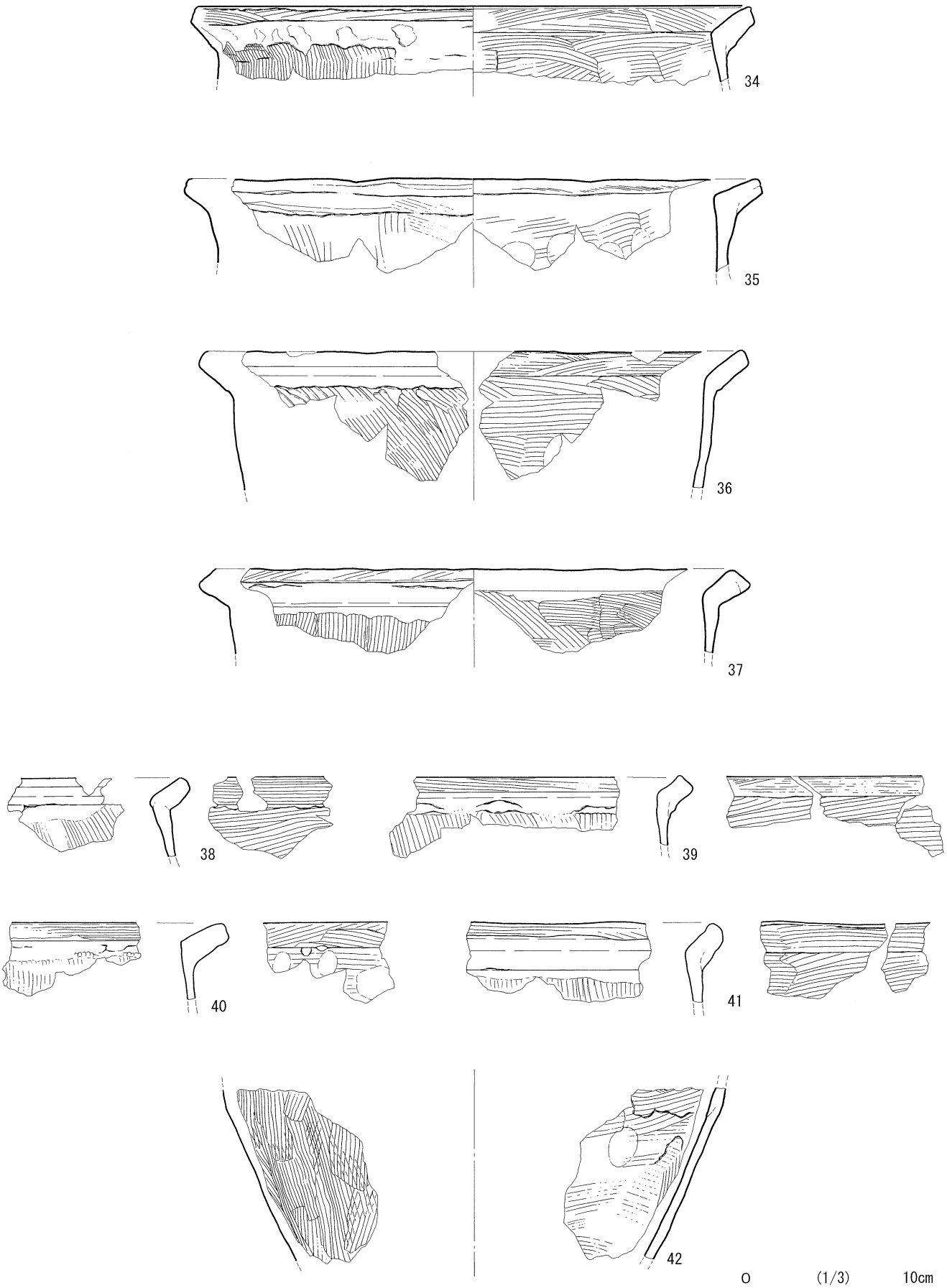


第16図　２号住居址（旧）遺物接合図－甕類－

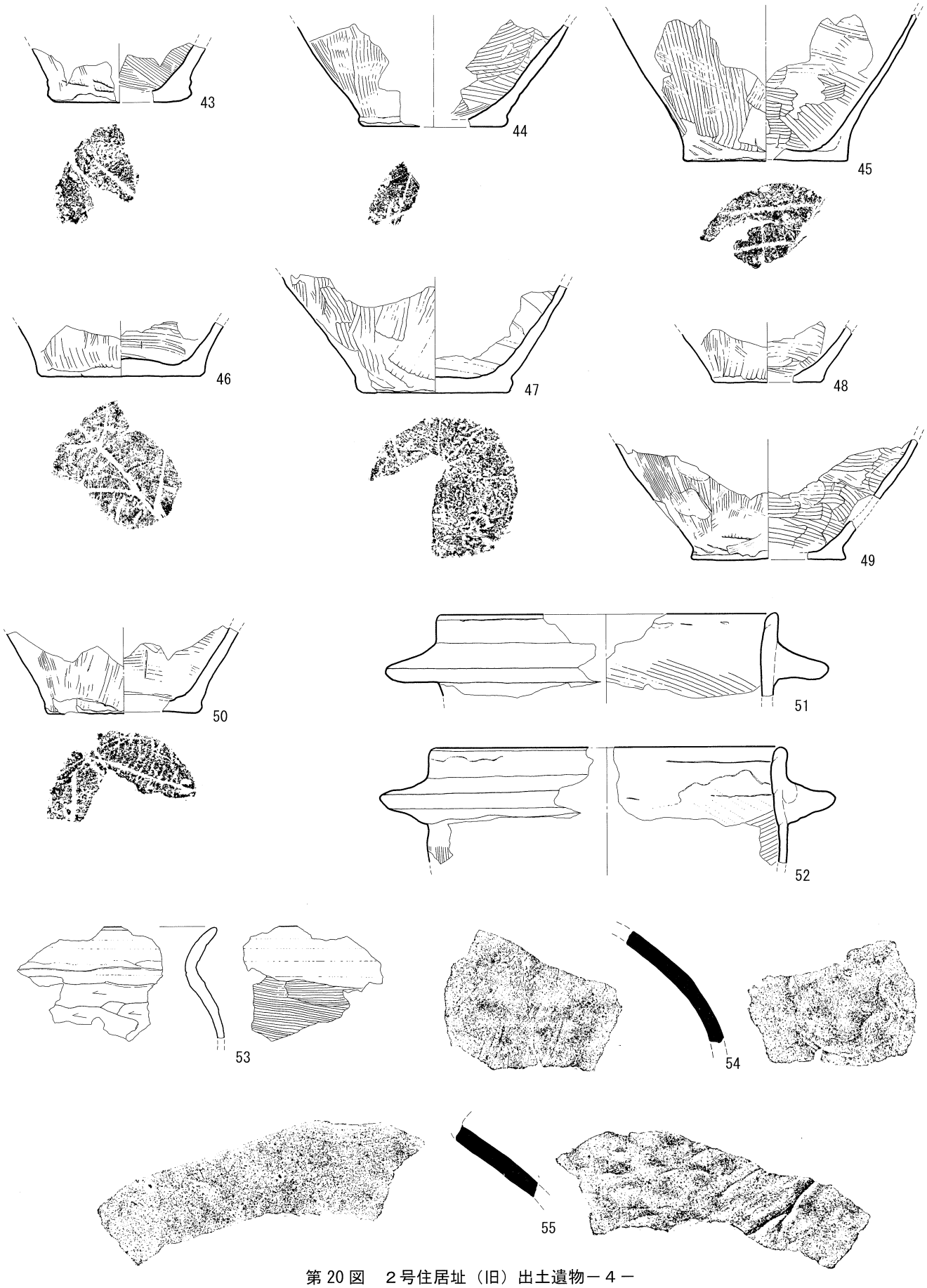


第17図　２号住居址（旧）出土遺物－１－

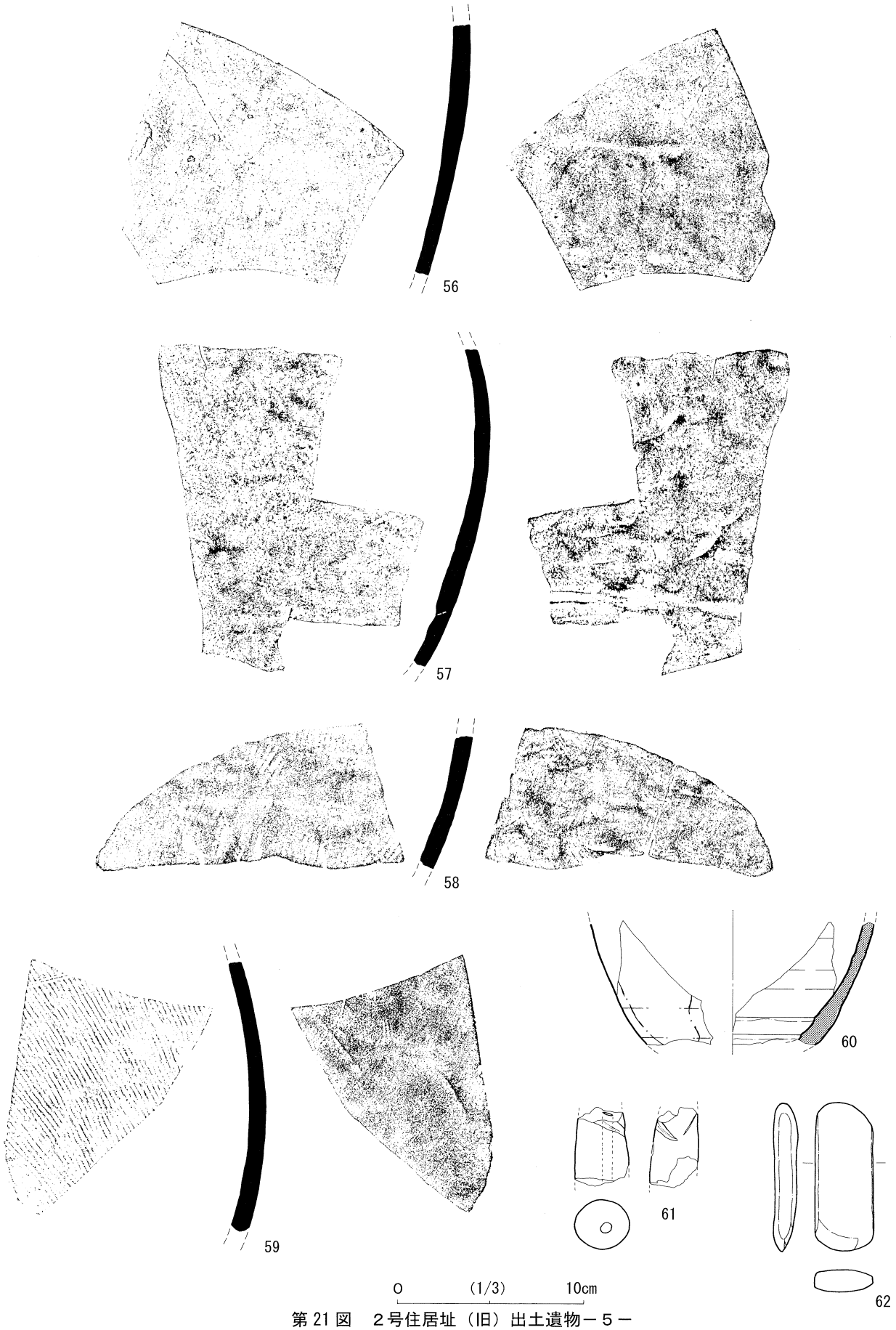
第 18 図　２号住居址（旧）出土遺物－２－



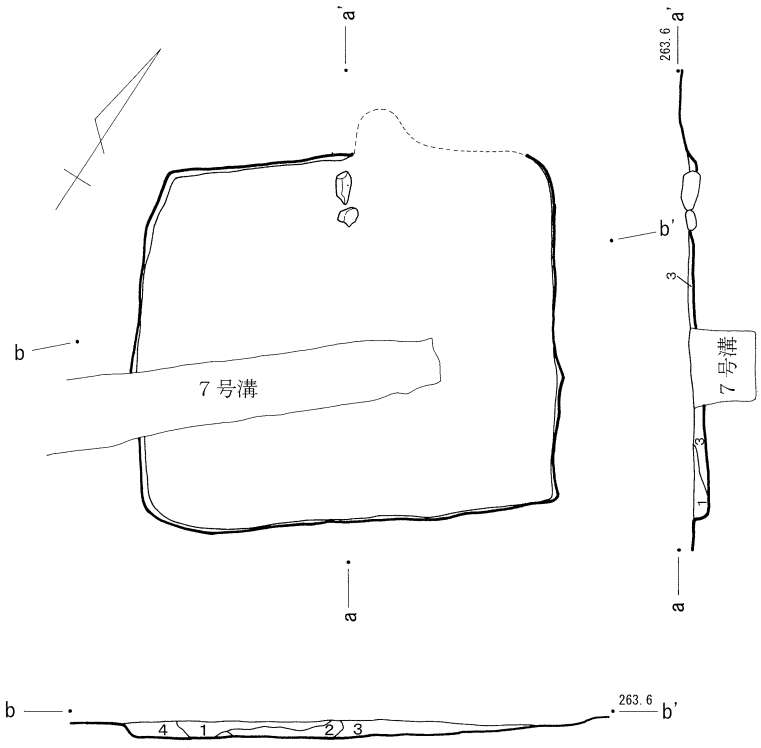
第19図　２号住居址（旧）出土遺物－３－



第 20 図　２号住居址（旧）出土遺物－４－

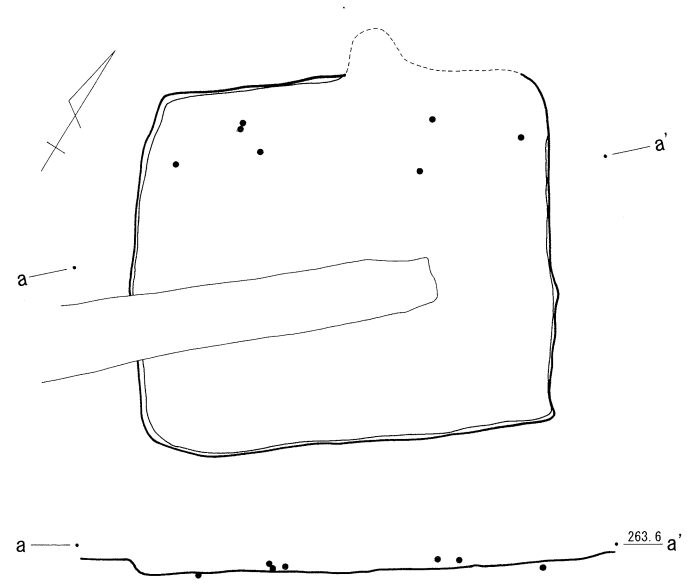


第 21 図　２号住居址（旧）出土遺物－５－



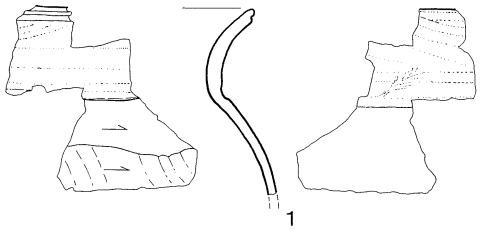
3号住居址土層

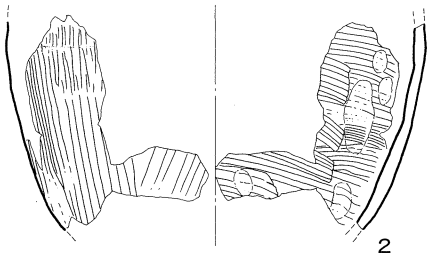
1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。焼土粒・炭粒ややや多い。
2　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒・炭粒多い。
3　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。褐色土（1cm以下）やや多い。焼土粒・炭粒・黄白色粘土粒ややや多い。

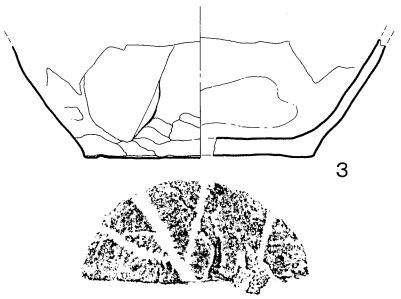


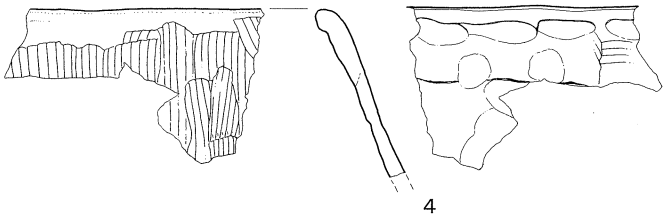
0　(1/60)　2m

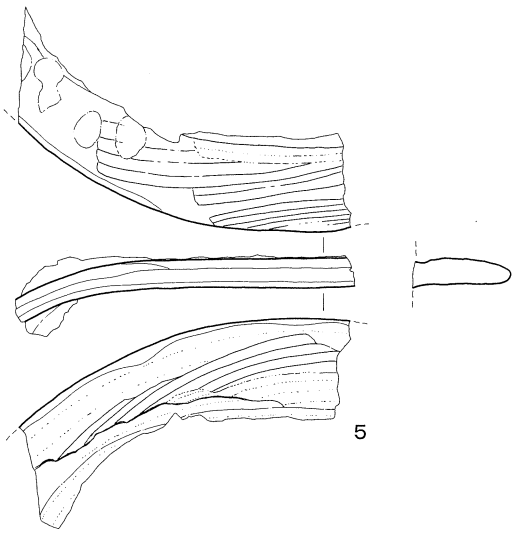
第22図　3号住居址，遺物分布図

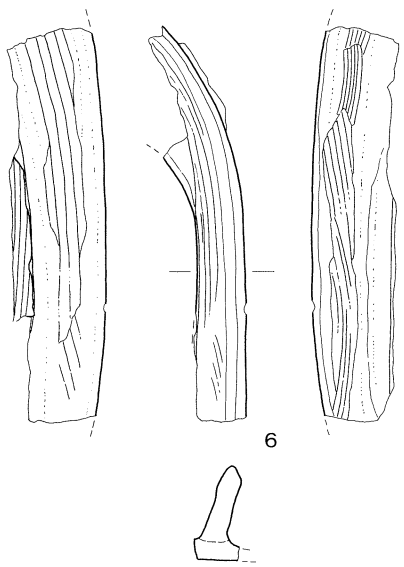






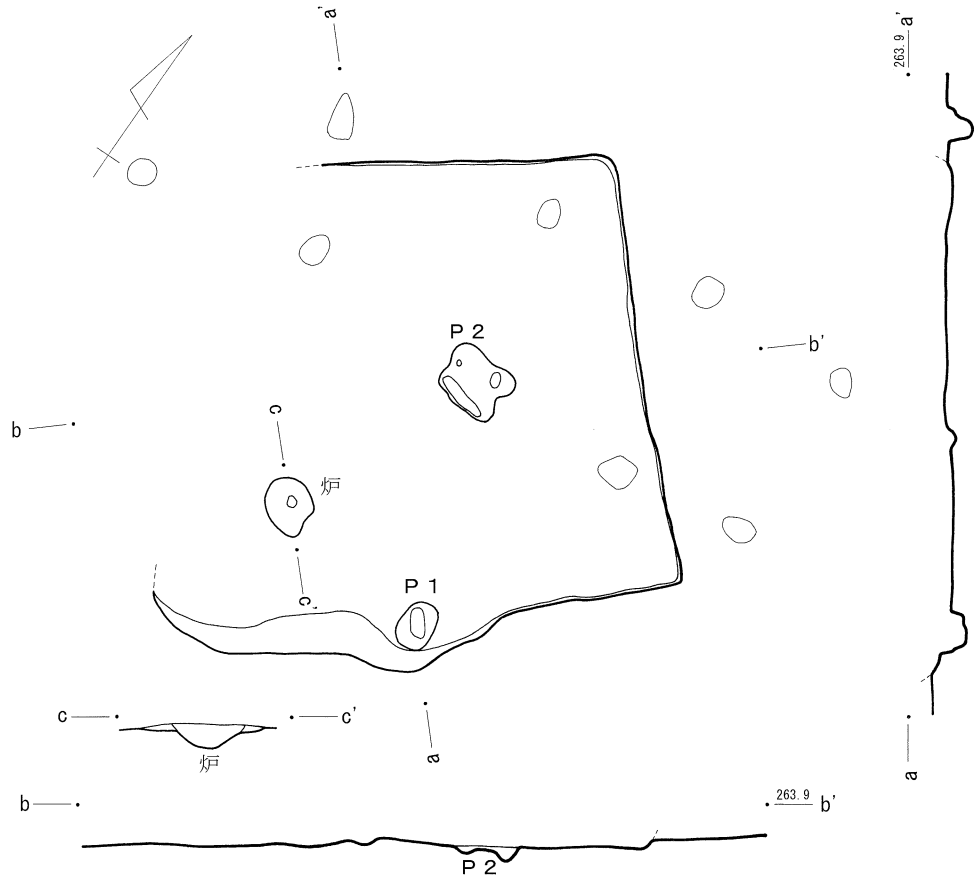






0 (1/3) 10cm

第 23 図　3 号住居址　出土遺物

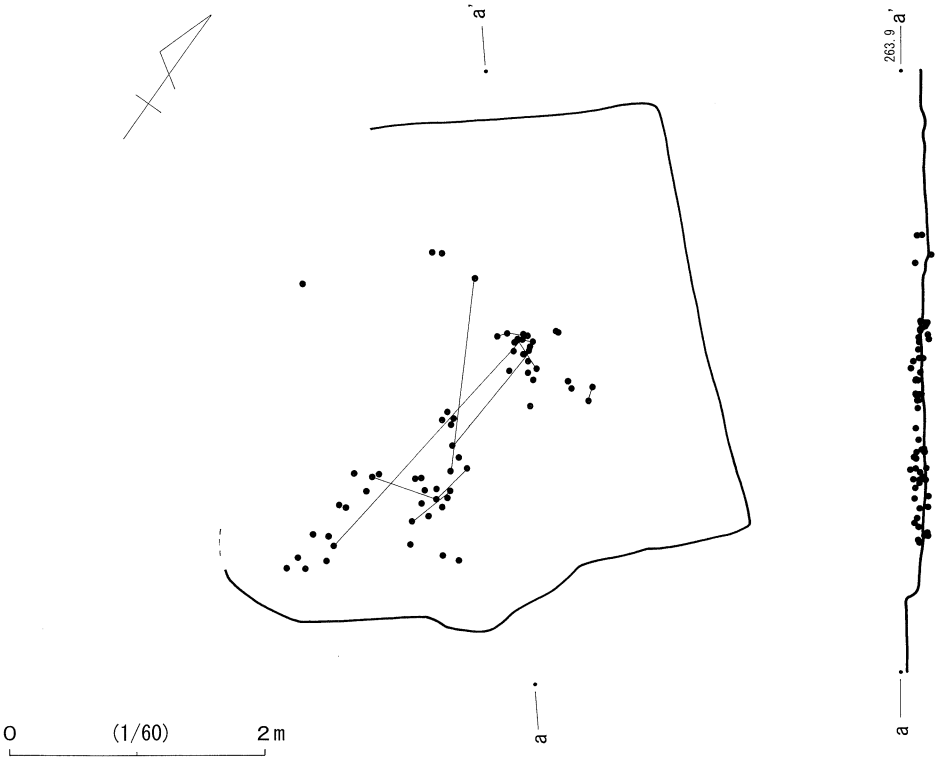


炉土層

1　橙 色 土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒多い。炭粒やや多い。
2　暗褐色土　粘性、締まり弱い。触感パサパサ。焼土粒やや多い。
　　黄白色粘土粒ごく少量。

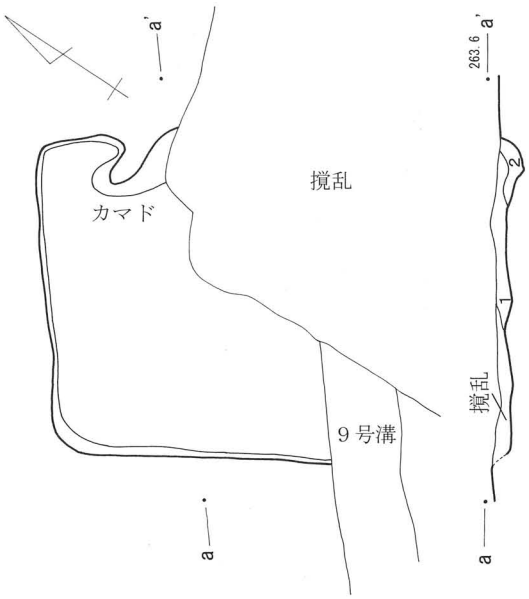
Ｐ２土層

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・塊（１cm）多い。
　　炭粒やや多い。黄白色粘土粒ごく少量。



第 24 図　４号住居址　遺物分布，接合図

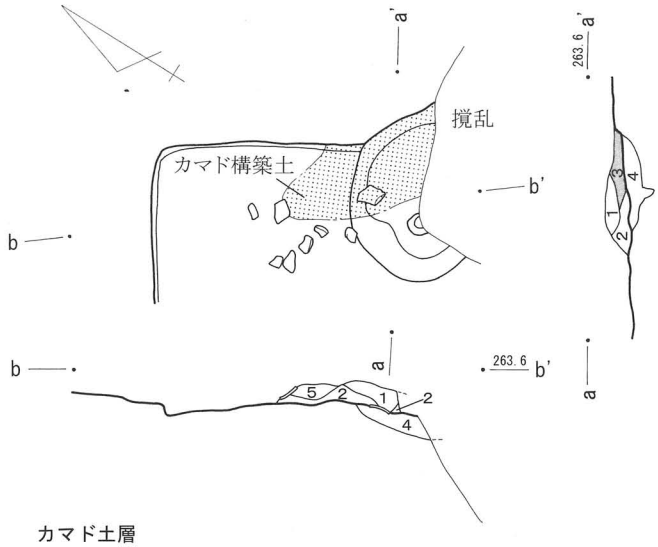
第 25 図　4 号住居址　出土遺物



5号住居址土層

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・黄白色粘土粒多い。
2　カマド覆土

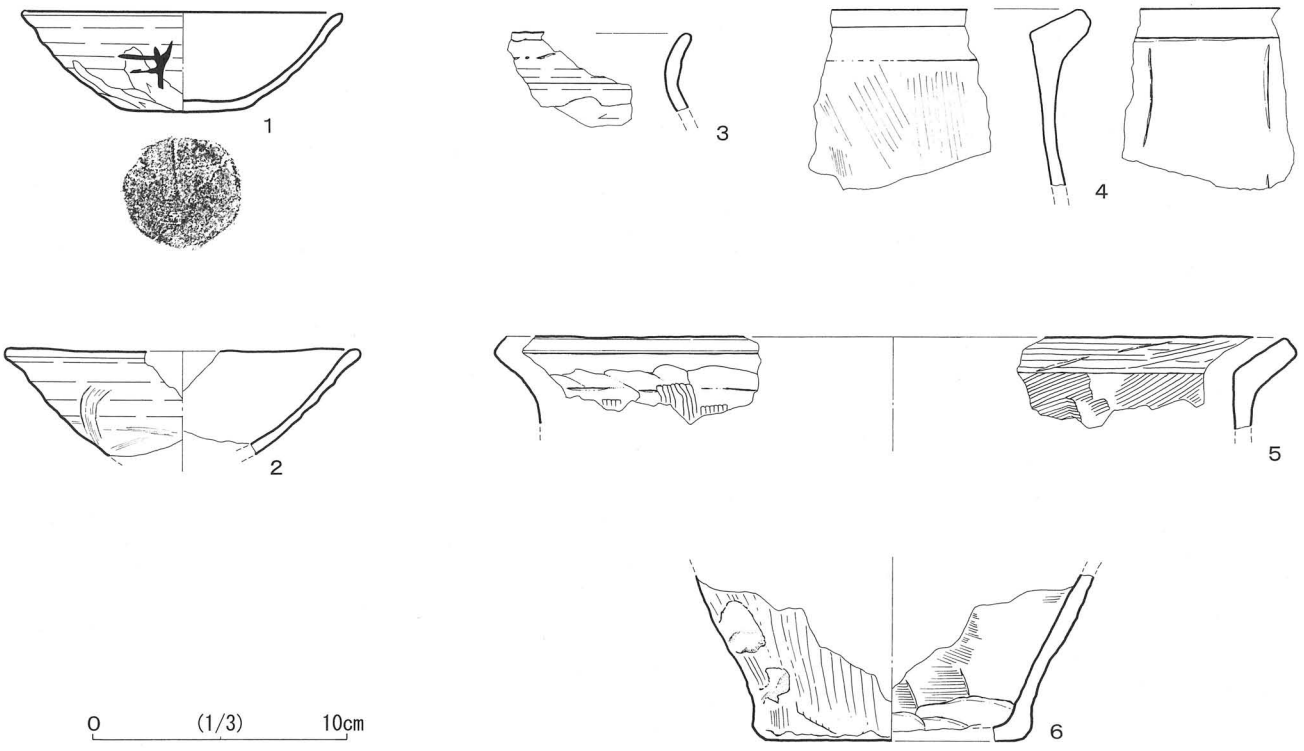
0　(1/60)　2m



カマド土層

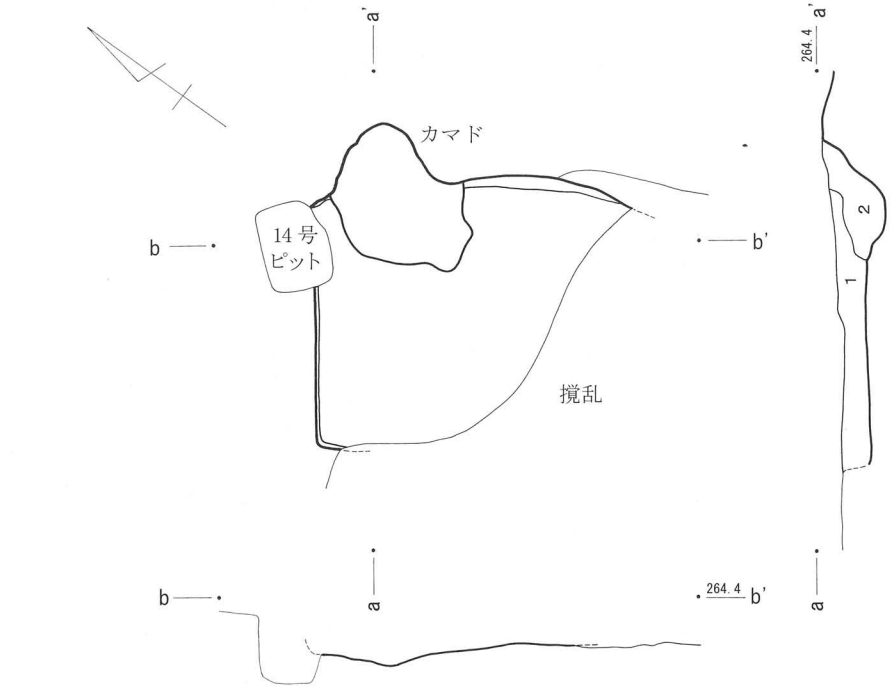
1　暗褐色土　粘性、締まり強い。焼土粒・褐色粘土粒やや多い。
2　にぶい褐色土　粘性、締まり強い。焼土粒・炭粒・褐色粘土粒やや多い。
3　橙　色　土　軟質の焼土。
4　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。焼土粒・塊（1cm）、黄白色粘土粒・塊（1cm）、炭粒多い。
5　黄白色粘土　焼土粒・炭粒・暗褐色土粒が多く混じる。

0　(1/30)　1m



0　(1/3)　10cm

第26図　5号住居址，カマド，出土遺物

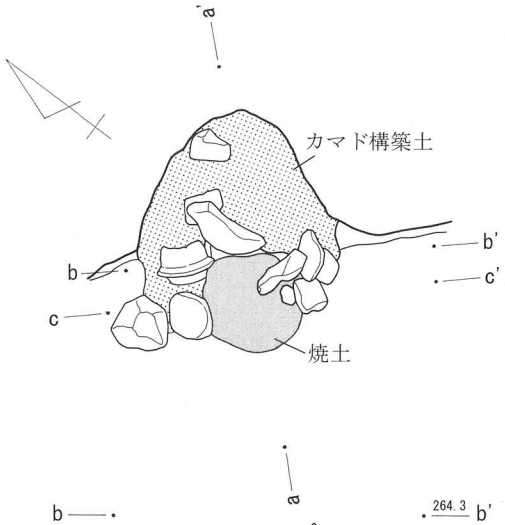


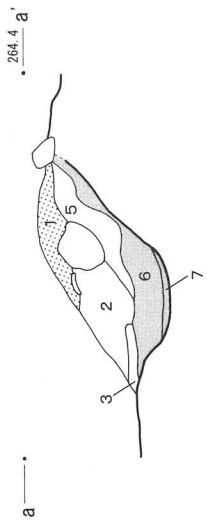
6号住居址土層

1　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。焼土粒・炭粒・黒色スコリアやや多い。褐色土粒・塊（5cm）少量。

2　カマド覆土

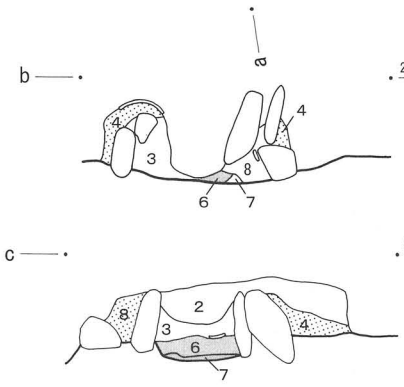
0　(1/60)　2m

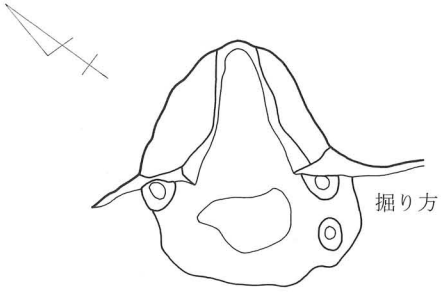




0　(1/30)　1m

土器分布図





カマド土層

1　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。黄白色粘土・焼土多い。小石（1cm）やや多い。天井部。

2　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。黄白色粘土・焼土粒・炭粒少量。

3　にぶい褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。黄白色粘土・焼土粒・炭粒多い。

4　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黄白色粘土・炭粒多い。焼土粒少量。袖部。

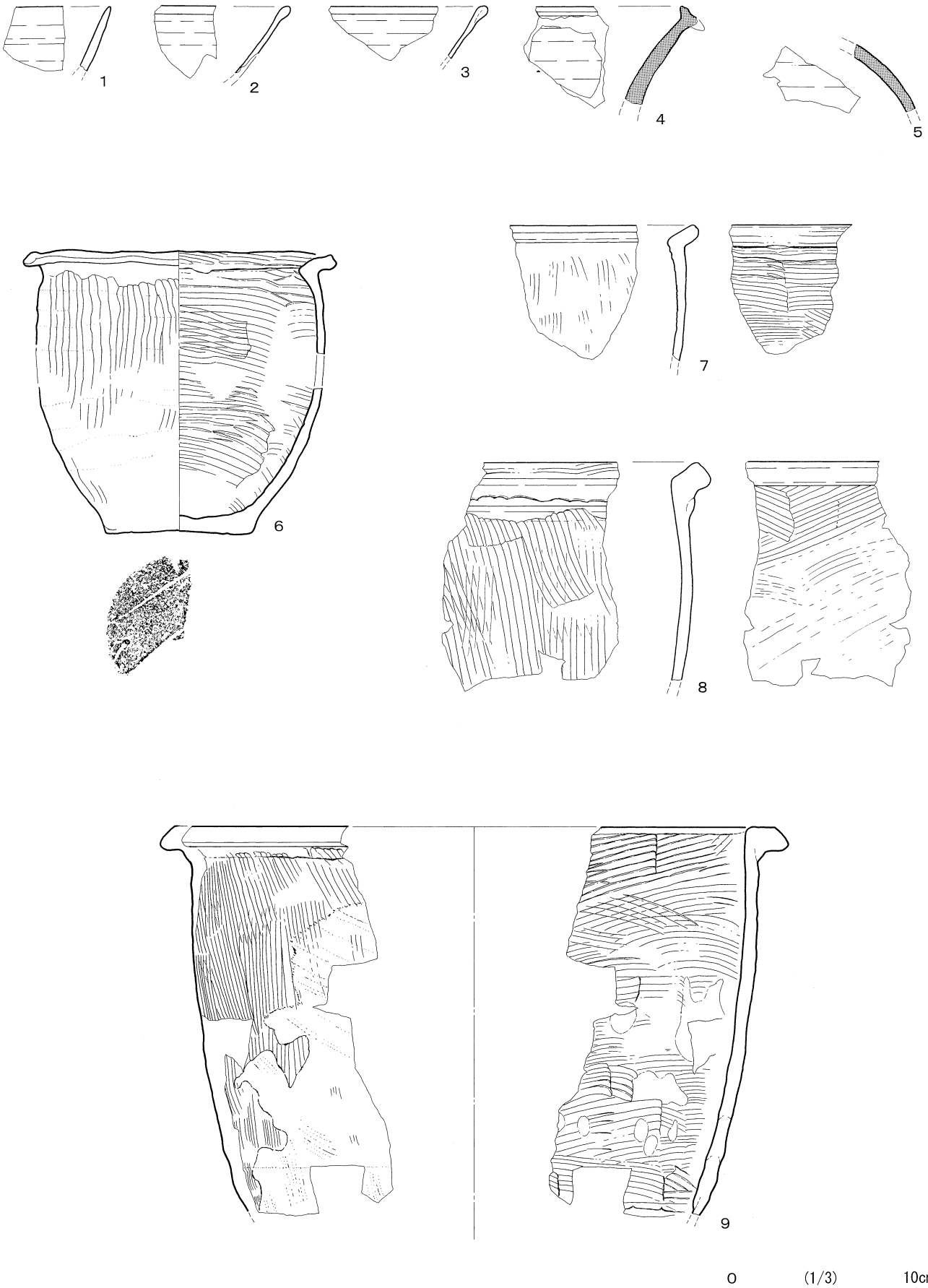
5　にぶい褐色土　粘性弱く、締まり強い。焼土粒・炭粒多い。黄白色粘土粒・小石（1cm）やや多い。

6　橙色土　軟質の焼土。焼土塊（2cm以下）・炭粒・暗褐色土粒やや多く混じる。

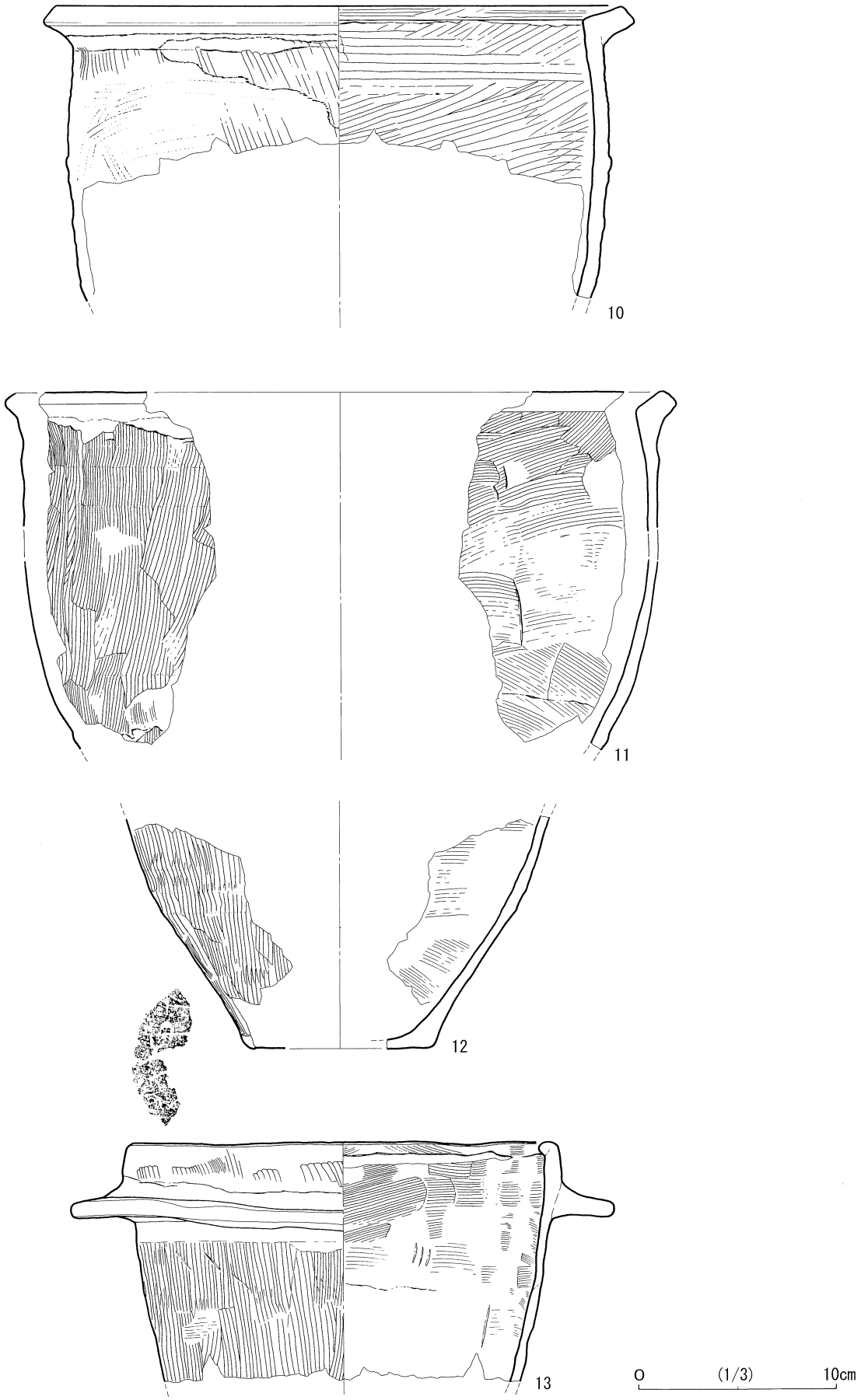
7　橙色土　焼土純層。

8　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土粒・塊多い。袖部。

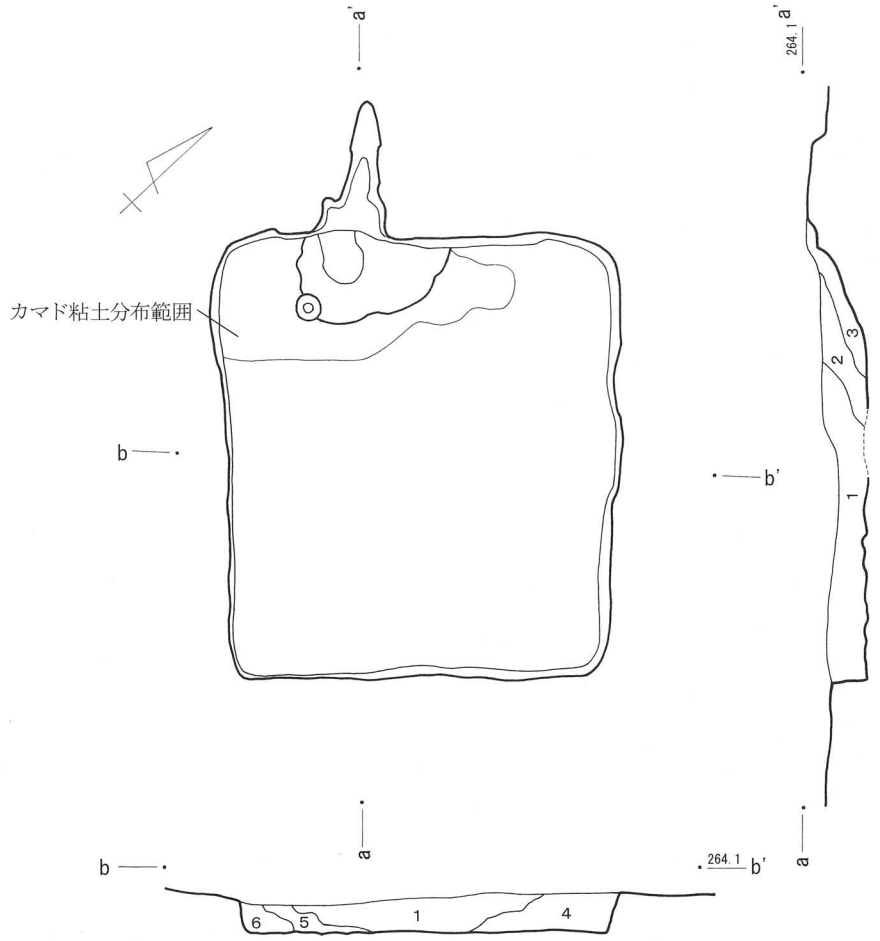
第27図　6号住居址，カマド



第 28 図　６号住居址　出土遺物－１－



第 29 図　６号住居址　出土遺物－２－

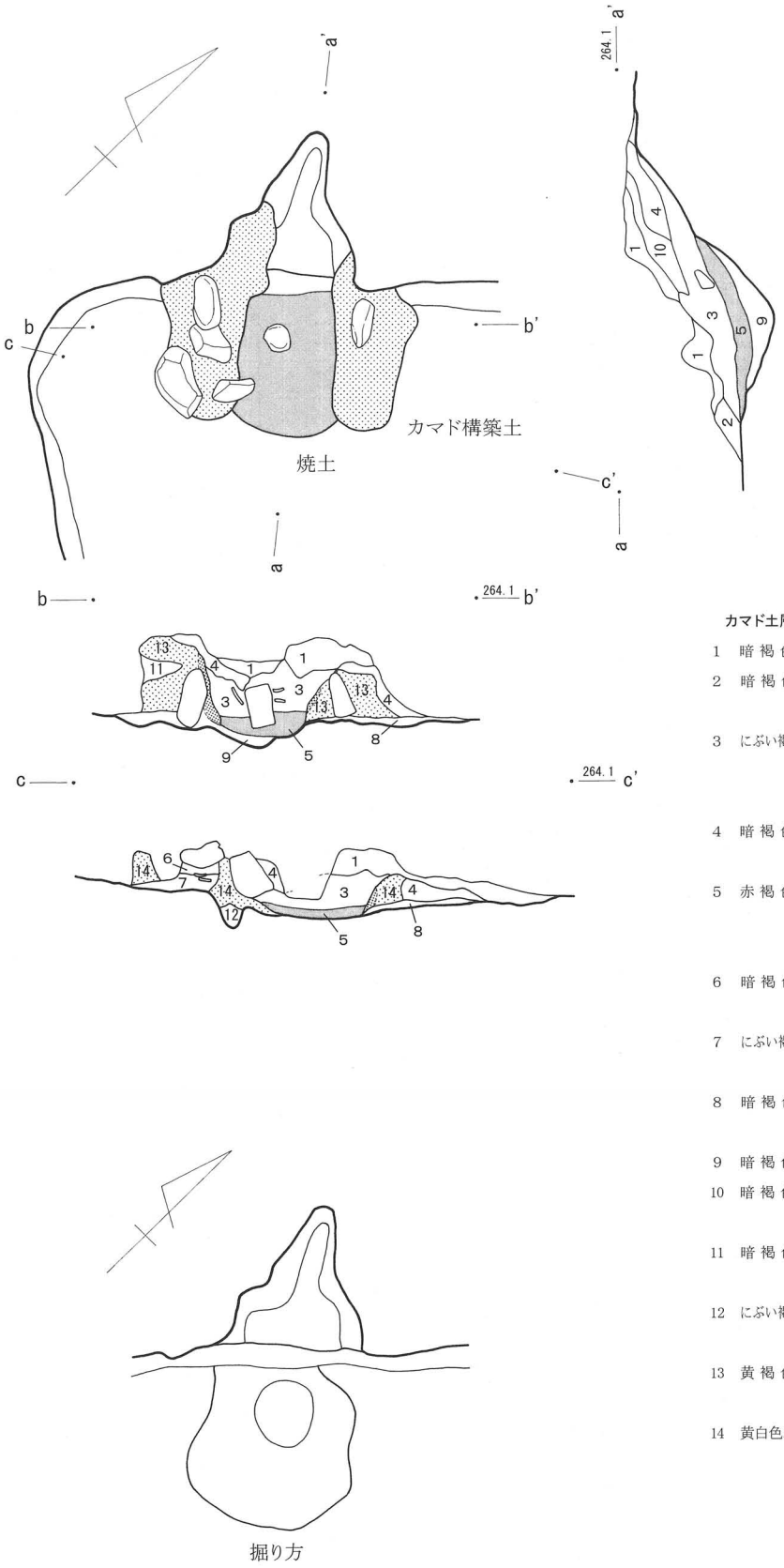


７号住居址土層

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・黒色スコリア多い。
2　暗褐色土　第１層を基調に黄色粘土粒（５㎜以下）多い。
3　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黄色粘土粒（１cm以下）多い。焼土粒・炭粒やや多い。
4　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土塊（１cm～２cm）やや多い。焼土粒・炭粒・黒色スコリアやや多い。
5　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒多い。焼土塊（１cm～２cm）少量。炭化材（１cm）やや多い。
6　黒褐色土　粘性やや強く、締まりやや弱い。

0　(1/60)　2m

第30図　７号住居址



カマド土層

1　暗褐色土

2　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黄白色粘土粒・焼土粒多い。炭粒少量。

3　にぶい褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒多い。焼土塊（3cm以下）・黄白色粘土・暗褐色土が混在する。炭粒少量。

4　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黄白色粘土塊（2cm以下）多い。焼土粒やや多い。

5　赤褐色土　粘性非常に強く、締まり弱い。焼土層。暗褐色土粒・塊やや多く混じる。炭粒少量。

6　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黄白色粘土粒・焼土粒少量。

7　にぶい褐色土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒多い。

8　暗褐色土　粘性強く、締まりやや弱い。黄白色粘土・焼土（1cm～2cm）やや多い。

9　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒多い。

10　暗褐色土　第1層との境は不鮮明。黄白色粘土粒やや多い。

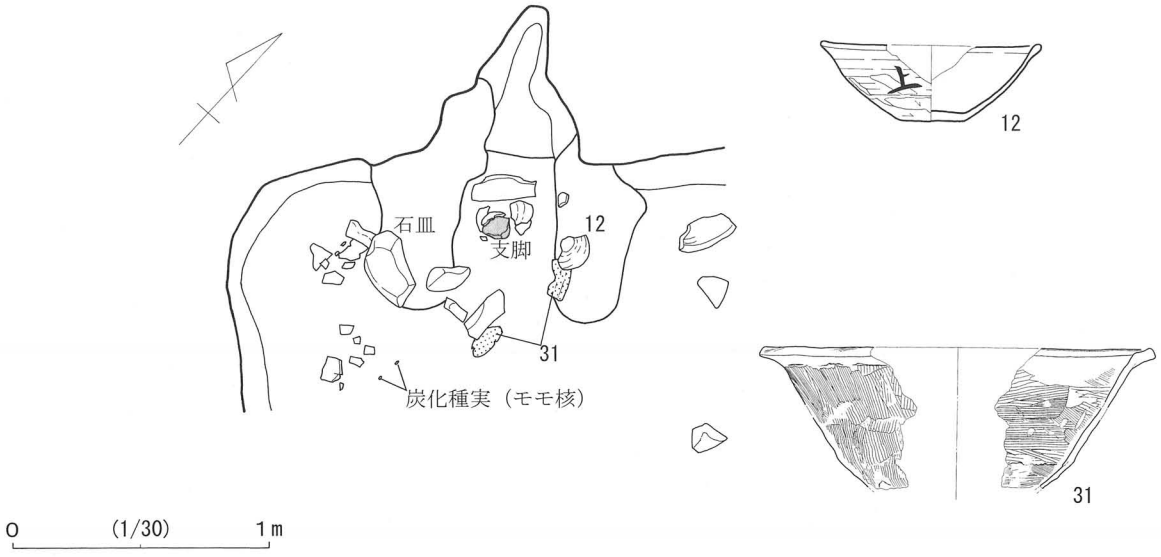
11　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。黄白色粘土粒・焼土粒多い。

12　にぶい褐色土　粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土粒・焼土粒多い。

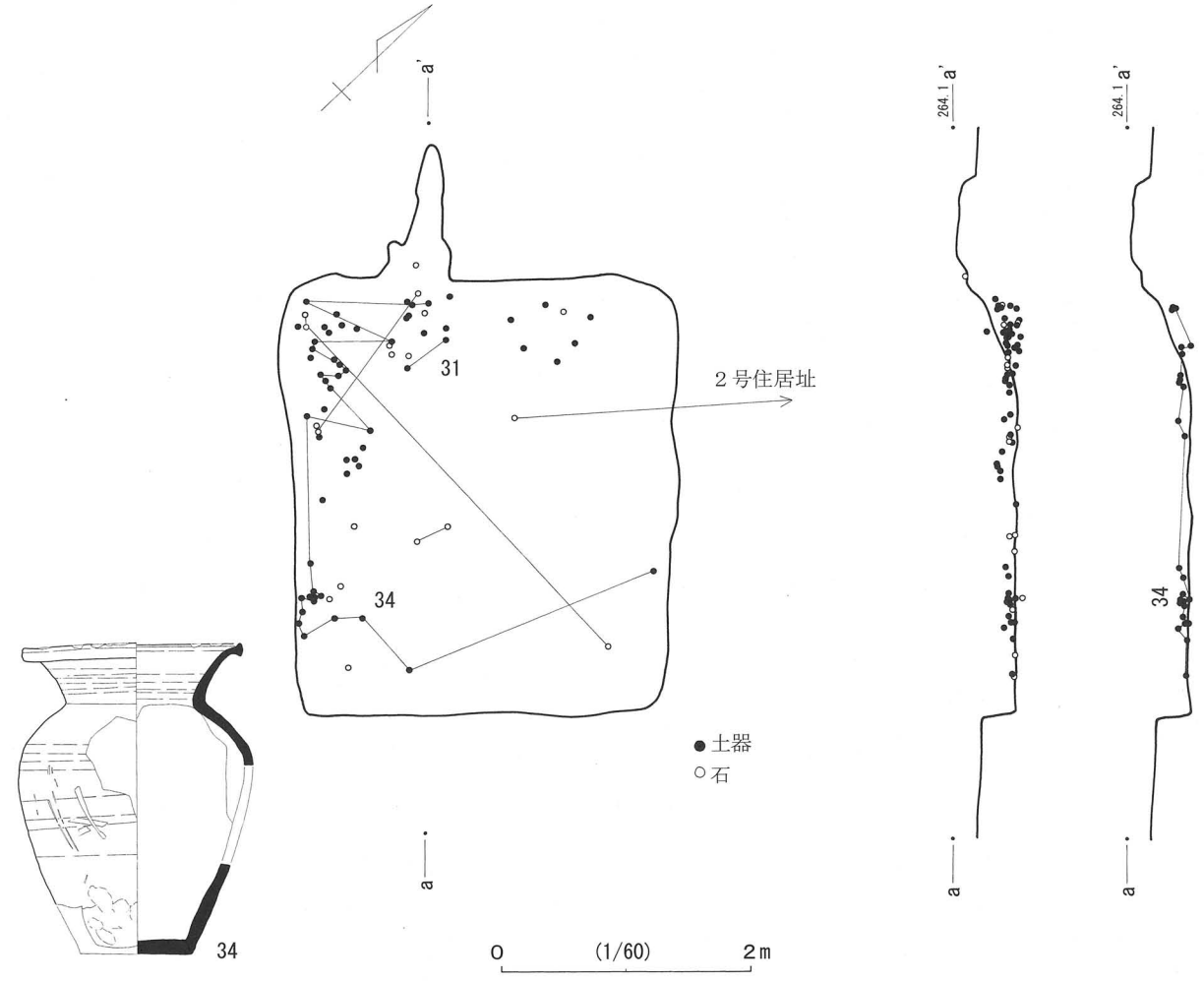
13　黄褐色土　粘性、締まりやや強い。小石（3cm以下）多い。袖部。

14　黄白色粘土　袖部。

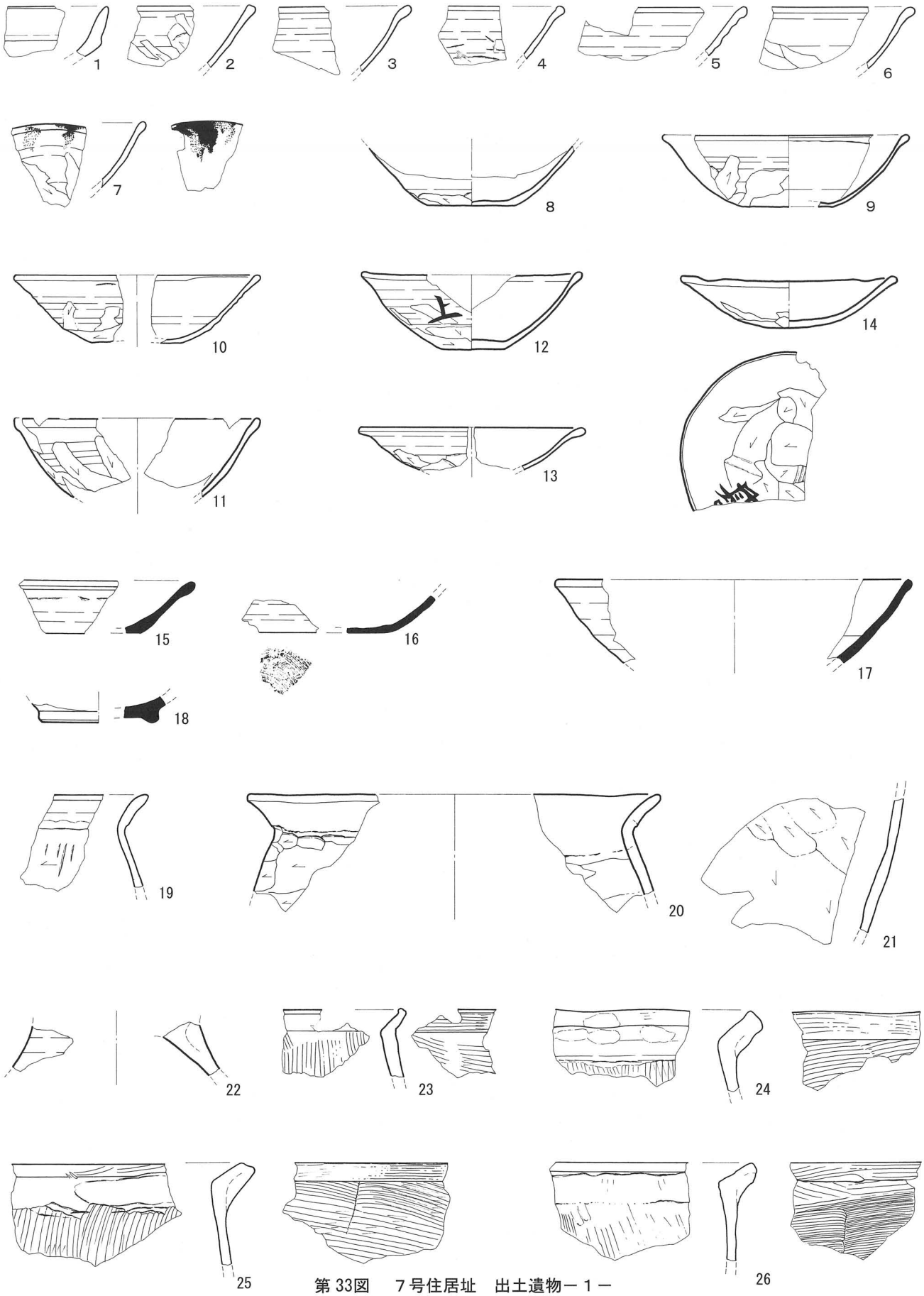
第31図　7号住居址カマド



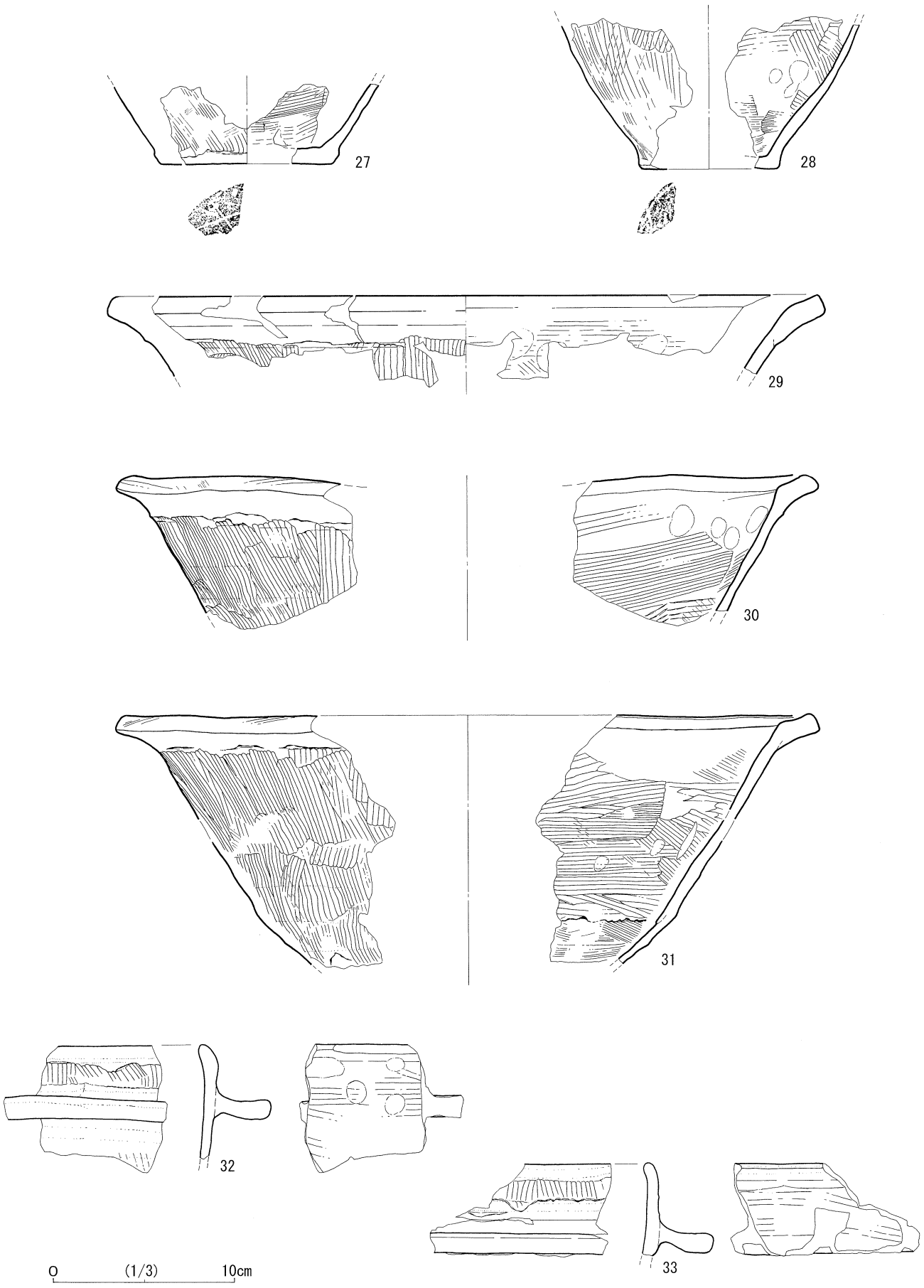
カマド周辺の遺物分布状況



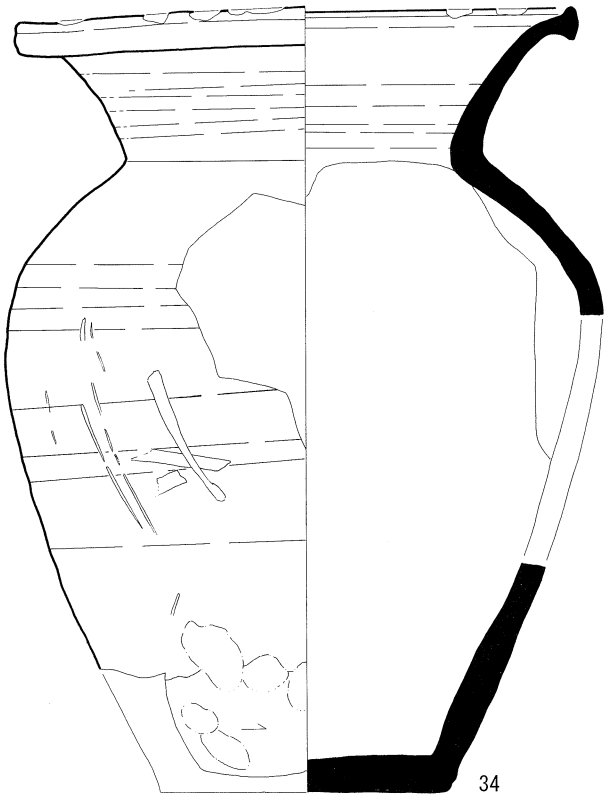
第32図　7号住居址　遺物分布図，接合図

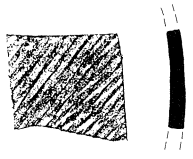


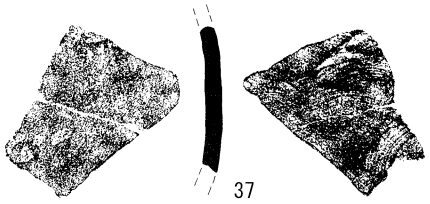
第33図　７号住居址　出土遺物－１－

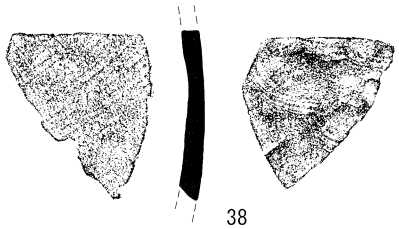


第34図　7号住居址　出土遺物－2－

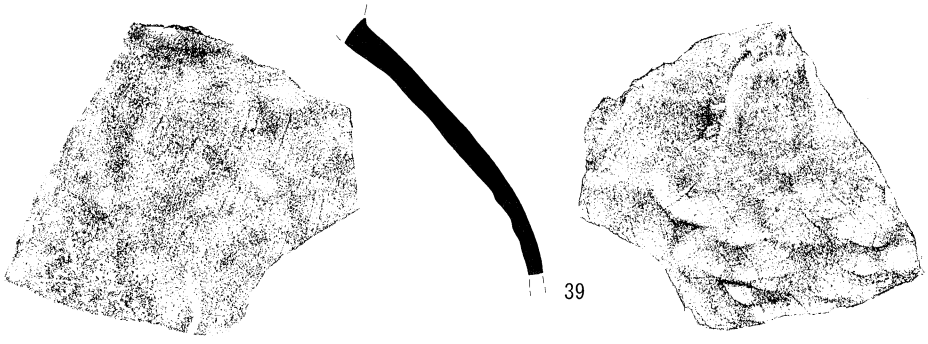


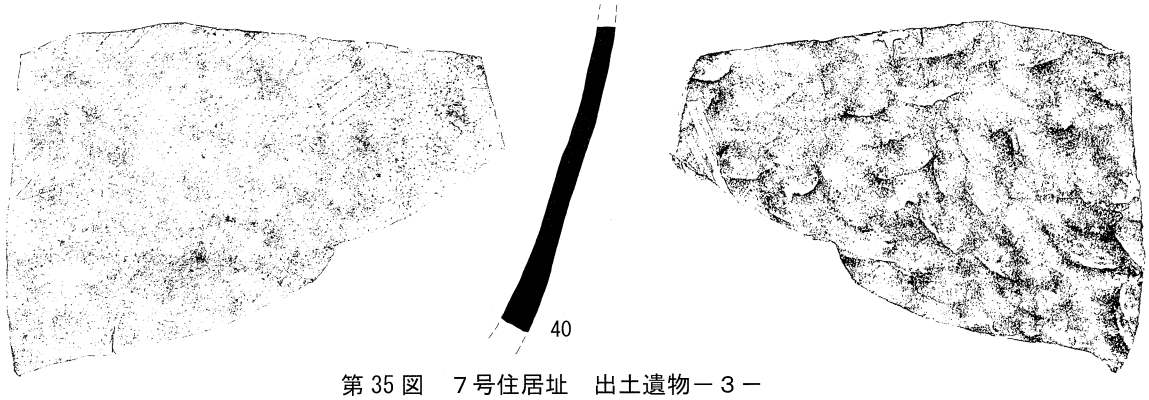




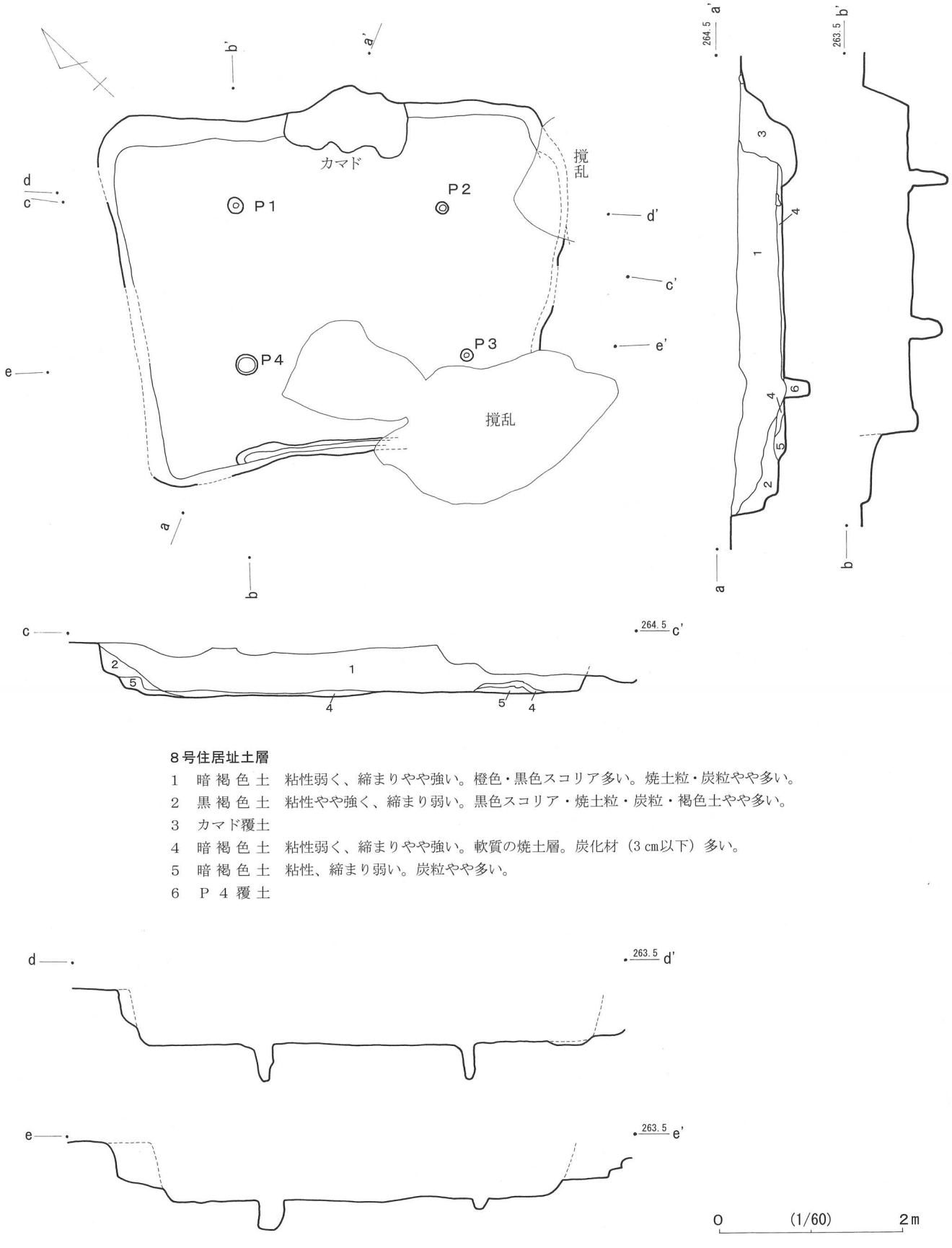


0 (1/3) 10cm





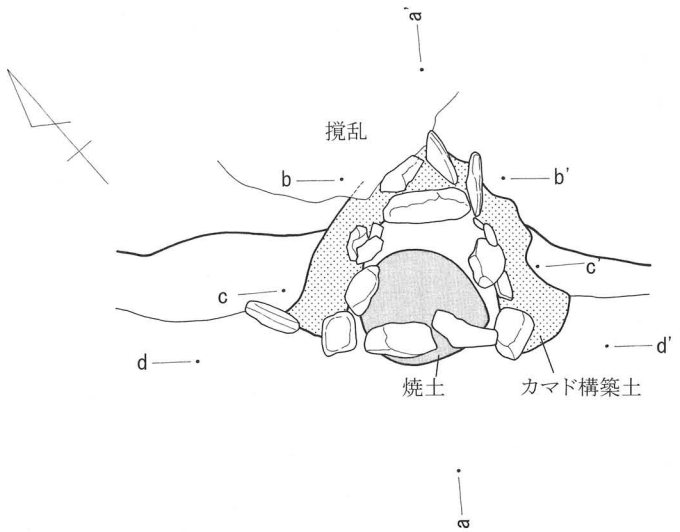
第 35 図　７号住居址　出土遺物－３－

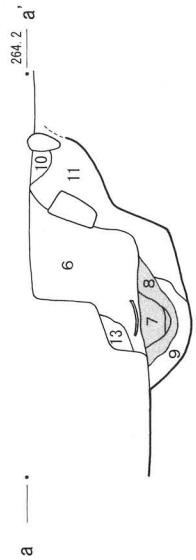


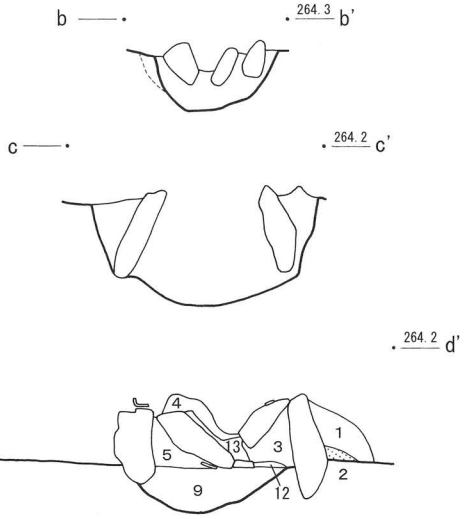
8号住居址土層

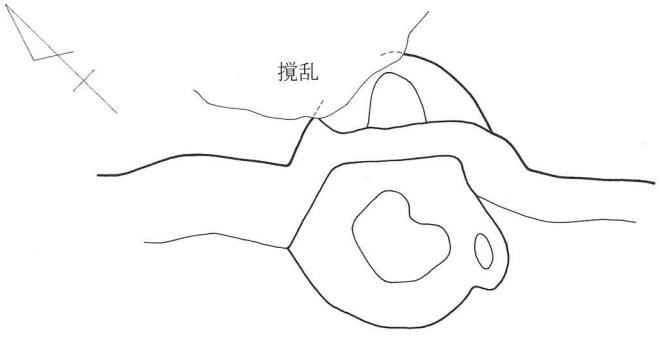
1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。橙色・黒色スコリア多い。焼土粒・炭粒やや多い。
2　黒褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア・焼土粒・炭粒・褐色土やや多い。
3　カマド覆土
4　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。軟質の焼土層。炭化材（3㎝以下）多い。
5　暗褐色土　粘性、締まり弱い。炭粒やや多い。
6　P4覆土

第36図　8号住居址









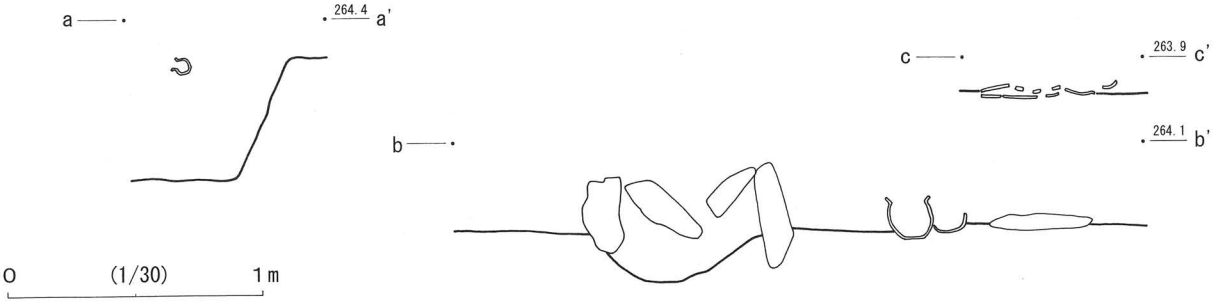
掘り方

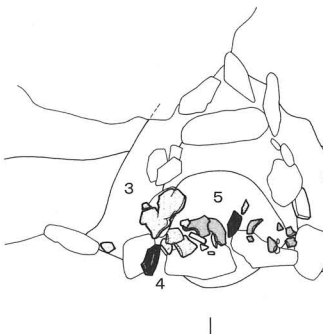
カマド土層

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・炭化材(1cm)・白色粘土粒やや多い。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。白色粘土粒多い。焼土粒やや多い。袖部。
3　暗褐色土　第1層と同質だが、白色粘土粒・焼土粒多い。
4　にぶい褐色土　粘性、締まり弱い。白色粘土粒・焼土粒・炭粒多い。
5　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒やや多い。
6　暗褐色土　粘性、締まり弱い。触感パサパサ。焼土粒・炭粒多い。小石（1cm以下）少量。
7　橙　色　土　粘性強く、締まり弱い。軟質の焼土。下面は鮮やかな橙色を呈し、硬い。
8　にぶい褐色土　第7層と第9層の混合。
9　にぶい褐色土　粘性、締まり弱い。粒子が粗く、触感ざらつく。
10　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。白色粘土粒・焼土粒・炭粒多い。
11　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。焼土粒・炭粒多い。白色粘土粒少量。
12　橙　色　土　軟質の焼土。暗褐色土粒が混じる。
13　白色粘土

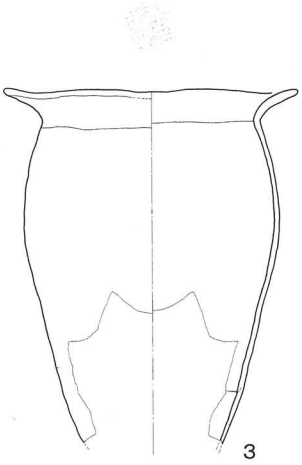
0　(1/30)　1m

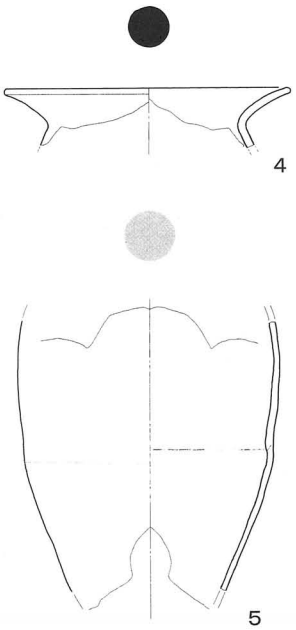
第37図　8号住居址　カマド

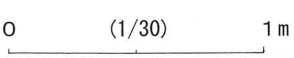




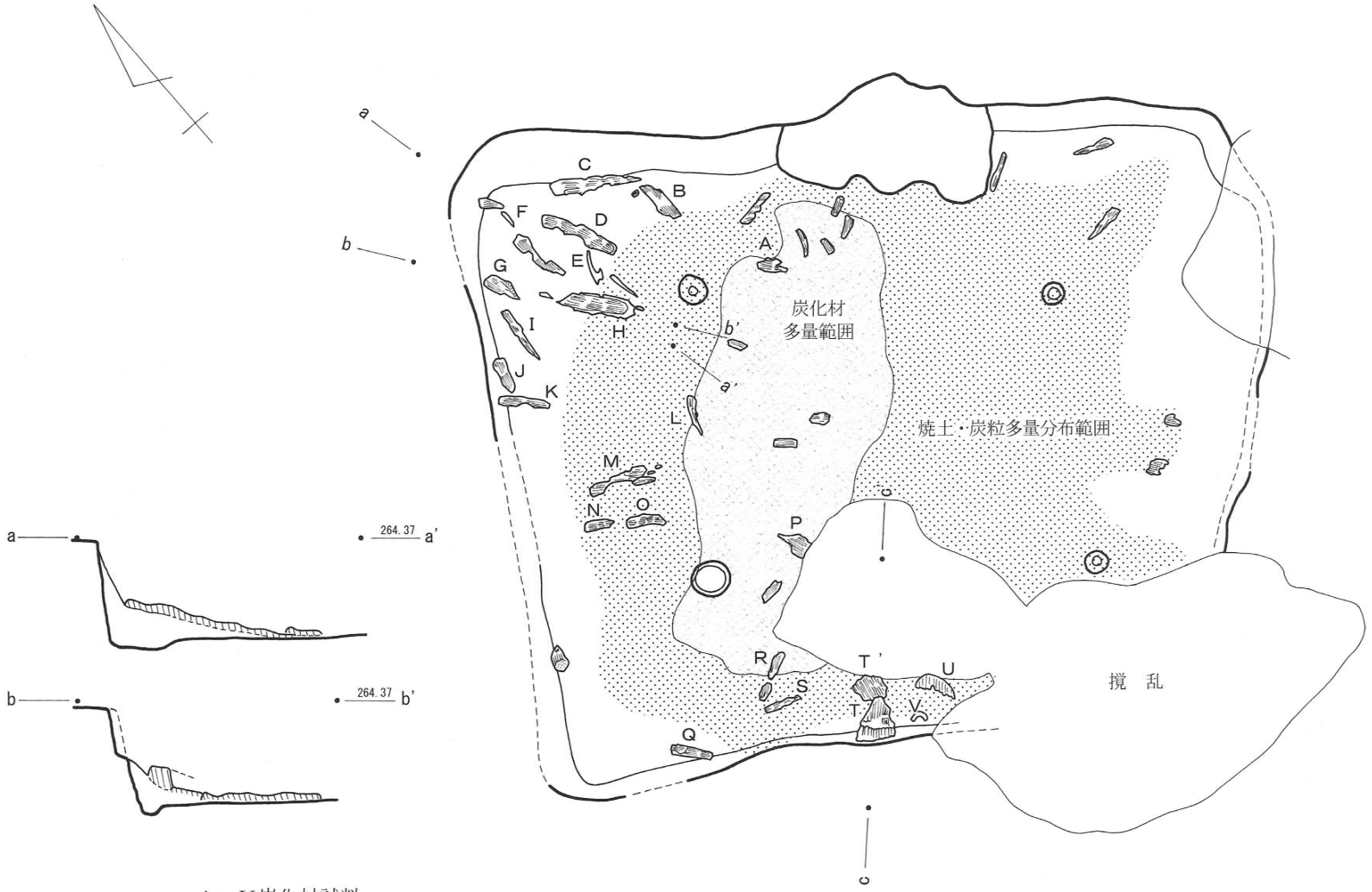
火床面







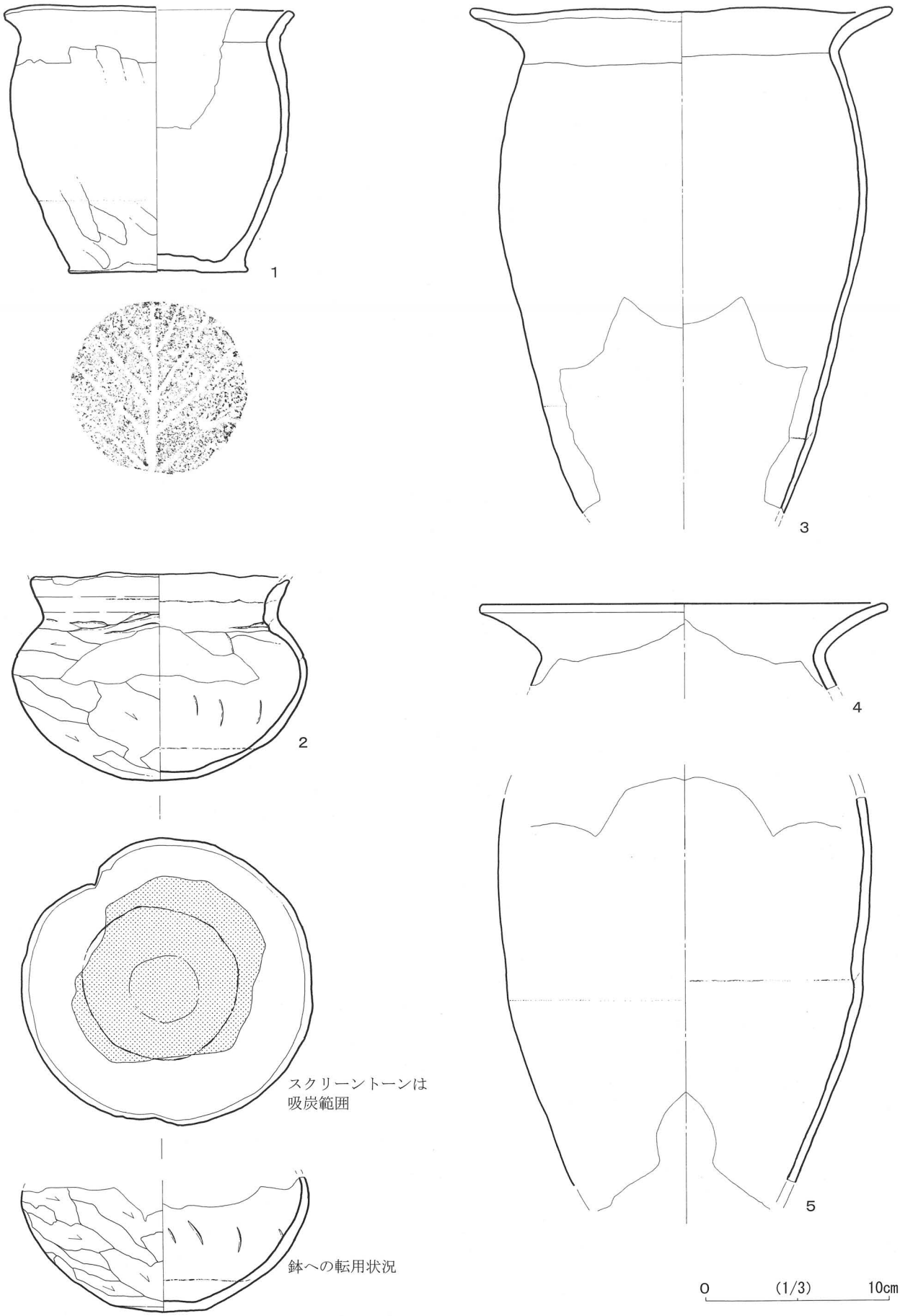
第 38 図　8 号住居址　遺物分布図



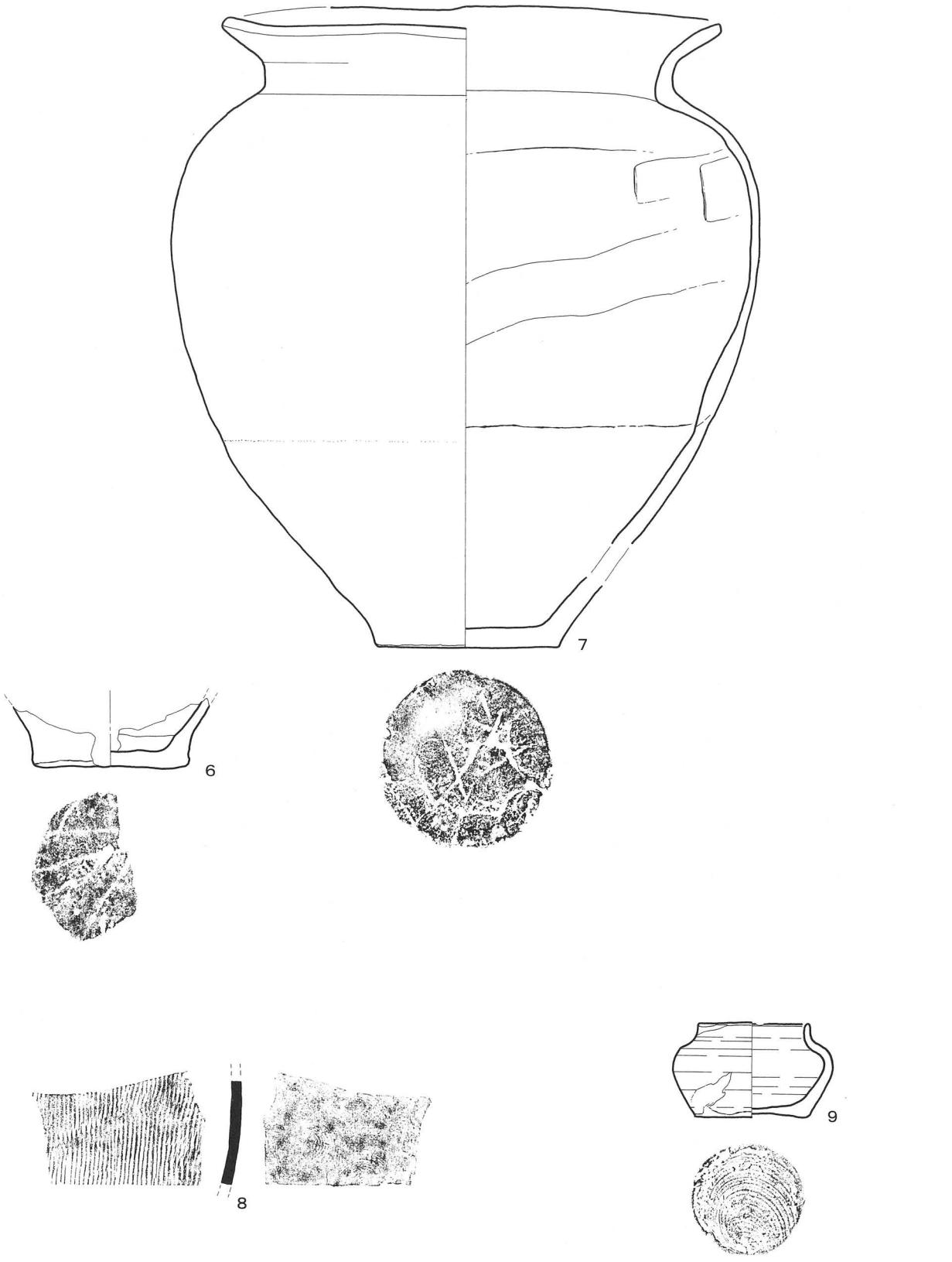
A～V炭化材試料

断面の形状	炭化材
柱状	B・C・E・G・I・J・K・L・Q・R・S
馬蹄状	D・F・H・M・P・V（直立）
板状	T・T'・U
不明	A・N・O

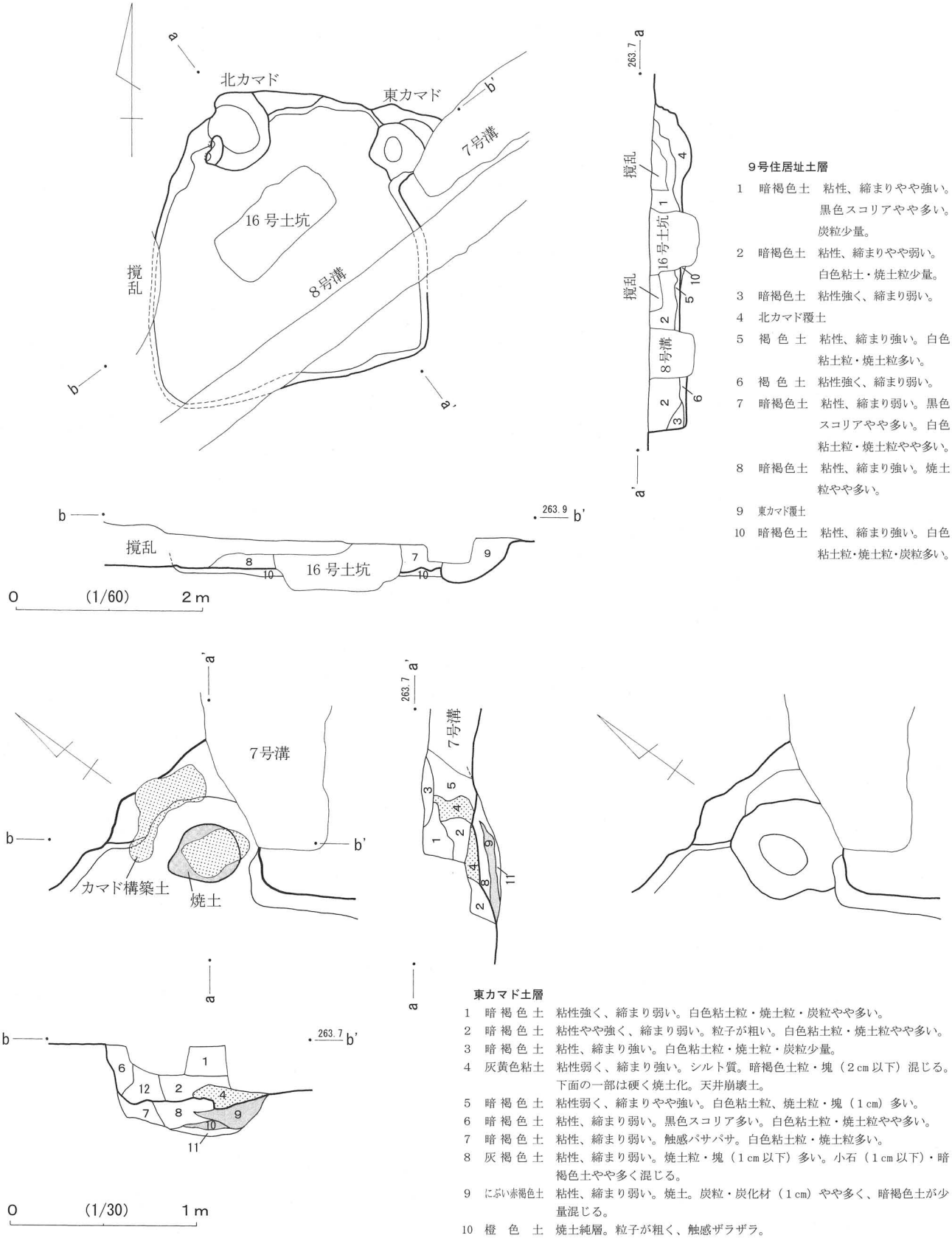
第39図　8号住居址　炭化材，焼土分布図



第 40 図　8号住居址　出土遺物－１－



第41図　8号住居址　出土遺物－2－



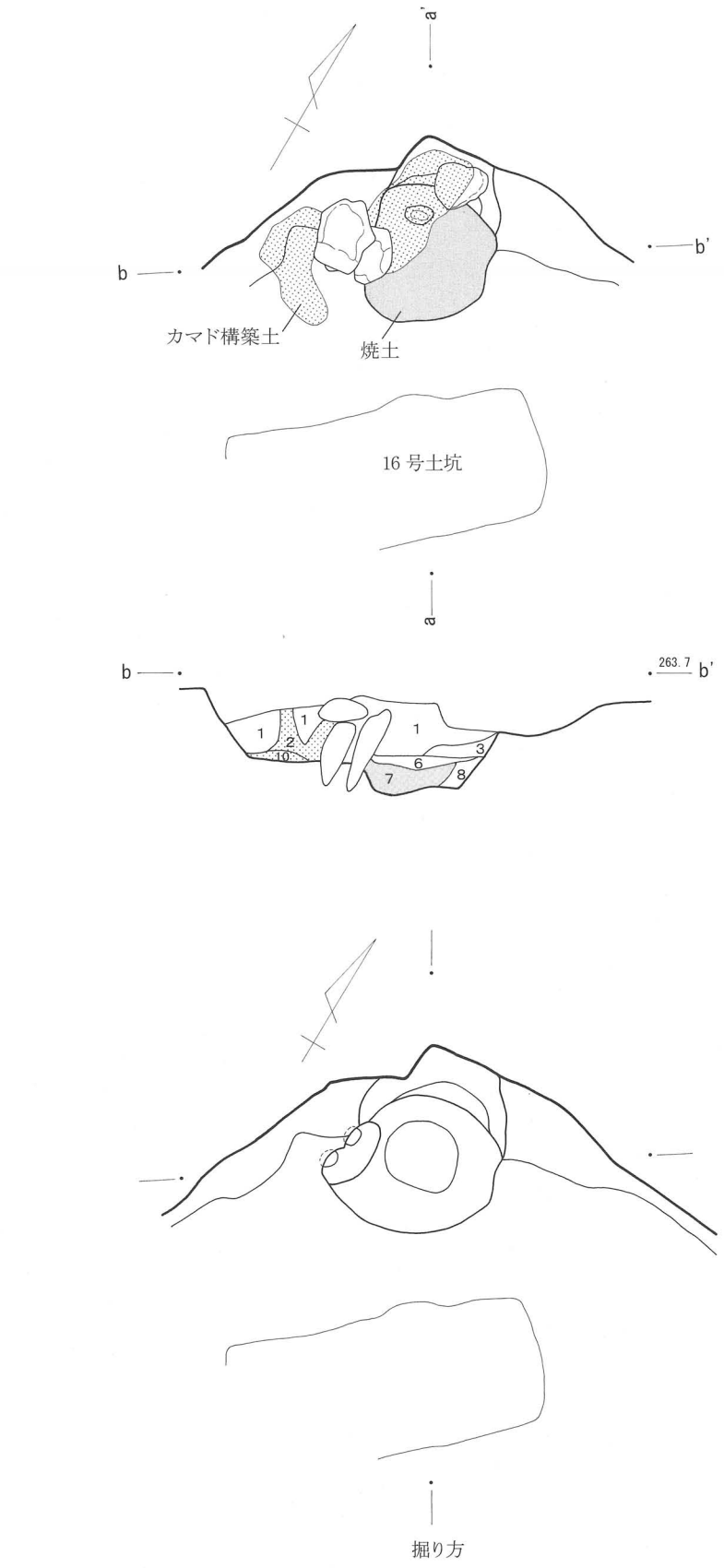
9号住居址土層

1 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。黒色スコリアやや多い。炭粒少量。
2 暗褐色土 粘性、締まりやや弱い。白色粘土・焼土粒少量。
3 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。
4 北カマド覆土
5 褐色土 粘性、締まり強い。白色粘土粒・焼土粒多い。
6 褐色土 粘性強く、締まり弱い。
7 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。白色粘土粒・焼土粒やや多い。
8 暗褐色土 粘性、締まり強い。焼土粒やや多い。
9 東カマド覆土
10 暗褐色土 粘性、締まり強い。白色粘土粒・焼土粒・炭粒多い。

東カマド土層

1 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。白色粘土粒・焼土粒・炭粒やや多い。
2 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。粒子が粗い。白色粘土粒・焼土粒やや多い。
3 暗褐色土 粘性、締まり強い。白色粘土粒・焼土粒・炭粒少量。
4 灰黄色粘土 粘性弱く、締まり強い。シルト質。暗褐色土粒・塊（2cm以下）混じる。下面の一部は硬く焼土化。天井崩壊土。
5 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。白色粘土粒、焼土粒・塊（1cm）多い。
6 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。白色粘土粒・焼土粒やや多い。
7 暗褐色土 粘性、締まり弱い。触感パサパサ。白色粘土粒・焼土粒多い。
8 灰褐色土 粘性、締まり弱い。焼土粒・塊（1cm以下）多い。小石（1cm以下）・暗褐色土やや多く混じる。
9 にぶい赤褐色土 粘性、締まり弱い。焼土。炭粒・炭化材（1cm）やや多く、暗褐色土が少量混じる。
10 橙色土 焼土純層。粒子が粗く、触感ザラザラ。
11 暗褐色土 粒子が粗く、触感ザラザラ。
12 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。白色粘土粒・塊（3cm～4cm）多い。焼土粒・炭粒少量。

第42図　9号住居址，東カマド

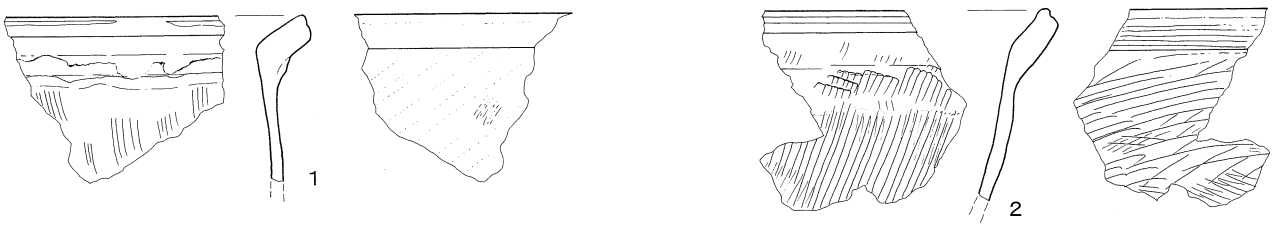


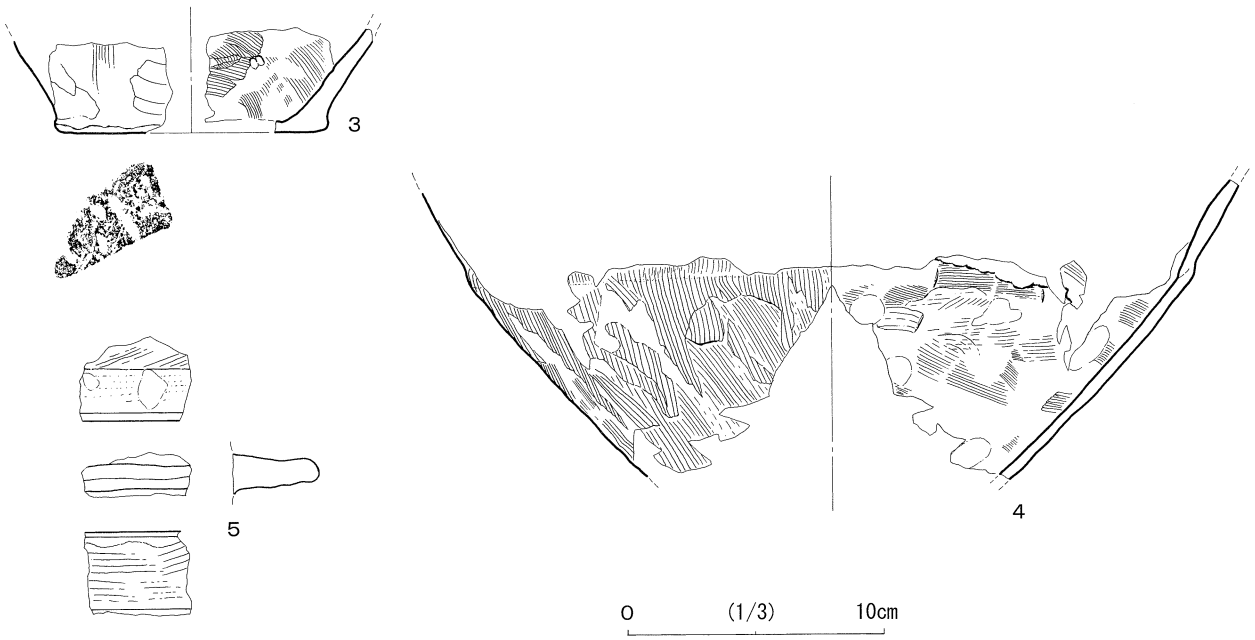
北カマド土層

1　暗褐色土　粘性、締まり強い。酸化鉄粒多い。
2　にぶい褐色土　粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土粒多い。小石（2cm以下）やや多い。
3　にぶい褐色土　粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土粒、焼土粒・塊（1cm～2cm）多い。
4　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。酸化鉄粒多い。黄白色粘土粒・炭粒やや多い。
5　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。黄白色粘土粒・焼土粒・炭粒多い。焼石（3cm以下）多い。
6　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒多い。炭粒・炭化材（2cm以下）やや多い。
7　橙色土　粘性非常に強く、締まり弱い。焼土。焼土塊（1cm以下）・暗褐色土塊（2cm以下）・小石（1cm～3cm）やや多く混じる。
8　明赤褐色土　粘性強く、締まり弱い。焼土。暗褐色土塊（1cm以下）・小石（1cm～3cm）やや多く混じる。炭粒少量。
9　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒・小石やや多い。
10　にぶい褐色土　粘性、締まりやや強い。黄白色粘土粒・焼土粒多い。

第43図　9号住居址　北カマド

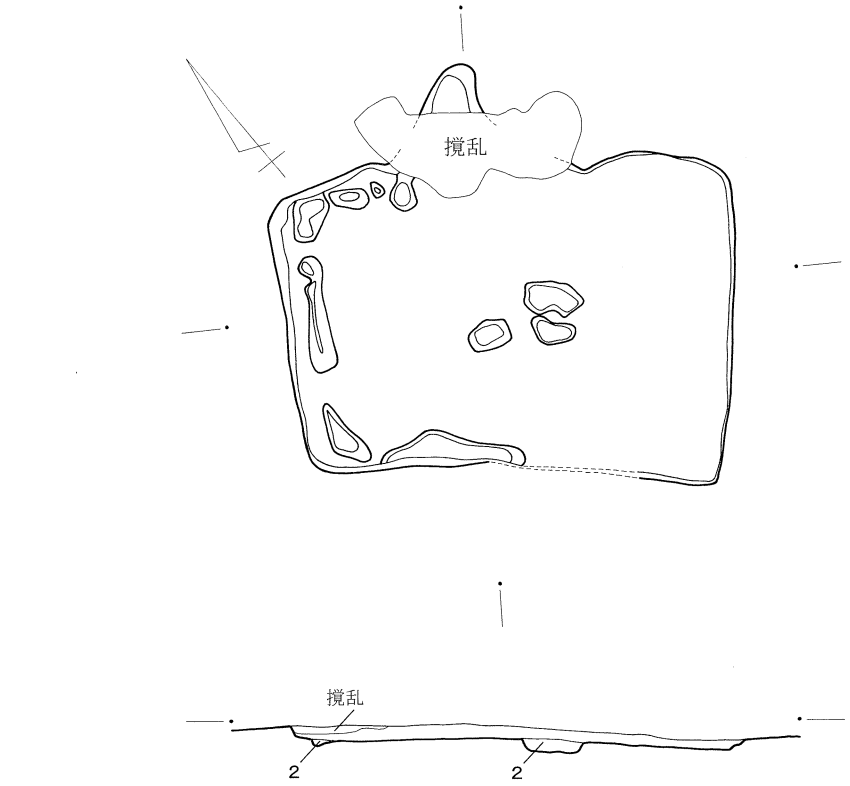
0 (1/60) 2m





0 (1/3) 10cm

第44図　９号住居址　遺物接合図，出土遺物

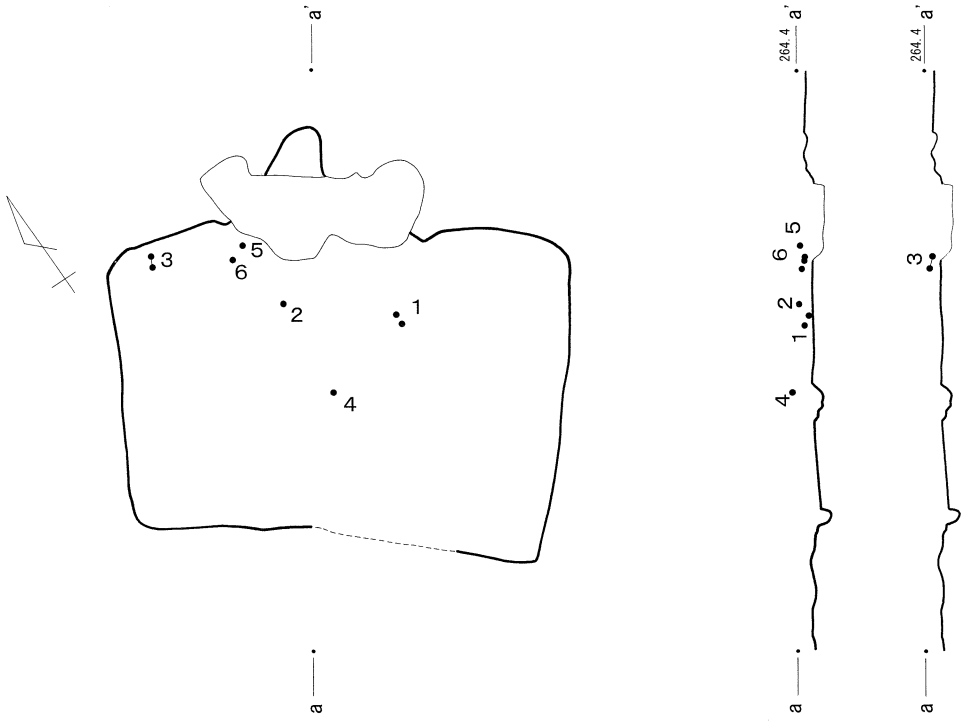


0 (1/60) 2m

10号住居址土層

1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。褐色土粒（1cm以下）・黒色スコリアやや多い。

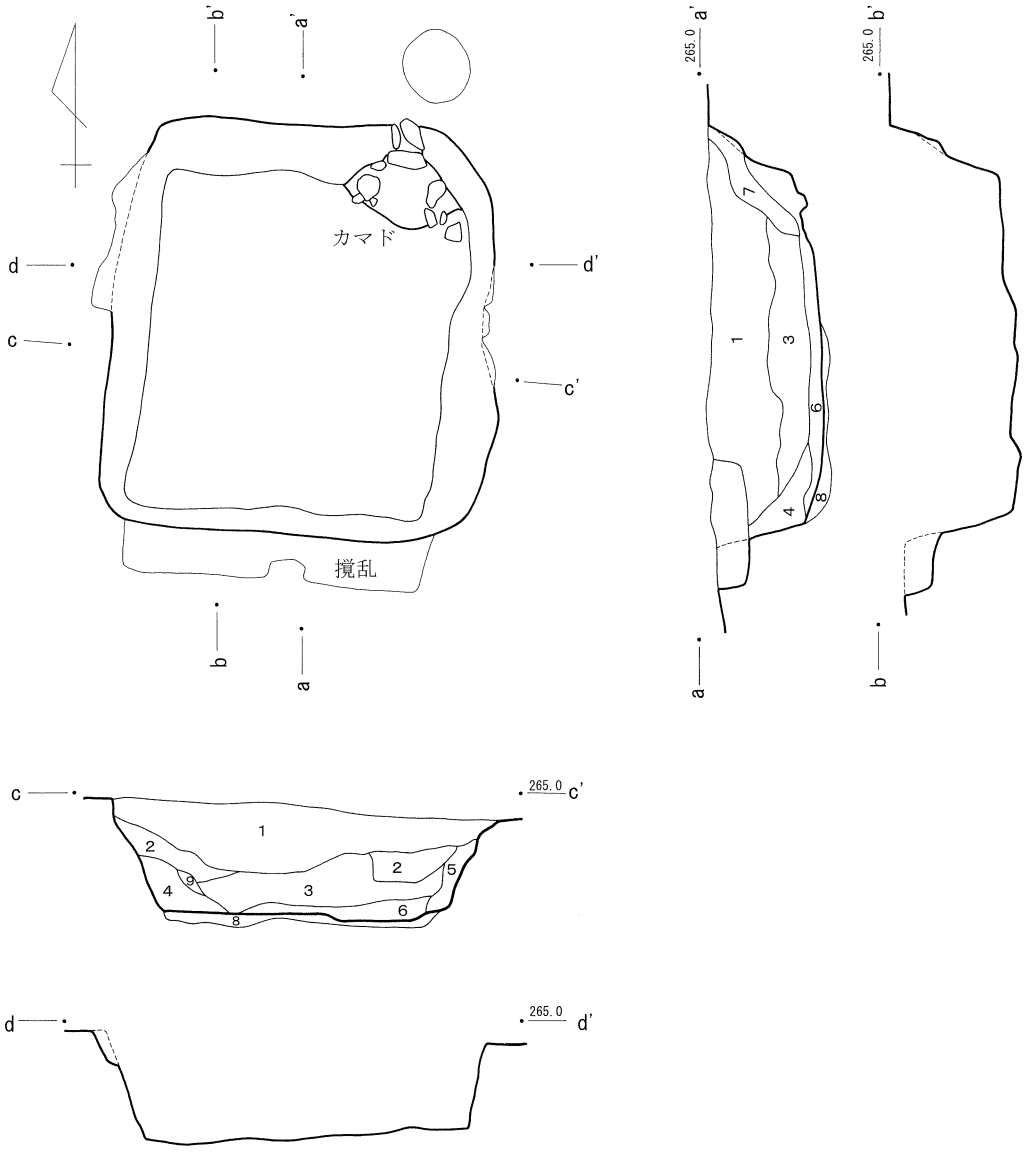
2　黒褐色土　粘性弱く、締まり強い。褐色土粒（2cm以下）・黒色スコリア多い。



0 (1/60) 2m

第45図　10号住居址，遺物分布図

第 46 図　10 号住居址　出土遺物

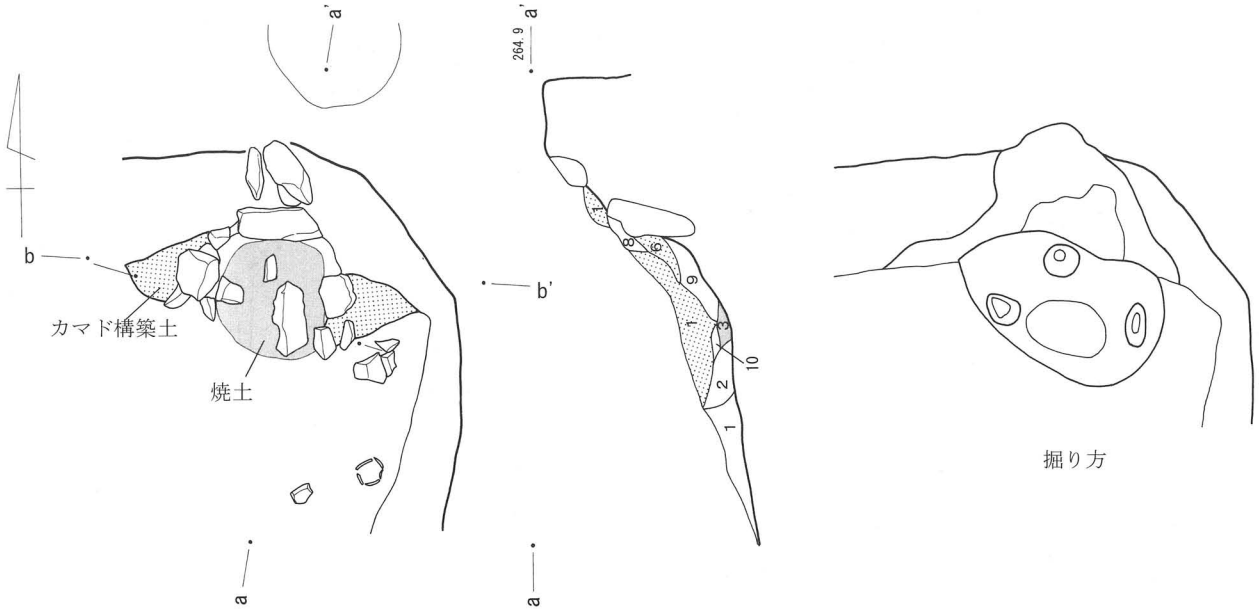


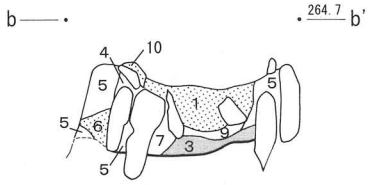
11 号住居址土層

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色・橙色スコリア多い。
2　暗褐色土　第 1 層を基調に褐色土粒（1 cm 以下）やや多い。
3　暗褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・褐色土粒（1 cm 以下）やや多い。
4　褐 色 土　粘性、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
5　褐 色 土　粘性弱く、締まり強い。
6　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。炭化材（1 cm）・褐色土粒やや多い。焼土粒・炭粒少量。
7　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。橙色スコリア・褐色土粒少量。
8　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。硬質ローム塊多い。貼り床。
9　褐 色 土　軟質の焼土。

0　(1/60)　2m

第 47 図　11 号住居址



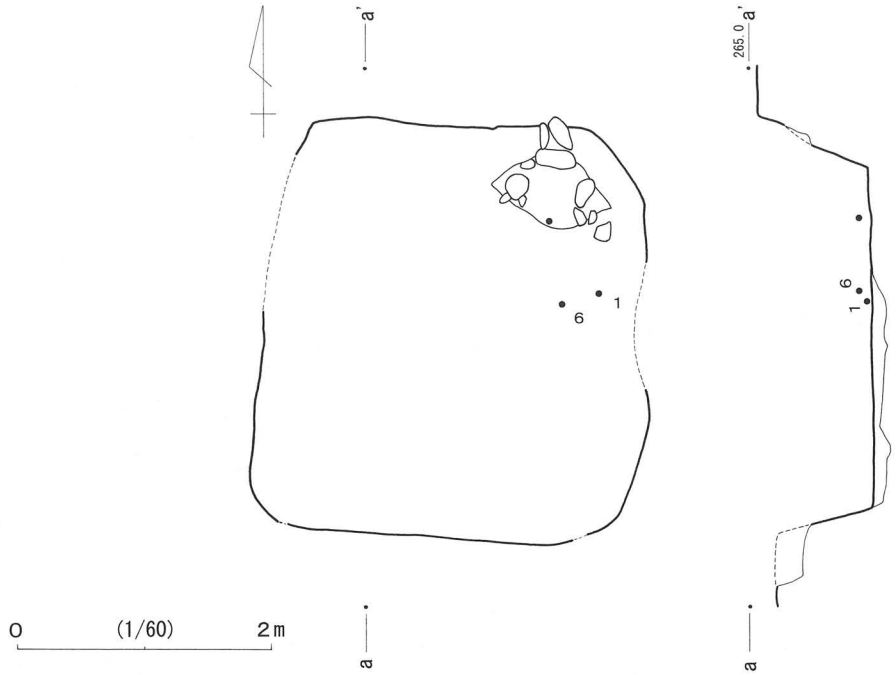


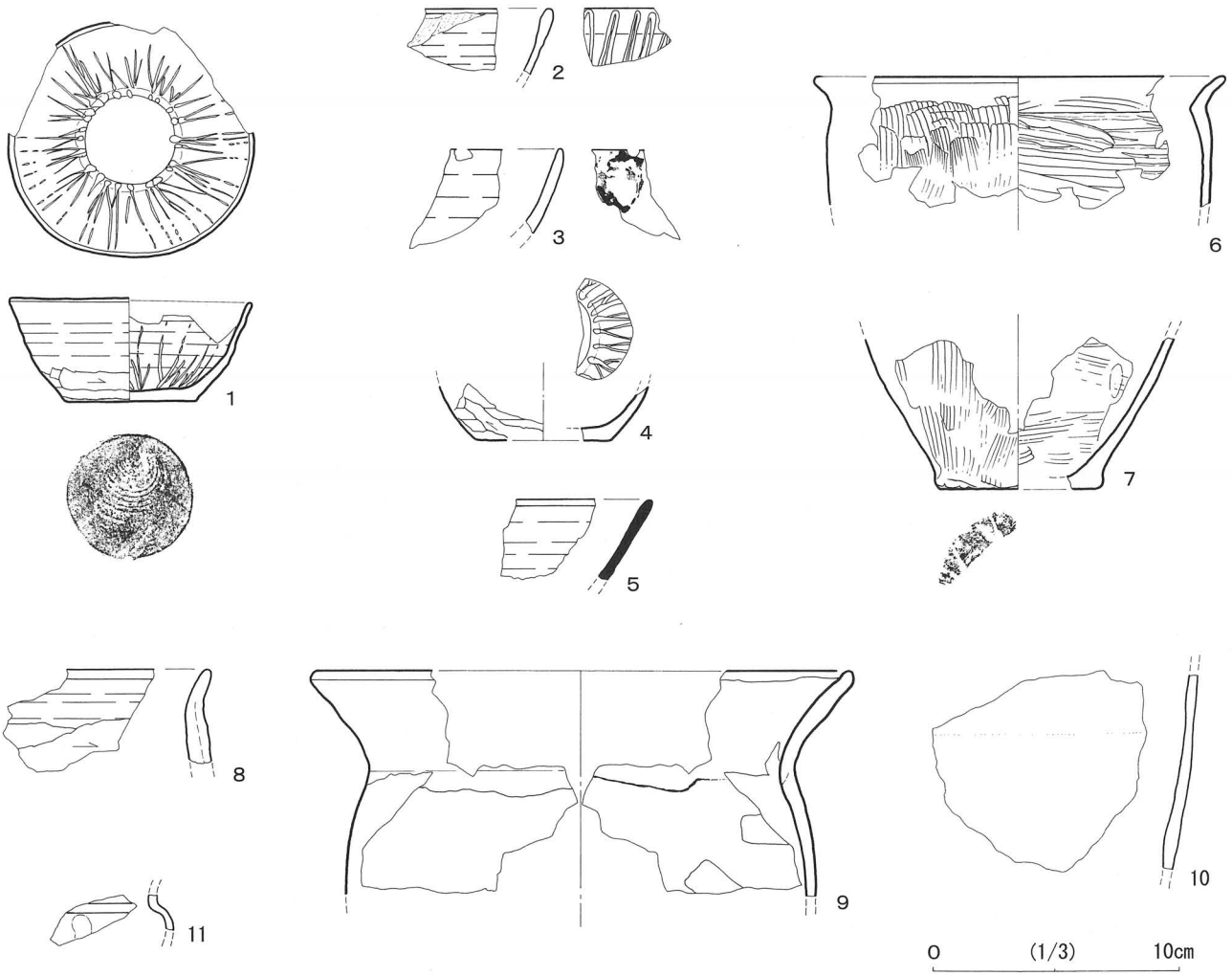
0 (1/30) 1m

カマド土層

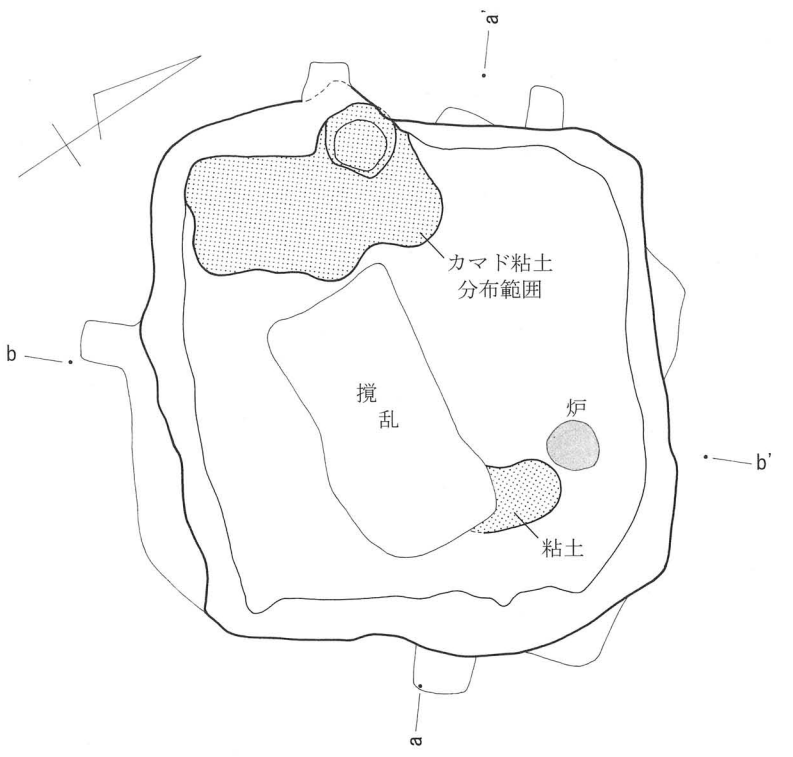
1 暗褐色土 粘性弱く、締まり強い。黄白色粘土(2cm以下)、焼土粒・炭粒多い。
2 黒褐色土 粘性、締まりやや強い。黄白色粘土粒・焼土粒やや多い。
3 にぶい褐色土 粘性、締まり弱い。焼土。黄白色粘土(1cm～2cm)・炭粒混じる。
4 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黄白色粘土粒多い。焼土粒、小石(5mm以下)やや多い。
5 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。黄白色粘土粒・焼土粒やや多い。
6 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。黄白色粘土(3cm以下)・小石(1cm以下)多い。
7 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黄白色粘土粒・焼土粒・小石やや多い。
8 暗褐色土 粘性、締まり弱く、触感パサパサ。黄白色粘土粒・焼土粒やや多い。
9 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。黄白色粘土(1cm)、焼土粒・小石多い。
10 黄白色粘土

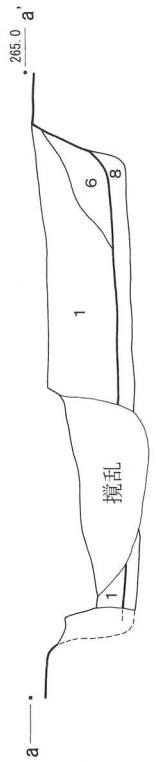
第48図 11号住居址 カマド

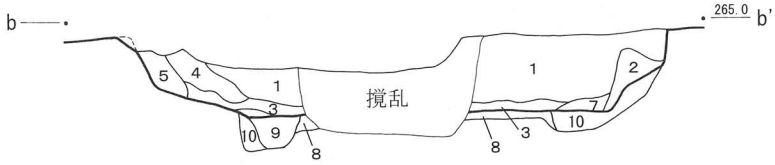




第 49 図　11 号住居址　遺物分布図，出土遺物



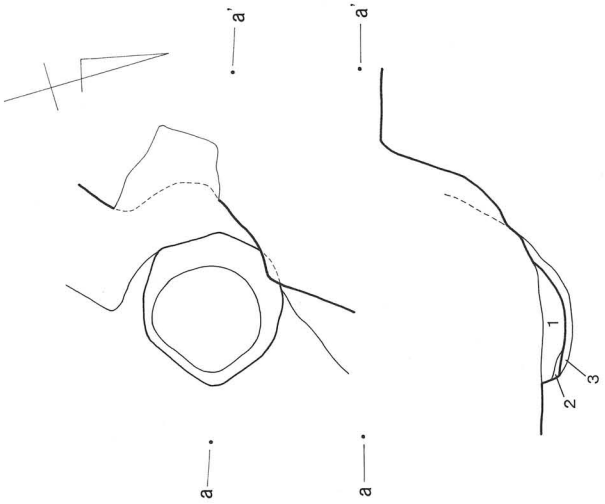




0 (1/60) 2m

12号住居址土層

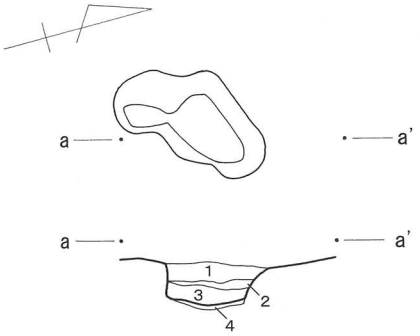
1 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒・炭粒少量。
2 褐 色 土 粘性弱く、締まり強い。
3 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。褐色土粒多い。
4 暗褐色土 黒色スコリア（8㎜前後）やや多い。
5 褐 色 土 黒色スコリア（8㎜前後）やや多い。
6 黒褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒・炭粒少量。
7 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。焼土粒・褐色土粒やや多い。
8 暗褐色土 ローム塊多い。貼り床。
9 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。ローム粒少量。
10 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。ローム粒多い。



0 (1/30) 50cm
カマド

カマド土層

1 にぶい橙色土 粘性強く、締まり弱い。焼土。暗褐色土粒・炭粒混じる。
2 明赤褐色土 硬質の焼土。
3 にぶい褐色土 地山ローム。粒子粗く触感ガサガサ。

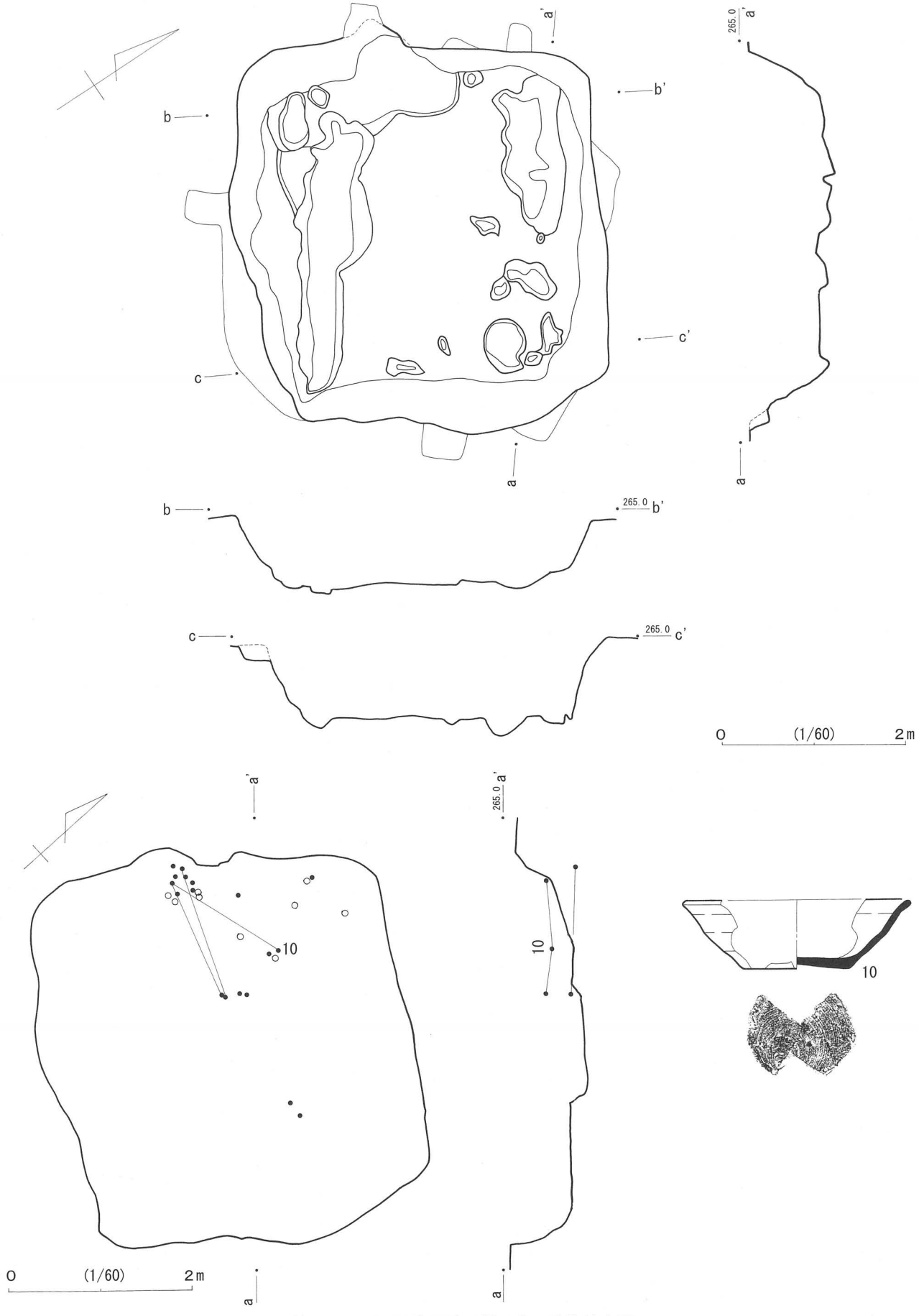


炉土層

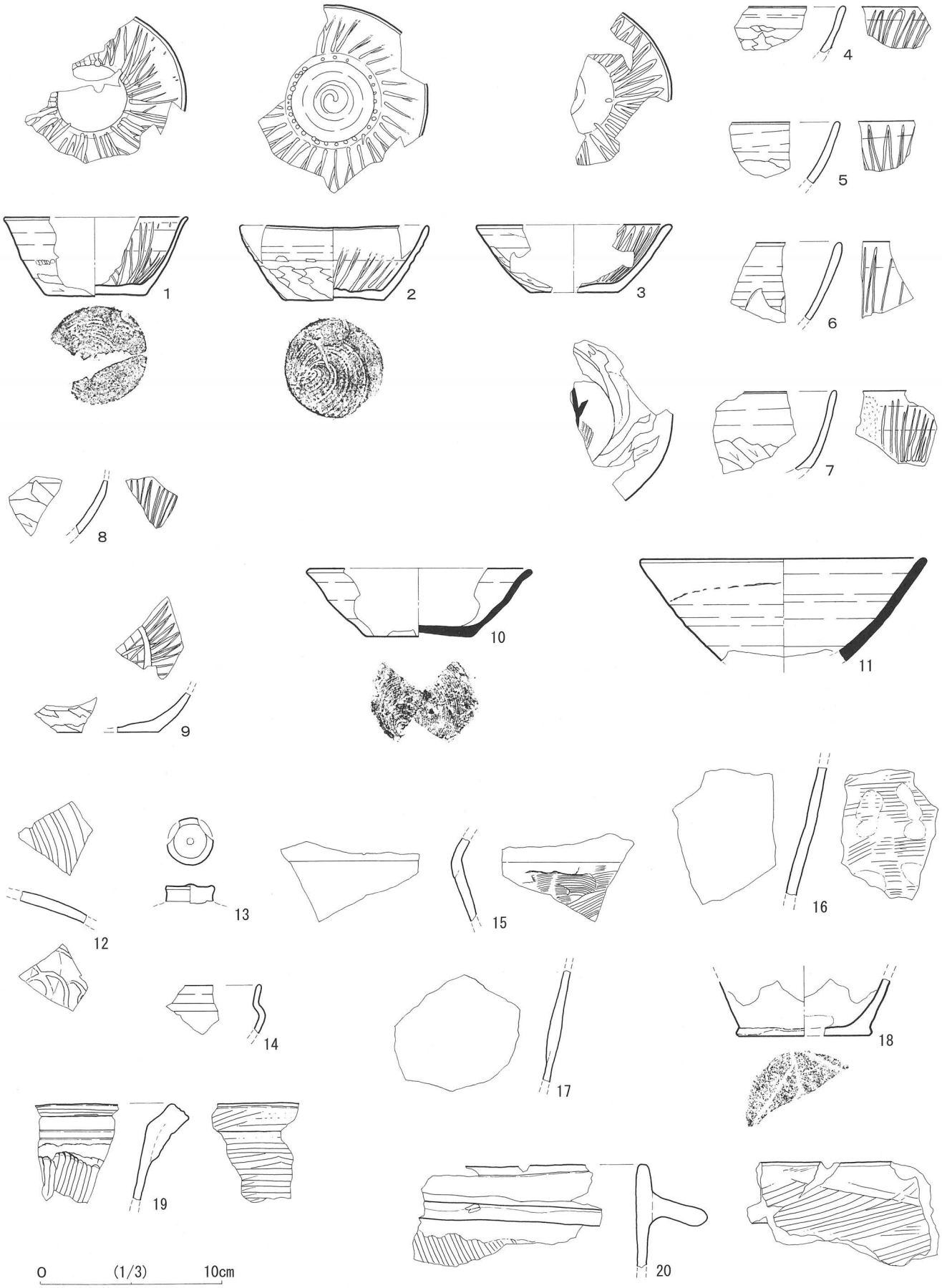
1 橙 色 土 粘性強く、締まり弱い。焼土。小石（5㎜前後）・炭粒やや多く混じる。
2 にぶい橙色土 焼土。粒子が粗く、触感ガサガサ。
3 明赤褐色土 粒子が粗く、触感ガサガサ。
4 にぶい褐色土 地山ローム。粒子粗く触感ガサガサ。

炉 0 (1/30) 50cm

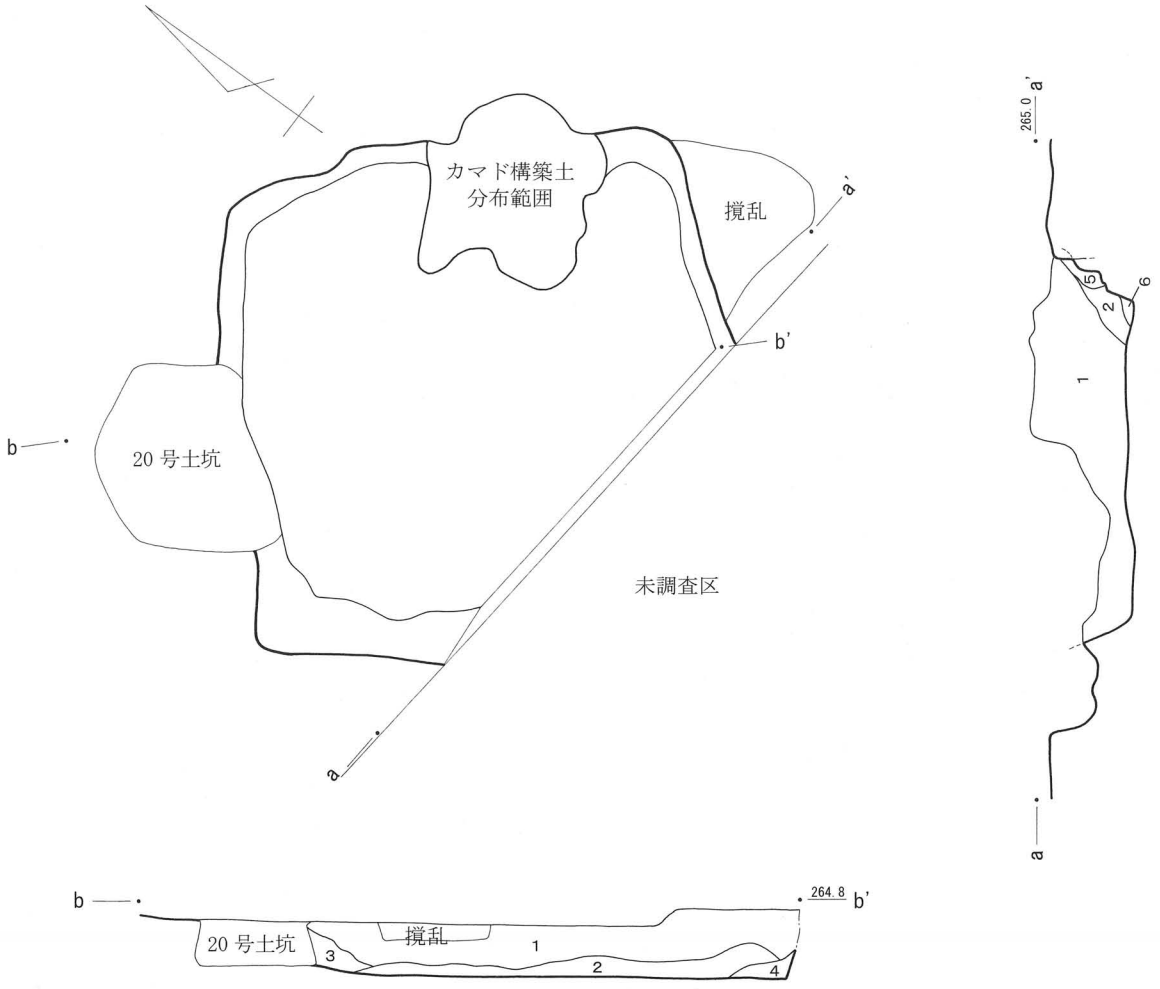
第50図 12号住居址 カマド，炉



第51図　12号住居址　掘り方，遺物接合図



第 52 図　12 号住居址　出土遺物

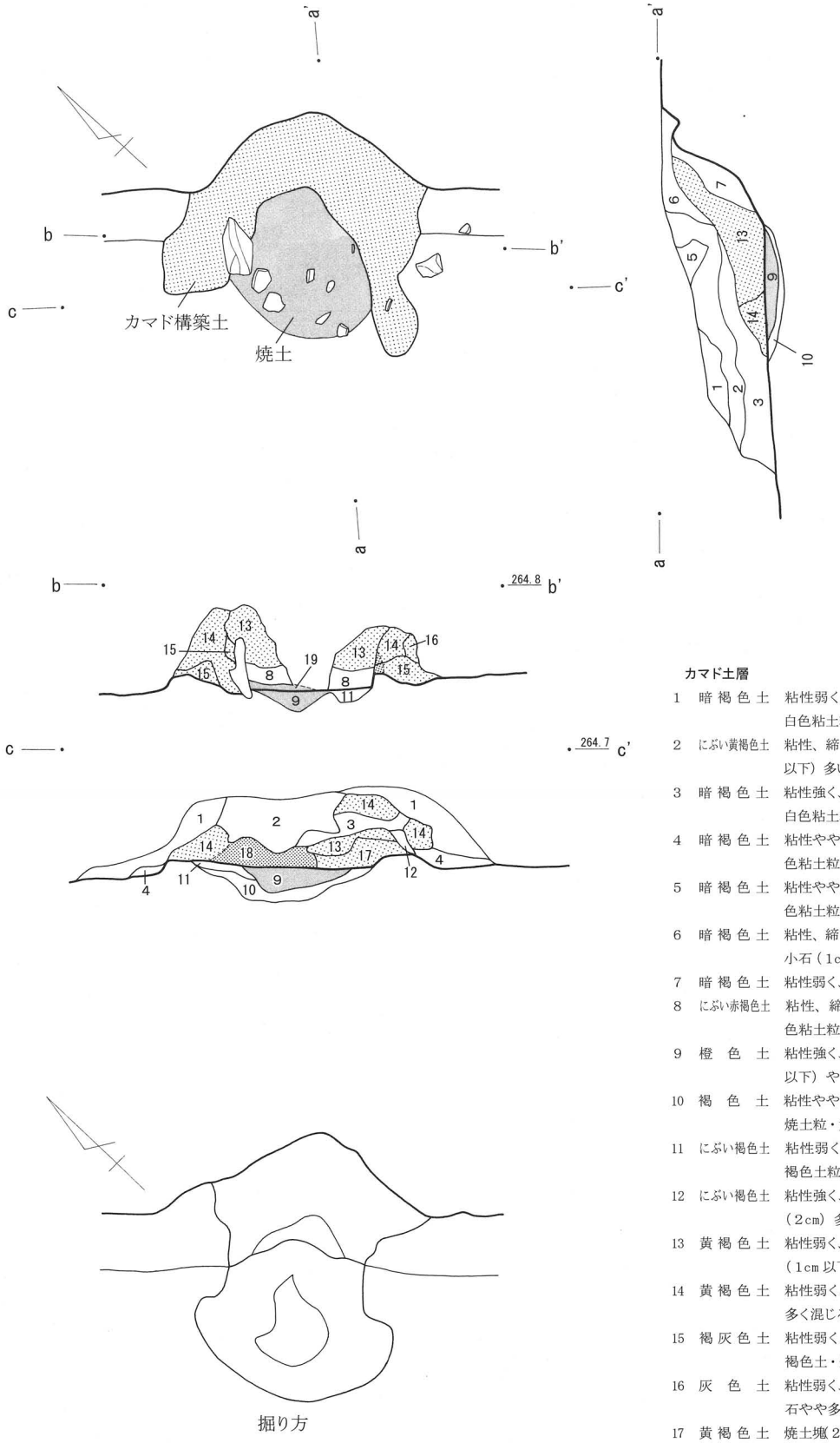


13 号住居址土層

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒・灰色粘土塊（２cm ～３cm）少量。
2　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒・黄白色粘土粒やや多い。
3　褐 色 土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒・黄白色粘土粒少量。
4　暗褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・黄白色粘土粒少量。
5　暗褐色土　締まり強い。褐色土塊多い。
6　暗褐色土　焼土粒やや多い。

0　(1/60)　2m

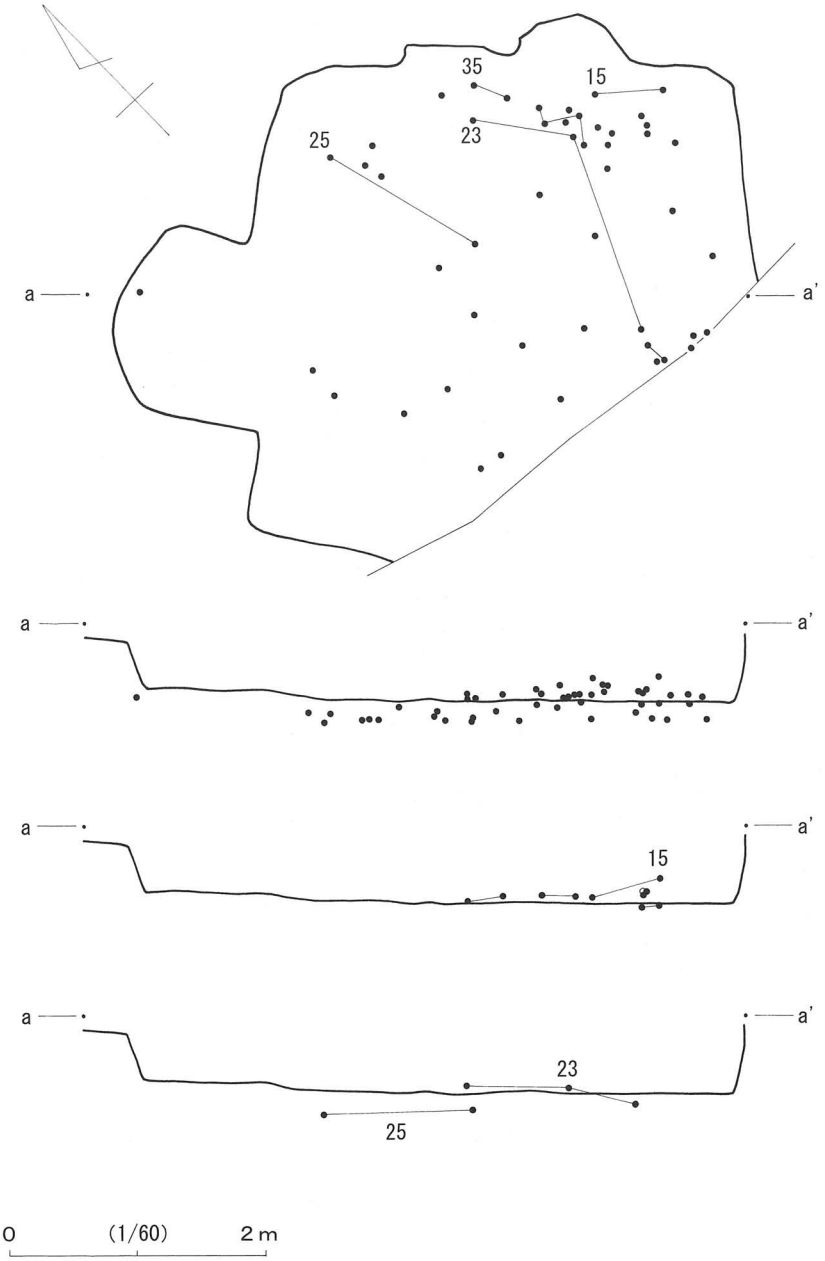
第 53 図　13 号住居址

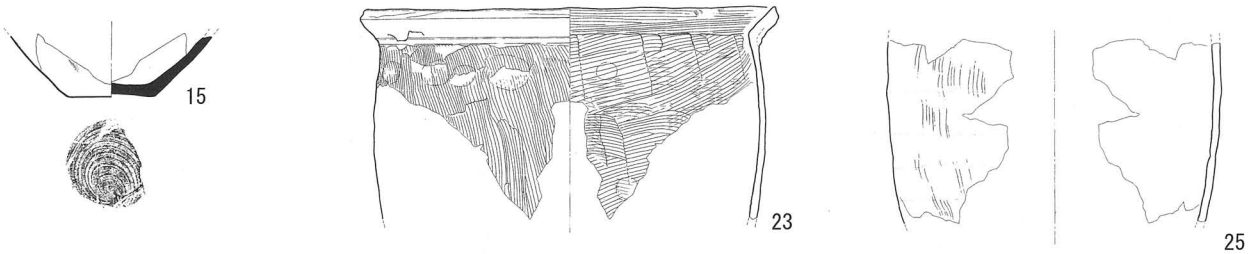


カマド土層

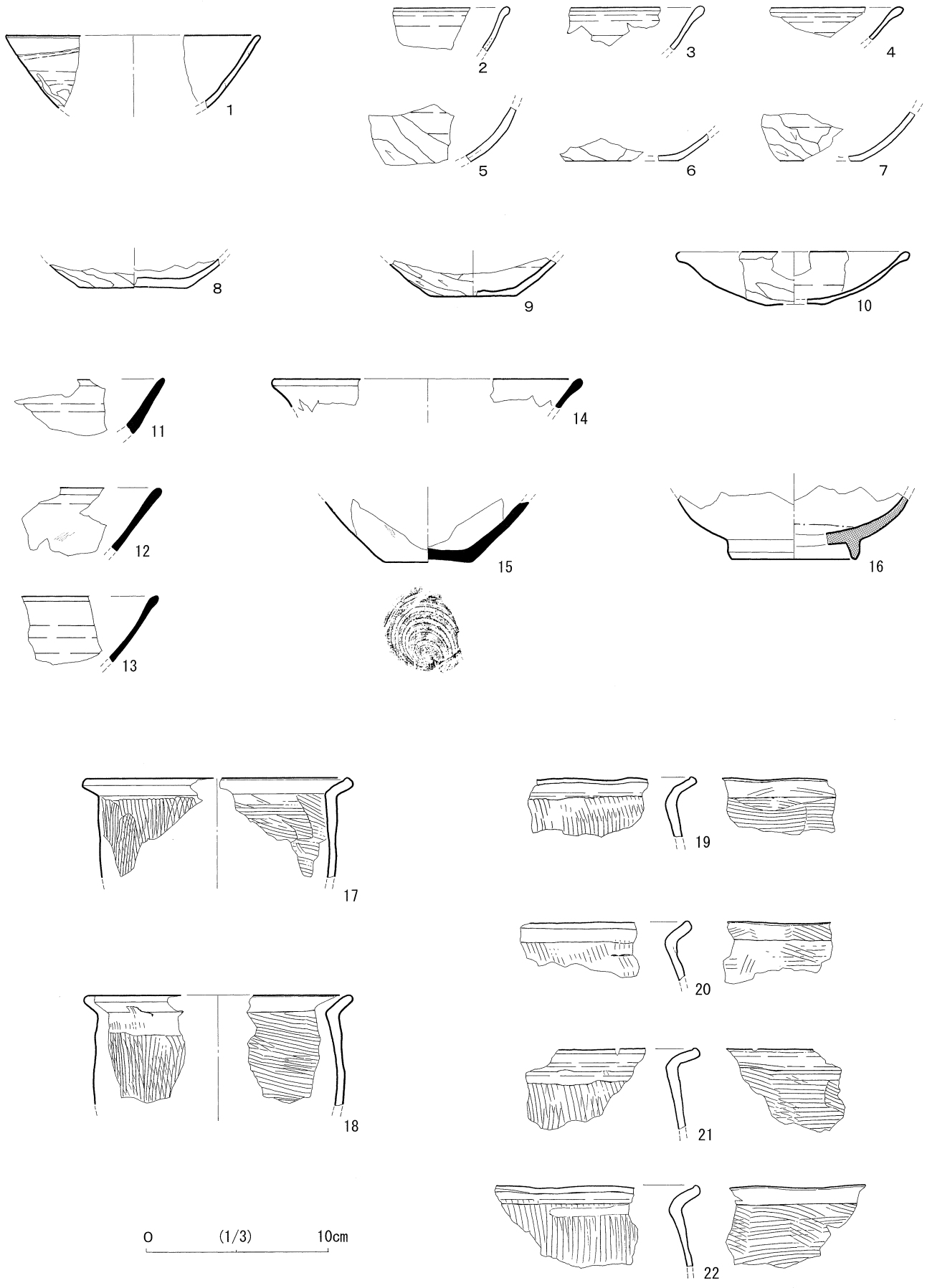
1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒・黄白色粘土粒少量。
2　にぶい黄褐色土　粘性、締まりやや強い。黄白色粘土（1cm以下）多い。焼土粒・黒褐色土粒やや多い。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒・黄白色粘土粒やや多い。
4　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・黄白色粘土粒やや多い。
5　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・黄白色粘土粒少量。
6　暗褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・黄白色粘土粒・小石（1cm以下）少量。
7　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒少量。
8　にぶい赤褐色土　粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・黄白色粘土粒多い。
9　橙色土　粘性強く、締まり弱い。焼土。小石（2cm以下）やや多く混じる。
10　褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。触感ザラザラ。焼土粒・黄白色粘土粒多い。
11　にぶい褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。褐色土・暗褐色土粒含む。
12　にぶい褐色土　粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土粒・塊（2cm）多い。
13　黄褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。小石・焼土塊（1cm以下）多く混じる。天井崩壊土。
14　黄褐色土　粘性弱く、締まり強い。小石（2cm以下）多く混じる。天井・袖部崩壊土。
15　褐灰色土　粘性弱く、締まりやや強い。第14層に暗褐色土・焼土粒が多く混じる。袖部。
16　灰色土　粘性弱く、締まり強い。黄白色粘土粒・小石やや多い。袖部。
17　黄褐色土　焼土塊(2cm以下)多い。天井・袖部崩壊土。
18　淡い橙色土　第14層が焼土化。
19　橙色土　粘性やや強く、締まり弱い。焼土。

第54図　13号住居址　カマド

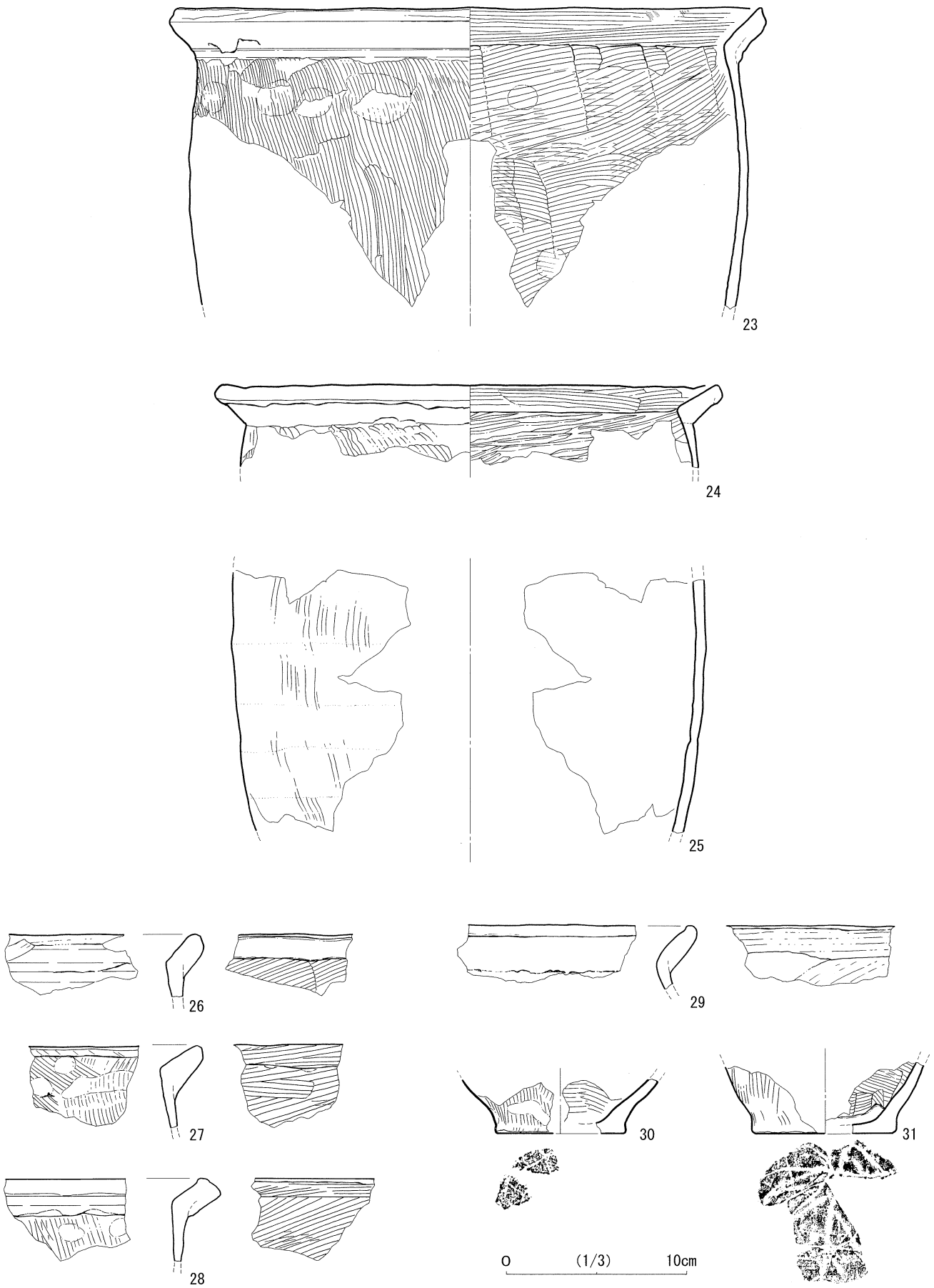




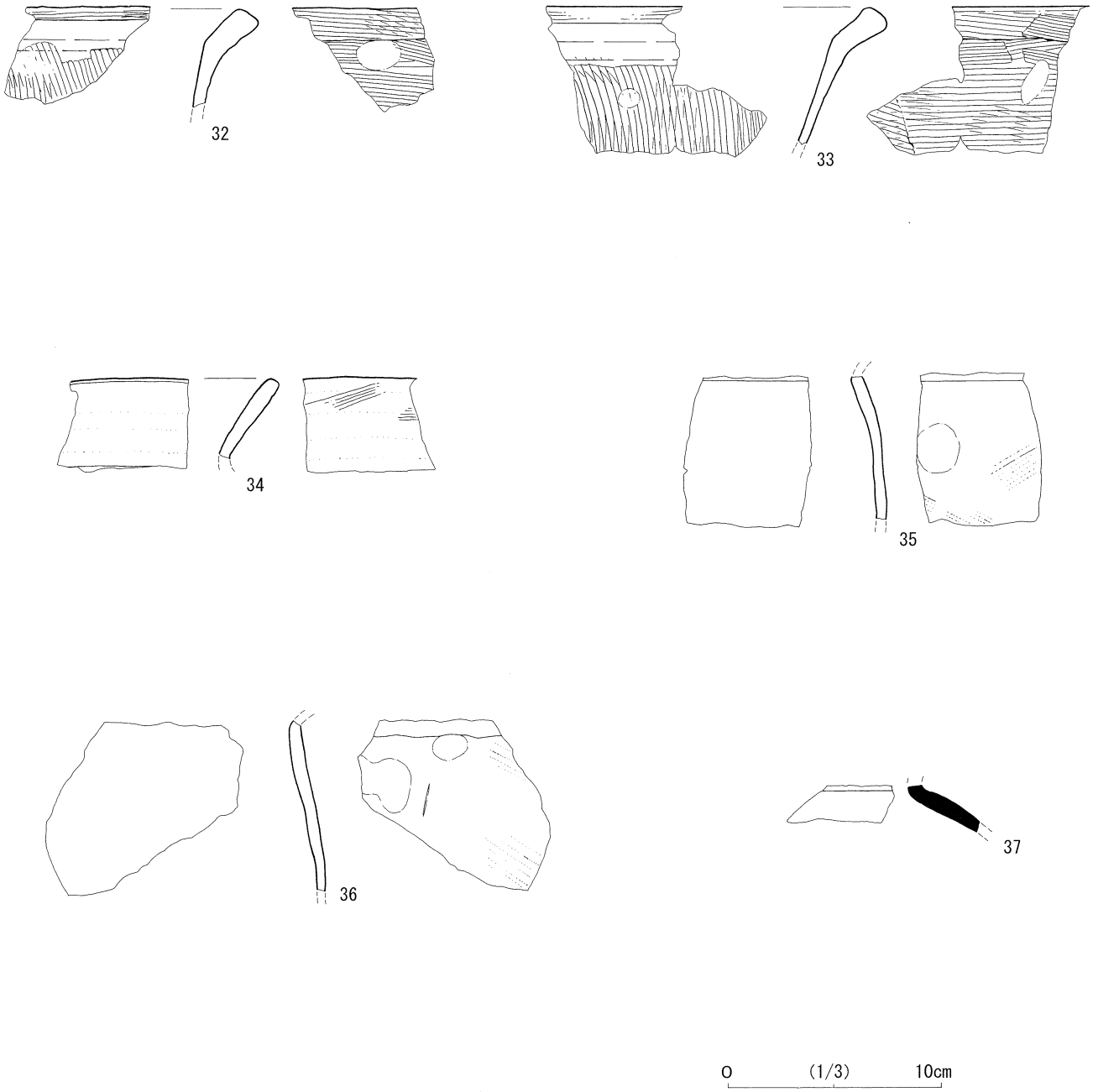
第55図　13号住居址　遺物分布，接合図



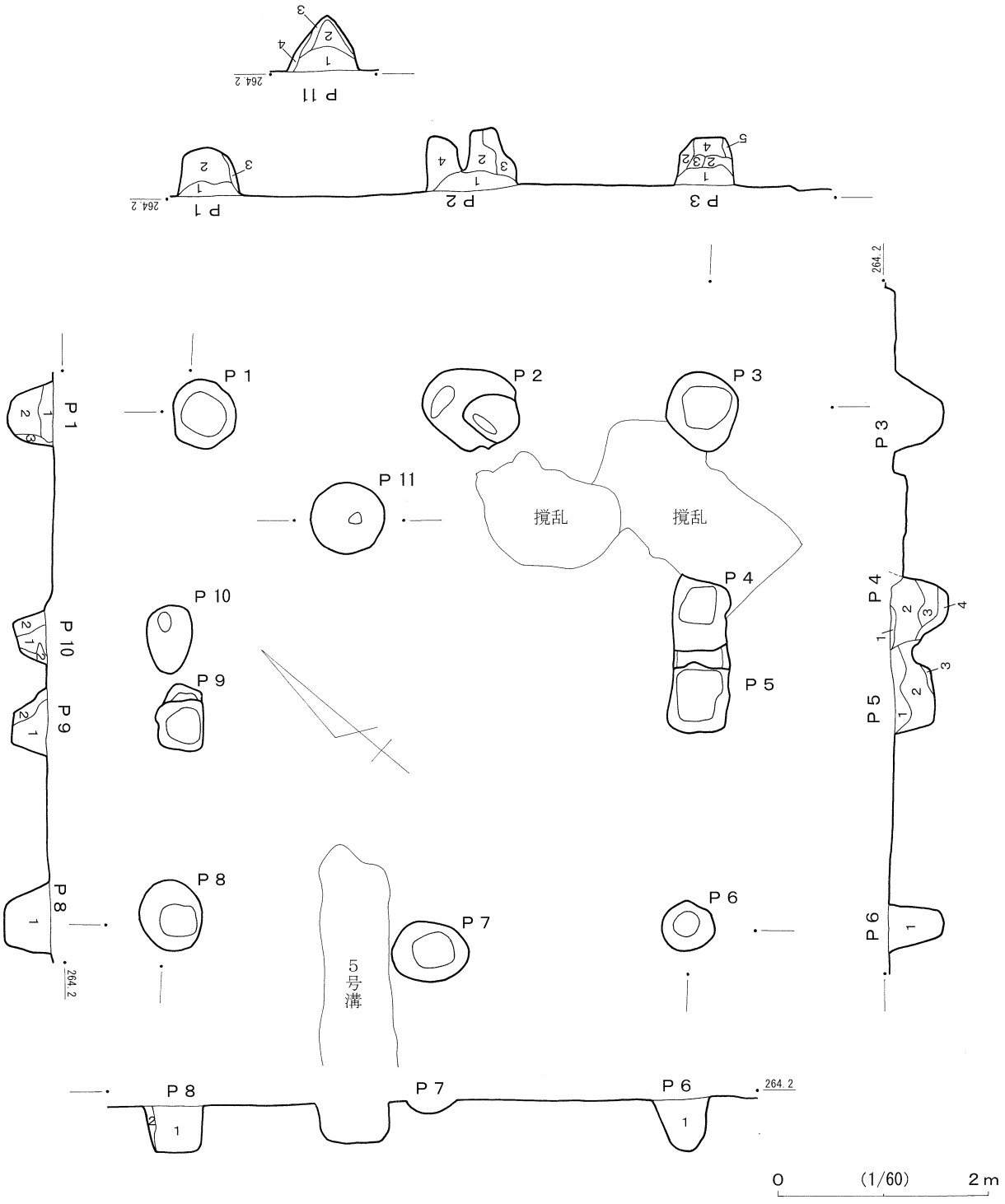
第 56 図　13 号住居址　出土遺物－１－



第57図　13号住居址　出土遺物－２－



第58図　13号住居址　出土遺物－３－



第59図　1号掘立柱建物址

1号掘立柱建物址土層

P１

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリアやや多い。炭粒少量。
2　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。
3　褐　色　土　粘性強く、締まり弱い。

P２

1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。褐色土塊（10cm 以下）含む。焼土粒・炭粒多い。
2　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。焼土粒少量。
3　褐　色　土　粘性、締まり弱い。地山の褐色土と暗褐色土が斑状に混じる。
4　暗褐色土

P３

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色・橙色スコリア・炭粒やや多い。
2　褐　色　土　粘性やや強く、締まり弱い。
3　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。
4　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。
5　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土粒多い。

P４

1　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。褐色土粒多い。黒色スコリアやや多い。
2　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。黒色スコリアやや多い。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色土（１～２cm）やや多い。
4　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色土が斑状に混じる。

P５

1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。褐色土（１～３cm）、黒色・橙色スコリアやや多い。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
3　褐　色　土　粘性、締まりやや強い。

P６

1　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。黒色・橙色スコリア多い。

P８

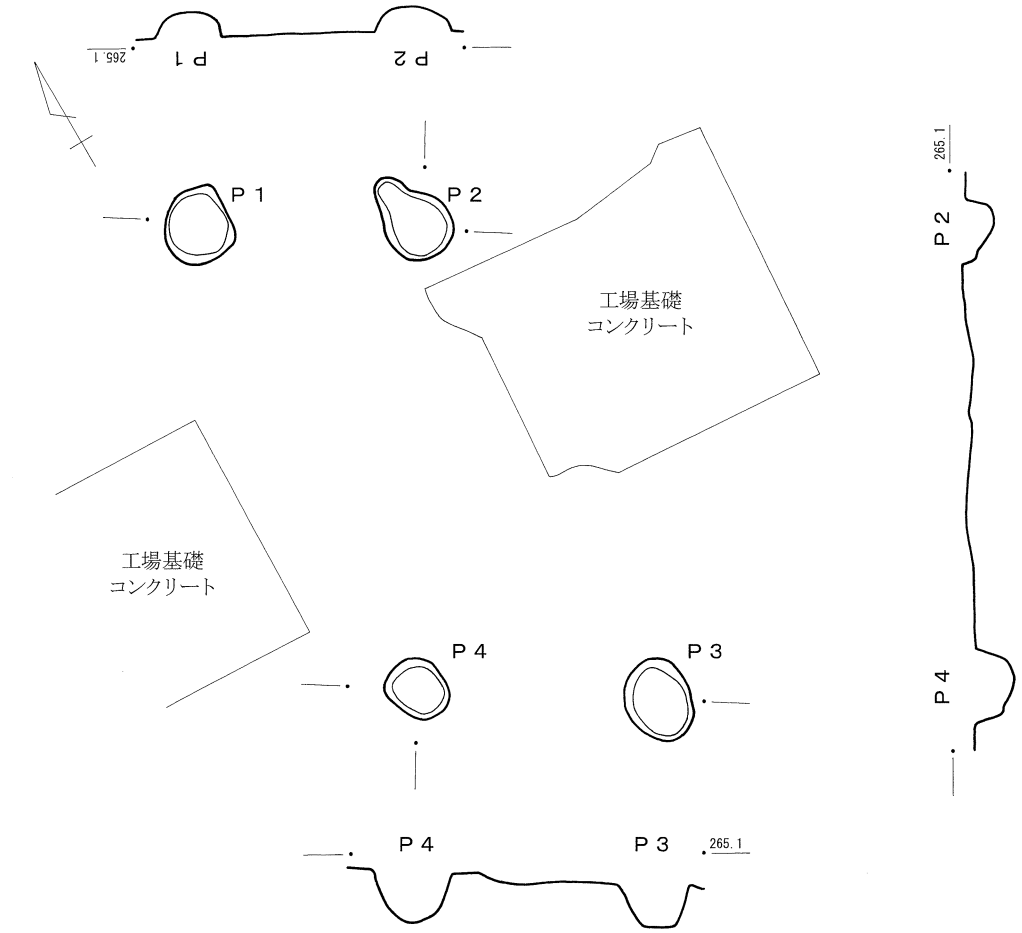
1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリア多い。褐色土（１～２cm）・焼土粒少量。
2　褐　色　土　粘性強く、締まり弱い。暗褐色土が斑状に混じる。

P９・P10

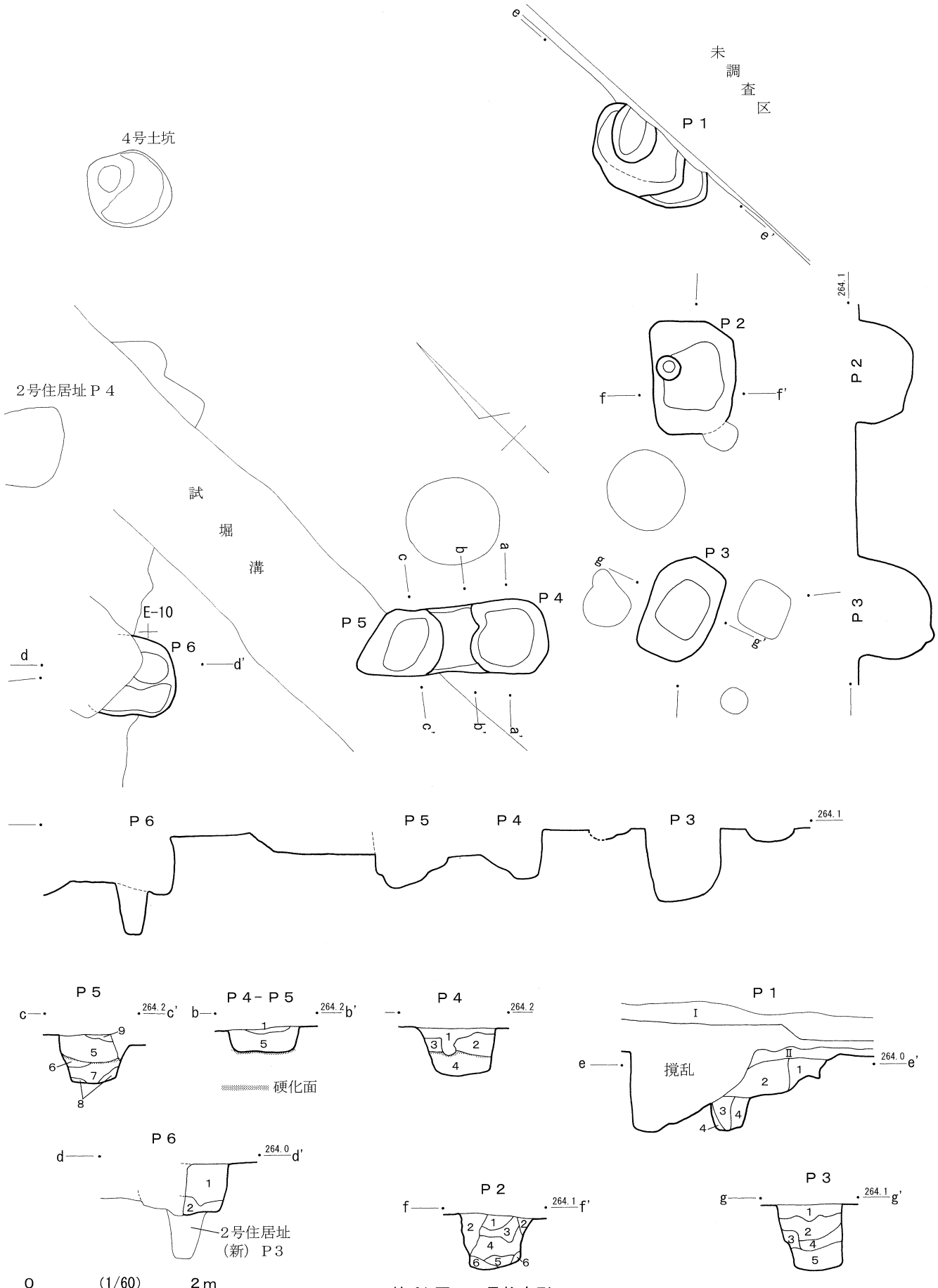
1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土・黒色スコリア多い。

P11

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。炭粒少量。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。
3　暗褐色土　粘性、締まり弱い。
4　褐　色　土　粘性、締まり弱い。



第 60 図　２号掘立柱建物址


未調査区
P 1
4号土坑
2号住居址P 4
試堀溝
E-10
P 6
P 5
P 4
P 3
P 2
264.1
P 6
P 5
P 4
P 3
264.1
P 5
264.2
P 4－P 5
264.2
P 4
264.2
P 1
I
II
撹乱
264.0
硬化面
P 6
264.0
2号住居址
（新）P 3
P 2
264.1
P 3
264.1
0
(1/60)
2 m

第 61 図　1号柱穴列

1号柱穴列土層

P１

1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。焼土粒・炭粒少量。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土（１cm 以下）やや多い。焼土粒・炭粒少量。
3　暗褐色土　粘性やや強い。締まりなく、触感サラサラ。褐色土粒多い。柱痕。
4　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。

P２

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。褐色土（１cm 以下）・黒色スコリアやや多い。焼土粒少量。
2　暗褐色土　第１層を基調に大粒（５㎜）の黒色スコリア多い。
3　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。第１層を基調に褐色ローム土（２cm 以下）多く含む。
4　黒褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色ローム土（１cm 以下）少量。
5　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色ローム土が斑状に混じる。
6　褐　色　土　粘性強く、締まり弱い。

P３

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土（２cm 以下）少量。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土（２cm 以下）多い。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土（２cm 以下）少量。
4　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。
5　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色土（４cm 以下）多い。黒色スコリアやや多い。

P４・P５

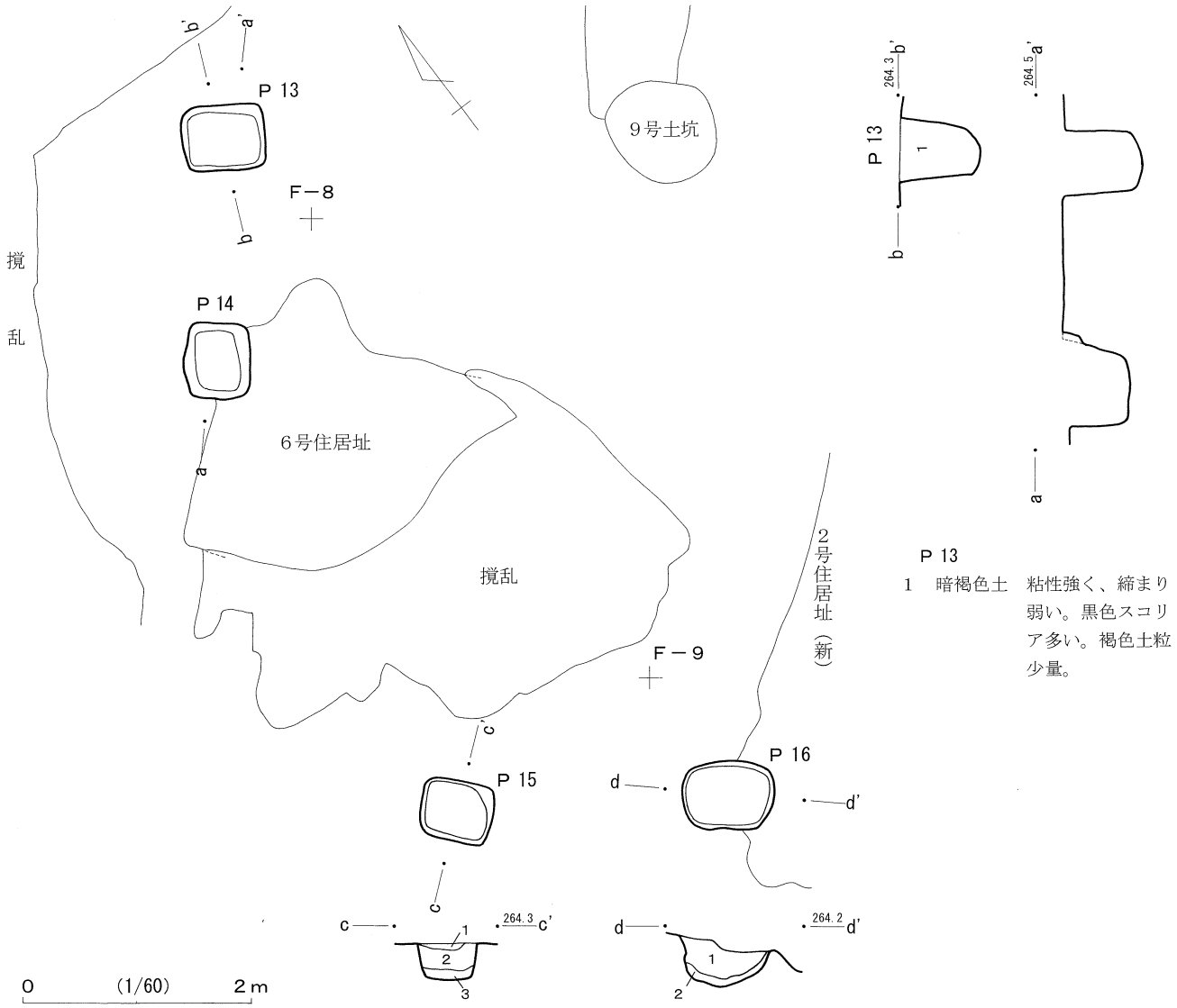
1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。橙色スコリア少量。
2　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土（１cm～３cm）多い。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
4　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。本層上面は硬く締まる。黒色スコリアやや多い。
5　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土（１cm 以下）やや多い。
6　暗褐色土　粘性強く、締まり強い。本層上面は硬く締まる。
7　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。本層上面は硬く締まる。
8　褐　色　土　粘性強く、締まり弱い。暗褐色土（１cm～３cm）含む。
9　黄褐色土　硬質のローム塊。

P６

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリアやや多い。
2　褐　色　土　粘性強く、締まり弱い。褐色ローム土多い。

第62図　1号柱穴列　出土遺物

0　(1/3)　10cm



P 13

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土粒少量。

P 15

1　暗褐色土　粘性、締まりやや強い。黒色・橙色スコリア多い。褐色土粒・炭粒含む。

2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリア多い。

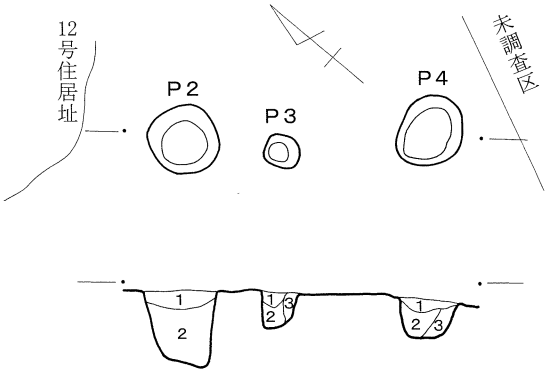
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土粒多い。

P 16

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリア多い。褐色土粒少量。

2　褐　色　土　粘性やや強く、締まり弱い。暗褐色土が斑状に混じる。

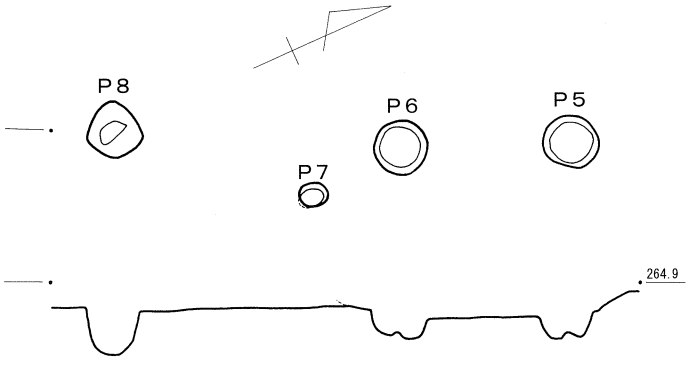
第63図　ピット－1－



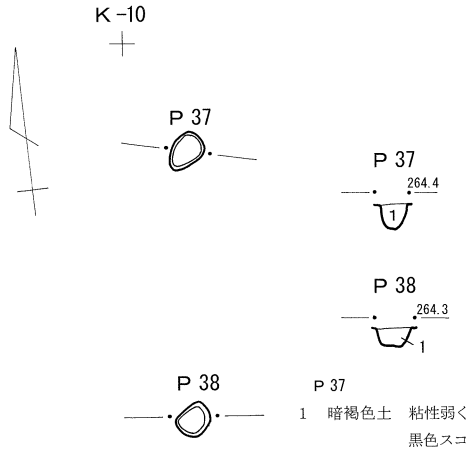
P2～P4

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア・硬質の褐色土（2cm以下）多い。
3　暗褐色土　第2層と同質で、締まり強い。

P2～P4



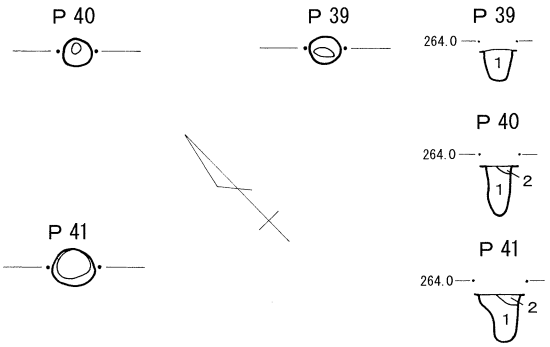
P5～P8



P 37
1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。黒色スコリア多い。

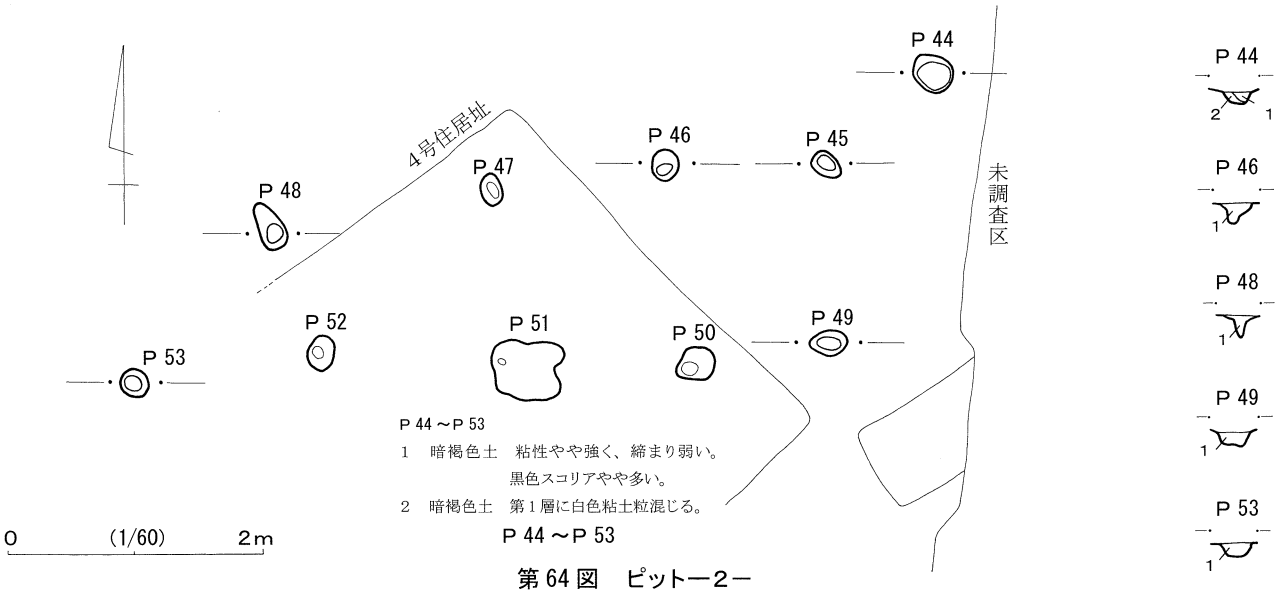
P 38
1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。黒色スコリア・褐色土（3cm以下）やや多い。

P 37・P 38



P 39～P 41
1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。
2　暗褐色土　第1層に褐色土（2cm以下）多く混じる。

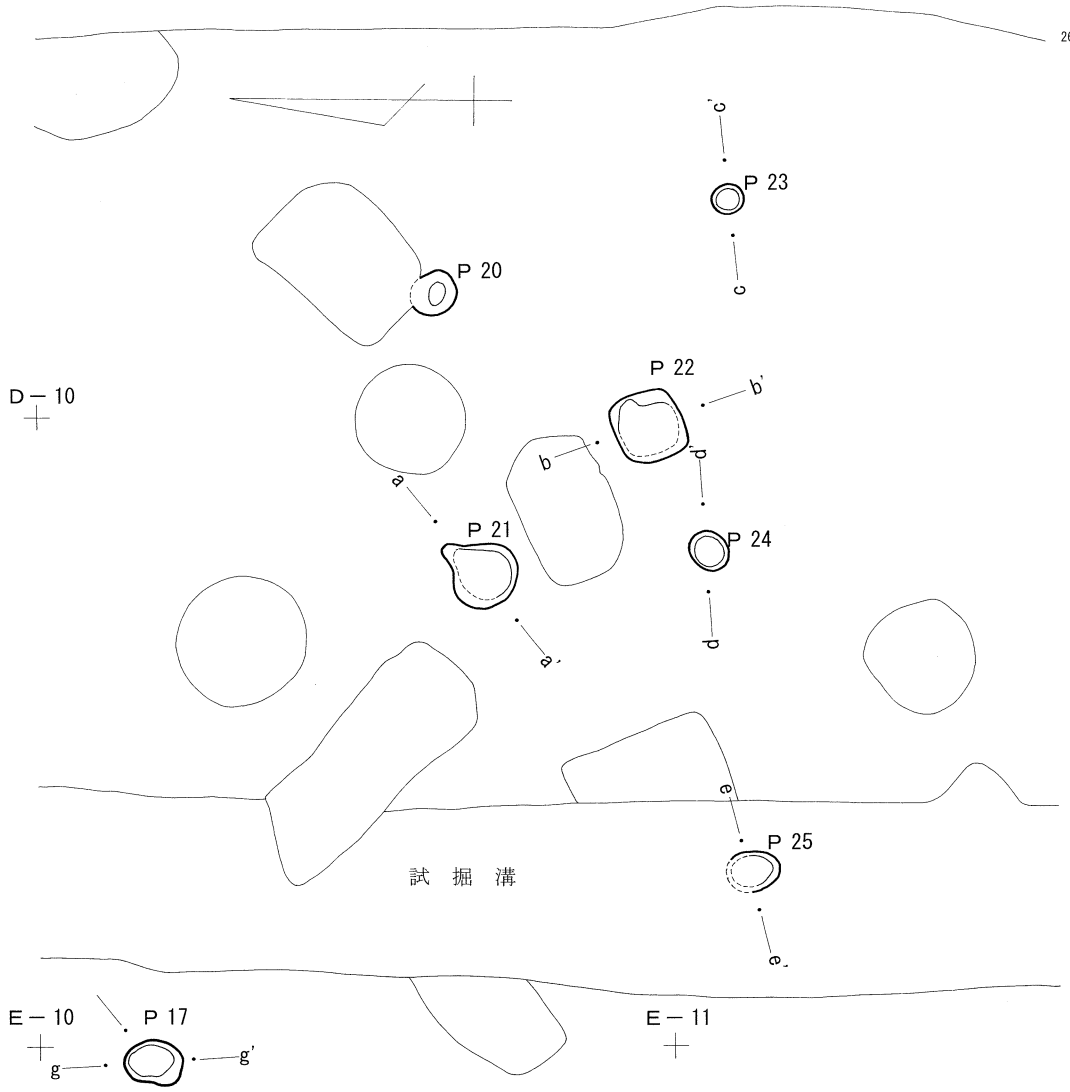
P 39～P 41

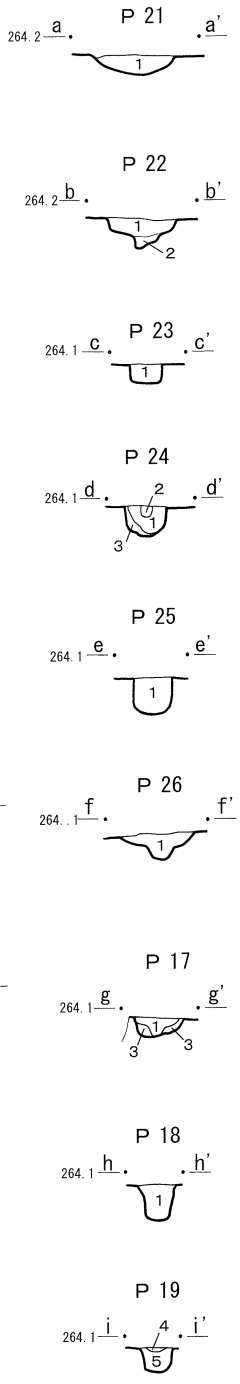


P 44～P 53
1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
2　暗褐色土　第1層に白色粘土粒混じる。

P 44～P 53

第64図　ピット－2－





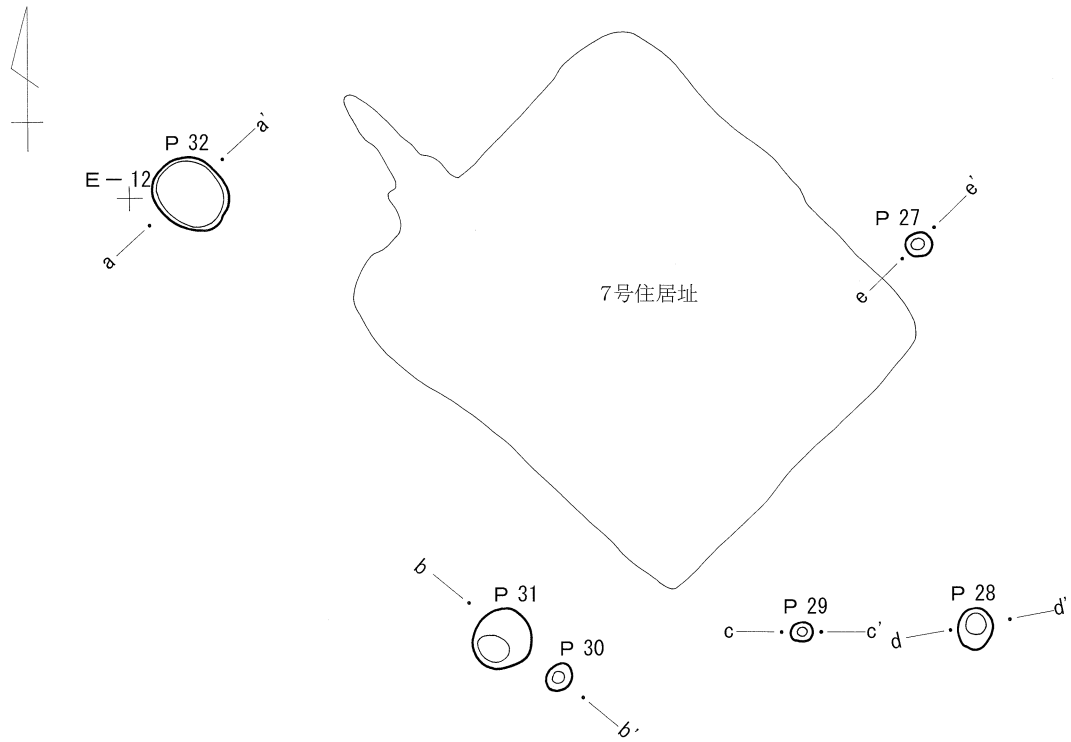
0 (1/60) 2m

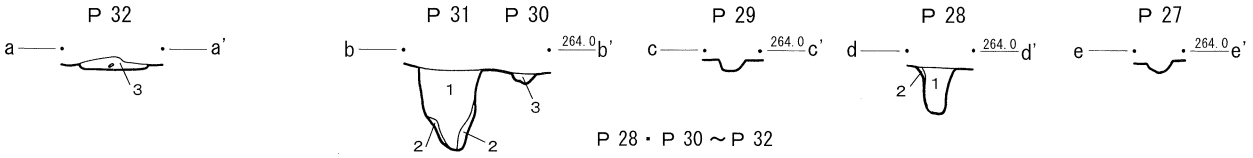
第65図 ピット－３－

P 21
1 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア・焼土粒・炭粒多い。

P 22
1 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。炭粒少量。
2 暗褐色土 粘性、締まり弱い。

P 17～P 19、P 23～P 26
1 暗褐色土 粘性、締まり弱い。褐色土が斑状に混じる。炭粒少量。
2 褐色土塊
3 褐 色 土 粘性、締まり弱い。
4 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリア、焼土・黄白色土粒多い。
5 褐 色 土 第４層と同質。

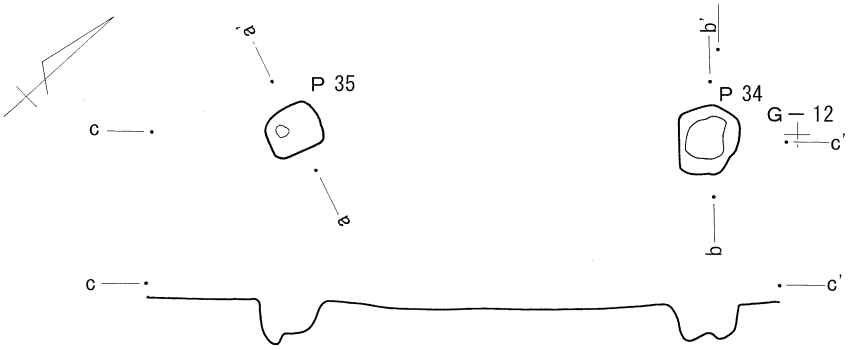




P 27～P 32

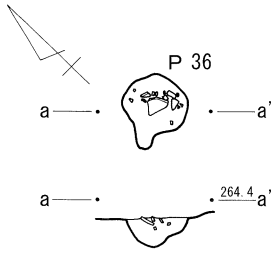
P 28・P 30～P 32

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土粒多い。
2　褐 色 土　粘性強く、締まりやや強い。
3　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。



P 34・P 35

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土粒少量。
2　褐 色 土　粘性強く、締まり弱い。暗褐色土塊多い。



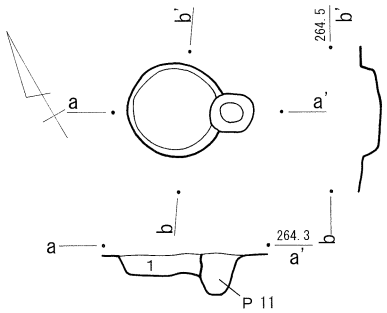
P 36

P 36

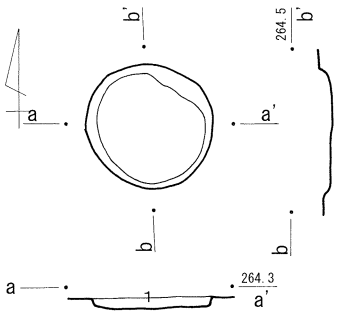
1　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。炭粒・焼土粒・白色粘土粒多い。

0　(1/60)　2m

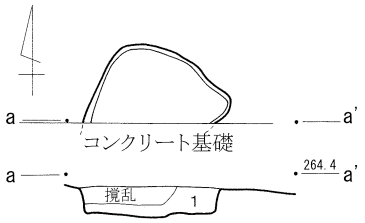
第66図　ピット－4－



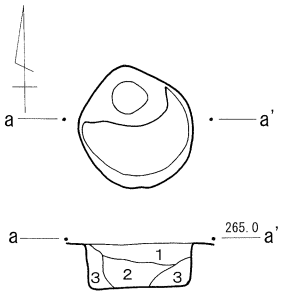
1号土坑



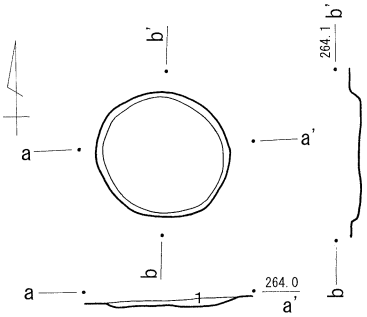
2号土坑



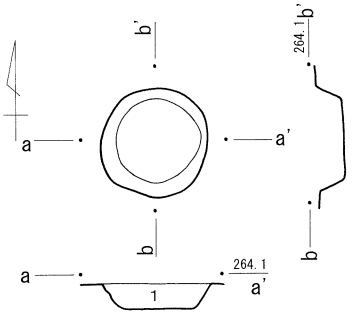
3号土坑



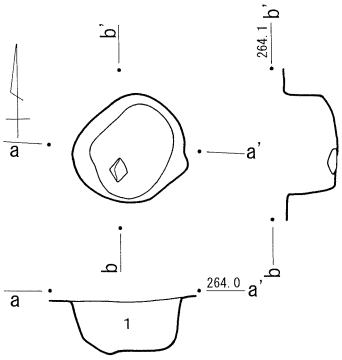
4号土坑



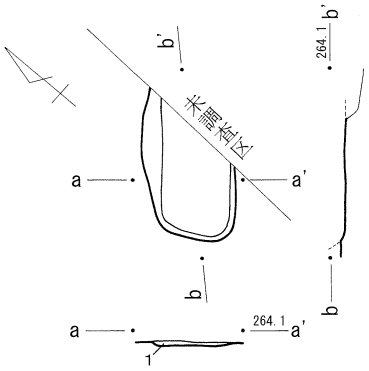
5号土坑



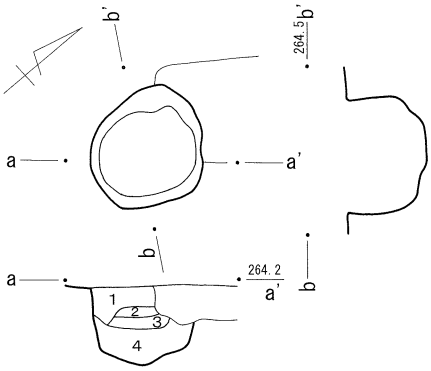
6号土坑



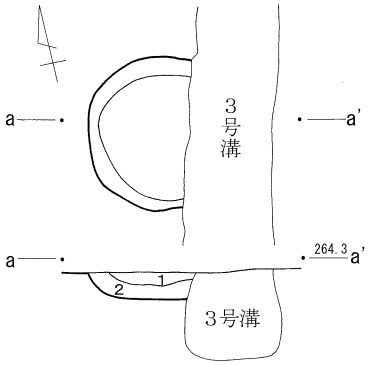
7号土坑



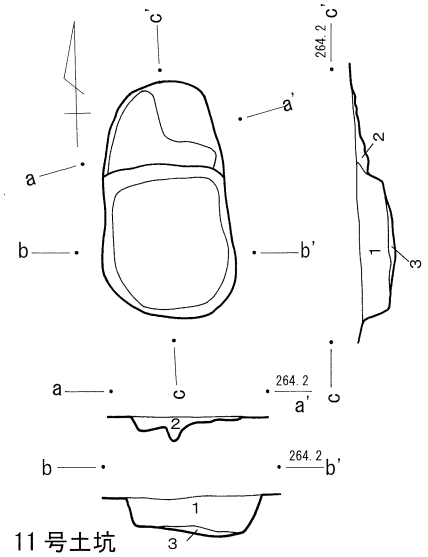
8号土坑



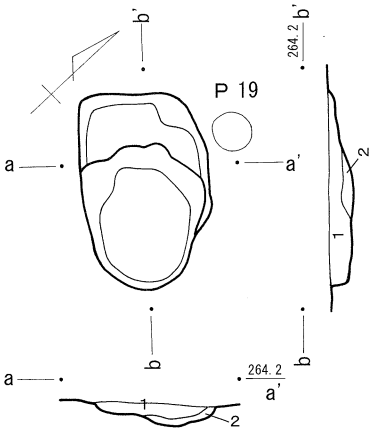
9号土坑



10号土坑



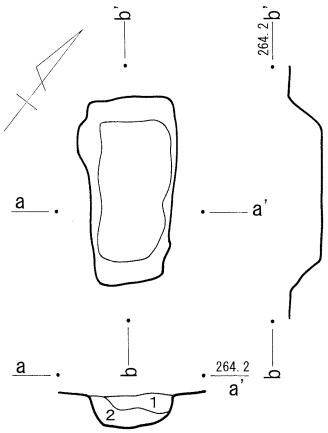
11号土坑



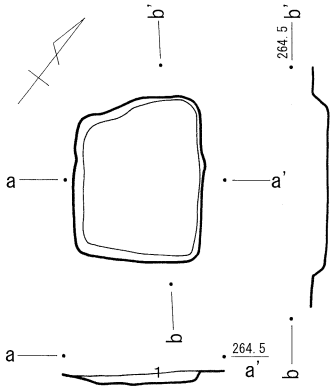
12号土坑

0 (1/60) 2m

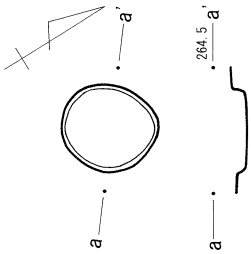
第67図　土坑－1－



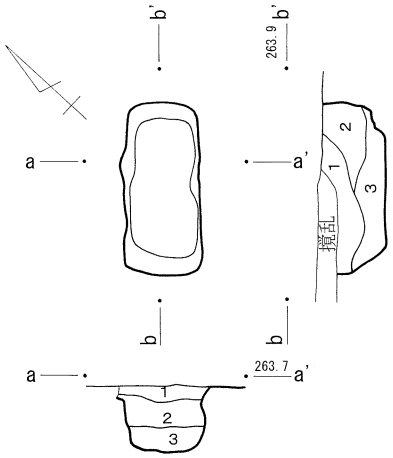
13 号土坑



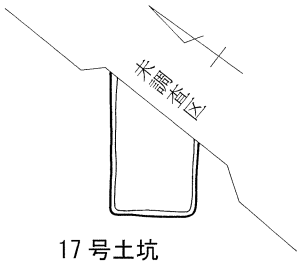
14 号土坑



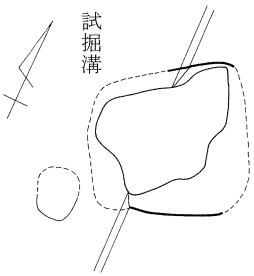
15 号土坑



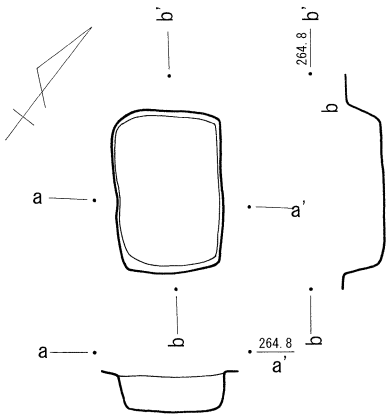
16 号土坑



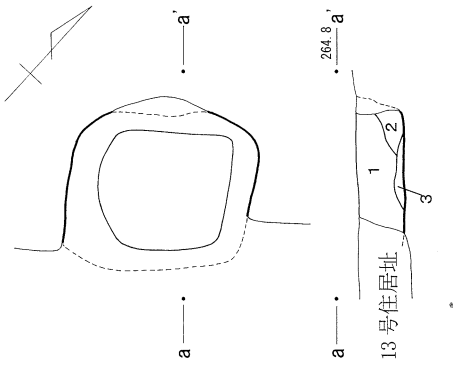
17 号土坑



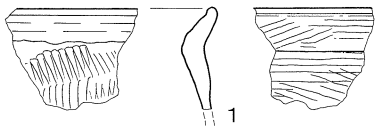
18 号土坑

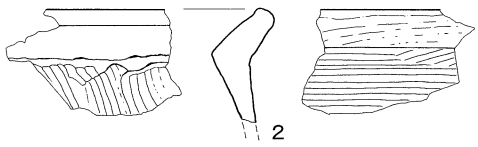


19 号土坑



20 号土坑





0 (1/60) 2 m

0 (1/3) 10cm

第 68 図　土坑－２－，出土遺物

1号土坑

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。

2号土坑

1　暗褐色土　粘性・締まりやや強い。黒色スコリア多い。

3号土坑

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。

4号土坑

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土（２㎝以下）・黒色スコリア多い。
2　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色土（２㎝以下）多い。

5号土坑

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色土（２㎝以下）・黒色スコリア多い。

6号土坑

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。

7号土坑

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。

8号土坑

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。

9号土坑

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土粒やや多い。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土塊（1～２㎝）多い。
3　褐色土　　粘性、締まりやや強い。
4　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土粒・塊やや多い。

10号土坑

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土粒、黒色・橙色スコリアやや多い。炭粒・白色粘土粒少量。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリアやや多い。炭粒少量。

11号土坑

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。
2　暗褐色土　粘性、締まり弱い。褐色土・黒色スコリア多い。炭粒少量。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色土・黒色スコリアやや多い。炭粒・焼土粒少量。

12号土坑

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。橙色スコリア・褐色土・炭粒少量。
2　暗褐色土　粘性弱く、締まりやや強い。黒色スコリア少量。

13号土坑

1　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。褐色土・黒色スコリア多い。焼土粒少量。
2　暗褐色土　１に似るが、褐色土が多く目立つ。

14号土坑

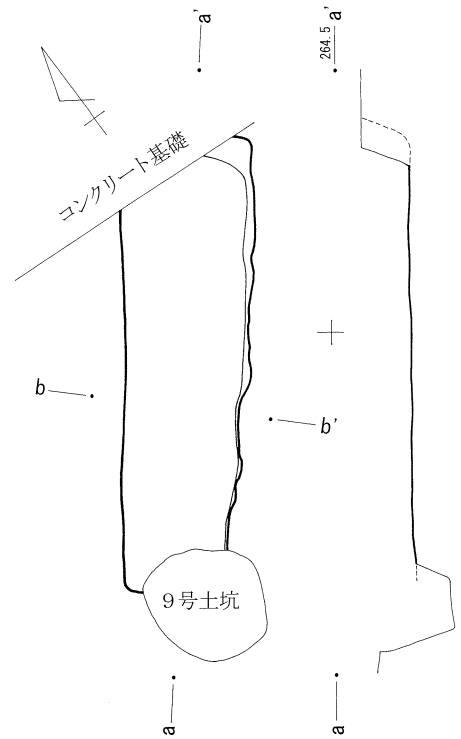
1　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。黒色スコリア多い。炭粒・焼土粒やや多い。褐色土（1～２㎝）少量。

16号土坑

1　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。炭粒・焼土粒・白色粘土粒・褐色土（２㎝以下）やや多い。黒色スコリア少量。
2　暗褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
3　暗褐色土　粘性強く、締まり弱い。褐色土（３㎝以下）やや多い。焼土粒・白色粘土粒・黒色スコリア少量。

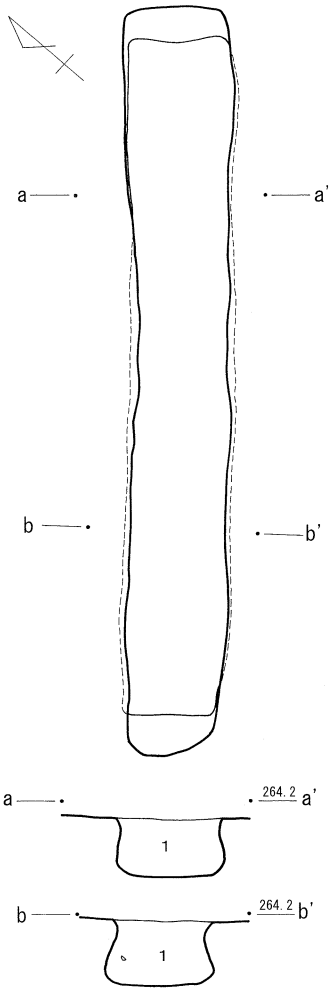
20号土坑

1　暗褐色土　粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土粒（１㎝以下）やや多い。
2　にぶい褐色土　粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
3　にぶい褐色土　粘性やや強く、締まり強い。



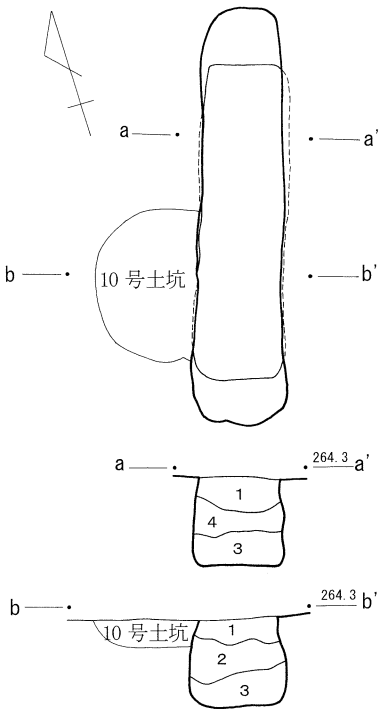
1　暗褐色土　褐色土（2cm以下）やや多い。

1号溝



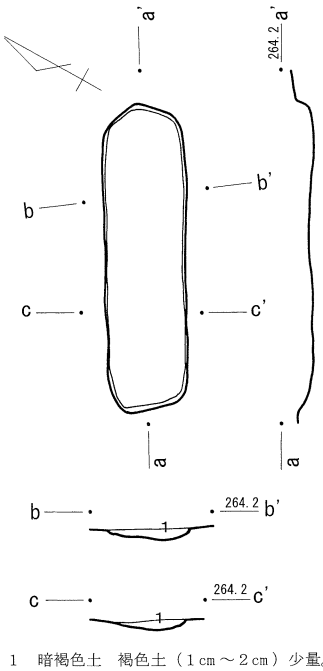
1　暗褐色土　褐色土（2cm以下）・炭粒・焼土粒やや多い。

2号溝



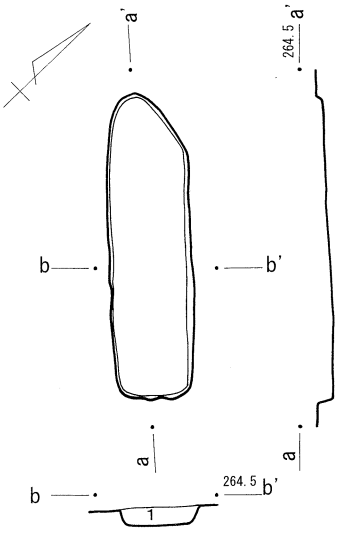
1　暗褐色土　褐色土（1cm）やや多い。
2　褐色土　褐色土（3cm以下）多い。
3　暗褐色土　褐色土（3cm以下）やや多い。
4　黒褐色土　褐色土・炭粒少量。

3号溝



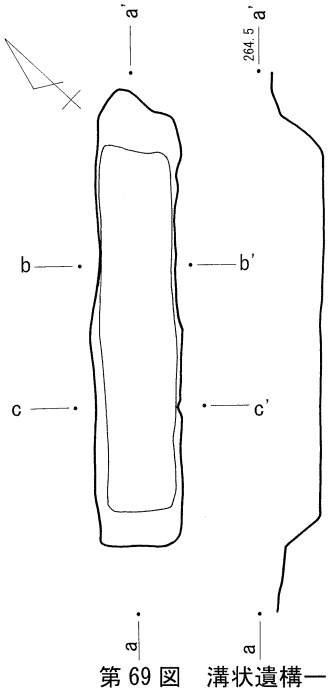
1　暗褐色土　褐色土（1cm～2cm）少量。

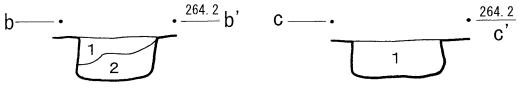
4号溝



1　暗褐色土　粘性弱く、締まり強い。黒色スコリア多い。炭粒少量。

10号溝



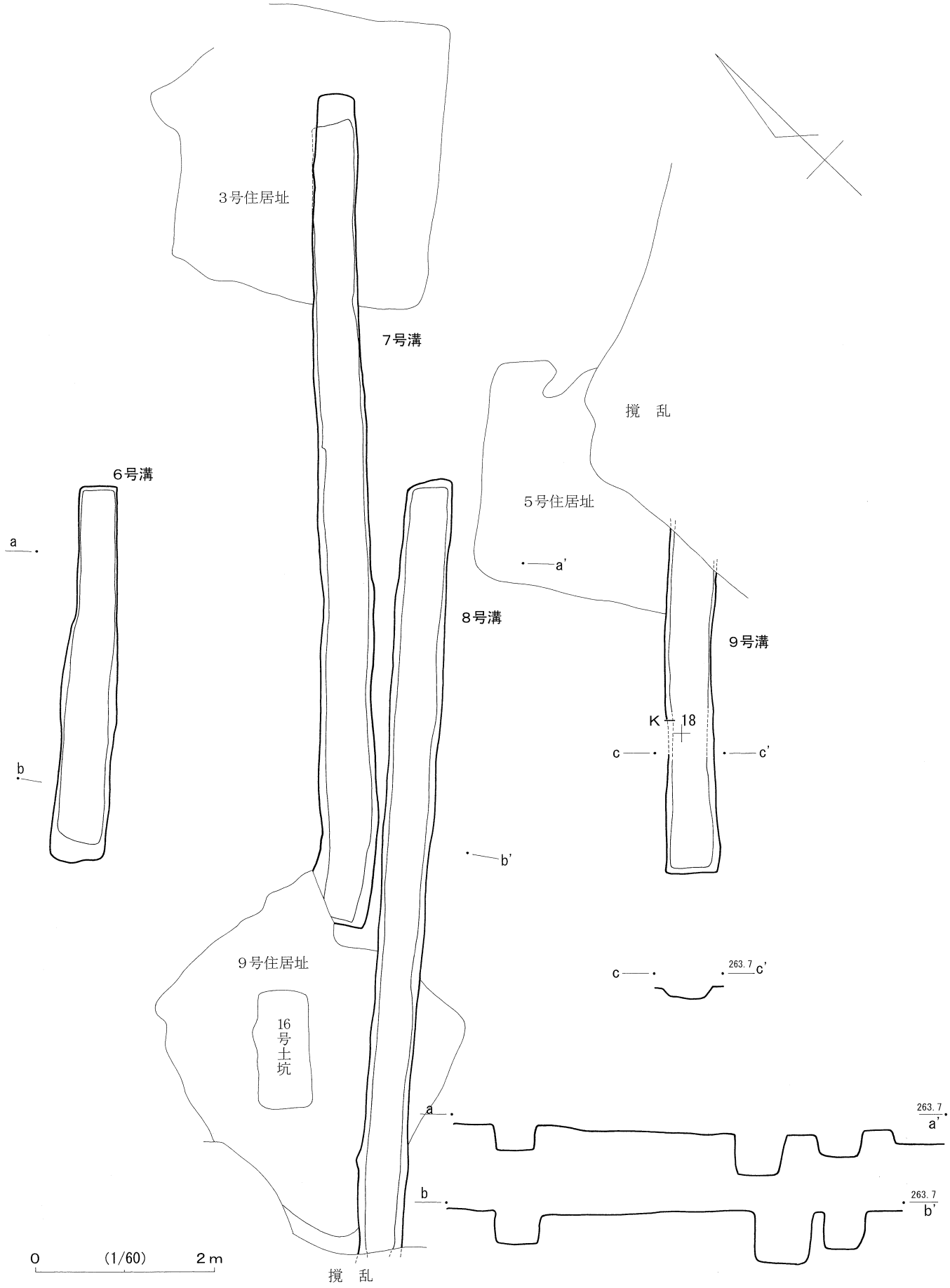


1　暗褐色土　褐色土（1cm～2cm）やや多い。炭粒少量。
2　暗褐色土　褐色土（2cm～5cm）やや多い。

5号溝

0　(1/60)　2m

第69図　溝状遺構－1－


3号住居址
7号溝
攪　乱
6号溝
5号住居址
a
a'
8号溝
9号溝
K－18
b
c
c'
b'
9号住居址
16号土坑
263.7
c'
a
263.7
a'
b
263.7
b'
0　(1/60)　2m
攪　乱

第 70 図　溝状遺構－２－

第14表　遺構出土遺物観察表

１号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
8	1	床面	土師器 小型甕	(16.1)	(12.6)	－	外：にぶい橙色 内：橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	胴部内外面ナデ	内外面に煤
8	2	カマド火床面	土師器甕	(20.6)	(11.7)	－	にぶい橙色	赤色粒子、砂粒、金雲母	良	胴部内外面ナデ	外面に煤
8	3	床面	土師器甕	－	(10.5)	7.4	にぶい橙色	白・赤色粒子、黒・金雲母、砂粒	良	胴部内外面ナデ	底部木葉痕 外面に煤
8	4	カマド覆土	土師器甕	－	(22.1)	－	外：にぶい橙色 内：橙色	白・赤色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	胴部内外面ナデ	内面に煤
8	5	カマド覆土	土師器甕	－	(3.0)	(8.2)	にぶい橙色	砂粒、赤色粒子	良	胴部内外面ナデ	底部木葉痕 内外面に煤
8	6	火床直上7層	土師器甕	－	(7.4)	－	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	胴部内外面ナデ	外面に接合痕
8	7	カマド火床 床面	土師器甕	－	(4.4)	(7.4)	外：にぶい橙色 内：黒褐色	砂粒、赤・白色粒子、黒・金雲母	良	胴部内外面ナデ、外面下位ヘラ削り	底部木葉痕 内外面に煤
8	8	床面	銅製鉸具	長さ5.0、最大幅4.7、最大厚1.0、重量61g							

２号住居址（新）

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
10	1	覆土 Ｐ３最下層	土師器坏	(10.8)	3.3	(4.0)	明褐色	赤色・白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	
10	2	覆土	土師器坏	－	－	－	橙色	赤・白色粒子、石英・砂粒・金雲母	良	体部外面ヘラ削り	
10	3	覆土 Ｐ２上層	土師器坏	(12.8)	(3.8)	(5.0)	明褐色	赤色粒子、砂粒、金雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	墨書「作」？ 内外面に煤。
10	4	Ｐ２上層	土師器坏	－	－	－	外：橙色 内：にぶい黄橙色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	ロクロナデ	
10	5	覆土	土師器坏	－	－	－	明褐色	赤・白色粒子、砂粒、石英	良	ロクロナデ	墨書「基」
10	6	覆土	土師器坏	－	－	－	外：橙色 内：明褐色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	ロクロナデ	墨書「基」？
10	7	覆土	土師器坏	－	－	－	明褐色	赤・白色粒子、金雲母	良	ヘラ磨き（外面横、内面縦）	
10	8	覆土	土師器坏	－	－	－	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部外面横ヘラ削り	相模型坏
10	9	覆土	土師器 高台坏	－	－	－	橙色	白色粒子、金雲母	良	底部回転ヘラ削り。 内面放射状ヘラ磨き。	
10	10	覆土	土師器皿	(12.5)	(2.5)	3.7	赤褐色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り。	
10	11	Ｐ６中層	土師器皿	(13.2)	(2.8)	(3.9)	橙色	赤・白色粒子、石英、金雲母、砂粒	良	底部外面ヘラ削り	墨書「基」？
10	12	覆土	土師器甕	(29.0)	(5.7)	－	赤褐色	石英、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
10	13	覆土	土師器甕	－	－	－	明赤褐色	金・黒雲母、石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
10	14	覆土、焼土	土師器甕	－	－	－	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	黒・金雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
10	15	Ｐ６最下層	土師器甕	－	(2.8)	(8.7)	外：赤褐色 内：橙色	石英、黒雲母	良	外面縦ハケ	底部木葉痕
10	16	覆土	須恵器 長頸壺	－	(3.4)	－	灰色	砂粒、白・赤色粒子	良	ロクロナデ	
10	17	覆土	須恵器甕	－	－	－	外：灰黄色 内：暗灰黄色	白色粒子、砂粒	良	外面叩き。内面青海波文。	
10	18	覆土	灰釉陶器甕	－	－	－	外：灰色 内：黄灰色	石英	良	外面一部叩き。	内面に不規則な刺突痕

２号住居址（旧）

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
17	1	床直 （Ｐ４周囲）	土師器坏	(13.0)	(5.0)	4.3	橙色	赤色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	墨書「本」
17	2	床直 （Ｐ４周囲）	土師器坏	(13.3)	(4.3)	4.4	橙色	赤色粒子、砂粒、金雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	墨書「丈」
17	3	覆土	土師器坏	(13.3)	3.5	(3.8)	赤褐色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母、石英	良	体部・底部外面ヘラ削り	
17	4	床直焼土面	土師器坏	(13.4)	(4.3)	(5.0)	外：橙色 内：黒色	赤・白色粒子、砂粒	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り	内黒
17	5	覆土	土師器坏	－	－	－	外：赤褐色 内：明褐色	赤・白色粒子、砂粒・金雲母	良	体部外面ヘラ削り	

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
17	6	カマド覆土	土師器坏	(15.5)	(3.9)	－	外：橙色 内：にぶい黄橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部外面ヘラ削り	
17	7	床直焼土面	土師器坏	(14.8)	(3.4)	－	明褐色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部外面ヘラ削り	
17	8	床直焼土面	土師器坏	(15.0)	(3.3)	－	外：橙色 内：明褐色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部外面ヘラ削り	
17	9	床直焼土面	土師器坏	(15.5)	5.0	(4.5)	橙色	赤色粒子、金雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	
17	10	床直焼土面	土師器坏	(14.0)	5.3	(3.9)	橙色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	体部・底部外面ヘラ削り	
17	11	覆土中層	土師器坏	(12.9)	(3.5)	－	赤褐色	赤・白色粒子、砂粒	良	体部・底部外面ヘラ削り	内面に煤、タール状付着物。
17	12	床面	土師器坏	－	－	－	橙色	赤色粒子、砂粒、金雲母、石英	良	体部外面ヘラ削り	
17	13	覆土中層	土師器坏	－	－	－	外：明褐色 内：黒色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母、石英	良	体部外面ヘラ削り	内黒
17	14	覆土	土師器坏	－	－	－	赤褐色	赤・白色粒子、石英、金雲母、砂粒	良	口縁ロクロナデ	墨痕
17	15	掘り方覆土	土師器坏	－	－	－	黒色	赤色粒子・金雲母	良	底部回転糸切り後、一部ヘラ削り	内黒
17	16	床直焼土面	土師器坏	－	(2.0)	(4.5)	にぶい橙色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	底部回転糸切り	
17	17	掘り方覆土	土師器坏	－	－	－	外：明褐色 内：黒色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	底部回転糸切り	内黒
17	18	覆土	土師器坏	－	－	－	明褐色	赤・白色粒子、金雲母	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り	
17	19	床面	土師器坏	－	－	－	赤褐色	赤・白色粒子、金雲母	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り	
17	20	床直焼土面	土師器坏	－	－	－	外：明褐色 内：橙色	赤・白色粒子、金雲母	良	底部外面ヘラ削り	
17	21	床直焼土面	土師器坏	－	－	－	外：赤褐色 内：黒色	赤・白色粒子、石英、金雲母	良	底部外面ヘラ削り	内黒
17	22	覆土	土師器坏	－	－	－	明褐色	赤色粒子、金雲母	良	ヘラミガキ（外面縦、内面横・斜）	
18	23	床面	須恵器坏	13.3	4.2	5.0	灰色	砂粒	良	ロクロナデ。底部回転糸切り。	内外面に煤
18	24	床面	須恵器坏	－	(2.6)	(5.3)	灰色	砂粒、赤・白色粒子、金雲母	良	ロクロナデ。底部回転糸切り。	
18	25	床面	須恵器坏	(15.5)	(3.4)	－	灰色	砂粒、白色粒子、石英	良	ロクロナデ	
18	26	床直焼土面	土師器皿	(13.9)	(3.2)	(3.0)	赤褐色	赤・白色粒子、石英、砂粒、金雲母	やや不良	底部回転糸切り後、一部ヘラ削り	
18	27	覆土	土師器皿	(13.4)	(2.3)	4.8	外：橙色 内：明褐色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	体部外面ヘラ削り。 底部回転糸切り。	墨書
18	28	覆土中層	土師器甕	(15.0)	(7.5)	－	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
18	29	覆土中層、床	土師器甕	(15.2)	(6.3)	－	にぶい赤褐色	石英、黒・金雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
18	30	床直焼土面	土師器 小型甕	(17.5)	(3.8)	－	にぶい赤褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
18	31	床直焼土面	土師器 小型甕	(18.0)	(8.8)	－	外：にぶい赤褐色 内：にぶい褐色	金・黒雲母、石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
18	32	覆土下層、床	土師器甕	(31.6)	(12.3)	－	明赤褐色	金・黒雲母、石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
18	33	床直焼土面	土師器甕	－	(16.6)	－	赤褐色	赤色粒子、金・黒雲母、石英	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	内側に輪積み痕
19	34	覆土下層	土師器甕	(30.3)	(4.3)	－	明赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
19	35	床直焼土面	土師器甕	(31.2)	(5.2)	－	明赤褐色	石英、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
19	36	カマド覆土	土師器甕	(29.0)	(7.2)	－	赤褐色	石英、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
19	37	床面	土師器甕	(28.0)	(4.7)	－	明赤褐色	金・黒雲母、石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
19	38	カマド火床	土師器甕	－	－	－	橙色	金・黒雲母、石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
19	39	床面	土師器甕	－	－	－	にぶい赤褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
19	40	覆土	土師器甕	－	－	－	外：黒褐色 内：明赤褐色	石英、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
19	41	カマド覆土	土師器甕	－	－	－	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
19	42	カマド火床	土師器甕	－	(9.8)	－	赤褐色	金・黒雲母、石英	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	内側に輪積み痕
20	43	覆土	土師器甕	－	(3.3)	(8.0)	外：にぶい赤褐色 内：灰黄褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	底部木葉痕
20	44	床直焼土面	土師器甕	－	－	－	にぶい赤褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	底部木葉痕
20	45	覆土中層 貼り床	土師器甕	－	(8.3)	(9.2)	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	石英、黒雲母、赤・白色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	底部木葉痕
20	46	床直焼土面	土師器甕	－	(3.1)	(9.4)	外：褐色 内：にぶい褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	底部木葉痕

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
20	47	覆土中層	土師器甕	－	(6.9)	(8.3)	外：赤褐色 内：黒褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	胴部ハケ（外面斜、内面横・斜）	底部木葉痕
20	48	カマド火床	土師器	－	(3.5)	(6.0)	外：にぶい褐色 内：赤褐色	金・黒雲母、石英	良	胴部ハケ（外面縦・斜、内面横）	底部木葉痕
20	49	床面	土師器甕	－	(6.8)	(8.7)	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	石英、黒雲母、赤・白色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	
20	50	床面	土師器甕	－	(4.9)	(8.4)	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	石英、金・黒雲母	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	底部木葉痕。
20	51	床直焼土面	土師器 羽釜	(19.0)	(4.8)	－	外：明赤褐色 内：にぶい赤褐色	黒雲母、白色粒子、石英	良	胴部内面横ハケ	
20	52	覆土、床面	土師器 羽釜	(20.0)	(6.8)	－	外：明赤褐色 内：にぶい赤褐色	石英、黒雲母、赤色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	
20	53	床直焼土面	土師器甕	－	－	－	橙色	赤・白色粒子、石英、黒雲母	良	口縁横ナデ。胴部外面横ヘラ削り、内面横ハケ。	
20	54	床直焼土面	須恵器甕	－	－	－					
20	55	床直焼土面	須恵器甕	－	－	－					
21	56	覆土	須恵器甕	－	－	－					
21	57	床直焼土面	須恵器甕	－	－	－					
21	58	覆土下層	須恵器甕	－	－	－					
21	59	床直焼土面	須恵器甕	－	－	－					
21	60	カマド火床	灰釉陶器壺	－	－	－	外：緑黒色 釉→オリーブ灰色 内：明青灰色	白色粒子	良		
21	61	カマド覆土	土錘	長さ4.3、幅3.0、厚2.7 重量25g			にぶい黄橙色	石英、金・黒雲母、赤・白色粒子	良		
21	62	床面	砥石	長さ8.1、幅3.2、厚1.3、重量61g							石材：砂岩

３号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
23	1	床面	土師器甕	－	－	－	外：にぶい赤褐色 内：にぶい褐色	赤・白色粒子、砂粒	良	口縁横ナデ。 胴部外面横ヘラ削り、内面ナデ。	口縁上端に沈線
23	2	覆土	土師器甕	－	(8.6)	－	外：暗褐色 内：黒褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	
23	3	床面	土師器甕	－	(4.8)	(9.0)	外：黒色 内：灰褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	胴部内外面ナデ	底部木葉痕
23	4	床面	土師器 置きカマド	－	－	－	外：明赤褐色 内：赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ。 胴部外面縦ハケ、内面指頭痕。	
23	5	床面	土師器 置きカマド	－	－	－	外：にぶい赤褐色 内：暗赤褐色	黒・金雲母、石英、赤色粒子	良	鍔→横ハケ、横ナデ	
23	6	床面	土師器 置きカマド	－	－	－	外：明赤褐色 内：暗赤褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	鍔→縦ハケ、縦ナデ	

４号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
25	1	覆土	土師器坏	－	－	－	橙色	赤･白色粒子、黒・金雲母	良	体部外面ヘラ削り	
25	2	覆土	土師器坏	－	－	－	明褐色	赤･白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	体部外面ヘラ削り	
25	3	覆土	土師器坏	(13.6)	(3.2)	－	明褐色	赤･白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部外面ヘラ削り	
25	4	覆土	土師器坏	－	(2.9)	(5.7)	明褐色	砂粒、赤・白色粒子、金雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	
25	5	覆土	須恵器坏	－	－	－	灰色	石英、白色粒子	良	ロクロナデ	
25	6	覆土	須恵器坏	－	－	－	灰色	白・赤色粒子、石英	良	底部回転糸切り	
25	7	覆土	土師器 小型甕	(9.6)	(4.7)	－	外：灰褐色 内：にぶい赤褐色	橙・赤色粒子、金・黒雲母	良	口縁横ナデ。胴部外面横ヘラ削り、内面横ヘラナデ。	口縁部に接合痕残る
25	8	覆土	土師器甕	－	－	－	外：灰赤色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
25	9	覆土	土師器甕	－	－	－	にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	外面に指頭痕
25	10	覆土	土師器甕	－	－	－	にぶい赤褐色	赤色粒子、石英、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	外面に指頭痕
25	11	覆土	土師器甕	(22.4)	(3.9)	－	外：橙色 内：にぶい黄橙色	赤・白色粒子、金・黒雲母、砂粒	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
25	12	覆土	土師器甕	(22.0)	(5.6)	－	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
25	13	覆土	土師器甕	(29.2)	(4.4)	－	にぶい褐色	石英、金・黒雲母、白色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
25	14	覆土	土師器甕	－	(13.3)	－	外：にぶい赤褐色 内：赤褐色	石英、黒・金雲母、白・赤色粒子	良	胴部外面縦ハケ、内面横ナデ	輪積み痕
25	15	覆土	土師器甕	－	(8.1)	－	黒褐色	赤・白色粒子、石英、金・黒雲母	良	胴部ハケ（外面縦、内面斜）	
25	16	覆土	土師器甕	－	(3.7)	(6.3)	にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	胴部ハケ・ナデ（外面斜、内面横）	底部木葉痕
25	17	覆土、床面	土師器甕	－	(6.1)	(8.8)	にぶい赤褐色	黒・金雲母、赤色粒子、石英	良	胴部ハケ・ナデ（外面縦、内面横）	底部木葉痕

５号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
26	1	カマド覆土	土師器坏	(12.6)	(4.4)	4.6	明赤褐色	赤・黒色粒子	良	底部回転糸切り後、一部ヘラ削り。	墨書「仁」 内外面に煤
26	2	カマド覆土	土師器坏	(14.0)	(4.3)	－	明赤褐色	砂粒、白・赤色粒子、金雲母、石英	やや不良	ロクロナデ	
26	3	覆土	土師器 小型甕	－	－	－	外：黒褐色 内：暗褐色	白・赤色粒子、金・黒雲母、砂粒	良	口縁横ナデ。 胴部外面横ヘラ削り。	口縁部に接合痕
26	4	カマド覆土	土師器甕				外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	石英、黒・金雲母、赤・白色粒子	良	口縁横ナデ。 胴部ヘラナデ（外面縦、内面横）	
26	5	覆土	土師器甕	(30.5)	(3.6)	－	にぶい赤褐色	赤・白色粒子、石英、黒・金雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面斜）	
26	6	カマド火床	土師器甕	－	(6.7)	(10.4)	赤褐色	石英、黒・金雲母、白色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	

６号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
28	1	覆土	土師器坏	－	－	－	明赤褐色	赤・白色粒子、金雲母	良	ロクロナデ	
28	2	カマド火床	土師器坏	－	－	－	橙色	赤・白色粒子、石英、金雲母	良	ロクロナデ	
28	3	覆土	土師器坏	－	－	－	暗赤褐色	金雲母、白色粒子	良	ロクロナデ	
28	4	カマド覆土	灰釉陶器甕	－	－	－	外：にぶい赤色 内：灰色	黒雲母、白・赤色粒子、石英	良	ロクロナデ	
28	5	床面	灰釉陶器瓶	－	－	－	灰色 釉→暗オリーブ褐色	石英、赤・白色粒子	良	ロクロナデ	
28	6	カマド火床	土師器 小型甕	(16.2)	(15.6)	(8.0)	にぶい赤褐色	石英、赤色粒子、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	底部木葉痕
28	7	覆土	土師器 小型甕	－	－	－	明赤褐色	赤色粒子、金・黒雲母、石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
28	8	カマド覆土	土師器甕	－	－	－	外：にぶい赤褐色 内：赤褐色	石英、金・黒雲母、白・赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
28	9	カマド覆土	土師器甕	(29.8)	(21.4)	－	外：にぶい褐色 内：にぶい赤褐色	石英、白・赤色粒子、黒・金雲母	良	口縁横ナデ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	胴部外面に粘土付着。胴部内面に指頭痕、輪積み痕。
29	10	カマド覆土、火床面、袖石隙間	土師器甕	(28.5)	(15.1)	－	外：明赤褐色 内：赤褐色	白・赤色粒子、金・黒雲母，石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	胴部外面に粘土付着
29	11	カマド覆土、火床面、床面	土師器甕	(32.3)	(18.2)	－	赤褐色	石英、金・黒雲母、赤・白色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	内面に輪積み痕
29	12	床面	土師器甕	－	(11.9)	(9.4)	外：赤褐色 内：明赤褐色	石英、金・黒雲母、赤・白色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	内面に輪積み痕 底部木葉痕
29	13	カマド袖直上	土師器 羽釜	(21.0)	(12.3)	－	外：赤褐色 内：明赤褐色	石英、金・黒雲母、赤・白色粒子	良	口縁横ナデ、斜ハケ。鍔横ナデ。胴部ハケ（外面縦、内面横）	内側に指頭痕

７号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
33	1	覆土	土師器坏	－	－	－	橙色	金雲母、赤・白色粒子、砂粒	良	口縁横ナデ	
33	2	覆土	土師器坏	－	－	－	外：明赤褐色 内：灰色	金雲母、赤・白色粒子、砂粒	良	口縁・体部外面ヘラ削り	内黒
33	3	覆土	土師器坏	－	－	－	赤褐色	赤・白色粒子、石英、砂粒	良	ロクロナデ	
33	4	覆土	土師器坏	－	－	－	外：橙色　内：黒色	白・赤色粒子、金雲母、石英	良	体部外面ヘラ削り	内黒

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
33	5	覆土	土師器坏	—	—	—	赤褐色	赤・白色粒子、石英、金・黒雲母、砂粒	良	ロクロナデ	
33	6	覆土５層	土師器坏	—	—	—	橙色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	体部外面ヘラ削り	
33	7	覆土	土師器坏	—	—	—	明赤褐色	赤・白色粒子、黒雲母、砂粒	良	体部外面ヘラ削り	内面タール状付着物
33	8	覆土	土師器坏	—	(3.4)	(4.9)	外：明赤褐色 内：黒色	赤・白色粒子、金雲母、石英、砂粒	良	体部・底部外面ヘラ削り。 回転糸切り痕一部残る。	内黒
33	9	覆土	土師器坏	(13.7)	(4.0)	(5.0)	明赤褐色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	体部・底部外面ヘラ削り	
33	10	覆土	土師器坏	(13.7)	(3.4)	—	明赤褐色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	体部外面ヘラ削り	
33	11	覆土	土師器坏	(13.7)	(4.4)	—	外：黄褐色 内：オリーブ黒色	石英、赤・白色粒子、金・黒雲母	良	体部外面ヘラ削り	内黒
33	12	カマド袖直上	土師器坏	(12.2)	(4.0)	(3.5)	にぶい赤褐色	赤・白色粒子、石英、黒雲母、砂粒	良	体部・底部外面ヘラ削り。 回転糸切り痕一部残る。	墨書「上」。見込み部の器面剥落。
33	13	覆土５層	土師器皿	(12.6)	(2.5)	—	橙色	赤・白色粒子、石英、金・黒雲母、砂粒	良	体部外面ヘラ削り	
33	14	床面	土師器皿	(12.0)	(2.9)	(3.3)	橙色	砂粒、石英、赤・白色粒子	良	体部・底部外面ヘラ削り。 回転糸切り痕一部残る。	墨書「基」
33	15	覆土	須恵器坏	—	—	—	灰色	白・赤色粒子、石英	良	底部回転糸切り	
33	16	覆土	須恵器坏	—	—	—	灰色	石英、白・赤色粒子	良	底部回転糸切り	
33	17	覆土	須恵器坏	(19.7)	(4.7)	—	灰色	砂粒、石英、白・赤色粒子	良	ロクロナデ	
33	18	覆土	須恵器 高台坏	—	—	—	外：暗灰黄色 内：灰色	砂粒、白・赤色粒子、石英	良	ロクロナデ	
33	19	覆土	土師器甕	—	—	—	にぶい黄橙色	黒雲母、白・赤色粒子、金雲母	良	口縁横ナデ。胴部外面横ヘラ削り、内面横ヘラナデ。	頸部に接合痕
33	20	覆土	土師器甕	(22.9)	(6.6)	—	外：灰黄褐色 内：にぶい黄褐色	石英、金・黒雲母、白・赤色粒子	良	口縁横ナデ。胴部外面横ヘラ削り、内面横ヘラナデ。	頸部に接合痕
33	21	覆土	土師器甕	—	—	—	にぶい黄橙色	金・黒雲母、赤・白色粒子、石英、砂粒	良	胴部外面縦・斜ヘラ削り、内面ナデ。	内側に接合痕 指頭痕
33	22	覆土下層	土師器 台付甕	—	—	—	明黄褐色	砂粒、白・赤色粒子、金・黒雲母	良	ナデ	内側に指頭痕
33	23	覆土	土師器甕	—	—	—	外：灰黄褐色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、白・赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
33	24	覆土	土師器甕	—	—	—	灰褐色	石英、赤・白色粒子、金・黒雲母、砂粒	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	口縁外面に指頭痕
33	25	カマド覆土	土師器甕	—	—	—	にぶい赤褐色	金・黒雲母、白・赤色粒子、石英	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面斜）	外側口縁部に指頭痕
34	26	覆土下層	土師器甕	—	—	—	外：褐色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子、砂粒	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
34	27	カマド火床	土師器甕	—	(4.5)	(9.5)	外：褐色 内：暗褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	胴部ハケ（外面斜、内面横）	底部木葉痕
34	28	床面	土師器甕	—	(8.5)	(7.9)	外：灰赤色 内：灰黄褐色	石英、金・黒雲母	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	底部木葉痕
34	29	覆土上層	土師器鉢	(38.6)	(5.2)	—	にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、白・赤色粒子、砂粒	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
34	30	カマド覆土	土師器鉢	(37.2)	(8.6)	—	明赤褐色	石英、砂粒、金雲母、赤色粒子	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
34	31	カマド覆土	土師器鉢	(37.7)	(14.1)	—	明赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦・斜、内面横）	
34	32	床面	土師器羽釜	—	—	—	赤褐色	黒・金雲母、石英、砂粒、赤色粒子	良	口縁横ナデ、縦ハケ。鍔横ナデ。 胴部外面ナデ、内面横ハケ。	内側に指頭痕
35	33	床面	土師器羽釜	—	—	—	外：明赤褐色 内：灰褐色	石英、白色粒子、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、縦ハケ。鍔横ナデ。 胴部外面ナデ、内面横ハケ。	内側に指頭痕
35	34	床面 カマド覆土	須恵器甕	22.0	31.3	(11.3)	暗青灰色 釉→暗灰色	石英、赤・白色粒子	良	ロクロナデ	片面に自然釉。 底部に植物繊維状の圧痕。
35	35	覆土上層	須恵器甕	—	—	—	外：灰黄褐色 内：灰色	白・赤色粒子、石英	良	ロクロナデ	
35	36	覆土	須恵器甕	—	—	—	灰色	白・赤色粒子、黒雲母	良	外面叩き	
35	37	カマド覆土	須恵器甕	—	—	—	外：灰白色 内：灰黄色	砂粒、白・赤色粒子	良	内面に同心円状の当て具痕	
35	38	覆土上層	須恵器甕	—	—	—	外：灰白色 内：灰黄色	砂粒、白・赤色粒子	良	内面に同心円状の当て具痕	
35	39	床面	須恵器甕	—	—	—	灰色 釉→オリーブ黒色	白・赤色粒子、石英	良	外面叩き、内面当て具痕	外面に自然釉
35	40	覆土下層	須恵器甕	—	—	—	外：黒褐色 内：灰色	白・赤色粒子、黒雲母	良	外面叩き、内面当て具痕	外面に自然釉

8号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
40	1	床面	土師器 小型甕	(15.8)	14.9	9.8	外：にぶい赤褐色 内：橙色	砂粒、石英、赤・白色粒子	良	口縁横ナデ。胴部内外面ナデ。	底部木葉痕
40	2	床面	土師器 小型甕	(14.3)	(11.5)	—	外：にぶい橙色 内：橙色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	口縁横ナデ。胴部外面横・斜ヘラ削り、内面横ヘラナデ。	接合痕明瞭。口縁上端は欠損。底部は尖形気味で不安定。底部内外面に煤。
40	3	カマド	土師器甕	(23.0)	(27.9)	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	口縁横ナデ。胴部内外面ナデ。	内外面の胴部に接合痕
40	4	カマド	土師器甕	(23.2)	(5.4)	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	口縁横ナデ。胴部内外面ナデ。	
40	5	カマド	土師器甕	—	(23.9)	—	外：橙色 内：にぶい橙色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	胴部内外面ナデ	接合痕
41	6	不明	土師器甕	—	(3.6)	(8.0)	外：にぶい黄橙色 内：橙色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母、石英	良	内外面横ナデ	底部木葉痕
41	7	床面	土師器甕	(25.3)	(33.2)	(9.3)	外：橙色 内：明赤褐色	砂粒、赤・白色粒子、黒・金雲母	良	口縁横ナデ。胴部内外面ナデ。	底部木葉痕。胴部の接合痕明瞭。
41	8	床面	須恵器甕	—	—	—	灰色	石英、白・赤色粒子	良	外面叩き、内面同心円状の当て具痕。	内面に研磨痕。転用硯？
41	9	覆土上層	土師器 小型短頸壺	5.8	4.9	5.8	明赤褐色	白・赤色粒子、金・黒雲母、砂粒	良	ロクロナデ。底部回転糸切り。	

9号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
44	1	覆土	土師器甕	—	—	—	外：にぶい褐色 内：暗褐色	石英、赤色粒子、黒雲母	良	口縁横ナデ。胴部外面縦ハケ、内面斜ナデ	頭部外面に指頭痕
44	2	覆土	土師器甕	—	—	—	外：にぶい赤褐色 内：暗褐色	石英、黒雲母、白・赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	
44	3	覆土	土師器甕	—	(4.2)	(10.5)	外：にぶい褐色 内：暗褐色	石英、黒雲母、白・赤色粒子	良	胴部ハケ（外面縦・横、内面斜）	底部木葉痕
44	4	覆土 カマド火床	土師器鉢	—	(11.7)	—	外：にぶい赤褐色 内：明褐色	石英、金・黒雲母、白・赤色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横）	内側に指頭痕 接合痕
44	5	覆土	土師器羽釜	—	—	—	にぶい赤褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	鍔横ナデ・横ハケ	指頭痕

10号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
46	1	覆土下層	土師器坏	—	—	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、黒雲母、石英	良	口縁横ナデ	
46	2	覆土下層	土師器坏	—	—	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、黒雲母、石英	良	口縁横ナデ。体部外面ケズリ。	
46	3	覆土下層	土師器坏	(16.6)	(7.1)	(6.5)	外：にぶい黄橙色 内：にぶい橙色	砂粒、赤・白色粒子、石英、黒雲母	良	口縁横ナデ。体部外面ケズリ。	
46	4	覆土下層	土師器甕	—	(14.7)	—	外：橙色 内：黒褐色	赤・白色粒子、砂粒、黒雲母、石英	良	胴部外面ヘラ削り後、一部ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	
46	5	床面	土師器甕	—	(14.7)	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、黒雲母、石英	良	胴部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
46	6	覆土下層	土師器鉢	(16.6)	(9.1)	8.4	外：明黄褐色 内：橙色	赤・白色粒子、砂粒、黒雲母	良	胴部内外面ナデ	内側に接合痕 底部木葉痕

11号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
49	1	床面	土師器坏	10.0	4.2	5.3	明赤褐色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り。体部内面放射状暗文。	
49	2	覆土下層	土師器坏	—	—	—	外：橙色 内：明赤褐色	砂粒、赤色粒子	良	内面放射状暗文	
49	3	覆土下層	土師器坏	—	—	—	明赤褐色	白・赤色粒子、金雲母	良	口縁ロクロナデ	内面タール状付着物
49	4	覆土	土師器坏	—	(2.3)	(5.6)	にぶい橙色	赤・白色粒子、砂粒	良	体部・底部外面ヘラ削り。 内面放射状暗文。	
49	5	覆土	須恵器坏	—	—	—	暗青灰色	白・赤色粒子、砂粒、黒雲母	良	ロクロナデ	

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
49	6	床面	土師器小型甕	(16.8)	(5.6)	—	にぶい赤褐色	黒・金雲母、石英、赤・白色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横）	
49	7	覆土下層	土師器甕	—	(6.4)	(6.5)	外：にぶい赤褐色内：赤褐色	石英、金・黒雲母、白色粒子	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜）	底部木葉痕
49	8	覆土上層	土師器甕	—	—	—	にぶい橙色	砂粒、石英、白・赤色粒子、金・黒雲母	良	胴部外面横ヘラ削り	
49	9	覆土	土師器甕	—	—	—	橙色	砂粒、金・黒雲母、白・赤色粒子	良	口縁横ナデ。胴部内外面ナデ。	頸部に接合痕
49	10	覆土上層	土師器	—	—	—	橙色	砂粒、白色粒子、黒雲母	良	胴部内外面ナデ	接合痕
49	11	覆土下層	須恵質土師器　小型短頸壺	—	—	—	暗灰黄色	白・赤色粒子、砂粒、石英	やや不良	ロクロナデ	

12号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
52	1	覆土	土師器坏	(10.1)	4.2	5.5	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り。体部内面放射状暗文。	底部に穿孔
52	2	覆土	土師器坏	(10.4)	4.2	5.5	橙色	砂粒、赤・白色粒子、金雲母	良	体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。底部回転糸切りのまま。	
52	3	覆土	土師器坏	(10.8)	(3.8)	(4.9)	橙色	砂粒、赤・白色粒子、金・黒雲母	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り。体部内面放射状暗文。	底部外面に墨書
52	4	カマド覆土	土師器坏	—	—	—	橙色	砂粒、赤・白色粒子、金雲母	良	体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	
52	5	覆土	土師器坏	—	—	—	明赤褐色	赤・白色粒子、金・黒雲母、砂粒	良	体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	
52	6	覆土	土師器坏	—	—	—	にぶい橙色	砂粒、白・赤色粒子、黒雲母	良	体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	
52	7	覆土	土師器坏	—	—	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	
52	8	貼り床内	土師器坏	—	—	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	体部外面ヘラ削り、内面放射状暗文。	
52	9	覆土	土師器坏	—	—	—	にぶい橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	底部回転糸切り後、外周ヘラ削り。体部内面・見込み部に放射状暗文。	体部と底部の境に穿孔
52	10	覆土	須恵器坏	(12.3)	(3.9)	(5.8)	灰色	白・赤色粒子、砂粒、黒雲母	良	底部回転糸切り	
52	11	覆土下層	須恵器坏	(15.7)	(5.7)	—	灰色	砂粒、白・赤色粒子、石英	良	ロクロナデ	外面に煤。13号住覆土上層と接合。
52	12	覆土	土師器坏蓋	—	—	—	外：橙色内：明赤褐色	金雲母、砂粒、白・赤色粒子	良	ロクロナデ。外面磨き。内面に螺旋状暗文。	
52	13	覆土	土師器坏蓋	—	—	—	橙色	金雲母、砂粒、白・赤色粒子	良	ロクロナデ	宝珠状つまみ
52	14	覆土上層	須恵質土師器　小型短頸壺	—	—	—	外：灰色内：暗灰黄色	石英、赤・白色粒子、砂粒	やや不良	ロクロナデ	
52	15	覆土	土師器甕	—	—	—	橙色	赤・白色粒子、金・黒雲母、砂粒	良	胴部外面ナデ、内面横・斜ハケ	
52	16	カマド火床	土師器甕	—	—	—	にぶい橙色	砂粒、白・赤色粒子、金・黒雲母	良	胴部外面ナデ、内面横・斜ハケ	内側に指頭痕
52	17	カマド火床	土師器甕	—	—	—	浅黄橙色	砂粒、赤・白色粒子、金雲母	良	内外面ナデ	内側に接合痕
52	18	覆土上層	土師器甕	—	—	—	外：橙色内：にぶい黄橙色	砂粒、石英、赤・白色粒子、金・黒雲母	良	内外面ナデ	底部木葉痕
52	19	覆土	土師器鉢	—	—	—	外：にぶい黄褐色内：暗褐色	石英、黒・金雲母、白・赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横）	
52	20	覆土上層	土師器羽釜	—	—	—	外：赤褐色内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ。胴部内外面斜めハケ	

13号住居址

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	特徴
				口径	器高	底径					
56	1	床面	土師器坏	(14.0)	(4.0)	—	外：にぶい橙色内：黒色	赤・白色粒子、金雲母	良	体部外面ヘラ削り	内黒
56	2	覆土上層	土師器坏	—	—	—	外：にぶい橙色内：黒色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母	良	ロクロナデ	内黒
56	3	覆土上層	土師器坏	—	—	—	橙色	赤・白色粒子、砂粒、金雲母・石英	良	体部外面ヘラ削り	
56	4	覆土上層	土師器坏	—	—	—	外：橙色内：明赤褐色	白・赤色粒子、石英、黒・金雲母、砂粒	良	ロクロナデ	
56	5	覆土	土師器坏	—	—	—	外：にぶい黄橙色内：黒色	砂粒、金雲母、赤・白色粒子	良	体部外面ヘラ削り	内黒

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
56	6	覆土上層	土師器坏	－	－	－	明赤褐色	赤・白色粒子、金雲母、砂粒	良	体部外面ヘラ削り	
56	7	床面	土師器坏	－	－	－	外：灰黄褐色 内：黒色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	体部外面ヘラ削り	内黒
56	8	床面	土師器坏	－	(1.7)	(5.6)	外：明赤褐色 内：黒色	砂粒、白・赤色粒子、金雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	内黒
56	9	覆土	土師器坏	－	(2.1)	(4.8)	橙色	赤・白色粒子、砂粒、石英、金雲母	良	体部・底部外面ヘラ削り	
56	10	覆土	土師器坏	(12.6)	(3.0)	(2.8)	外：にぶい橙色 内：明赤褐色	赤・白色粒子、金・黒雲母、砂粒、石英	良	体部外面ヘラ削り。 底部回転糸切り。	
56	11	床面	須恵器坏	－	－	－	灰色	石英、黒雲母、白・赤色粒子	良	ロクロナデ	
56	12	覆土	須恵器坏	－	－	－	外：にぶい黄橙色 内：灰白色	石英、砂粒、白・赤色粒子、黒・金雲母	やや不良	ロクロナデ	
56	13	覆土	須恵器坏	－	－	－	灰色	白色粒子、砂粒、赤色粒子、黒雲母	良	ロクロナデ	
56	14	覆土	須恵器坏	－	－	－	灰色	白・赤色粒子、砂粒、石英	良	ロクロナデ	
56	15	カマド火床	須恵器坏	－	(3.4)	(4.9)	灰白色	石英、砂粒、白色・赤色粒子、金・黒雲母	やや不良	ロクロナデ。底部回転糸切り。	外面に煤
56	16	覆土下層	灰釉陶器 高台付き碗	－	(4.1)	(7.0)	灰白色 釉→灰オリーブ色	白・赤色粒子、砂粒	良	ロクロナデ	体部内面に釉
56	17	床面	土師器 小形甕	(14.2)	(5.6)	－	外：明赤褐色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、砂粒、赤色粒子、石英	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
56	18	床面	土師器 小形甕	(14.4)	(6.2)	－	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	金・黒雲母、石英、赤色粒子	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面斜め）	
56	19	覆土	土師器 小形甕	－	－	－	明赤褐色	石英、白・赤色粒子、金・黒雲母	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
56	20	覆土上層	土師器 小形甕	－	－	－	赤褐色	白・赤色粒子、石英、黒・金雲母	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
56	21	覆土上層	土師器 小形甕	－	－	－	にぶい赤褐色	石英、金・黒雲母、赤・白色粒子	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
56	22	覆土下層	土師器 小形甕	－	－	－	外：にぶい赤褐色 内：褐色	石英、白・赤色粒子、金・黒雲母	良	口縁横ナデ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	
57	23	覆土	土師器甕	(32.0)	(16.8)	－	にぶい赤褐色	石英、白・赤色粒子、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	内外面に指頭痕
57	24	カマド覆土	土師器甕	(28.0)	(4.6)	－	明赤褐色	石英、白・赤色粒子、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面斜め、内面横）	
57	25	床面、覆土	土師器甕	－	(14.5)	－	外：灰赤色 内：にぶい赤褐色	白・赤色粒子、砂粒、黒・金雲母、石英	良	胴部外面縦ハケ、内面ナデ	外面に接合痕
57	26	覆土	土師器甕	－	－	－	にぶい赤褐色	石英、白・赤色粒子、砂粒、金雲母	良	胴部内面に斜めハケ	
57	27	覆土	土師器甕	－	－	－	外：明赤褐色 内：にぶい赤褐色	石英、金・黒雲母、赤色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面斜め・縦、内面横）	外面に指頭痕
57	28	覆土	土師器甕	－	－	－	赤褐色	金・黒雲母、石英、赤・白色粒子	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜め）	外面に指頭痕
57	29	覆土下層	土師器甕	－	－	－	外：にぶい赤褐色 内：灰褐色	白・赤色粒子、石英、金・黒雲母、砂粒	良	胴部内面に斜めナデ	
57	30	覆土	土師器甕	－	－	－	外：明赤褐色 内：赤褐色	白色粒子、黒・金雲母、砂粒、石英	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜め）	外面に指頭痕 底部木葉痕
57	31	覆土	土師器甕	－	(4.0)	(7.7)	にぶい赤褐色	白・赤色粒子、石英、金・黒雲母、砂粒	良	胴部ハケ（外面縦、内面横・斜め）	底部木葉痕
58	32	覆土上層	土師器鉢	－	－	－	にぶい赤褐色	白・赤色粒子、石英、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。胴部ハケ（外面縦、内面横・斜め）	内面に指頭痕
58	33	覆土	土師器鉢	－	－	－	にぶい赤褐色	白・赤色粒子、石英、金・黒雲母	良	口縁横ナデ、横ハケ。 胴部ハケ（外面縦、内面横）	内外面に指頭痕
58	34	覆土上層	土師器甕	－	－	－	橙色	砂粒、金・黒雲母、白色粒子	良	口縁横ナデ、内面一部ハケ	内外面に接合痕
58	35	カマド覆土	土師器甕	－	－	－	外：橙色 内：にぶい赤褐色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母	良	内外面ナデ	内面に指頭痕
58	36	カマド覆土	土師器甕	－	－	－	外：にぶい橙色 内：橙色	赤・白色粒子、砂粒、金・黒雲母、石英	良	内外面ナデ	内外面に接合痕 内面に指頭痕
58	37	カマド火床下	須恵器甕	－	－	－	灰色	石英、白・赤色粒子	良	ロクロナデ	

柱穴列、土坑

図	番号	出土位置	種別	法量（cm）			色調	胎土	焼成	調整	備考
				口径	器高	底径					
62	1	1号柱穴列P 3覆土4層	土師器甕	－	－	－	褐灰色	石英、砂粒	良	内面弱い横ハケ	
62	2	1号柱穴列P 3覆土1層	土師器 胴張甕	－	－	－	橙色	砂粒	良		底部木葉痕
68	1	3号土坑覆土	土師器 小型甕	－	－	－	褐色	白色粒子、金雲母、石英	良	内外ハケ	
68	2	20号土坑	土師器甕	－	－	－	褐灰色	金雲母、砂粒	良	内外ハケ	

付篇　大間々遺跡における自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県上野原市に所在する大間々遺跡は、桂川左岸の河岸段丘の平坦面上に位置している。当段丘面には、古代～平安時代の集落跡が確認されており、過去に分析調査を行った上野原小学校遺跡等も立地している。本遺跡の発掘調査では、平安時代と考えられる竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑等の遺構や、当該期の土器や土師器、須恵器、施釉陶器、さらに、金属遺物等の遺物が確認されている。

本報告では、これらの住居跡より出土した炭化材や種実遺体、金属遺物などについて、その種類や成分を調べることにより、当該期における植物利用や遺物の材質について検討する。また、上記した炭化材については、放射性炭素年代測定を行い、遺構の年代に関する資料を作成する。

1.試料

試料は、炭化材、種実遺体、金属遺物である。以下に、各試料の概要を示す。

・炭化材

炭化材は、8 号住居跡内から採取されている。住居跡中心部に焼土や炭化物粒の集中部が確認され、住居跡壁際付近より原形を推定しうる炭化材が多数出土している。これらの炭化材は、発掘調査時に形状観察及び記録した上で採取されている。これらの炭化材より、炭化材同定用試料として 18 点が選択され、さらに、同試料中の炭化材2点(炭 F'・炭 T)については放射性炭素年代測定も合わせて行う。

・種実遺体

種実遺体は、10 軒の住居跡(1・2・4・5・7～9・11～13 号)から採取された 27 点、1号掘立柱建物跡より採取された3点、20 号土坑より採取された1点の計 31 点(試料番号 1～31)である。これらの種実遺体は、発掘調査時に採取された試料と、水洗選別によって得られた試料がある。これらの試料を対象に、種実遺体同定を行う。

・金属遺物

金属遺物は、1号住居跡床面より出土した鉸具と呼ばれる金具である。当遺物の肉眼観察では、破損等による欠損はなく、遺物表面に土壌の付着や腐食による緑青が認められるのみである。当試料については、蛍光X線分析を行う。

分析試料とした炭化材及び種実遺体の形状や採取された地点・遺構等の詳細は、各分析結果とともに示す。

2.分析方法

(1)放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、β 線計数法により行った。なお、放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,570 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与え計算を行っている。

(2)炭化材同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

(3)種実遺体同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。種実の形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)等と比較し、種類を同定し、個数を数えた。分析後の種実は、種類毎に乾燥剤とともにビンに入れ、保存する。

(4)蛍光X線分析

蛍光X線分析はサンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられている手法である。なお、ごく表面層を測定対象とするため、出土遺物表面が風化等の外的な汚染を受けている場合、遺物本来の元素組成を導くことは難しい。ただし、遺物の保存といった点を考慮すると、外観上の変化を伴わない本分析法は概略の元素組成を知るためには極めて有効な手法となる。

材質調査に用いた装置はセイコーインスツルメンツ(株)製エネルギー分散型蛍光X線分析装置(SEA2120L)である。測定条件を表1に示す。

表1. 測定条件

測定装置	SEA2120L	
管球ターゲット元素	Rh	
励起電圧(kV)	15	50
管電流(μA)	自動設定	自動設定
測定時間(秒)	300	300
有効時間(秒)	216	222
コリメータ	φ10.0mm	
フィルター	なし	
マイラー	OFF	
雰囲気	真空	

試料は、前述したように一様に緑青に覆われ、さらに緑青表面には土粒子の付着が観察された。本報告では、遺物破損の回避を条件とし、非破壊を前提とした材質調査を目的とするため、分析の前処理としてこれらの緑青や土粒子等の付着物のクリーニングは行わず調査を行うこととした。なお、測定箇所は、肉眼観察でこれらの付着物の最も少ない箇所を選択した。

3.結果

(1)放射性炭素年代測定

結果を表2・3に示す。試料の測定年代(補正年代)は、炭 F'は約 1600 年前、炭 T は約 3600 年前の値を示す。一方、暦年較正年代のうち相対比の高い年代を見ると、炭 F'は5世紀前半～6世紀中頃、炭 T は約 3700～3900 年前の年代となる。

表2.放射性炭素年代測定結果

試料名	出土遺構	試料の質	樹種	補正年代 BP	δ13C (‰)	Code.No.
炭F'	8号住	炭化材	カツラ	1570±80	-26.4	IAA-413
炭T	8号住	炭化材	ケヤキ	3550±80	-24.4	IAA-414

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5570年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値

これらの試料は、同一住居跡より採取された炭化材であるが、考古学的に考えられている遺構の年代よりも古い値を示している。このような古い年代値が得られる要因としては、心材部を利用したことによる年代差とは考え難いことから古材の利用や、周囲の土壌中に含まれる腐植の影響を受けた可能性などが考えられる。

表3.暦年較正結果

試料	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)			相対比	Code No.
炭F'	1570±80	cal AD 411 - cal AD 563	cal BP 1,539 - 1,387		0.970	IAA-413
		cal AD 590 - cal AD 596	cal BP 1,360 - 1,354		0.030	
炭T	3550±80	cal BC 2,013 - cal BC 1,999	cal BP 3,963 - 3,949		0.054	IAA-414
		cal BC 1,978 - cal BC 1,856	cal BP 3,928 - 3,806		0.572	
		cal BC 1,852 - cal BC 1,769	cal BP 3,802 - 3,719		0.367	
		cal BC 1,756 - cal BC 1,754	cal BP 3,706 - 3,704		0.007	

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver
付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

(2)炭化材同定

結果を表4に示す。炭化材は、針葉樹 1 種類(カヤ)と広葉樹 4 種類(エノキ属・ケヤキ・カツラ・ケンポナシ属)に同定された。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

・カヤ(*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.)　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道

管内壁にかすかにらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～10 細胞高。

・エノキ属(*Celtis*)　　ニレ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-15 細胞幅、1-50 細胞高で鞘細胞が認められる。

・ケヤキ(*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino)　　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部はほぼ 1 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6 細胞幅、1-50 細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

表4.樹種同定結果

遺構	試料名	分類	樹種
8号住	炭B	柱状	カヤ
	炭C	柱状	ケンポナシ属
	炭C	柱状	カヤ
	炭D	馬蹄状	エノキ属
	炭E	柱状	カツラ
	炭F'	馬蹄状	カツラ
	炭H	馬蹄状	エノキ属
	炭K	柱状	ケンポナシ属
	炭L	柱状	カヤ
	炭M	馬蹄状	エノキ属
	炭N	形状不明	ケンポナシ属
	炭O	形状不明	ケンポナシ属
	炭P	馬蹄状	カヤ
	炭Q	柱状	カヤ
	炭R	柱状	ケンポナシ属
	炭T	板状	ケヤキ
	炭U	板状	カヤ
	炭V	馬蹄状	カヤ

・カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.)　　カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～30 細胞高。

・ケンポナシ属(*Hovenia*)　　クロウメモドキ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。大道管は管壁厚は中庸、横断面では楕円形、単独、小道管は管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独および放射方向に 2-3 個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-5 細胞幅、1-40 細胞高。

(3)種実遺体同定

結果を表5に示す。木本 3 種類(クリ、モモ、ミズキ)、草本 8 種類(イネ、アワ－ヒエ、オオムギ、コムギ、イネ科、ササゲ属、タケニグサ、エノキグサ)の種実が検出された。タケニグサ、エノキグサを除き全て炭化した状態で遺存状況は不良である。この他に、木の芽や鱗茎、炭化材なども検出された。木材組織が認められない、部位・種類共に不明の炭化物は、不明炭化物と表示した。

これらの同定された種実遺体について、遺構別出土種類構成をみると、2号住居跡からは木本 3 種類、草本はイネとエノキグサを除く 6 種類が検出された。特に、焼土面からはアワ－ヒエが多く検出された。また、4号住居跡からはイネとコムギ、7号住居跡からはモモとコムギ、ササゲ属、9号住居跡からはアワ-ヒエ、コムギ、イネ科、エノキグサ、11～13 号住居跡からはアワ-ヒエとコムギ、1号掘立柱建物からはモモが検出された。なお、5・8号住居跡及び 20 号土坑からは同定可能な種実は検出されなかった。以下に、同定された種実や鱗茎の形態的特徴などを記述する。

＜木本種実＞

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)　ブナ科クリ属

子葉が検出された。完全に炭化しており、黒色。三角状広卵形、一側面は偏平で反対面はわずかに丸みがある。長さ 17mm、幅 21mm 程度。木質で、表面には内果皮(渋皮)の圧痕の縦筋が走る。

・モモ(*Prunus parsica* Batsch)　バラ科サクラ属

核(内果皮)の完形、破片と種子(仁)が検出された。全個体とも完全に炭化しており、黒色を呈す。核は広楕円形でやや偏平。先端部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。長さ 20～30mm、幅 16～20mm、厚さ 10～14mm 程度。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れた個体がみられる。

内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。内側表面は平滑で、仁が入る楕円状の窪みが見られる。仁は広楕円形で偏平。長さ 10mm、幅 8mm 程度。表面は粗面。

・ミズキ(*Cornus controversa* Hemsley)　ミズキ科ミズキ属

核(内果皮)の破片が検出された。炭化しているため黒色、偏球形で径 4mm 程度。基部に大きく深い孔がある。内果皮は厚く硬く、表面にはやや深い縦溝が数本走る。

＜草本種実＞

・イネ(*Oryza sativa* L.)　イネ科イネ属

胚乳の破片が検出された。完全に炭化しており、黒色。完形ならば長楕円形でやや偏平、長さ 4～6mm、幅 2.5mm、厚さ 1.5mm 程度。一端に胚が脱落した凹部があり、両面はやや平滑で 2～3 本の縦溝がある。

・アワーヒエ(*Setaria itarica* Beauv.-*Echinochloa crus*-galli Beauv.)　イネ科

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。広楕円体でやや偏平。長さ 1.5mm、幅 1mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。表面はやや平滑。

・オオムギ(*Hordeum valgale* L.)　イネ科オオムギ属

胚乳の破片が検出された。完全に炭化しており、黒色。完形ならば紡錘状長楕円形で先端部は尖り、基部

表5.種実遺体同定結果

				木本種実					草本種実									鱗茎	木の芽	炭化材	不明炭化物
		種類名		クリ	モモ			ミズキ	イネ	アワーヒエ	オオムギ	コムギ	ムギ類	イネ科	ササゲ属	タケニグサ	エノキグサ				
		部位		子葉	核		種子	核	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	種子	種子	種子				
		状態			完形	破片	破片		破片		破片		破片								
試料No.	出土場所		水洗サンプル番号	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化			炭化	炭化	炭化	炭化
1	1号住	カマド火床部焼土	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6
2	2号住	覆土		－	－	4+	1+	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3		(新)焼土遺構　焼土純層		－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
4		(旧)床焼土	7	－	－	－	－	－	－	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5	－
5		(旧)床焼土面	6	－	－	－	－	－	－	253	1	3	－	1	2	4	－	－	－	+	+
6		(旧)貼り床中		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7		(旧)床		－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8		(旧)カマド火床部		－	－	－	－	－	－	1	－	5	－	－	－	－	－	－	－	－	6
9		不明		－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
10		(新)焼土遺構　焼土純層直下	5	－	－	4	－	1	－	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	+
11		(旧)炉	3	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	3
12	4号住	炉	9	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	+
13		P2	8	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	4	+
14	5号住	カマド火床部	10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	+
15	7号住		55	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
16		覆土 焼土	11	－	－	－	－	－	－	－	－	10	9	－	1	－	－	－	－	12	+
17			79	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
18		覆土 焼土		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	10	－
19			54	－	－	12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20			80	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
21	8号住	カマド火床部	12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6	+
22	9号住	東カマド火床部	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	2	+
23		北カマド火床部焼土	14	－	－	－	－	－	－	9	－	1	－	1	－	－	－	－	－	1	+
24	11号住	覆土最下層(第6層)	15	－	－	－	－	－	－	22	－	1	－	－	－	－	－	－	－	2	+
25	12号住	カマド火床部	16	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	11	+
26	13号住	カマド崩壊土	18	－	－	－	－	－	－	10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	+
27		カマド火床部	17	－	－	－	－	－	－	3	－	2	－	－	－	－	－	－	1	－	+
28	1号堀立柱建物	覆土上層	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	+
29		P3覆土上層(第1層)	20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	+
30		P3覆土上層(第1層)		－	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－
31	20号土坑	覆土上層	21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	+

注)「+」は、微細片を含むため個数推定が困難である種類を示す。「数字+」は、数字以上の個数が推定される種類を示す。

は丸い。長さ 5～7mm、幅 3.5mm、厚さ 3mm 程度。腹面は1本のやや太く深い縦溝があり、背面基部には胚の

痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ(*Triticum aestivum* L.)　イネ科コムギ属

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。楕円形で全体的に丸みを帯びている。長さ 4.2mm、幅 3.2mm 程度。腹面には1本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり、丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しいものはムギ類とした。

・イネ科(Gramineae)

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。狭卵形でやや偏平。長さ 1mm、幅 0.8mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。

・ササゲ属(*Vigna*)　マメ科

炭化した種子が検出された。黒色、長楕円体。長さ 3～5.5mm、径 2～5mm 程度。焼け崩れているおり遺存状態は悪いが、子葉の合わせ目上に 2mm 程度の長楕円形状で隆起する臍がある。子葉の合わせ目に沿って半分に割れた個体がみられる。子葉の合わせ目は平滑で、中心部がやや凹む。表面はやや平滑で光沢があるが、焼け膨れのため種皮が裂けている。ササゲ属にはササゲ、アズキ、リョクトウなどが含まれ、遺跡出土の炭化マメ類をその形態からを同定する試みが行われている(吉崎, 1992)。一方で、野生種との雑種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいと考えられている(南木,1991;南木・中川,2000 など)。

・タケニグサ(*Macleaya coedata* (Willd.) R. Br.)　ケシ科タケニグサ属

種子が検出された。淡黄色、狭倒卵形体で基部は尖る。長さ 2 ㎜、径 1mm 程度。種子表面は、横長楕円形の深い凹みが縦列し網目模様をなす。

・エノキグサ(*Acalypha australis* L.)　トウダイグサ科エノキグサ属

種子が検出された。黒色、卵形で長さ 1.5mm、径 1mm 程度。基部はやや尖り、Y字状の筋がある。種皮は薄く硬く、表面は細かな粒状の窪みが配列しざらつく。

＜鱗茎＞

炭化しているため黒色、地下茎の中軸に肉質の鱗茎葉が多数密生し、球体を呈す。径 15mm 程度。鱗茎はネギ属、ユリ属などにみられる。

(4)蛍光X線分析

検出された元素はマグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、硫黄(S)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、鉄(Fe)、銅(Cu)、ヒ素(As)、ビスマス(Bi)の 10 元素である(図1)。これらの検出元素についてFP法(ファンダメンタルパラメーター法)を用いたノンスタンダード法を用い、定量演算を行った結果、表6に示した定量結果が得られた。なお、測定に関しては表示した条件の他に、測定条件(強度等)や測定箇所を変えた測定も、ほぼ同様な結果を示した。

表6. 元素組成

	含有率(%)	積分強度(cps)
Mg	0.41	2.348(± 0.155)
Al	8.52	54.787(± 0.517)
Si	22.63	309.989(± 1.204)
S	0.13	4.665(± 0.210)
Ca	0.59	3.886(± 0.155)
Ti	0.13	1.489(± 0.122)
Fe	0.79	32.186(± 0.402)
Cu	65.98	2071.200(± 3.051)
As	0.62	12.304(± 0.249)
Bi	0.20	2.281(± 0.140)

本分析結果は、金属遺物表面の緑青成分と付着土壌の組成を反映した結果のため、材質を直接的に特定する結果でない。ただし、少なくとも銅を含む金属が利用されたことが示唆できる。

遺物表面に付着していた緑青は、一般的には塩基性炭酸銅(Cu2CO3(OH)2)が主体となるが、埋蔵環境によっては塩基性塩化銅(CuCl2・3Cu(OH)2)が生成される場合もある。これらの緑青成分を特定するためにはX線回折法による調査により判定が可能である。一方、銅を用いた金属材料には、いわゆる純銅以外に、青銅(Cu-Sn[low])、黄銅(Cu-Zn)、白銅(Cu-Sn[high])、赤銅(Cu-Au)、四分一(Cu-Ag)などの様々な合金が知ら

れている(馬淵,2003)。当試料についても合金の可能性があるが、本分析の条件下では、スズや亜鉛等の有無については検出できず、詳細な検討は不可能であった。この点については、金属遺物内部の材質調査によって明らかになると考えられる。

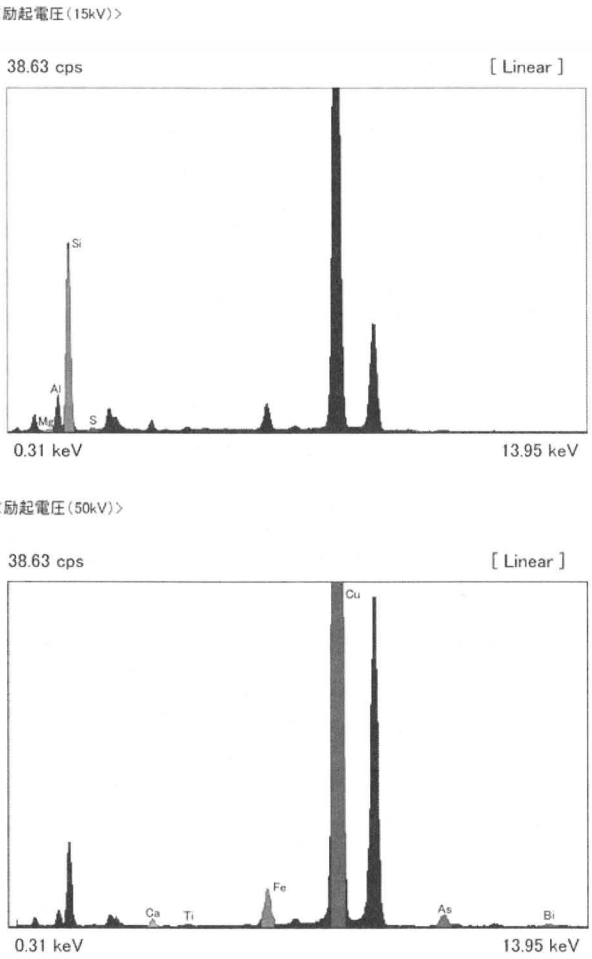


図 1. X線スペクトル

4.考察

本項では、大間々遺跡より検出された炭化材や種実遺体の分析結果から、当該期における植物利用について検討を行う。

炭化材は、8号住居跡北半分に集中し、多くが壁沿いの限られた範囲より検出され、断面形態観察から 4 種類(柱状、馬蹄状、板状、形状不明)に分類されている(表7)。

これらの炭化材の中で柱状のものは、住居跡壁際から住居跡中央へ軸方向が向いているものが多く、垂木などに由来すると考えられる。一方、板材と分類される炭化材は、住居跡南西壁中央付近に集中し、垂木と考えられる炭化材よりも幅広で、壁に平坦面がほぼ平行するように出土している。このことから、壁板等の板材に由来する可能性がある。なお、馬蹄状の炭化材は、焼失住居にしばしば確認されるが、焼成時に中まで完全に炭化しなかったため、未炭化部分が腐食し残らず、炭化部分のみが残存し馬蹄状となったと判断される。したがって、馬蹄状の炭化材は、本来は柱状を呈していたと考えられる。また、形状不明の炭化材も、出土状況が柱状や馬蹄状と同様であり、これらの状況を考慮すると柱状を呈していた可能性がある。

柱状、あるいは柱状を呈すると考えられる炭化材は、ケヤキを除く 4 種類が確認された。なお、炭化材 N・O は、隣接し直線上に出土し、また2点ともケンポナシ属であることから、同一個体の可能性がある。また、炭化材 C にはケンポナシ属とカヤの 2 種類が認められている。カヤは隣接する炭化材 B に確認されることから、炭化材 C 中のカヤは、炭化材 B からの混入の可能性がある。これらのことから、当該期の住居構築材の垂木等には針葉樹・広葉樹のいずれの木材も利用していたと推測される。

表7.炭化材の形状別種類構成

遺構・分類 \ 樹種		カヤ	エノキ属	ケヤキ	カツラ	ケンポナシ属	合計
8号住	板状	1		1			2
	柱状	4			1	3	8
	馬蹄状	2	3		1		6
	形状不明					2	2
合計		7	3	1	2	5	18

炭化材の利用については、上野原小学校遺跡(上野原町)の奈良時代の住居跡よりクヌギ節を確認している(パリノ・サーヴェイ株式会社,2003)。また、健康村遺跡(長坂町)の平安時代の住居構築材の調査事例や、隣接する神奈川県や東京都でもクヌギ節や近縁種のコナラ節も用いた事例を多数確認している(高橋・植木,1994)。本分析結果では、これらのクヌギ節やコナラ節は全く認められず、異なる種類構成を示した。本地域周辺の現存植生(宮脇,1985,1986)等も参考にすると、これらが生育する二次林(雑木林)が広くみられることが指摘され

ており、これらの木材の入手が困難であったとは考え難い。そのため、8 号住居跡に認められた木材の種類構成は特異である。そのため、本分析で選択しなかった当住居跡から検出された他の炭化材の樹種についても調査し、再検討することが望まれる。

一方、住居跡や掘立柱建物跡などから採取された種実遺体からは、有用植物とされる種類が多数認められている。有用植物には、大陸などから持ち込まれた栽培植物と、山野に自生していたと考えられる種類がある。栽培植物のモモ、イネ、アワ、オオムギ、コムギ、ササゲ属は、古くから栽培のために持ち込まれた渡来種である(南木,1991)。2・7号住居跡や1号掘立柱建物から検出されたモモは、中国からの渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用される。また、穀類のイネや、2号住居跡(旧)床焼土面より特に多く検出されたアワーヒエや、オオムギ、コムギ、ササゲ属などは胚乳や種子が食用される。

山梨県内については、古代～中世の遺跡から検出された炭化種実について時代・地域別に検討が行われ、甲府盆地ではモモ、イネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギが出土例、個体数ともに多いことが指摘されている(櫛原,1999)。本遺跡の分析結果は、当該期における山梨県内における炭化種実の出土例と調和しており、同様な有用植物が利用されていたと言える。一方、山野等に自生する種類であるクリは、前述した山野の二次林(雑木林)内に生育する。果実は生食、長期保存が可能で収量も多いため、古くより里山で保護されてきた種類である。この他に、鱗茎などの根茎類は、デンプン質に富むため、古くから採取され、食用に利用されてきた事例がある(山本,2002)。

これらの栽培植物を含む有用植物は、住居址内カマドや床面付近焼土や貼り床等から検出され、いずれも炭化していることなどを考慮すると、当該期に利用されていた植物であると判断される。一方、これらの炭化種実とともに検出されたタケニグサ、エノキグサは、炭化の痕跡は確認されなかった。これらは伐採跡地や人里周辺の明るく開けた場所に生育していたものに由来すると考えられる。ただし、吉崎(1992)の炭化種子以外の解析ついての指摘や、上記した炭化種実遺体と比較し未炭化で遺存状況が良好であること等を考慮すると、これらの種実遺体は遺構の埋没過程で混入した可能性もある。そのため、本項ではこれらと炭化種実は区別し、結果報告に留め解析からは除外している。

引用文献

櫛原功一,1999,炭化種実から探る食生活—古代～中世を中心に—.食の復元—遺物・遺跡から何を読みとるか,帝京大学山梨文化財研究所編,岩田書院,81-98.

南木　睦彦,1991,栽培植物,古墳時代の研究　4　生産と流通Ⅰ,石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編,雄山閣,165-174.

南木　睦彦・中川　治美,2000,大型植物遺体.琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 3-2　粟津湖底遺跡　自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ),滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会,49-112.

宮脇　昭(編),1985,日本植生誌　中部.至文堂,604p.

宮脇　昭(編),1986,日本植生誌　関東.至文堂,641p.

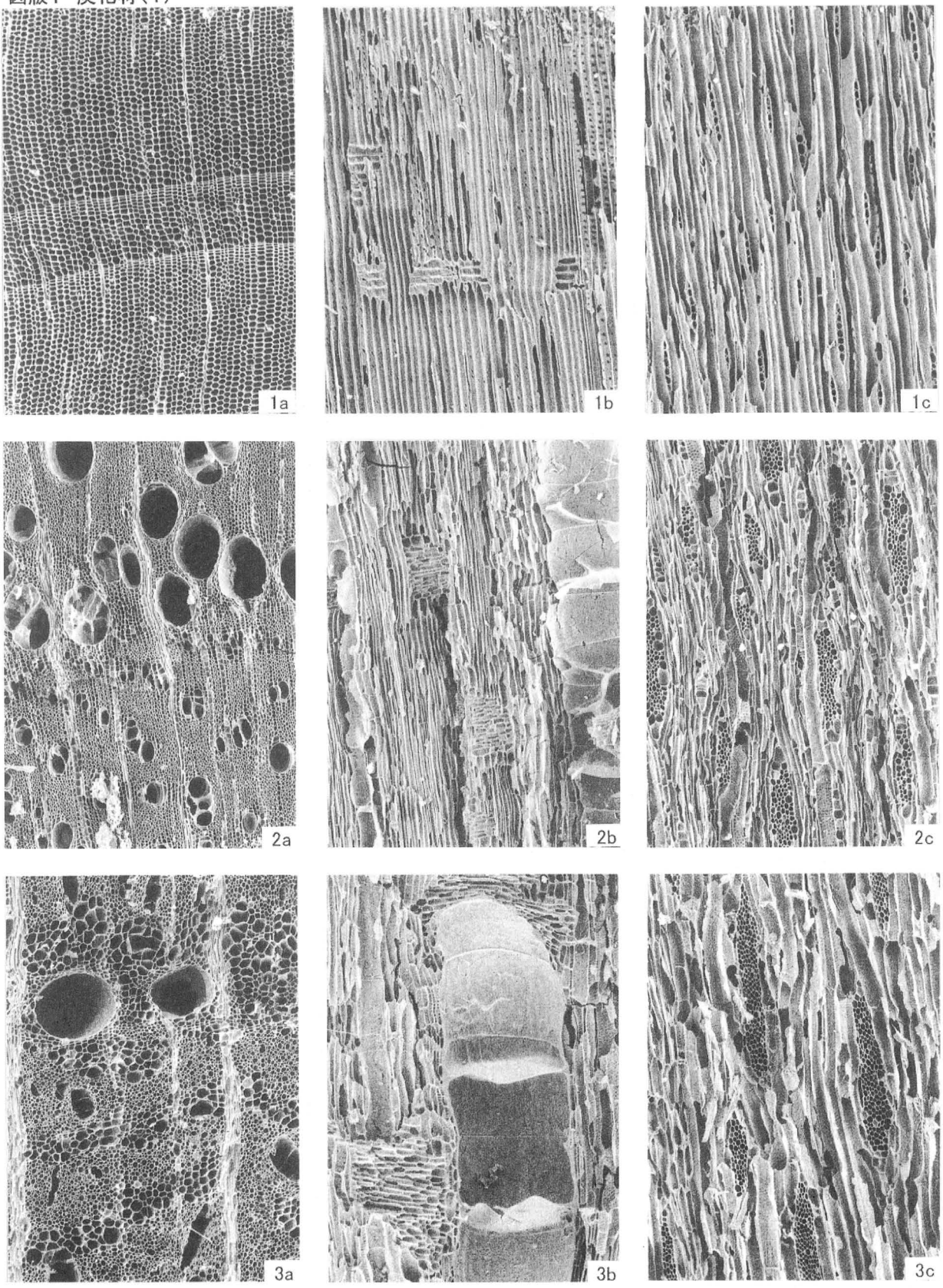
パリノ・サーヴェイ株式会社,2003,上野原小学校遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類.「上野原町埋蔵文化財調査報告書第 10 集　上野原小学校遺跡Ⅱ　町立上野原小学校給食施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」,上野原町教育委員会,55-57.

中山　至大・井之口希秀・南谷　忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

高橋　敦・植木　真吾,1994,樹種同定からみた住居構築材の用材選択.PALYNO,2,パリノ・サーヴェイ株式会

社,5-18.
馬淵　久夫編,2003,文化財科学の事典.朝倉書店,522p.
山本直人,2002,縄文時代の植物採集活動－野生根茎類食料化の民俗考古学的研究－.渓水社,250p.
吉崎　昌一,1992,古代雑穀の検出.考古学ジャーナル,355,ニューサイエンス社,2-14.

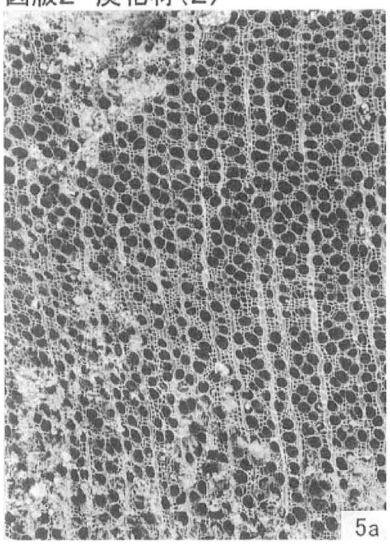
図版1　炭化材(1)

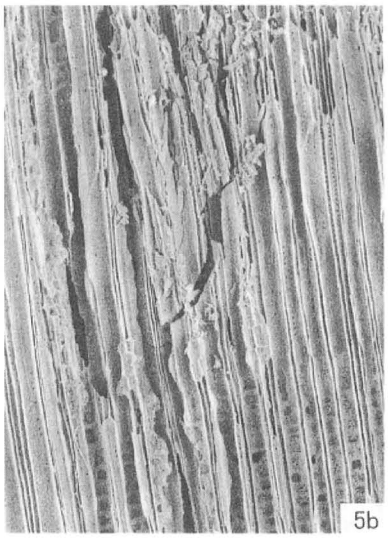


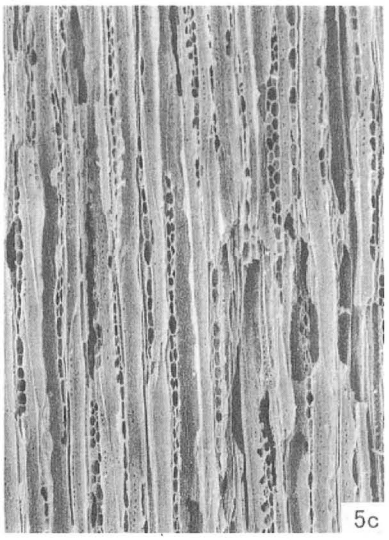
1. カヤ(8号住 炭Q)
2. エノキ属(8号住 炭M)
3. ケヤキ(8号住 炭T)
   a:木口, b:柾目, c:板目

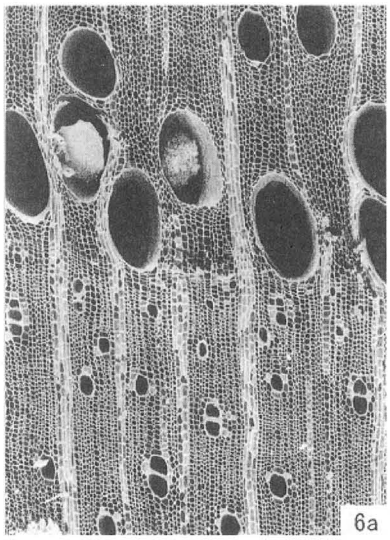
200 μ m:a
200 μ m:b,c

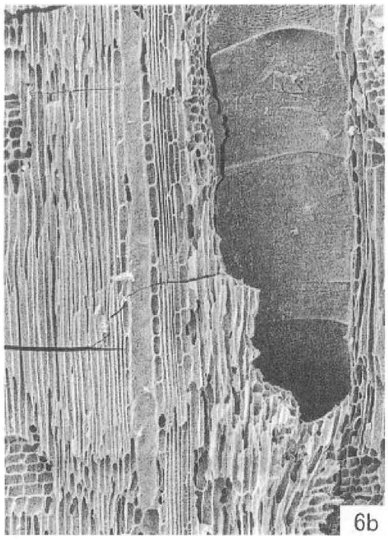
図版2　炭化材(2)

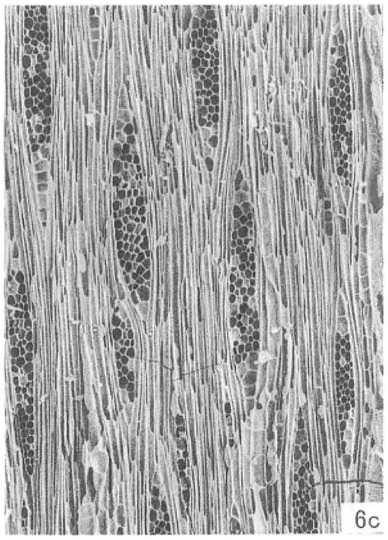

5a


5b


5c


6a

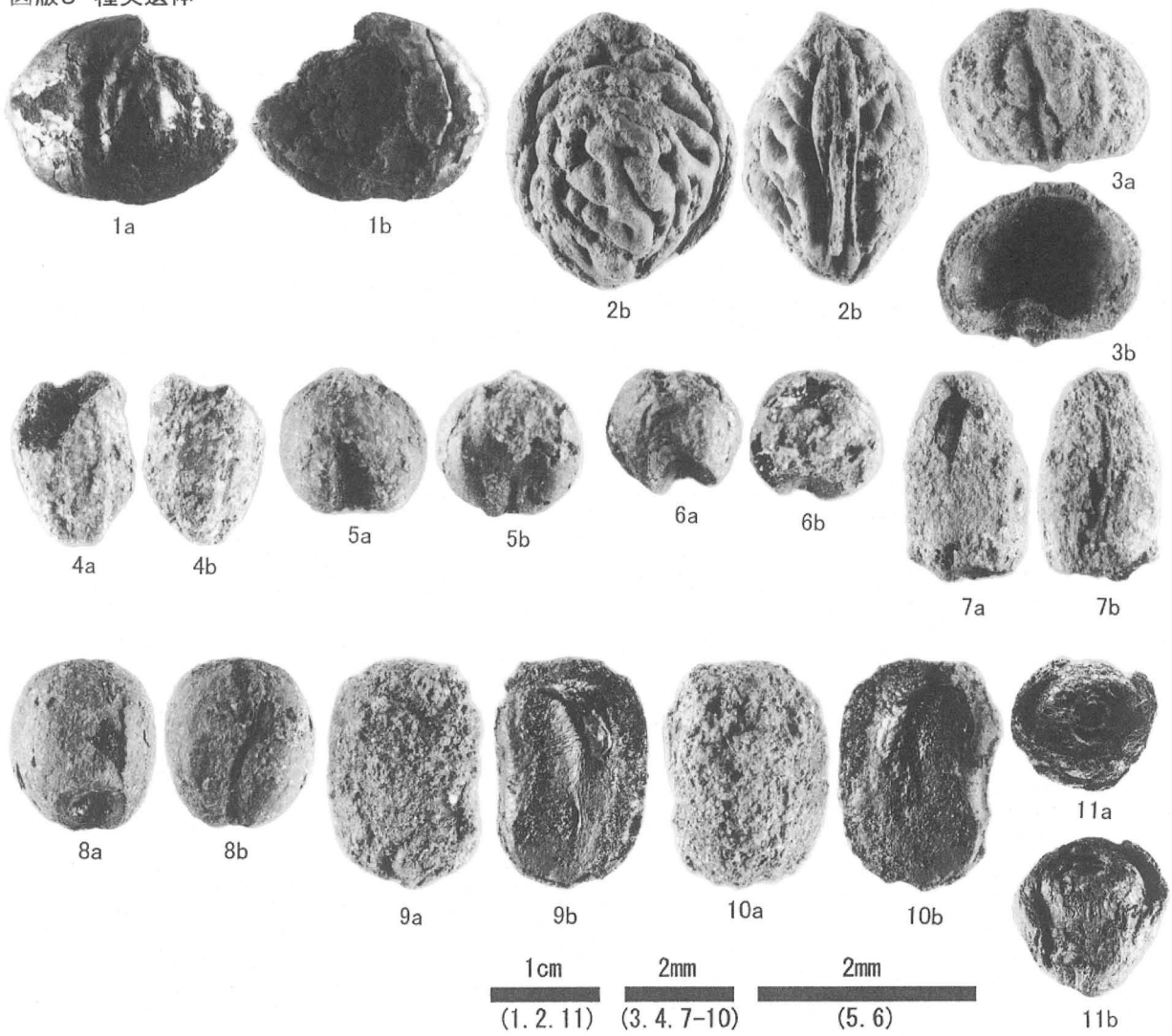

6b


6c

4. カツラ(8号住 炭F)
5. ケンポナシ属(8号住 炭O)
a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

図版3　種実遺体



1．クリ 子葉(試料番号6;2号住 貼り床中)
2．モモ 核(試料番号9;2号住)
3．ミズキ 核(試料番号10;2号住 焼土純層直下土)
4．イネ 胚乳(試料番号13;4号住 床面中央 焼土址)
5．アワーヒエ 胚乳(試料番号5;2号住 覆土　焼土面)
6．アワーヒエ 胚乳(試料番号5;2号住 覆土　焼土面)
7．オオムギ 胚乳(試料番号5;2号住 覆土　焼土面)
8．コムギ 胚乳(試料番号5;2号住 覆土　焼土面)
9．ササゲ属 種子(試料番号5;2号住 覆土　焼土面)
10．ササゲ属 種子(試料番号5;2号住 覆土　焼土面)
11．鱗茎(試料番号18;7号住 覆土　焼土)

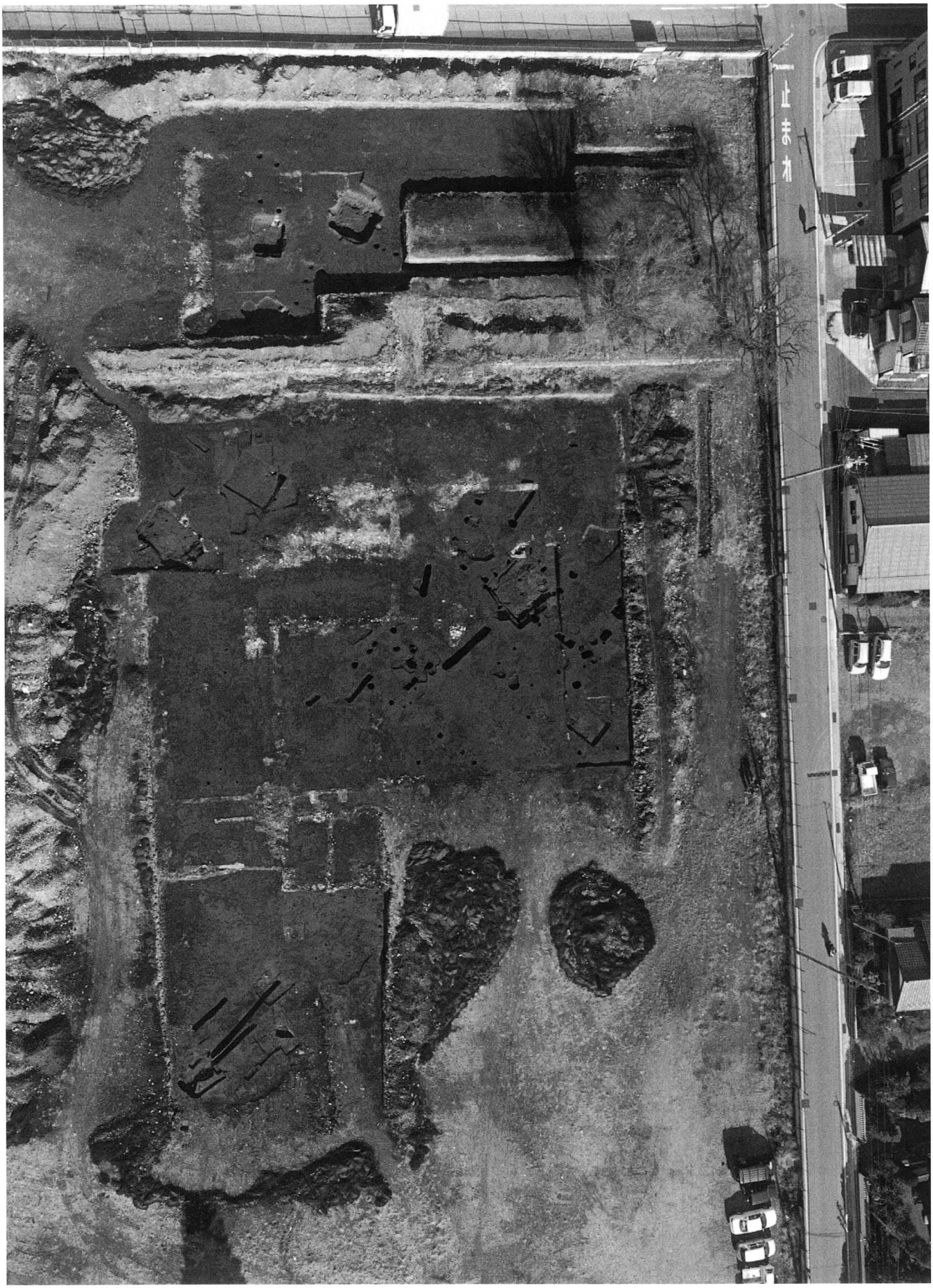
写真図版

写真１

遺跡遠景（南から）　昭和 34 年撮影

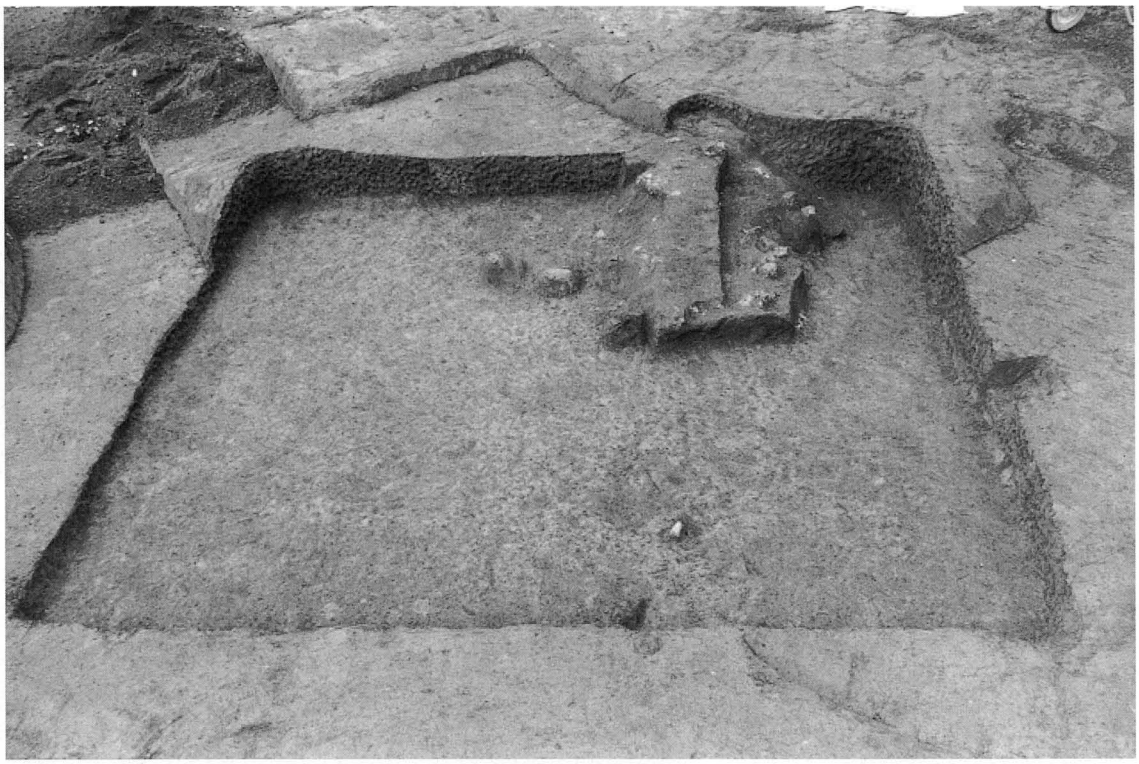
調査前近景

写真２



調査区全景

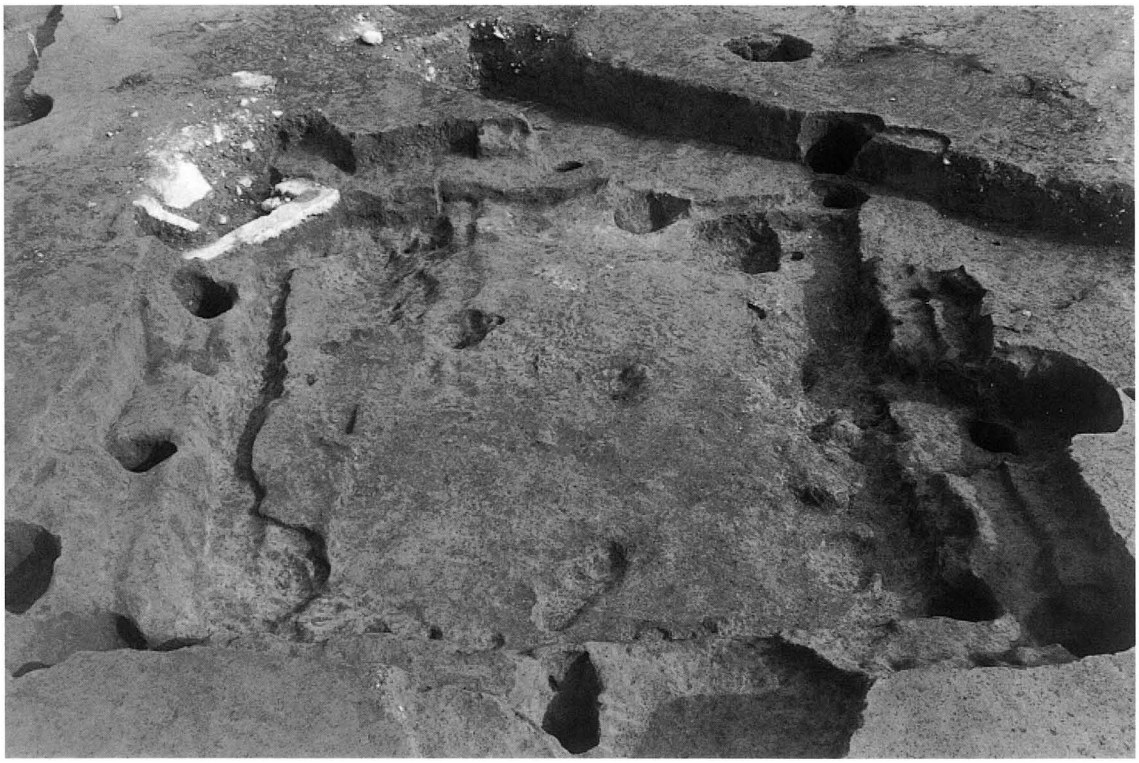
写真３



１号住居址（南西から）

１号住居址カマド検出状況

写真４



２号住居址（南西から）

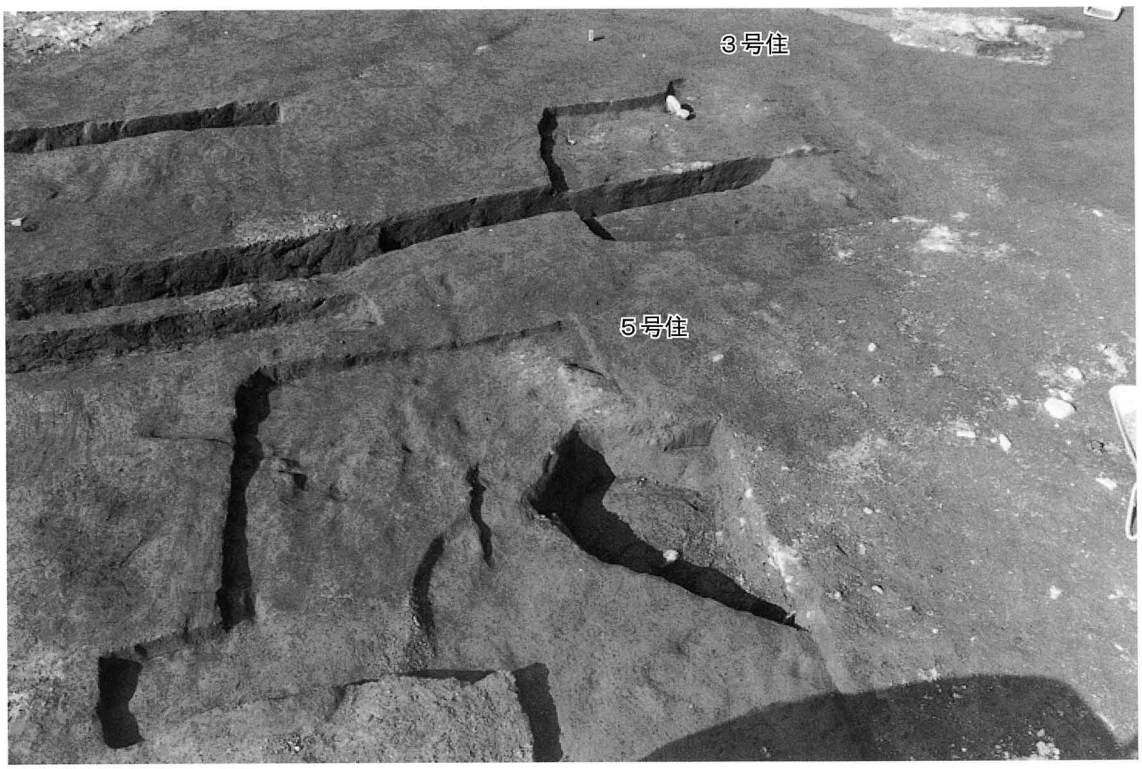
２号住居址（北東から）

写真５

２号住居址（旧）須恵器坏出土状況

２号住居址（旧）Ｐ４付近遺物出土状況

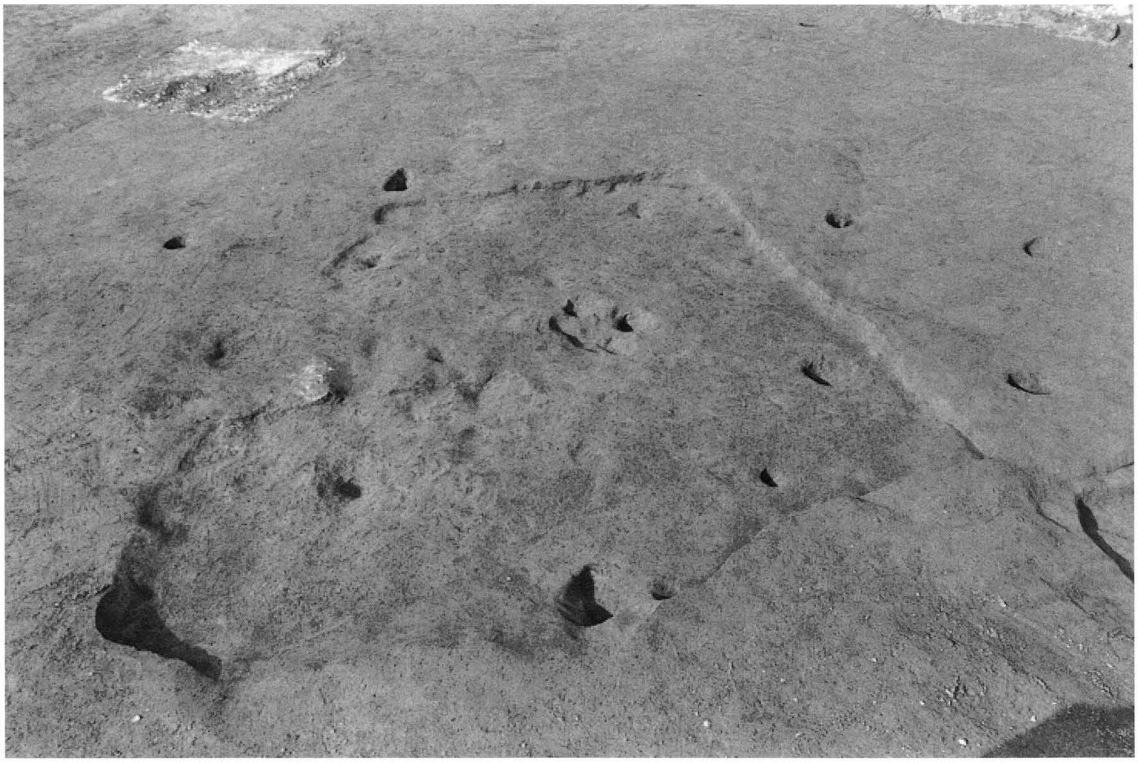
写真６



調査区南端の遺構検出状況（南から）

３号住居址（南から）

写真７



４号住居址（南から）

４号住居址遺物出土状況（南から）

５号住居址（南西から）

６号住居址（南西から）

写真９

６号住居址カマド検出状況

６号住居址カマド石組み検出状況

7号住居址（南東から）

7号住居址遺物検出状況（南東から）

写真 11

7号住居址カマド検出状況

7号住居址カマド芯材，支脚検出状況

８号住居址（南西から）

８号住居址カマド付近遺物出土状況

写真 13

８号住居址カマド検出状況

８号住居址カマド煙道部

8号住居址土師器甕出土状況

8号住居址土師器甕出土状況

写真 15

８号住居址遺物出土状況（南西から）

８号住居址炭化材出土状況（西壁中央付近）

９号住居址（南から）

９号住居址北カマド芯材，支脚検出状況

写真 17

10 号住居址（北西から）

調査区北端遺構検出状況（南西から）

11 号住居址

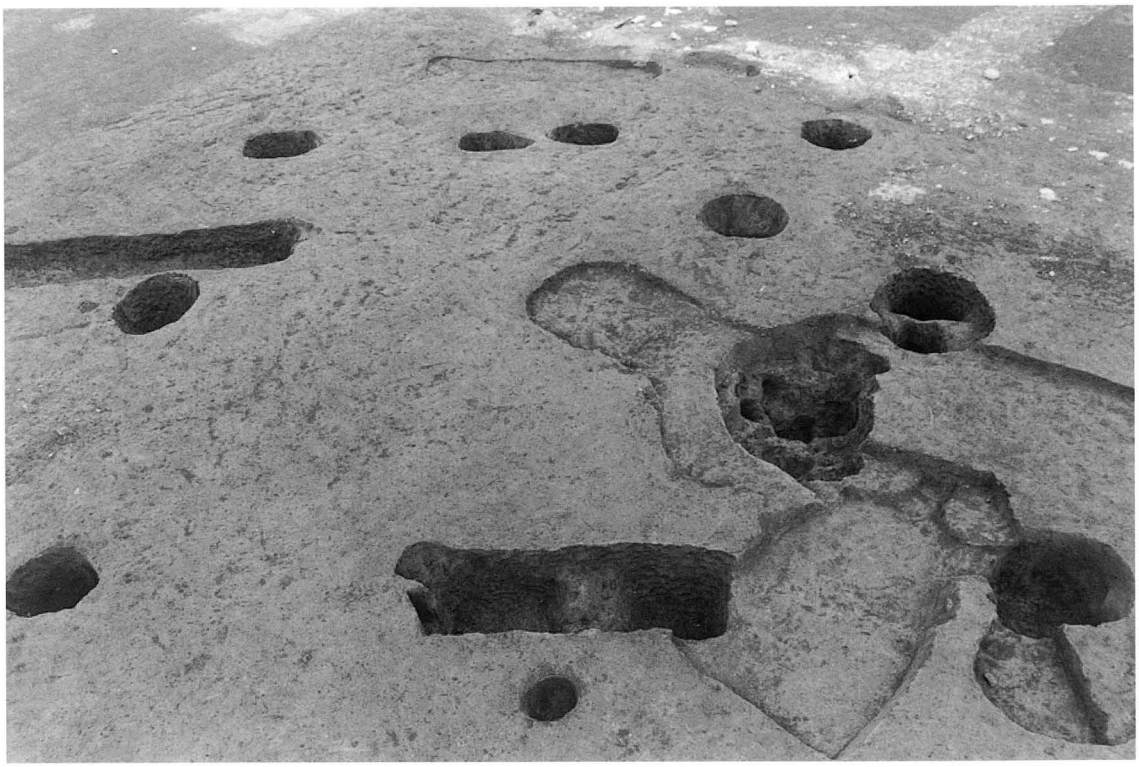
11 号住居址カマド

写真 19

12 号住居址（南東から）

13 号住居址（北西から）

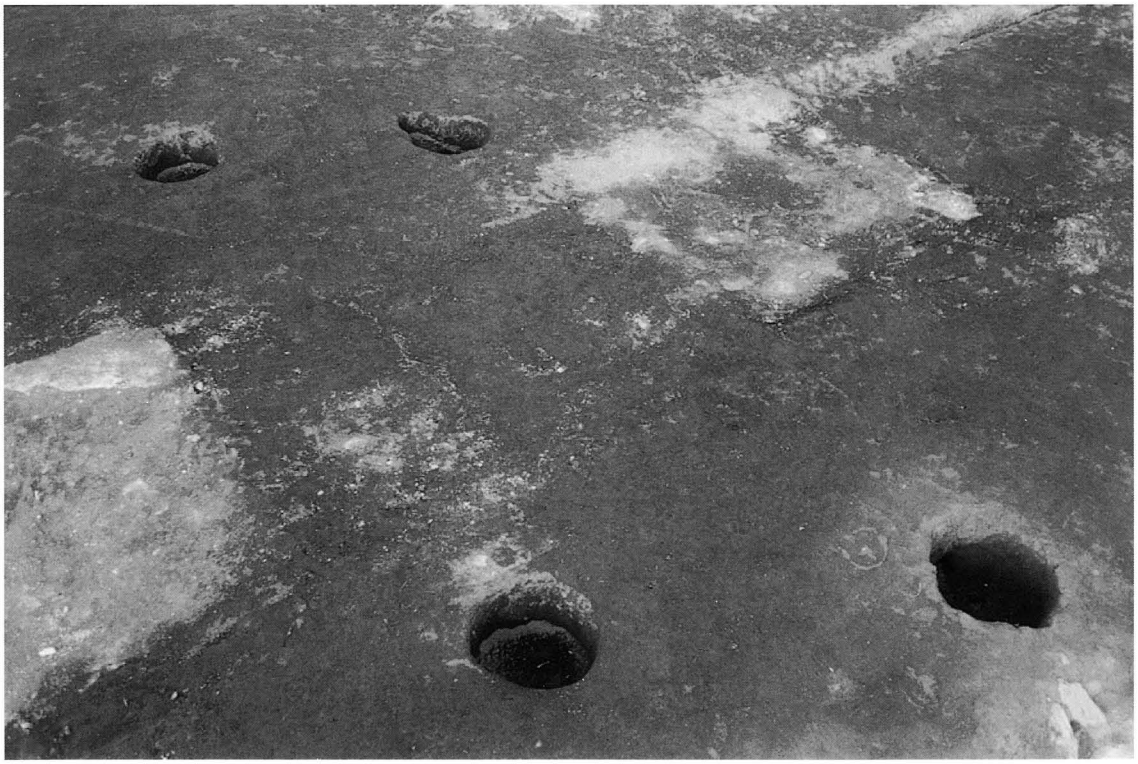
13 号住居址カマド



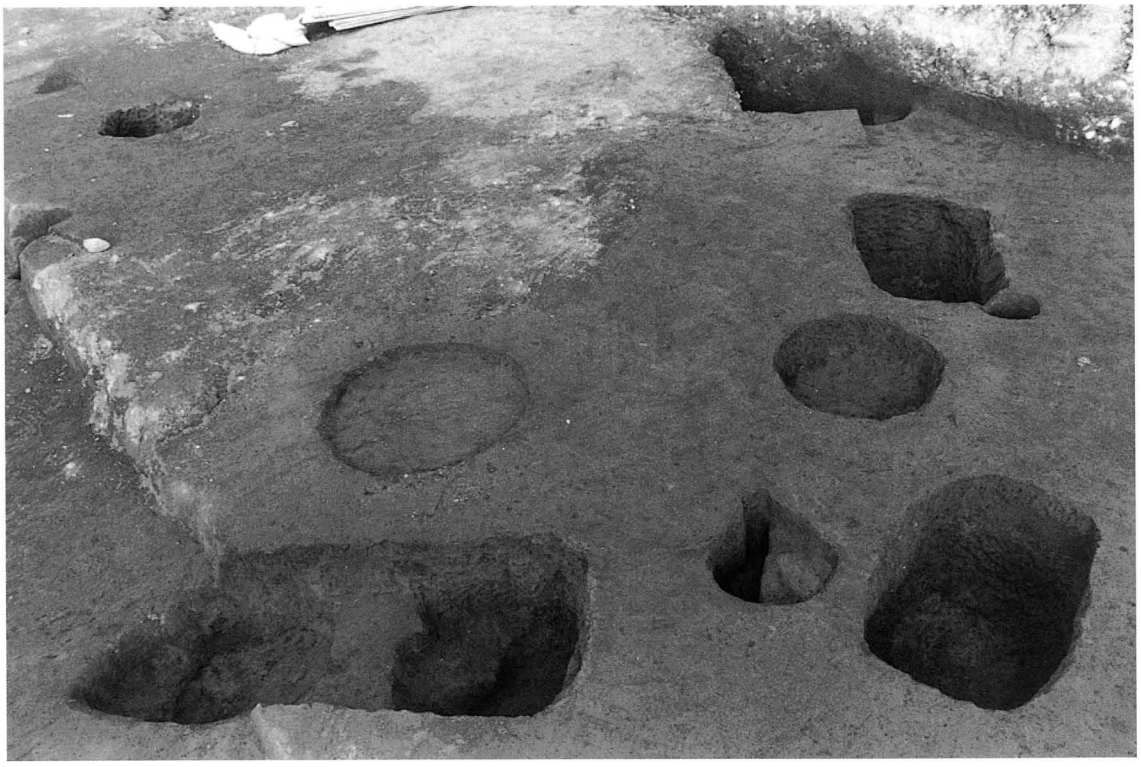
1 号掘立柱建物址（南東から）

写真 21

１号掘立柱建物址柱穴（Ｐ４・Ｐ５）



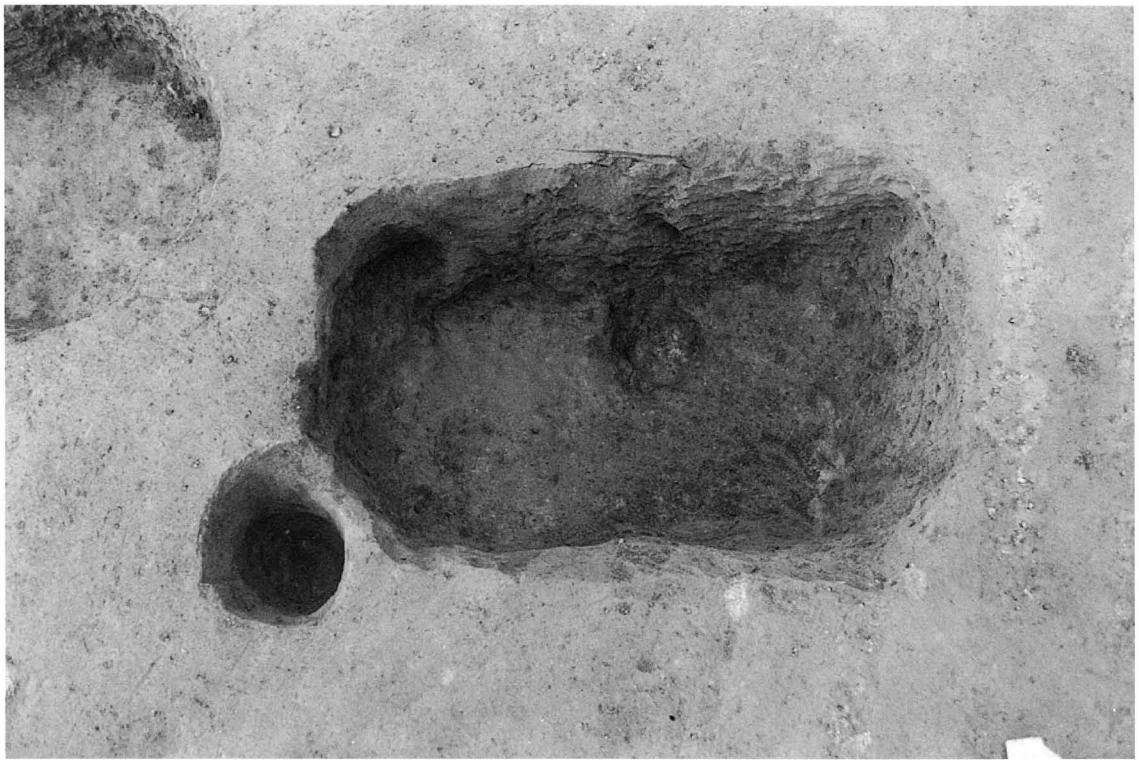
２号掘立柱建物址（南西から）



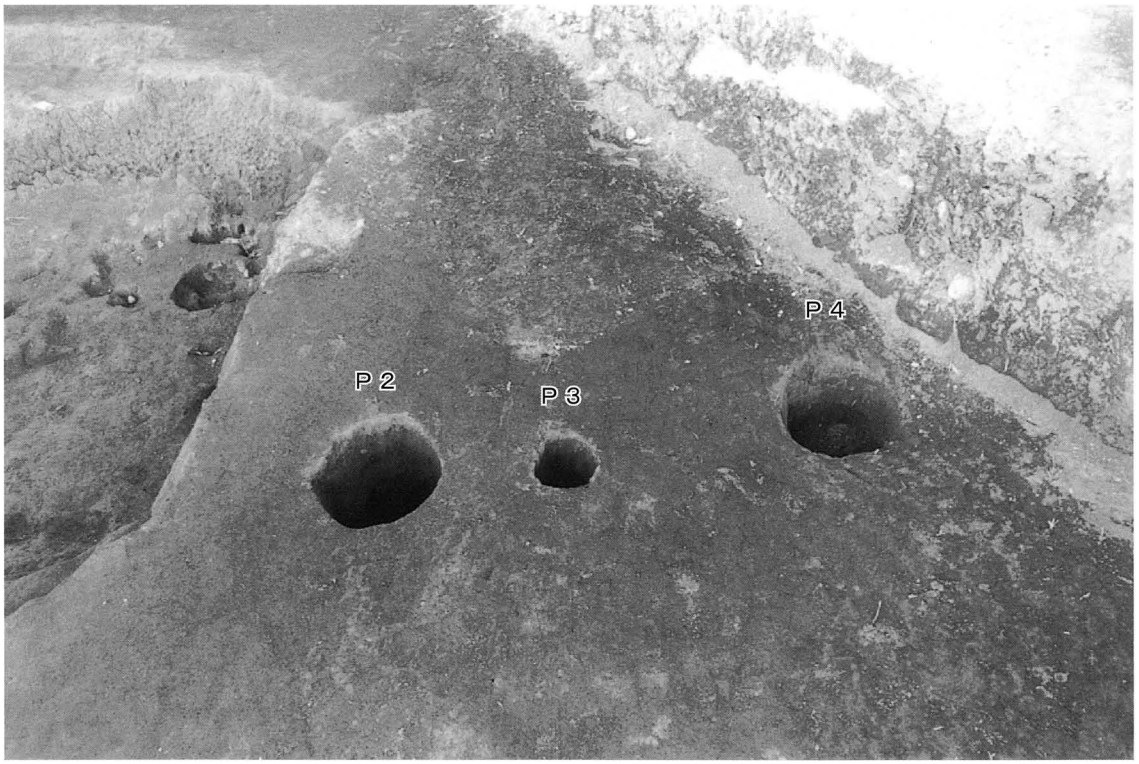
１号柱穴列（南西から）

１号柱穴列　柱穴（Ｐ４．Ｐ５）

写真 23



1号柱穴列　柱穴（Ｐ２）



ピット（南西から）

ピット（北西から）

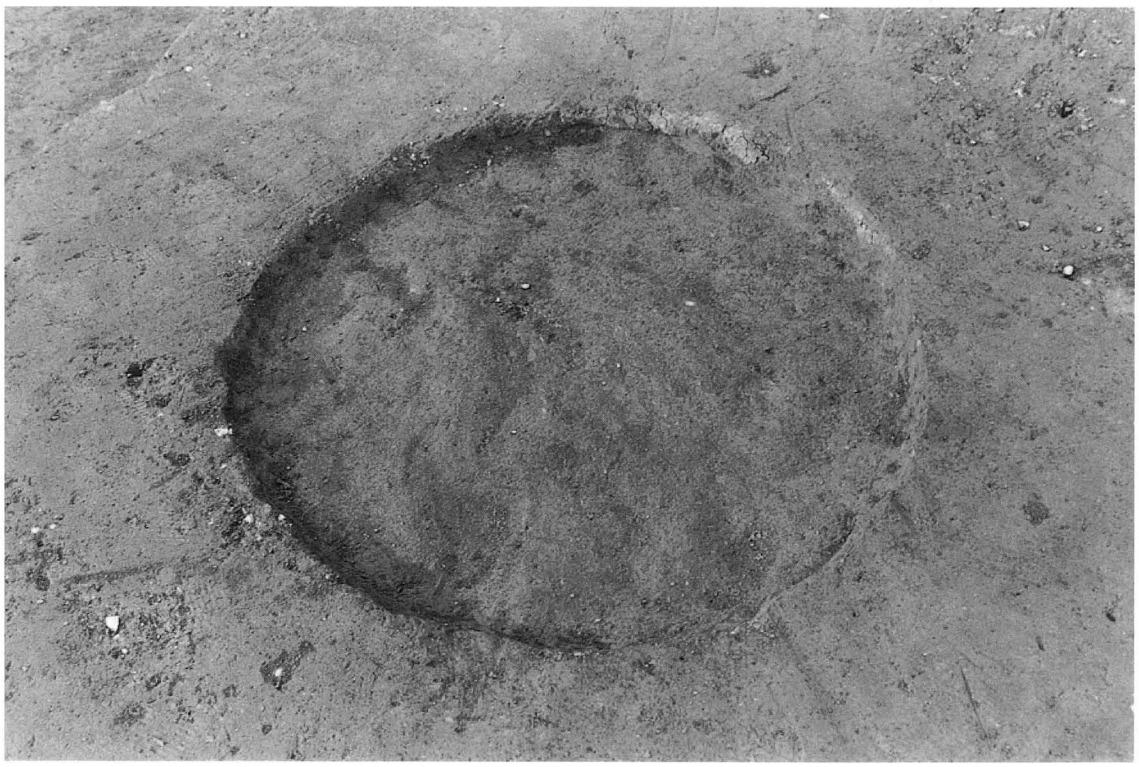
ピット断面（P 36）

写真 25

1 号土坑（西から）

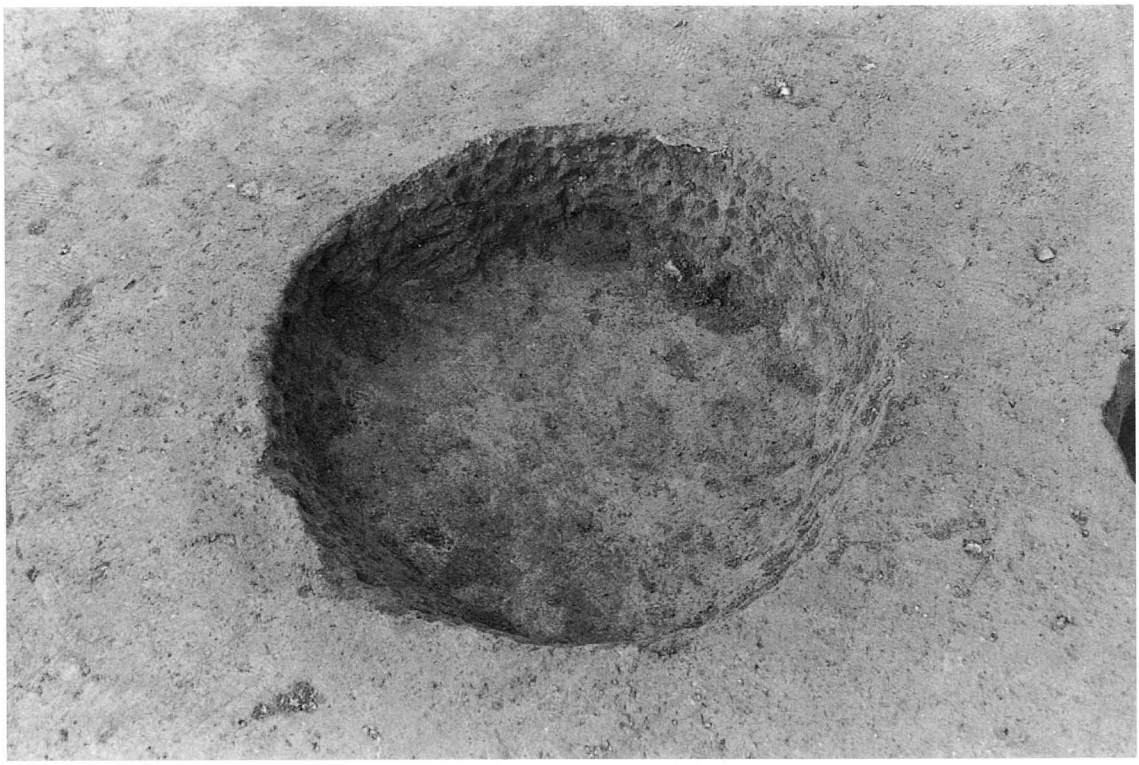
2 号土坑

4 号土坑土層断面

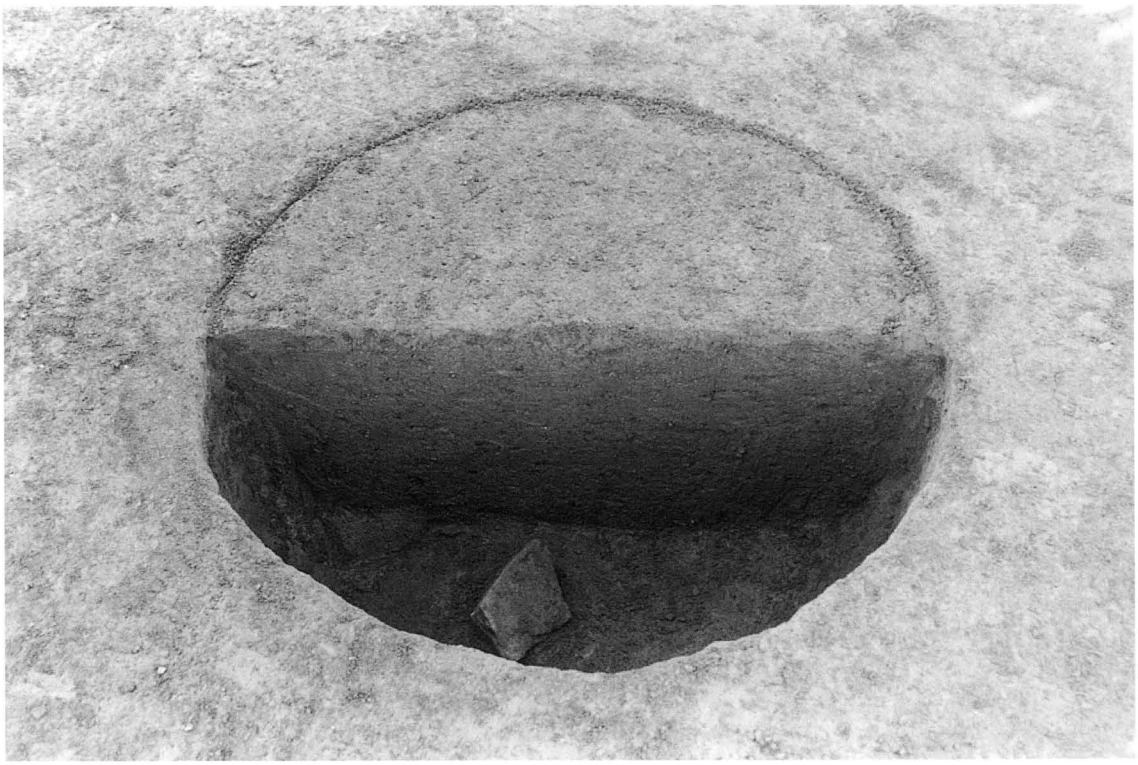


5 号土坑

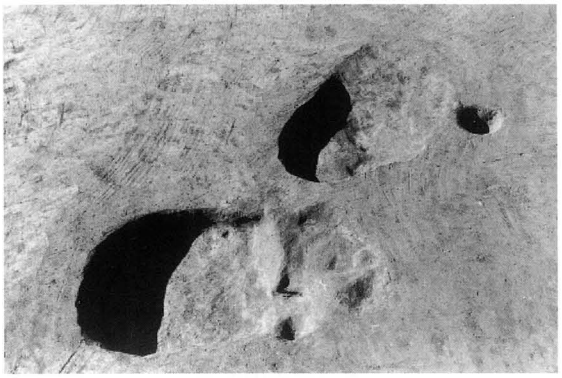
写真 27



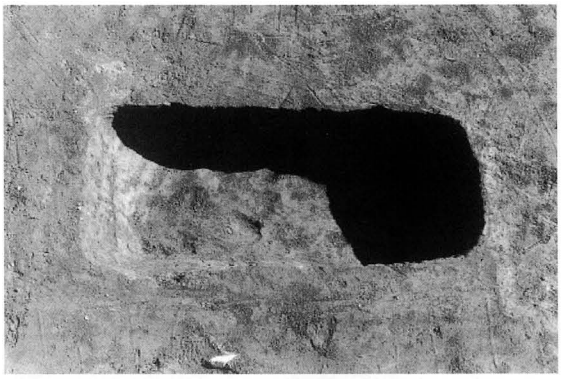
6号土坑



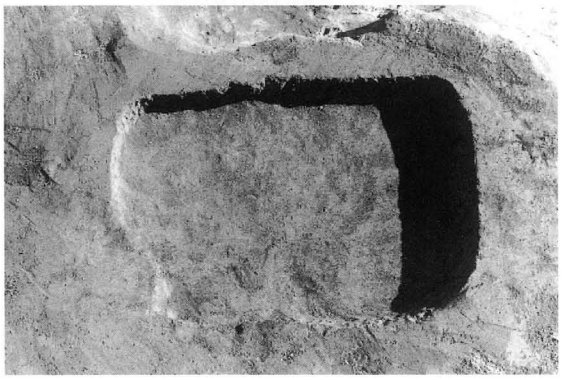
7号土坑土層断面



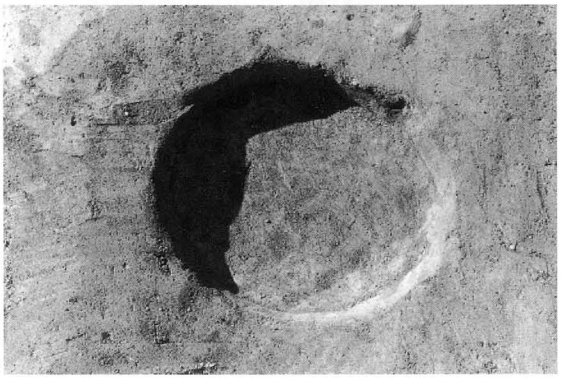
11・12 号土坑



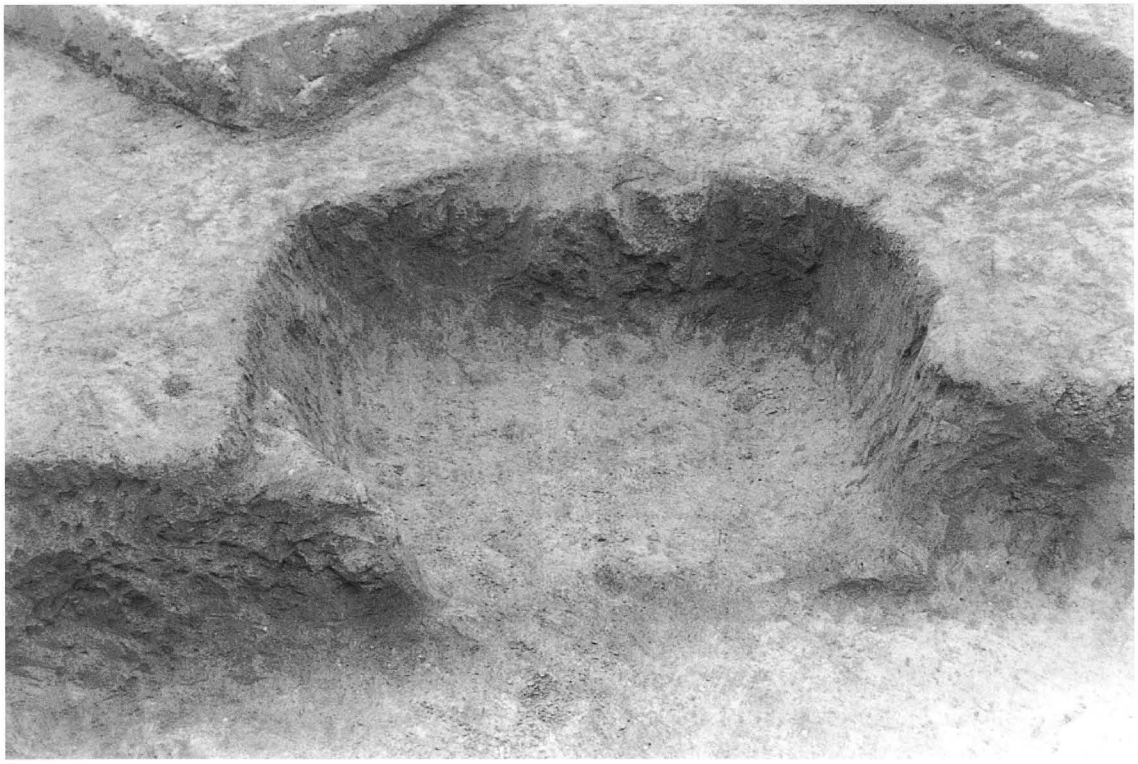
13 号土坑



14 号土坑

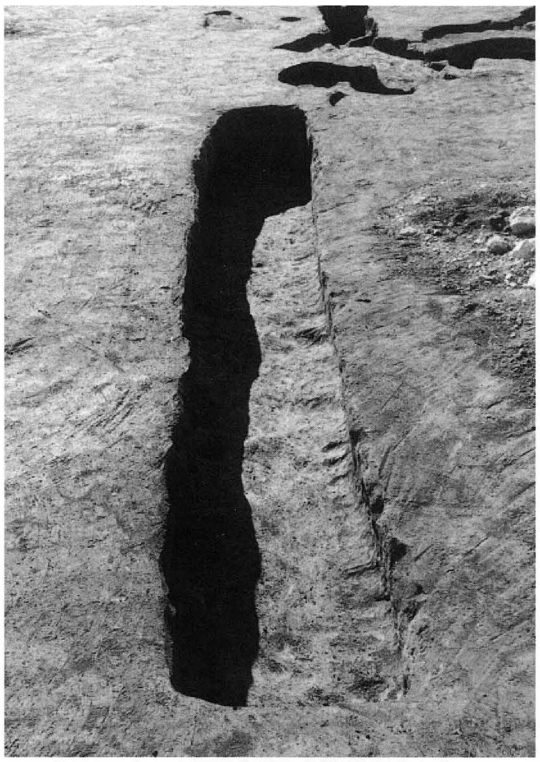


15 号土坑

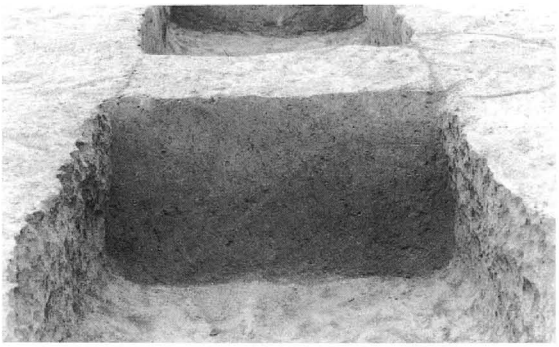


20 号土坑

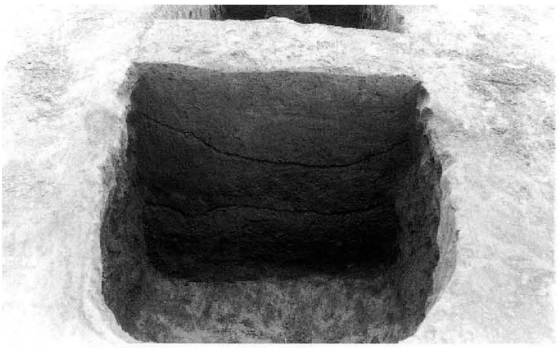
写真 29



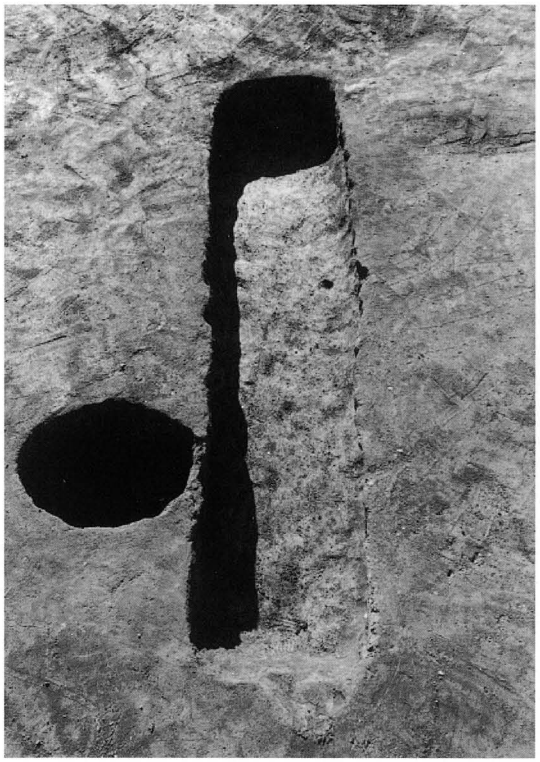
2号溝



2号溝土層断面

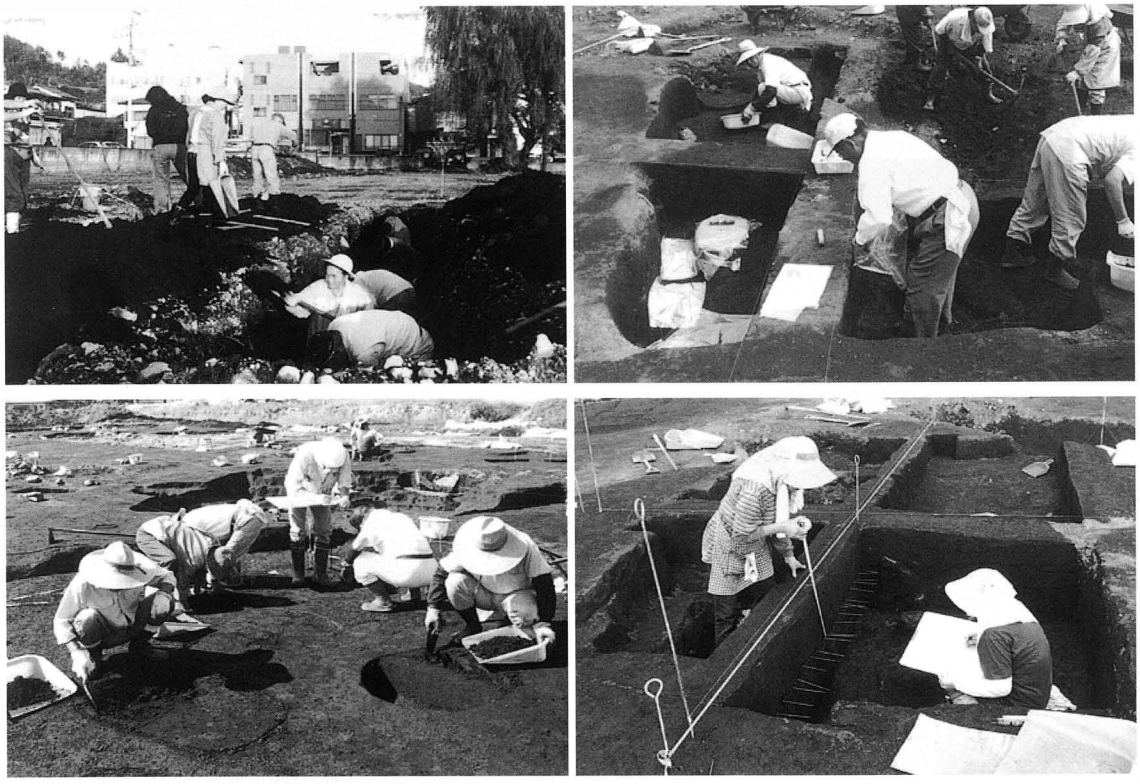


3号溝土層断面



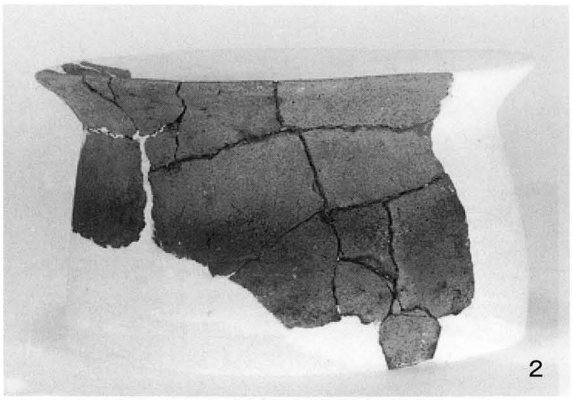
5号溝

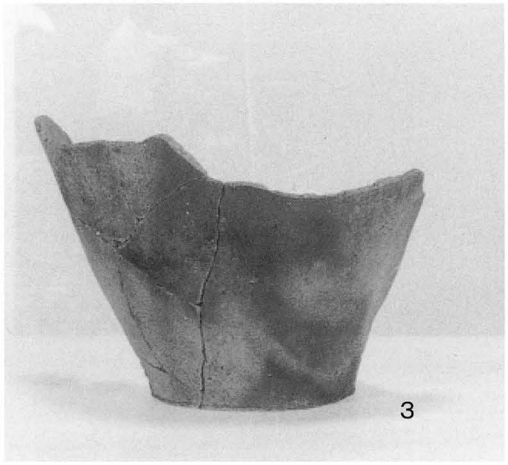
7号・8号溝

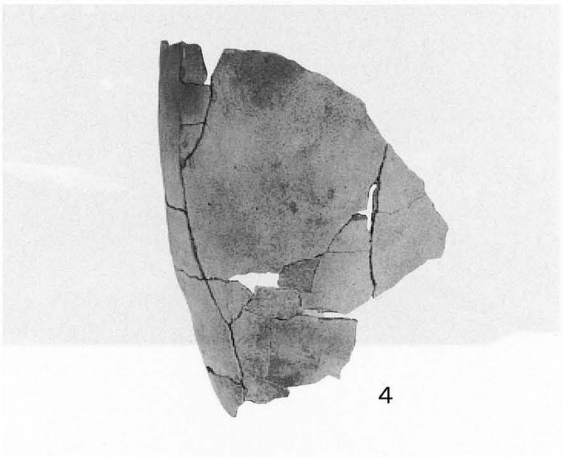


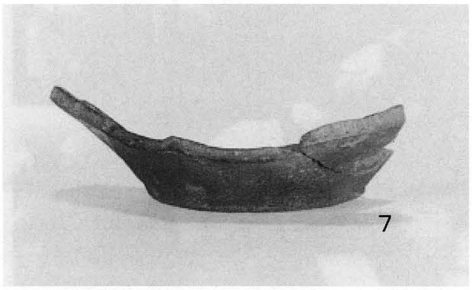
調査風景

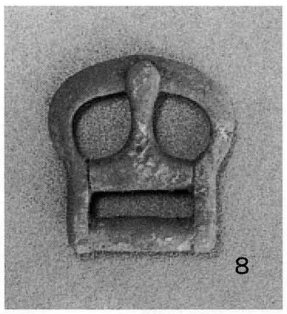
写真 31



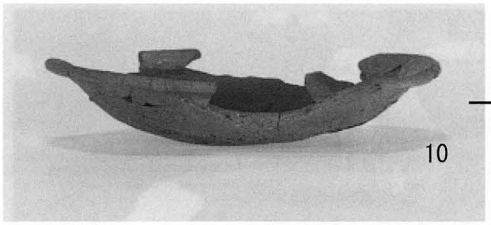


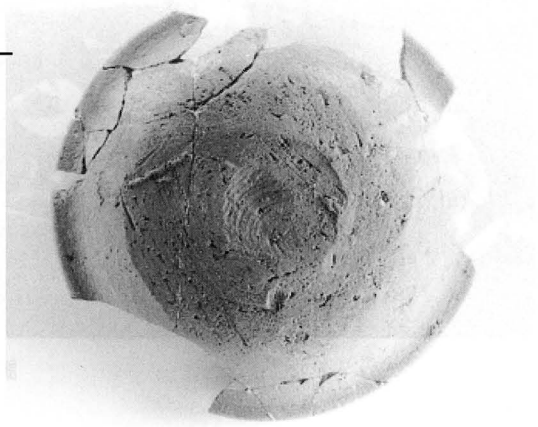






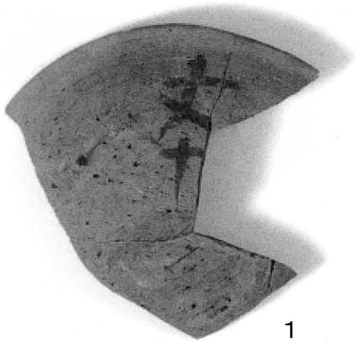
1号住居址出土遺物



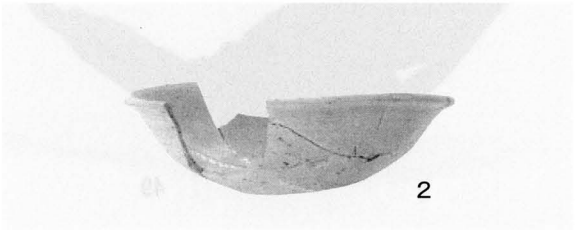


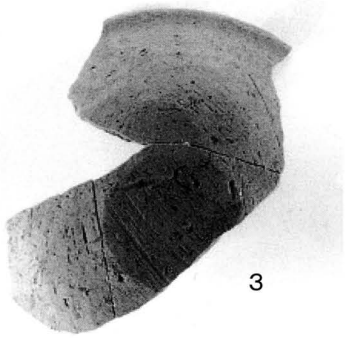
2号住居址（新）出土遺物

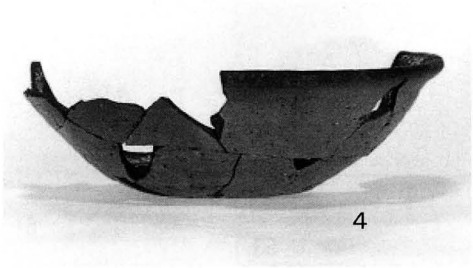
11

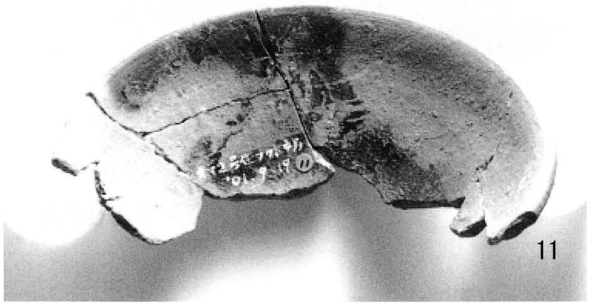

1

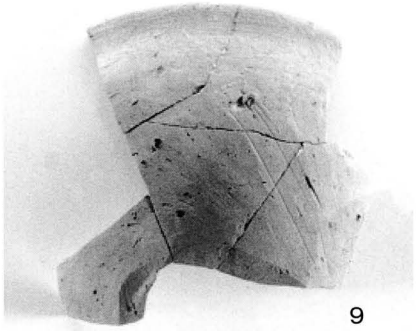
2号住居址（新）出土遺物

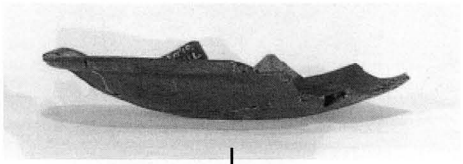

2


3

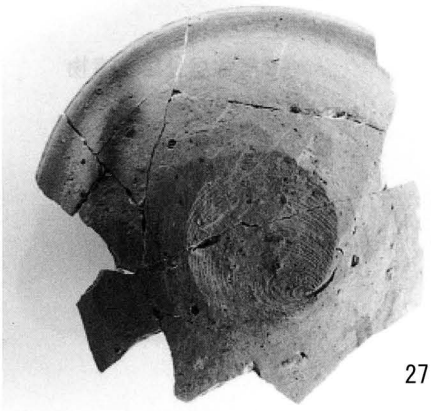

4


11


9

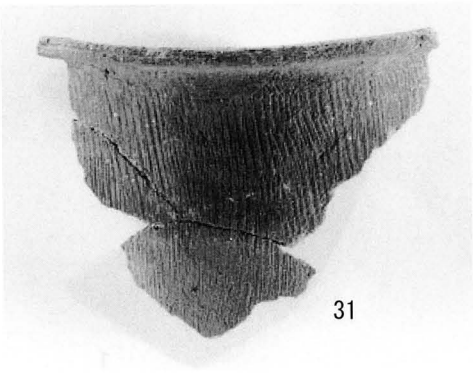


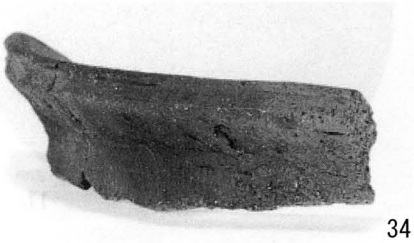
23


27

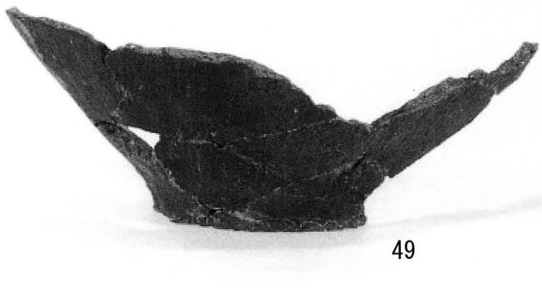
2号住居址（旧）出土遺物

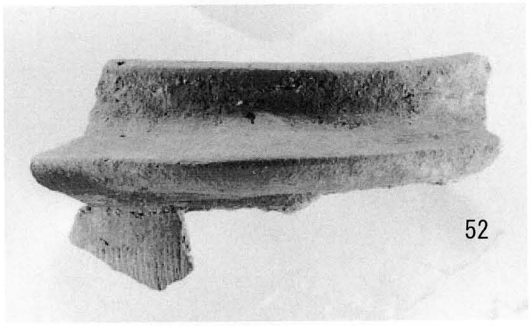
写真 33

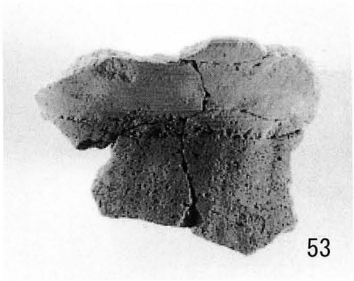

31

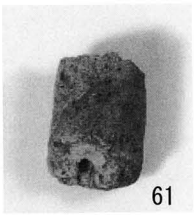

34

47


49


52


53


61

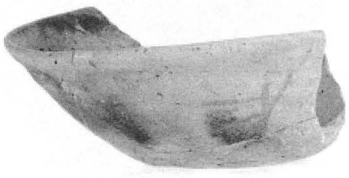
２号住居址（旧）出土遺物

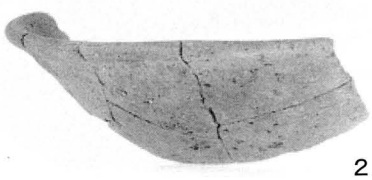
3

３号住居址出土遺物

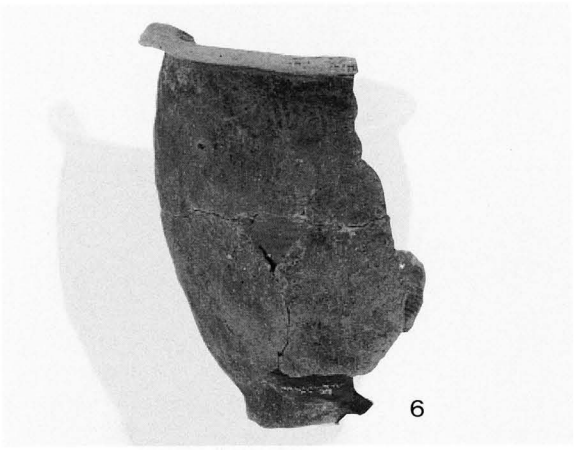
17

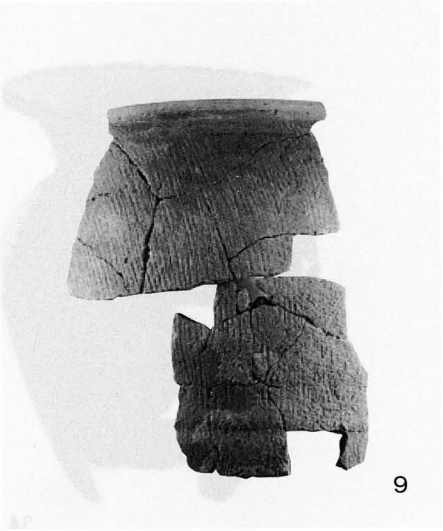
４号住居址出土遺物

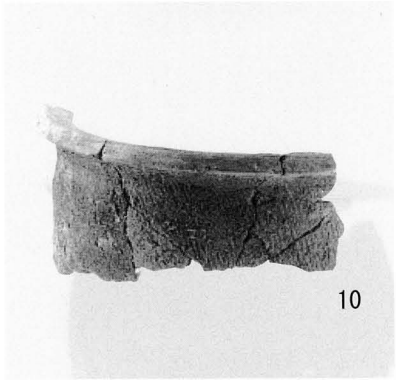

1

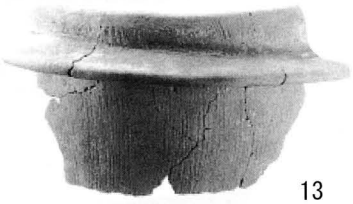

2

５号住居址出土遺物

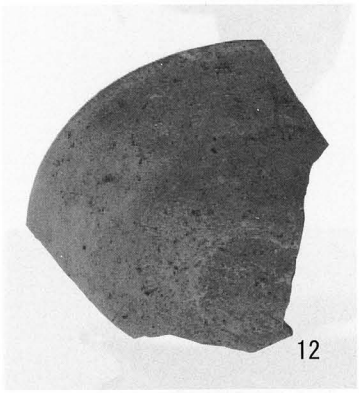


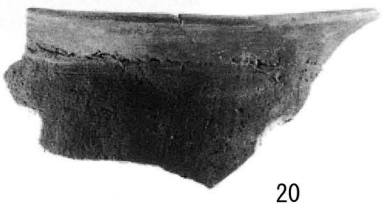


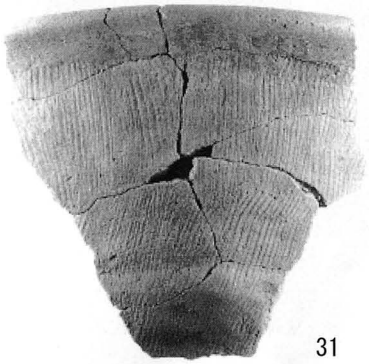


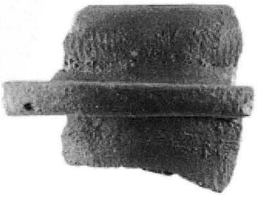


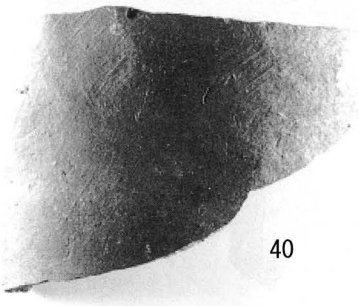
6号住居址出土遺物











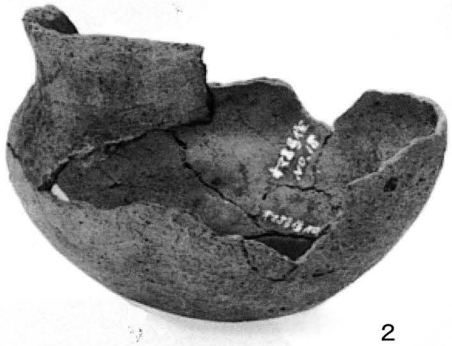
7号住居址出土遺物

写真 35

34

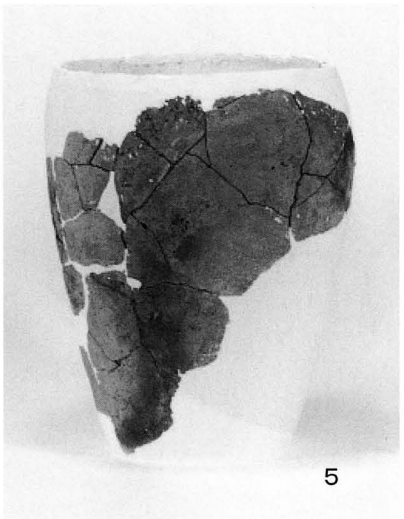
1

7号住居址出土遺物

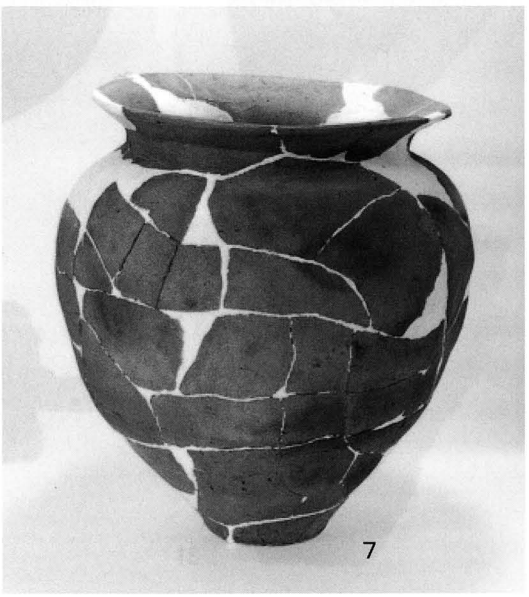


2

3

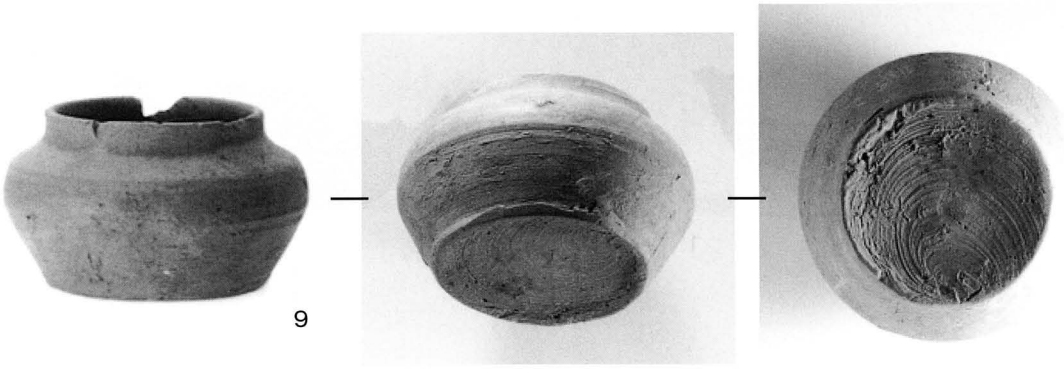


5

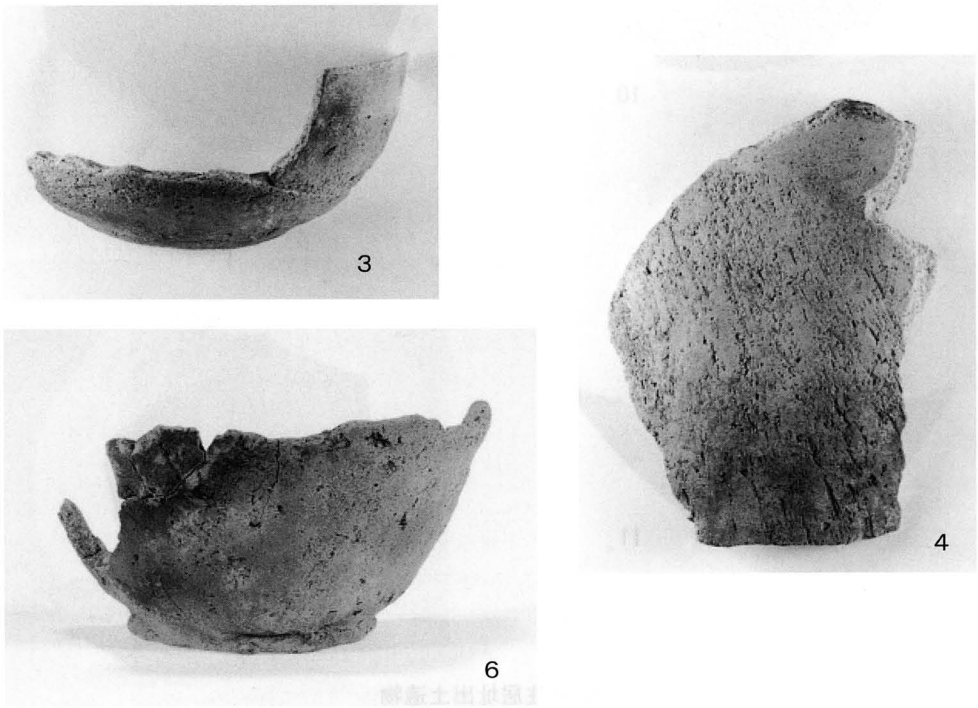


7

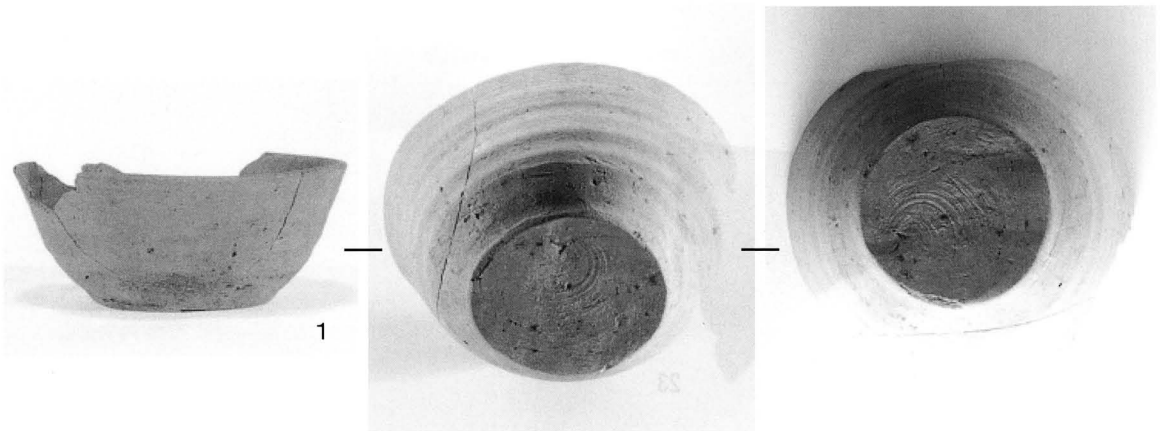
8号住居址出土遺物



8号住居址出土遺物



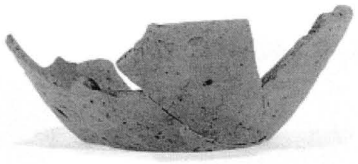
10 号住居址出土遺物



11 号住居址出土遺物

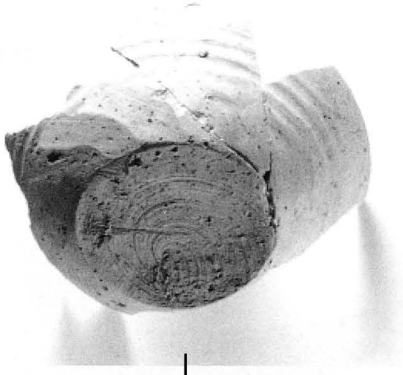
写真 37

1

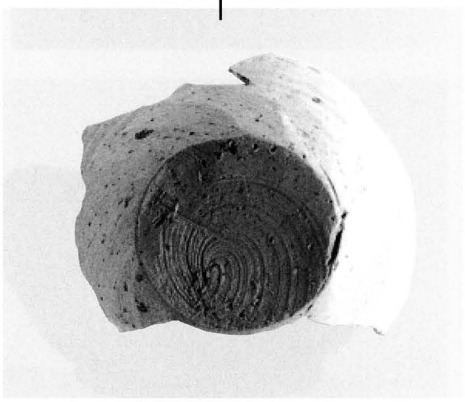


2

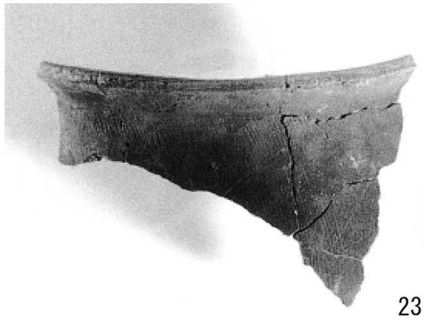
10



11



12 号住居址出土遺物



23

13 号住居址出土遺物

報告書概要

フリガナ		オオママイセキ	
書名		大間々遺跡	
副題		上野原市庁舎等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
シリーズ		上野原市埋蔵文化財調査報告書第２集	
著者名		小西直樹、早勢加菜	
発行者		上野原市教育委員会	
編集機関		上野原市教育委員会	
住所・電話		〒409－0112　山梨県上野原市上野原 3832　電話 0554－62－3409	
印刷所		中島印刷㈱	
発行日		平成 19 年(2007)3 月 23 日	
大間々遺跡		所在地	山梨県上野原市上野原 3832 番地
		地図名・位置・標高	1/25000上野原　北緯35° 37′ 49″ 東経139° 6′ 32″　標高264m
概要	主な時代	奈良・平安時代	
	主な遺構	竪穴住居址、掘立柱建物址、柱穴列、土坑、ピット	
	主な遺物	土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、石製品、金属製品（銅製鋲具）、炭化種子	
	調査期間	平成 13 年（2001）8 月 29 日～12 月 27 日	

上野原市埋蔵文化財調査報告書　第２集

大　間　々　遺　跡

平成 19 年（2007）3 月 23 日発行

編集・発行　上野原市教育委員会